

少年鑑別所における育成的処遇に関する調査研究

矯正協会附属中央研究所 多田 一
東山 哲也
藤野 京子*

キーワード：少年鑑別所，育成的処遇，健全育成，観護処遇

I 研究の目的

毎年各矯正管区において実施されている矯正実務に関する研究発表会において，“青少年の健全育成・・・という観点を盛り込んだ処遇”，“健全育成に資する処遇”，“青少年の健全育成を支援するための方策の検討”など少年鑑別所の現場第一線における観護処遇に関する研究が「健全育成」をキーワードとして論じられるようになったのは，平成17年頃からである。もとより，少年鑑別所の処遇機能の説明に当たっては，少年法の目指す「少年の健全育成」がその基底概念となっていることは言うまでもない。

ところで，少年鑑別所の被収容少年への働き掛けについては，少年院の被収容少年とは異なり，その法的な身分があくまで審判前であることから種々の制約を伴うことも少年鑑別所にとって留意しておかなければならない点である。

そして，「健全育成」概念を前面に出すか否かは別にして，少年鑑別所においては，昭和30年代から今日に至るまで「教育治療の処遇」，「探索処遇」，「意図的行動観察」等の名の下に少年が自らの問題を発見し，それについて考え，さらには向後の立ち直りに向けて歩み出せるようにサポートすることを目的として多種多彩な処遇が展開されてきたところである。

こうした中，平成11年7月の矯正管区長及び少年鑑別所長会同において，矯正局長から，少年鑑別所の観護処遇について，“少年の身柄を確保・保護する機能と合わせて，鑑別手続き中における職員の働き掛けや便宜供与等に伴う副次的効果として，少年の健全育成に資する機能をも有している。”，そして，少年鑑別所は，少年の法的身分に伴う制約を自覚しつつ，“入所して鑑別を受けることによる何らかの更生的効果を期待することは，もとより許されるであろうと思われます。”との説明がなされた。

平成15年12月に策定された「青少年健全育成施策大綱」（平成20年12月改定）を待つま

* 早稲田大学文学学術院教授・財団法人矯正協会附属中央研究所客員研究員

でもなく、この説明に示されるような観護処遇についての考え方が少年鑑別所の現場には既に共有されていたと考えてよい。

こうした経緯をたどる過程で平成20年2月22日付け法務省少年矯正課長通知「少年鑑別所における健全育成を考慮した処遇について」（以下、「課長通知」という。）をもって、“観護処遇のうち、特に少年の健全な育成を考慮して行う処遇（「育成的処遇」）”についての関連基本概念の整理、処遇の枠組みの明確化、政策の方向付けなどが示され、観護処遇の活性化ひいては少年鑑別所の体制強化が図られたところである。

そこで、本研究は、上記通知が発出されて1年半を経過したこの時期に、その処遇内容等に流動的な部分を残しつつも実践的な取組みを活発化させている各庁の育成的処遇について実態を把握するとともに、その有効性、問題点、残された課題等を被収容少年のニーズをも踏まえつつ明らかにし、少年鑑別所における観護処遇について今後のあるべき姿を検討することを目的とする。

II 方法

1 調査対象庁

全国の少年鑑別所（含む少年鑑別支所）52庁を対象とした。

2 調査期間

平成21年7月24日から同年9月11日まで。

（被収容少年に対するニーズ調査については、同年8月10日から同年9月4日までの間に終局審判を受けて少年鑑別所を退所した少年のうち、調査に対する協力に同意した者とした。小規模庁入所者の意見が大規模庁入所者の意見に薄められすぎぬように、また、実施負担の軽減のため、各庁の最大実施数を50名とした。）

3 実施方法

全国の少年鑑別所に調査票を送付し、施設調査については、統括専門官（企画調整担当ないし企画調整・観護担当）に回答を求めた。

被収容少年に対するニーズ調査については、上記の対象者について、審判日のおおむね1週間前から前日までの適宜の時期に回答を求めた。

4 調査内容

施設調査については、実施している育成的処遇の一つひとつについて、その概要、目的（課長通知記4(1)）、実施頻度、対象者の特徴、指導者の特徴、実施形態、意図的行動観察としての活用の有無、実施上の工夫、少年の反応、効果、今後の課題・更なる充実のために検討している点等を調べた。また、育成的処遇を充実させるために行った図

書及び視聴覚教材等の整備について、整備に係る工夫や苦勞、図書については配列上の工夫、図書交換の頻度及び貸出冊数等を調べた。

被収容少年に対するニーズ調査については、まず、少年鑑別所の生活全体について満足度を「楽しかったか否か」について、「楽しくなかった」、「あまり楽しくなかった」、「どちらでもない」、「少し楽しかった」、「楽しかった」の5件法で、「ためになったか否か」について、「ためにならなかった」、「あまりためにならなかった」、「どちらでもない」、「少しためになった」、「ためになった」の5件法で聞いた。次いで、学習に係る日課について、進路選択や仕事に関する日課について、居室で取り組んだ日課について、読書について、VTRや音楽等の放送について、運動及びレクリエーションについて、行事や集団活動について、講話について、それぞれ取り組んだ内容（例えば、学習日課であれば、自主学習、学習用図書、学習用PC等の選択肢から選択。運動のみ自由記述）と満足度（楽しかったか否か、ためになったか否かのそれぞれについて5件法で評定）を聞き、「こんな日課があればよかった。」と思う日課の内容及びそう思う理由についてそれぞれ自由記述による回答を求めた。また、上記以外で楽しかった日課、ためになった日課、あればよかったと思う日課について、その内容及びそう思う理由についてそれぞれ自由記述による回答を求めた。

Ⅲ 結果

1 前提

少年鑑別所の処遇は、その目的から整理すると、全て、広義の“健全育成”を考慮したものであることになろうが、諸規定に沿ってもう少し具体的にみていくと、①育成的処遇（課長通知によるもの）、②資質鑑別に資する意図的行動観察のための処遇（矯正局長通達「収容鑑別の基準について」によるもの）、③法務省令「少年鑑別所処遇規則」や法務大臣訓令「少年健康管理規程」等諸規定により義務付けられているもの（給養、外部交通、健康診断、運動、入浴等々）、④その他のおおむね4つのパターンに分類できると考えられる。

このうち育成的処遇は、課長通知に従えば、記の1の趣旨にあるように“育成的処遇については、収容目的、法的地位等との調和を図りつつ、少年の健全な育成を期することを考慮し、その年齢、心身の発達程度等を踏まえた学習の支援、一般的教養の付与、情操のかん養等を行うものとする。”ということになるが、この「学習の支援」、「一般的教養の付与」、「情操のかん養」等というカテゴリーは、個々の種目の主として目指すところを示すものと考え、各庁における個々の種目はおおむねこの枠に納まるものが想定されていると言えよう。

なお、少年矯正課長通知では、育成的処遇の実施について、“付与すること”、“行わせること”、あるいは、“行うこと”とされているものと、“努めること”とされている

ものとは別異されていることに留意しなければならない。いわゆる義務規定と努力規定とも言い換えることも出来よう。いずれにしてもまずは義務規定部分について確実な整備と実施が求められており、さらに体制の一層の充実強化を目的として努力規定部分についての整備を着実に進めるということになろう。

義務教育対象者のための学習支援プログラムの準備のほかに図書、テレビ及びラジオを媒体とした教養の付与や情操のかん養は、前者に当たるとされている。その他の種目は、基本的には、後者の努力目標とされるカテゴリーに整理されると言える。

こうした前提を踏まえ、以下、施設調査の結果及び被収容少年のニーズ調査の結果についてまとめる。なお、総括的な考察はⅣに譲るが、Ⅲの中で適宜考察を行った。

Ⅲ-1 結果と考察（施設調査：図書及び視聴覚教材等の整備以外について）

結果の整理に当たっては、育成的処遇の実施の実態や指導上の工夫や苦勞をデータに沿って忠実に整理するよう試みた。

なお、本調査では、育成的処遇として実施している日課及び育成的処遇の充実のために行った図書・視聴覚教材等の整備について問うた。そのため、本調査で得られた回答以外に、格別のネーミングなしに継続的に実施されている処遇があるのかどうかは不明である（例えば、はり絵は、ほとんどの施設で伝統的に実施されているだろうが、本調査では計上されていない施設もたくさんある。）。意図的行動観察の種目についても計上してもらうことで、この点の疑問はかなり解消していた可能性がある。

また、設問の関係上、日課形式でない働き掛けについても回答が得られていない可能性がある（例えば、松山少年鑑別所等が作成し、居室に備え付けるなどして活用している「社会生活ガイドブック」など）。

1 処遇種目数

施設が育成的処遇として準備している処遇種目の数は478種目、1庁平均9.2種目（SD=5.25）であった。多い順で見ると、29種目（1庁）、21種目（2庁）、17種目（1庁）、15種目（1庁）であり、少ない順から見ると、1種目（2庁）、2種目（1庁）、3種目（2庁）、4種目（3庁）である（表1）。

これらについては、一つの日課、処遇の枠組みごとに1枚の用紙を使用するよう依頼したことへの回答であることから、ほぼ実情に沿った育成的処遇種目の数と見て良いと思う。ただし、例えば、種目設定に当たり「学習支援（英語）、学習支援（数学）」としている場合と「学習支援」としている場合があり、ある庁では1種目として計上しているものが、他の庁では複数種目に分化して計上しているといったことがしばしばであり、種目数は、実施内容の質及びバラエティと直接的には連動してはいない。それゆえ、施設調査結果については、クロス表等にまとめるにとどめ、 χ^2 検定等の統計検定は行っ

ていない。

表1 種目数

種目数	施設数	%
1	2	3.8
2	1	1.9
3	2	3.8
4	4	7.7
5	2	3.8
6	4	7.7
7	7	13.5
8	4	7.7
9	5	9.6
10	5	9.6
11	3	5.8
12	2	3.8
13	3	5.8
14	2	3.8
15	2	3.8
17	1	1.9
21	2	3.8
29	1	1.9
合計	52	100.0

表2 主たる分類と従たる分類ごとの種目数

		従たる分類				合計
		なし	ア	イ	ウ	
主たる 分類	ア	89 18.6%	-	19 4.0%	3 0.6%	111 23.2%
	イ	86 18.0%	7 1.5%	-	74 15.5%	167 34.9%
	ウ	156 32.6%	3 0.6%	41 8.6%	-	200 41.8%
合計		331 69.2%	10 2.1%	60 12.6%	77 16.1%	478 100.0%

※課長通知記4(1)の「ア 学習の支援等」をア、「イ 教養の付与等」をイ、「ウ 情操のかん養等」をウとする。他表についても同じ。

2 処遇内容の分類

処遇の内容について、課長通知記4(1)の分類に基づき、各処遇が「ア 学習の支援等」、「イ 教養の付与等」、「ウ 情操のかん養等」のいずれに該当するかを問うた。なお、処遇によっては、一つの分類には収まりきらず、複数の分類に該当するものもあると考えられるため、本研究では、必要に応じて従たる分類を挙げることを求めた(表2)。

主たる分類をアとした種目は111種目であった。そのうち、従たる分類として、「イ 教養の付与等」を挙げているものが19種目、「ウ 情操のかん養等」を挙げているものが3種目あった。主たる分類をイとした種目は167種目であった。そのうち、従たる分類として、「ア 学習の支援等」を挙げているものが7種目、「ウ 情操のかん養等」を挙げているものが74種目あった。主たる分類をウとした種目は200種目であった。そのうち、従たる分類として、「ア 学習の支援等」を挙げているものが3種目、「イ 教養の付与等」を挙げているものが41種目あった。

このように見ると、「ア 学習の支援等」が、教科の学習と就労の準備という二分はあるものの、比較的独立した内容であるのに対して、「イ 教養の付与等」及び「ウ 情操のかん養等」は、互いに重複する部分が大きく、ある処遇をいずれの分類に区分するかは、少年鑑別所側が主として何を目的として当該処遇を実施しているかによっており、クリアに切り分けられる性質のものではないことが分かる。

実施内容と実施頻度、指導者、実施形態、意図的行動観察場面としての設定の有無によるクロス表は表3～6のとおりである。

表4 主・従の分類と指導者ごとの種目数

主たる 分類	従たる 分類	指導者			合計
		職員	部外協力者	部外協力者	
ア	なし	29 32.6%	3 3.4%	57 64.0%	89 100.0%
	イ	12 63.2%	0 0.0%	7 36.8%	19 100.0%
	ウ	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	3 100.0%
	小計	42 37.8%	3 2.7%	66 59.5%	111 100.0%
	なし	55 64.0%	31 0.0%	86 36.0%	86 100.0%
イ	ア	5 71.4%	0 0.0%	2 28.6%	7 100.0%
	ウ	64 86.5%	1 1.4%	9 12.2%	74 100.0%
	小計	124 74.3%	1 0.6%	42 25.1%	167 100.0%
	なし	106 67.9%	4 2.6%	46 29.5%	156 100.0%
	ア	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	3 100.0%
ウ	イ	29 70.7%	2 4.9%	10 24.4%	41 100.0%
	小計	136 68.0%	6 3.0%	58 29.0%	200 100.0%
	合計	302 63.2%	10 2.1%	166 34.7%	478 100.0%

表5 主・従の分類と実施形態ごとの種目数

主たる 分類	従たる 分類	実施形態			合計
		単独	併用	集団	
ア	なし	53 59.6%	5 5.6%	31 34.8%	89 100.0%
	イ	11 57.9%	0 0.0%	8 42.1%	19 100.0%
	ウ	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	3 100.0%
	小計	65 58.6%	5 4.5%	41 36.9%	111 100.0%
	なし	37 43.0%	0 0.0%	49 57.0%	86 100.0%
イ	ア	6 85.7%	0 0.0%	1 14.3%	7 100.0%
	ウ	45 60.8%	1 1.4%	28 37.8%	74 100.0%
	小計	88 52.7%	1 0.6%	78 46.7%	167 100.0%
	なし	59 37.8%	5 3.2%	92 59.0%	156 100.0%
	ア	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	3 100.0%
ウ	イ	19 46.3%	3 7.3%	19 46.3%	41 100.0%
	小計	79 39.5%	8 4.0%	113 56.5%	200 100.0%
	合計	232 48.5%	14 2.9%	232 48.5%	478 100.0%

表6 主・従の分類と意図的行動観察場面としての設定ごとの種目数

主たる 分類	従たる 分類	意図的行動観察		合計
		なし	あり	
ア	なし	39 43.8%	50 56.2%	89 100.0%
	イ	9 47.4%	10 52.6%	19 100.0%
	ウ	2 66.7%	1 33.3%	3 100.0%
	小計	50 45.0%	61 55.0%	111 100.0%
	なし	43 50.0%	43 50.0%	86 100.0%
イ	ア	2 28.6%	5 71.4%	7 100.0%
	ウ	44 59.5%	30 40.5%	74 100.0%
	小計	89 53.3%	78 46.7%	167 100.0%
	なし	80 51.3%	76 48.7%	156 100.0%
	ア	0 0.0%	3 100.0%	3 100.0%
ウ	イ	15 36.6%	26 63.4%	41 100.0%
	小計	95 47.5%	105 52.5%	200 100.0%
	合計	234 49.0%	244 51.0%	478 100.0%

表7 実施頻度

	度数	%
毎日	70	14.6
週2回以上	47	9.8
週1回	91	19.0
隔週・月2～3回	65	13.6
月1回	61	12.8
2～3か月に1回	22	4.6
年2～3回	24	5.0
年1回	90	18.8
年1回未満	8	1.7
合計	478	100.0

3 実施頻度

毎日が70種目，週2回以上が47種目，週1回が91種目，隔週または月2～3回が65種目，月1回が61種目，2～3か月に1回が22種目，年2～3回が24種目，年1回が90種目，年1回未満が8種目であった（表7）。

実施頻度と指導者ごとの種目数は表8のとおりである。職員指導による種目が，毎日ないし週2回以上の実施頻度の高い種目と年2～3回未満の実施頻度の低い種目に集中しており，部外協力者指導による種目は，週1回から2～3か月に1回実施する実施頻度が中程度の種目に集中していることが分かる。

実施頻度の高い，日々の積み重ねが必要であったり，習慣付けを目的としていたりする種目については職員が担当するとともに，部外協力者が中程度の頻度で，その専門性の発揮が期待される種目を担当するという効率的な分担態勢がうかがわれる。

当然ながら，部外協力者による指導については，日程調整や謝金等の関係もあり，高頻度での実施が難しいといった事情もあろう。

なお，職員指導による種目で実施頻度が低いものは，季節の行事や国民の祝日に係る日課などがほとんどであった。これらは内容的にも，日程調整等の外的な条件を考へても，部外協力者による指導であっても不思議のないところであるが，相当数を職員が実施していた。工夫の凝らされた魅力的な種目が少なくないなどを踏まえると，自分たちの手で指導を行いたいという職員の処遇意欲の表れとも考えられる。

4 対象者

対象者（育成的処遇を実施するに当たり，当該処遇に参加するかどうか，その意志を確認する少年。以下同じ。）に関する記載内容は，次のとおりである。

(1) 被収容少年全員を対象とするもの

被収容少年全員を対象とするものは全478種目中198種目（41.4%）であった。主たる分類ごとの内訳は，「ア 学習の支援等」全111種目中18種目（16.2%），「イ 教養

表8 実施頻度と指導者ごとの種目数

	指導者			合計	
	職員	職員及び部外協力者	部外協力者		
実施頻度	毎日	69 98.6%	0 0.0%	1 1.4%	70 100.0%
	週2回以上	40 85.1%	1 2.1%	6 12.8%	47 100.0%
	週1回	40 44.0%	3 3.3%	48 52.7%	91 100.0%
	隔週・月2～3回	16 24.6%	2 3.1%	47 72.3%	65 100.0%
	月1回	32 52.5%	1 1.6%	28 45.9%	61 100.0%
	2～3か月に1回	6 27.3%	1 4.5%	15 68.2%	22 100.0%
	年2～3回	15 62.5%	0 0.0%	9 37.5%	24 100.0%
	年1回	77 85.6%	2 2.2%	11 12.2%	90 100.0%
	年1回未満	7 87.5%	0 0.0%	1 12.5%	8 100.0%
	合計	302 63.2%	10 2.1%	166 34.7%	478 100.0%

の付与等」全167種目中78種目（46.7%）、「ウ 情操のかん養等」全200種目中102種目（51.0%）であった。他の分類と比較して、「ア 学習の支援等」に係る種目については、対象者について何らかの限定がなされる場合が多いことが分かる。

(2) 学年・年齢・性別等について限定するもの

対象者の学年・年齢・性別等で対象者を限定・設定した種目は、①義務教育対象者のみを対象とするものが28種目、②義務教育対象者及びその他の者（指導受講希望者・高校受験予定者等）を対象とするもの（「義務教育対象者を優先」といった回答も含む）が37種目、③義務教育対象者以外を対象とするものが8種目、④就労予定者等を対照とするものが2種目、⑤女子少年を対象とするものが10種目、⑥男子少年を対象とするものが3種目、⑦入所期間が長期化している者や低年齢の者を対象とするもの4種目、⑧対象者の性格特徴等に応じて選定するものが5種目、⑨その他3種目、合計100種目である。

①については、「ア 学習の支援等」に係る種目がほとんどであった。課長通知記4(2)アに、「義務教育対象者に対しては、平成13年3月22日付け矯医第669号矯正局医療分類課長通知「少年鑑別所における被收容少年に対する学習機会の付与について」（以下、「学習通知」という。）に基づき、学習機会を付与すること。」とされていることを受けてのものであろう。

②は①と同じく、「ア 学習の支援等」に係る種目がほとんどであった。義務教育対象者用のプログラム等の実施人数に余裕があるといった事情や、義務教育修了者といえども少年鑑別所入所者は学力の低い者が多いことから、義務教育対象者と異なるプログラム等を用意する必要性が低いといった理由によるものと推察される。

③は全て「ア 学習の支援等」であったが、教科の学習に係る支援は2種目にとどまり、その他は就労の準備の支援等に係る内容であった。教科の学習に係る支援は、1種目は課長通知記4(2)イ(ア)にある「義務教育対象者ではない者に対する、学習通知を準用した学習機会の付与」であった。もう1種目は運動であったが、育成的処遇の一つと位置付けて実施しているものと考えられる。就労の準備に係る支援等については、少年の意欲や必要性、実施人数の制約等を勘案した上での対象者設定と考えられる。

④は2種目とも「ア 学習の支援等」の就労の準備に係る支援であった。③の義務教育対象者以外という対象者設定を、プログラムの目的や内容に合わせてより絞り込んだ形と言える。

⑤は、「ア 学習の支援等」1種目、「イ 教養の付与等」3種目、「ウ 情操のかん養等」6種目であった。「ア 学習の支援等」は、指導者が女性であるからとの理由に基づく女子少年限定の指導であった。「イ 教養の付与等」は全て性や妊娠等についての講話であり、内容の関係上女子少年を対象としているとの回答であった（うち2種目については男子少年についても実施を検討しているとの記載があった。）。

「ウ 情操のかん養等」では、生け花や音楽等、少年のニーズに対応した内容のものが多かった。

⑥は、「ア 学習の支援等」の進路選択支援が2種目、「ウ 情操のかん養等」が1種目（書道教室）であった。進路選択支援については、分隔の都合上、女子少年や年少少年に対する機会付与が限られているため、今後の拡充を検討しているとの回答であった。書道教室についても、男子少年がいない場合は、女子少年を対象とするとのことであり、対象者を積極的に男子少年に絞り込んだ種目の必要性は各庁とも余り感じていない様子がかがわれた。

⑦は、全て「ウ 情操のかん養等」に関する種目であった。創作ブロックやジグソーパズルなど、居室内日課に彩を添える内容のものが2種目、園芸が2種目であった。観護措置の特別更新等により入所期間が長期化している者や、低年齢少年は、課長通知頭書に、育成的処遇導入の背景理由として挙げられている対象であるだけに、これらの者をターゲットにした種目を工夫し、用意することは、育成的処遇の充実を考える上で今後とも非常に有意義と言えるであろう。

⑧は、再入少年を対象としたものが1種目、能力の低い者を対象としたものが1種目、自己表現・感情表現の苦手な少年を対象としたものが1種目、その他が2種目であった。ある特徴を持った対象者にターゲットを絞ることは、対象者の動機付けを高めたり、指導の効率や効果を向上させたりする上で有効と考えられる。一方で、処遇の充実や個別化を進めようとする場合には、課長通知記2(4)に示されている「少年に非行事実があることを前提とし、少年の問題点の改善を図るような処遇としてはならない。」という育成的処遇の実施方針を十分に踏まえておく必要がある。

⑨については、職員側の選定によるものが2種目、誕生日を迎えた者を対象とするものが1種目（誕生会）であった。前者のうちの1種目は園芸であり、「低年齢少年や発達上の問題を抱えていることが疑われる者」を主な対象として、「資質鑑別に寄与すること」を目的に実施しているとの回答であった。

(3) 入所事由等について限定するもの

入所事由について触れている回答は、全て「観護措置による入所者に限る」という内容であった。対象者を観護措置中の者に限るとしたものは全478種目中79種目（16.5%）であった。主たる分類ごとの内訳は、「ア 学習の支援等」全111種目中12種目（10.8%）、「イ 教養の付与等」全167種目中34種目（20.4%）、「ウ 情操のかん養等」全200種目中33種目（16.5%）であった。他の分類と比較して、「ア 学習の支援等」は、入所事由による限定を加えられている割合が低いことが分かる。「ア 学習の支援等」の中でも、教科学習に係る機会の付与（特に義務教育課程にある者に対するそれ）は、被收容少年に対する権利保障的な意味合いを有することから、入所事由による限定に馴染みにくいことが影響している可能性がある。

5 指導者

処遇内容の主たる分類・従たる分類ごとの指導者の違いは表4のとおりである。他の分類に比べて、「ア 学習の支援等」においては部外協力者による指導の占める割合が高いことが分かる。教科の学習や就労の準備に係る支援の専門性の高さなどが、外部の専門家による指導の多さにつながっている可能性がある。また、既述のとおり、学習機会の付与（特に義務教育対象者に対するそれ）が、被収容少年に対する権利保障的な意味合いを有していることから、職員配置が厳しい上、出廷・護送等、流動的要素の高いこともあって、職員の中にも教員免許所持者がいたとしても、特定職員による指導とするよりも、外部の専門家に協力を求める方が安定した運営が可能なのかも知れない。以下、指導者の特徴について個別に見ていく。

(1) 職員のみによる指導

職員のみで実施している指導は全478種目中302種目（63.2%）であった。内訳は表9のとおりである。

当日の寮勤務者等、指導者を特に限定しないものは273種目であった。指導者を特定の職員に限定したものは29種目あり、内訳は次のとおりであった。当該種目の実施担当者・起案者等によるものが11種目、受講少年の行動観察担当者によるものが5種目、経験者によるものが4種目（例えば、少年院で園芸指導の経験がある職員による園芸指導など）、法務教官のうち特に何らかの資格を有する職員によるものが3種目（管理栄養士、准看護師、教員免許所持者が各1種目）、医師によるものが2種目、考査担当職員によるものが2種目（うち1種目は行動観察担当者によるものと重複）、役職指定によるものが1種目、地域の委員を兼務している職員によるものが1種目であった。

表9 指導者の特徴ごとの種目数(職員)

職員のみ	総数	302
特に限定しない	273	
実施担当者・起案者	11	
行動観察担当者	5	
経験者	4	
有資格者	3	
医師	2	
考査担当職員	2	
役職指定	1	
地域委員兼務者	1	

就労の準備に係る支援や季節の行事などが、より積極的に職員が関与する処遇として目立ったが、種目数としては、居室内での課題や読書・視聴覚教材の視聴など、少年が自主的に取り組む形態の処遇が多かった。

なお、実施担当者に関して特段の記載がない場合でも、実際は当該処遇を実施する技術等を有する特定の職員数名が実施している処遇もあるものと推察されるが、本調査においてはこうした回答は得られなかった。

(2) 部外協力者による指導

部外協力者による指導は全478種目中176種目(36.8%)であった。そのうち、部外協力者のみによる指導は166種目、職員と共同での指導は10種目であった。

共同による指導については、就労支援や季節の行事、デイキャンプ、ロールプレイング等、職員が主導的に指導を実施する中で、部外協力者の専門性を発揮してもらう形の指導が多かった(運動・レクリエーション等については、職員の関与は保安立会の趣旨が強いようである。)。いずれについても、指導職員の特徴について特段の記載はなかった。

部外協力者の職種や資格・技能等の専門性ごとの内訳は表10のとおりである。なお、1種目に複数の部外協力者が参加している種目があったり、部外協力者が複数の肩書きを有するケースがあったりするため、合計数は種目数と一致しない。

ア 教員(元教員、大学教授等含む)ないし教員免許所持者 57種目

小・中・高校の元教員が多く、大学教員や教員免許を所持しているスクールカウンセラー等は現職者であった。

主たる分類については、「ア 学習の支援等」43種目、「イ 教養の付与等」6種目、「ウ 情操のかん養等」8種目であった。

学習の支援等の中でも教科の学習に係る支援がほとんどであったが、同指導の枠組みの中で、進路相談を兼ねているものもあった。また、臨床心理士資格等を有し、スクールカウンセラー等として勤務している教員免許所持者を外部講師として招いている施設が3庁あった。

イ 矯正・家庭裁判所関係者(元職員、近隣施設職員など) 17種目

主たる分類が、「ア 学習の支援等」3種目、「イ 教養の付与等」9種目、「ウ 情操のかん養等」5種目と内容は幅広いものであった。

元職員を始めとした矯正関係者は、被収容少年の特性や少年鑑別所業務の特徴等を十分把握しており、その導入が円滑である面があると思われる。また、元職員等の豊富かつ貴重な経験を少年の健全育成に活用することは非常に有意義なことと考えられる。一方で、専門性に関して言えば、少年鑑別所の現職職員と重複する部分が多いのではないかと史料されるだけに、観護職員の指導意欲や処遇技術の充実に資するためにも、部外協力者による指導を参考にしつつ、現職職員による指導の

表10 指導者の特徴ごとの種目数(部外協力者)

部外協力者による指導	総数	176
教員・教員免許所持者		57
矯正・家裁関係者		17
レクリエーション協会等		14
スポーツインストラクター等		21
ハローワーク職員等		8
キャリアカウンセラー等		6
臨床心理士・精神保健福祉士等		4
大学生・大学院生		8
医師・看護師・薬剤師・栄養管理士等		15
更生保護関係者		6
地域の協力者		30
公的機関		12
宗教家		4
	重複あり	

更なる充実も期待される場所である。

ウ レクリエーション協会等 14種目

主たる分類は、全てが「ウ 情操のかん養等」であり、内容としては、レクリエーションがほとんどであり、運動と銘打たれている種目についても、レクリエーション的な要素の強いものであった。

職員が指導することと、部外協力者が指導することによる効果の違い（リラックス、心情安定等）について回答している庁が非常に多く、部外協力者の指導技術の高さがうかがわれるだけに、一層の活用が望まれる場所である。「部外協力者の指導技術を職員が学ぶことにより、職員の処遇力の向上を図る。」といった記載がある一方、保安配置に係る余裕のなさについて記載も少なくなかった。部外協力者の指導場面への立会を、保安及び行動観察の目的にとどめず（両者が非常に重要なことは言うまでもないが、育成的処遇の充実の観点から言えば）、部外協力者の優れた指導技術を学ぶ貴重な機会と捉え直して、職員の処遇力の向上を図り、観護処遇の質の向上につなげるのが有益と考える。

エ スポーツインストラクター等 21種目

主たる分類については、「ア 学習の支援等」3種目、「イ 教養の付与等」1種目、「ウ 情操のかん養等」17種目であった（「ア 学習の支援等」、「イ 教養の付与等」としている種目についても内容は同様であり、運動等を育成的処遇の一つとして位置付けたものと思料される）。運動指導がほとんどであり、特にエアロビクスが多かった。

なお、エアロビクスについては、一部の施設で退所時アンケート結果が不評である旨の記載があった。また、後述のとおり、本調査における少年アンケートにおいても好不評が分かれるところであり、実施方法、動機付け等に加えて、運動の種類選択等についても検討の余地があるように思われる。

オ ハローワーク職員等 8種目

主たる分類は、「ア 学習の支援等」が5種目、「イ 教養の付与等」が3種目であった。分類に関係なく実施内容は、就労準備の支援に係る内容についての集団を対象とした講話であった。ちなみに、課長通知記4(1)の規定によると、就労の準備に係る支援は「ア 学習の支援等」にくくられている。

カ キャリアカウンセラー・キャリアコンサルタント等 6種目

主たる分類は、「ア 学習の支援等」が5種目、「イ 教養の付与等」が1種目であった。内容はほぼ上記オと同様であるが、例えば、事前にOHBYを用いた指導の際に作成したキャリア相談表をもとにして、キャリアカウンセラーによる就労支援に係る個別相談を行うなど、ハローワーク職員等とキャリアカウンセラー等との専門性の違いを意識して処遇を展開している施設もあった。このような取組は、部外協力者の専門性をより高い水準で発揮してもらうための有効な工夫と考えられる。

キ 臨床心理士・精神保健福祉士・作業療法士等 4種目

主たる分類は、「ア 学習の支援等」が3種目、「ウ 情操のかん養等」が1種目であった。

「ア 学習の支援等」は、教科の学習の支援に係る内容であり、教員免許を持つ臨床心理士が指導に当たっている。「ウ 情操のかん養等」は、作業療法士及び精神保健福祉士の資格を有する元法務教官による、作業療法の観点を取り入れた処遇である。

ク 大学院生等 8種目

主たる分類は、「ア 学習の支援等」6種目、「イ 教養の付与等」1種目、「ウ 情操のかん養等」1種目であった。

「ア 学習の支援等」は、全て教科の学習に係る支援であり、「イ 教養の付与等」は、女子少年に対する性教育、「ウ 情操のかん養等」は教員免許を持つ教育大大学院生によるレクリエーション指導である。

大学院生等による指導については、被収容少年と比較的年齢に近いなどの共通性が、指導上有効に働く場合があると考えられる。一方で、一部を除くといゆる専門職ではないことから、他のケース以上に守秘義務等に配慮する必要がある。

ケ 医師・看護師・薬剤師・管理栄養士等 15種目

主たる分類は、「イ 教養の付与等」12種目、「ウ 情操のかん養等」3種目であった。

「イ 教養の付与等」については、医療や保健衛生に関する内容について、専門家の立場から講話してもらおうという趣旨の種目が多かった。具体的には、性や妊娠等に係る内容が4種目、食育・食中毒等食に係る内容が4種目、介護・福祉関係の仕事に関する内容が2種目、薬物に関するものが1種目、その他保健衛生に関する講話が1種目であった。

「ウ 情操のかん養等」については、デイサービスセンター職員の専門性を活用したレクリエーションが1種目、社会福祉施設施設長による障害者支援についての教養講話（人権学習を兼ねる）が1種目、がん患者であり、看護師である講師による情操講話が1種目であった。

コ 更生保護関係者（保護司・更生保護女性会等） 6種目

主たる分類は、「ア 学習の支援等」2種目、「イ 教養の付与等」2種目、「ウ 情操のかん養等」2種目であった。

「ア 学習の支援等」の2種目はともに教科の学習に係る支援であった。「イ 教養の付与等」の2種目はともに講話であるが、うち1種目は、再入少年を対象に実施されており、少年院出院者が立ち直っていった話など保護司ならではの話を聞き、心情安定や審判等への心構えを養う場になっているようである。「ウ 情操のかん養等」は生け花、園芸等であり、心情の安定や情操のかん養に効果が現れている。

るようである。更生保護関係者は、地域における更生保護関係の貴重な専門家であるとともに、多様な趣味や特技を持っておられる方も多いだけに、良好な関係維持に一層の配慮が望まれる。

サ 地域の協力者 30種目

主たる分類は、「ア 学習の支援等」9種目、「イ 教養の付与等」8種目、「ウ 情操のかん養等」13種目であり、各施設が地域の社会資源の協力をいかに幅広い領域において受けているかがよく分かる。

「ア 学習の支援等」の内訳は、教科の学習に係る支援5種目、就労の準備に係る支援4種目であり、前者については、地域の学習塾関係者等の協力を、後者については、地域の会社社長等の協力を得ている。

「イ 教養の付与等」については、非常に多様であったが、例えば釧路少年鑑別所でアイヌ文化振興推進アドバイザーによる地域文化に関しての教養講話、盛岡少年鑑別所では、遠野物語研究所「いろり火の会」会員による民話語り、岐阜少年鑑別所では宮内庁式部職職匠による教養講話を行っている。いずれにおいても、ただ講話を行うだけではなく、衣装や音楽、実演等の工夫が凝らされている。同種の工夫が凝らされた民話語りについては、「ウ 情操のかん養等」としても1種目回答があった。

「ウ 情操のかん養等」は、書道及び華道が7種目で最多であり、その他音楽指導3種目、塗り絵1種目など、芸術関係の種目が多かった。

いずれの内容についても工夫が凝らされており、特に地域文化に係る講話等については、地域の協力者の支援がなければ成立しない魅力的な取組が多いだけに、地域の社会資源の一層の有効活用が望まれる。そのためには地域社会への少年鑑別所の広報が欠かせない。

シ 公的機関（保健所等） 12種目

主たる分類は、「イ 教養の付与等」9種目、「ウ 情操のかん養等」3種目である。

「イ 教養の付与等」は、保健所等の協力を得ているものが多く、性や妊娠に係る内容、食育に係る内容の講話が3種目ずつあった。その他は、地域や自然に関する講話などであった。「ウ 情操のかん養等」の3種目は、運動・レクリエーションであった。

なお、ハローワーク等、既述の公的機関については再計していないが、それらも含めると、地域の公的機関から受けている支援・協力は多大なものと言える。ほとんどの施設が県庁所在地に立地するだけに、主要な公的機関が比較的近隣に集中しやすいという少年鑑別所の地理的特性もあって、関係機関からの協力を得ての指導が少なくない。これらの機関には、青少年育成施策大綱や子ども・若者育成支援推進法等で、直接取り上げられていない機関もあるだろうが、これらの枠組みの理念を踏

まえると、少年の健全育成のために地域の関係機関は連携・協力することが望まれているところ、少年鑑別所における育成的処遇においてこうした理念の実現の兆しが見えつつあることは大きな意義があり、更なる推進が望まれる（少年鑑別所も、その専門性を発揮し、従前にも増して、他機関に対して支援・協力を行っていく必要があるだろう）。

ス 宗教家 4種目

主たる分類は、「イ 教養の付与等」2種目、「ウ 情操のかん養等」2種目である。

前者は教養講話、後者は心情の安定や情操のかん養に係る講話等である。刑事施設の宗教教誨師や篤志面接委員等でもある住職等の協力を得ている施設が多い。

6 実施形態

実施形態については、表5のとおりである。すなわち、集団による実施が232種目（48.5%）、集団による実施と単独の実施の併用が14種目（2.9%）、単独の実施が232種目である（48.5%）。

単独による実施については、主たる分類は、「ア 学習の支援等」65種目、「イ 教養の付与等」88種目、「ウ 情操のかん養等」79種目である。集団の実施については、主たる分類は、「ア 学習の支援等」41種目、「イ 教養の付与等」78種目、「ウ 情操のかん養等」113種目である。「ア 学習の支援等」については単独による実施が、「ウ 情操のかん養等」については集団の実施が比較的多いことが分かる。

なお、集団による実施と個別の実施を併用している種目については、希望者・対象者の人数により、集団と個別を柔軟に使い分けている種目（学習の支援や運動・レクリエーション等）と、季節の行事等の複合的な取組（例えば、居室にて単独で七夕飾りを作らせ、集団で飾付けを行う「七夕飾り」等）などがあった。

ところで、課長通知記3(2)にあるように、集団編成は「必要に応じて」、「行うことができる」性質のものとされている。また、育成的処遇の導入の背景要因として、特に、「低年齢少年の増加」や「いわゆる特別更新決定等による収容期間の長期化」が挙げられている。そこで、少年（特に低年齢少年）にとっては、適応的な友人関係の構築・維持等が重要な発達課題となっていることからすれば、適当かつ可能な範囲で同年代の他者と触れ合う機会を付与することが必要な場合もあろう。

一般的には、育成的処遇の多くは多分に構造化された活動場面であるだけに、むしろ集団処遇がしやすい面もあるのではないかと考えられる。個別の事例によって適否・可否があろうが、育成的処遇として用意されている種々の魅力的な活動に参加する機会を少しでも多くの少年に付与することは、意義深いことのように思われる。

7 意図的行動観察

当該育成的処遇を意図的行動観察場面として設定しているか否かについては、表6のとおりである。

意図的行動観察の場面として設定している種目は244種目(51.0%)、そうではない種目は234種目(49.0%)である。意図的行動観察場面としての活用種目数は、1庁平均4.7種目(SD=5.22)である。

意図的行動観察場面として設定されている種目の主たる分類は、「ア 学習の支援等」61種目、「イ 教養の付与等」78種目、「ウ 情操のかん養等」105種目であり、処遇内容の3分類と意図的行動観察場面としての関連は見られない。

なお、育成的処遇の全種目を意図的行動観察に充てている庁は16庁、111種目(1庁平均6.9種目, SD=4.09)であり、一方、全く充てていない庁は10庁である。

8 処遇種目の名称

実施目的や内容が同様であっても、あるいは、共通していても各庁区にわたる。ちなみにネーミングの実情について列挙してみると、

(1) 学習の支援等(学習の支援)

学習指導, 学習支援, 学習機会の付与, 教科学習, 学習教室, 自主学习, 教科指導, 教科教育 等々

(2) 学習の支援等(就労の準備)

就労支援(プログラム), 職業講話, 就労指導, 就労準備支援, 就労支援指導, 就労助言指導 等々

(3) 教養の付与等

教養講話, 社会講話, 視聴覚教材(ビデオ, DVD)の視聴, 季節の行事, 読書 等々

(4) 情操のかん養等

季節の行事, 運動指導, エアロビクス, レクリエーション, 園芸, 音楽指導・鑑賞, 図書指導, はり絵・絵画・コラージュなど, 役割書簡 等々

とされており、ネーミングは実に多彩であるし、上記4つのカテゴリーへの実行種目の振り分けも多様である。

また、一例を挙げると、季節の行事とされているもののうち“七夕”一つをとっても「季節の行事(七夕), 七夕祭り, 短冊作成(七夕), 七夕飾り, 七夕会, 季節感のある処遇(七夕)」など思い思いに名付けられており、ネーミングについては、特段の定めや枠組みが示されていないことから、種目内容を直截に表すものが多い。また、季節の行事と名付けられているものであっても実施内容により“教養の付与等”とされたり、“情操のかん養等”とされたりしておりカテゴリーの仕方も施設によって異なっている。

9 実施の概要

主たる分類及び従たる分類の記号をもとに、「(1) 学習の支援等（教科の学習）」、「(2) 学習の支援等（就労の準備）」、「(3) 教養の付与等及び情操のかん養等」ごとに種目数を計上し、内容について検討した。なお、主・従の別にかかわらず計上したため、各分類に重複して計上されている種目がある。

(1) 学習の支援等（教科の学習）

ア 実施施設数 52庁中48庁（84種目）

主たる分類ないし従たる分類に「ア 学習の支援等」が選択されている種目のうち、教科の学習に該当するものを計上した（なお、主たる細分にも従たる細分にもアではなくイを選択しているものが2種目あったが、内容自体は教科学習の支援に係るものであったため、「(1) 学習の支援等（教科の学習）」及び「(3) 教養の付与等及び情操のかん養等」に計上した。）。集団ないし個別指導による教科学習や自主学習等の内容が大半であったが、エアロビクス等、運動・レクリエーション的な活動を育成的処遇の一つとして位置付けたものが5種目（うち1種目については、主たる細分はウ）、図画工作的な活動について「美術」とみなしたものが1種目あった。

教科の学習に係る支援に該当する種目が計上されていない施設が4庁あった。しかし、少なくとも義務教育課程にある者に対しては、何らかの形で学習の支援を準備しているのが一般的であることからすると、こうした支援の準備を育成的処遇としていないだけのことと推測される。義務教育課程にある者に対しては、学習支援のためのプログラムが準備されなければならないからである。

イ 実施頻度及び指導者について

実施頻度及び指導者ごとの種目数については表11のとおりである。

表11 指導者と実施頻度ごとの種目数

	実施頻度							合計
	毎日	週2回以上	週1回	隔週・月2~3回	月1回	2~3か月に1回	年2~3回	
職員	10	3	4	3	4	0	0	24
	90.9%	37.5%	12.5%	15.0%	40.0%	0.0%	0.0%	28.6%
指導者 職員及び部外協力者	0	1	0	0	0	0	0	1
	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
部外協力者	1	4	28	17	6	2	1	59
	9.1%	50.0%	87.5%	85.0%	60.0%	100.0%	100.0%	70.2%
合計	11	8	32	20	10	2	1	84
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

実施頻度については、毎日が11種目（13.1%）、週2回以上が8種目（9.5%）、週1回が32種目（38.1%）、隔週ないし月2~3回が20種目（23.8%）、月1回が10種

目 (11.9%), 2~3 か月に1回が2種目 (2.4%), 年2~3回が1種目 (1.2%) であった。

全体の実施頻度 (表7) と比較すると、高頻度で実施されている種目が多いことが分かる。それだけ教科の学習に係る支援に対して各施設が意を用いているということであろう。なお、毎日実施するとされた種目のうち10種目は自主学習であったが、1種目は部外協力者 (地域の保護司) による実施であった。また、週2回以上から部外協力者による指導の割合が増えており、部外協力者との調整、地域資源の活用等が進んでいる施設が多い様子がうかがわれる。逆に、実施頻度の低い施設においては、こうした点が課題となっているようである。

指導者については、職員による指導が24種目 (28.6%), 職員及び部外協力者による指導が1種目 (1.2%), 部外協力者による指導が59種目 (70.2%) である。表8と比較すると、部外協力者による指導の割合が非常に高いことが分かる。教科の学習の支援に当たっている部外協力者については、そのほとんどが教員免許所持者である旨の記載がなされており、各庁が部外協力者に対して、専門性の高さや指導技術等を期待している様子がうかがわれる。

ウ 実施形態及び意図的行動観察場面としての設定について

- ① 集団による実施は30種目 (35.7%), 単独による実施は52種目 (61.9%), 両方の形態による実施は2種目 (2.4%) であり、特定の実施形態には限られていない (処遇プログラム、収容数、対応可能職員数等々により柔軟な対応を可能とするよう準備されているものと推測される。)。全体の傾向 (表5) と比較すると個別に実施されている種目の割合がやや高いようである。
- ② 学習用パソコンの使用、部外協力者による指導、職員による指導、自習あるいはこれらの複合といった実施形態で、教科書、学習用DVD等を教材として使用している。
- ③ 意図的行動観察場面として設定されているものは35種目 (41.7%), 設定のないものは49種目 (58.3%) であった。全体の傾向 (表6) と比較すると意図的行動観察場面として設定されている種目の割合がやや低いようである。

エ 実施上の工夫点について

各庁の工夫点について、共通するものをまとめた。

① 個別性への配慮

「個々の対象者のレベルに合わせて」、「対象者の年齢や学歴を考慮し」、「学習を受ける構え、意欲を確認し」等、学力を始めとした対象者の様々な特徴に合わせて決め細やかな対応を心掛けている種目が多かった。集団で実施している庁においても、個別性に配慮した指導を心掛けて (もらって) いる旨の回答が目立った。また、学力レベルを把握するために、学力テストや共通の課題等を実施している施設もあった。例えば、「それぞれのレベルを見極めるため入所時に共通の

テキストに取り組みさせる。],「少年の能力に合わせて個別的に学習内容を選定して指導してもらうように外部協力者にはその都度依頼している。」などである。

② 興味をひく・楽しめるような工夫

被收容少年には、学習習慣が身につけていなかったり、学習に対する苦手意識が強かったり、飽きっぽかったりする者が少なくないところ、彼らが机に向かうきっかけを作るため、また、少しでも長続きさせるために、「ためになる」だけではなく「楽しい」種目にしようと工夫している施設が多かった。例えば、「積木や数独（クロスワードパズル形式の計算問題）等、頭の体操的な内容を盛り込み、学力が低い者や数学嫌いな者でも楽しめる講義になるよう工夫している。],「指導者は受講対象少年の関心のあることから学習意欲を引き出すなどの工夫をしている。」などである。

③ 外部講師への情報伝達

上記①とも関係する事項であるが、対象者の様々な特徴について事前に外部講師に情報伝達することで、きめ細やかな指導ができるよう配慮している施設が多い。伝達するとされている情報は、学力や知的能力のみならず、学校での成績、学習に対する構え、意欲等様々である。「事前に学力レベルを評価するためのシート（問題）があり、それを実施することで、個々人の学力レベルに合わせた指導を行ってもらうことができる。また、少年の学校での成績や学習意欲の程度、指導への乗りやすさ等、学習支援を実施する上で役立つ情報もきめ細かく伝えるようにしている。」などは、少年自身のニーズ、学力テスト等の客観的なデータ、行動観察等から得られるデータ等を指導に反映させようと細やかな対応を試みている様子がうかがわれる。

なお、情報伝達に際しては、個人情報の保護に十分な配慮が欠かせない。

④ 被收容少年のニーズへの対応

学習したい教科について希望を取り、当該教科について指導を行うなど、被收容少年のニーズにできる限り対応しようと配慮している旨の回答が多い。個別ないし集団による学習の支援だけでなく、学習用教材や図書の整備についても、幅広いニーズやより進んだ学習をしたいというニーズに対応できるよう準備を整えている旨の回答もあった。例えば、「集団での実施であるが、学習科目については一人ひとりの少年に選択させ」などである。特に、「受講対象少年に対して、事前に学びたい内容について質問するなど学習意欲を促している。」などの回答からは、義務的な「意志確認」にとどまらず、被收容少年のニーズに対応することが、彼らの動機付けを高めることにつながるのと考えの下、積極的なニーズ対応が心掛けられている様子がうかがわれる。

⑤ 自発性を引き出す工夫

上記②は、学習内容自体とは異なる視点から動機付けに働き掛ける工夫である

が、これとは別に、いわゆる内発的動機付けである自発性や探究心等を引き出すための工夫もなされている。例えば、「学習計画票を作成させることで、真剣に取り組ませている。」などである。また、ある施設は、「更にレベルを上げての学習をしたいと希望する少年用として、学習図書を整備した。」と回答しているところ、研究会においても「自発的探求型の育成的処遇について」と題して発表を行うなど、自発性を特に重視しているようである。

⑥ 事前課題等の実施

部外協力者による指導は、日程調整等もあり、高頻度での実施は難しいので、貴重な指導機会を有意義に活用すべく、事前に課題等に取り組ませる旨の回答があった。例えば、「事前にプリントや関連する学習参考書を貸与し、予習を行わせてから実施している。」「学習用プリントを作成したものを、少年に試してもらい、その後に指導者が親切にわかりやすく教えている。」などである。

⑦ 分かりやすさへの配慮

「平易で分かりやすく」、「読みやすい」等の記載のある回答について計上した。なお、記載のない種目についても、例えば、上記①のように、被收容少年の個性に配慮している種目では、学力等の劣る少年に対しては、当然分かりやすさを重視した指導が行われているものと考えられる。

⑧ 公平性への配慮

集団実施の種目についても、各庁とも対象者の学力やニーズに合わせてきめ細やかな指導を行うといった記載があるだけに、1回の受講者は比較的限定的な人数にならざるを得ないと予想される。個別指導による種目についてはなおさらである。また、学習用パソコンや学習用図書等についても、希望者が多数の場合には、全員に行き渡らない場合もあるであろう。

こうした実情を受けて、「1回で実施できる人員は限られているため、受講者が特定の少年に偏ることのないよう配慮している。」「対象者が複数の場合、全ての対象者に可能な限り公平に機会が与えられるように工夫している。」等、公平性に配慮している様子がうかがわれた。具体的な工夫としては、入所時に希望調書を取る、入所順に実施する等の回答があった。

⑨ オリエンテーション・アナウンスの工夫

生活のしおり等に種目の内容等について記載するだけでなく、口頭でもオリエンテーションを行い、適切に周知を図っている様子がうかがわれた。

例えば、「個別指導であること、希望する科目の指導を受けられること、自分の現在の学年相応の学力に至っていなくとも、分からないところから丁寧に指導してもらえることなどを対象者に対して説明し、できるだけ多くの対象者が受講を希望するよう努めている。」といった回答もあり、単なる周知にとどまらず、できるだけ多くの者に機会を付与しようと、受講へ向けた動機付けにまで踏み込

んだオリエンテーションを行うなどの工夫も見られた。

⑩ 保安に関する配慮

外部講師指導による学習に関して、保安立会配置を付ける旨の回答が多数あった。また、学習用パソコンの使用に際して、不正使用の有無の確認やデータの確実な抹消等に留意している旨の回答も多かった。その他、集団実施の指導で、共犯・知己関係に留意することが安定した実施につながる旨の指摘があった。

⑪ その他の工夫

- その他の工夫としては、例えば次のような種目があった。
- ・部外協力者の専門性を活かし、教科の学習にとどまらない内容としている種目（パソコンインストラクターである指導者がパソコンの指導法についても指導する種目、入試の情報や具体的な夢を持つ大切さなどのアドバイスも行われる種目など）。
 - ・担当職員以外の職員が実施する場合に備えて、詳細なマニュアルを作成している種目。
 - ・短い入所期間中の単発の指導となりがちなことから、指導の目標を「学習することの楽しさに気付かせ、学習する習慣を身に付ける端緒とする。」等と定め、自主学習や社会に戻った後の学習につなげるよう配慮している種目。
 - ・少年がリラックスした状態で受けられるよう、講師が対話をしながら実施している種目。
 - ・欠席者に対するフォローアップを行っている種目。

オ 少年の反応・効果

少年の反応については、「熱心に取り組んでいた。」等の行動観察や、少年から「ためになった。」「分かりやすかった。」「楽しかった。」等の肯定的反応が得られた旨の回答がほとんどであった。また、「少年の学力レベルに合わせて実施しているため、理解しやすい様子である。」等、集団指導・個別指導にかかわらず、対象者のレベルに合わせて丁寧な指導を行うといった個別的な対応が少年たちに肯定的に受け入れられているとの実感があることがうかがわれた。

また、「学習意欲が高まることで、居室でも自主学習に取り組むようになる少年が多い。また、面会に訪れた保護者や教師に対して、少年鑑別所で学習に取り組んでいることを自ら伝える少年もいる。」等の回答に代表されるように、動機付けの向上等の指導効果が、当該種目の実施場面にとどまらず、居室での自主学習等につながっていることを指摘している施設が多かった。こうした効果があるだけに、当該種目実施後に、少年のニーズに応じて発展的学習が可能となるような教材、枠組み等の準備を整えていくことが今後の方向性を示唆している（上記エ⑤）。

さらに、「心情安定につながった」、「生活に落ち着きがでた」等と回答する施設があり、教科の学習の支援を受けることで、「ア 学習の支援等」や「イ 教養の

付与等」にとどまらず、「ウ 情操のかん養等」に該当する効果も上がっている様子がうかがわれた。

カ 今後の課題・更なる充実のための検討事項

今後の課題・更なる充実のための検討事項としては、教材や指導者に関しては、教材の整備・更新（学習用図書や学習用パソコン等を増やす、少年のレベル・ニーズに合わせてワークブック等の内容を改訂する、学習指導要領・受験情勢等に合わせた最新化等）、部外協力者の拡充・連携強化（指導可能な教科のバリエーションを増やすため、指導回数を増やすため等）の回答が目立った。

対象者に関しては、受講者・受講希望者を増やすことを課題として挙げる施設が多かった。その方策としては、オリエンテーションや動機付け等の充実を図りたい旨の回答があった。義務教育対象者がいないないし少数の場合の受講者確保や適切な対象者選定を課題として挙げる施設もあった。また、被収容少年の年齢・能力・学力・ニーズ等の幅広さへの対応や、指導に際しての対象者の予備知識・スキル等の底上げの必要性（例えば、学習用パソコンによる自習については、教科学習以前に、パソコンの使用法から指導が必要である。）等が挙げられていた。その他、受講希望者多数の場合の実施場所の確保などについて触れている施設もあった。

多くの回答に共通する点は、できるだけ多くの者に、また、できるだけ多数回、受講機会を確保したいとする考えであろう。各施設の回答にあるとおり、部外協力者の更なる拡充等が望まれるところであるが、諸々の制約もあり、希望者多数の場合に全員に対応することは現実的に考えて困難が大きいため、自主学习用教材を整備したり、職員が適宜フォローアップ的にかかわったりするなどして、学習機会の付与に努めている。

キ 考察

実施に当たっては、義務教育対象者向けの内容や機会と、その他の少年に対する教科学習に係る補習的な内容や機会をそれぞれ準備するのが望ましい。

義務教育対象者向けの内容や機会の準備については、課長通知記4(2)アにおいて、学習通知に基づいて「学習機会を付与すること」とされており、必須事項である。さらに、これを育成的処遇として準備するか否かについては、先の課長通知の趣旨を勘案すれば明らかと思われる。

また、教科学習に係る補習的な内容や機会の準備に関しても、両通知の趣旨を勘案すれば、育成的処遇の種目に置くことが望ましいように思われる。内容等は、当面は実態どおりとなろうが、今後は早い機会に学習通知の意図するところを具体化したものとするよう内容の充実・体制の強化を目指す必要があろう。

少年鑑別所生活への適応、非行の反省等々で勉強どころではない少年も少なくはないが（これは、他の処遇についても言える。）、少なくとも義務教育課程にある少年向けの内容や機会の準備は、不可欠であろうし、併せて基礎学力不足の少年が多

いことから、補習学習的な内容や機会についても準備しておくことが望ましいと考えられていると思われる。

(2) 学習の支援等（就労の準備）

ア 実施施設数 52庁中39庁（64種目）

主たる分類ないし従たる分類に「ア 学習の支援等」が選択されている種目のうち、就労の準備に係る支援に該当するものは41種目であった。

講話、放送等については、就労関係の内容を扱っていても、その目的を就労の準備に係る支援とするか、一般教養の付与とするかによって、「ア 学習の支援等」とする施設も「イ 教養の付与等」とする施設もあった。また、「ウ 情操のかん養等」とされているものの中にも、就労場面を扱ったロールプレイなどがあった。

本研究では、育成的処遇の実態について、できるだけ広範な情報を抽出するため、施設の回答では、「イ 教養の付与等」ないし「ウ 情操のかん養等」に分類されているもの例示したような種目）についても、就労の準備に係る支援の要素を含むと考えられる種目については、本項でも計上した（23種目）。

イ 実施頻度及び指導者について

実施頻度及び指導者ごとの種目数については表12のとおりである。

表12 指導者と実施頻度ごとの種目数

	実施頻度									合計
	毎日	週2回以上	週1回	隔週・月2~3回	月に1回	月に1回	年2~3回	年1回	年1回未満	
職員	6	14	10	2	5	2	0	1	0	40
	100.0%	100.0%	83.3%	28.6%	35.7%	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%	62.5%
指導者	職員及び部外協力者	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	部外協力者	0	0	2	4	8	4	2	1	22
	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%
合計	6	14	12	7	14	6	2	2	1	64
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

実施頻度については、毎日が6種目（9.4%）、週2回以上が14種目（21.9%）、週1回が12種目（18.8%）、隔週ないし月2~3回が7種目（10.9%）、月に1回が14種目（21.9%）、2~3か月に1回が6種目（9.4%）、年2~3回が2種目（3.1%）、年1回が2種目（3.1%）、年1回未満が1種目（1.6%）であった。週2回以上の頻度で実施している種目については、ワークブック等を用いての自習や就労の準備等に係る図書の貸出等がほとんどであり、週1回以下の頻度から、個別ないし集団による助言・指導や、講話等が増えている。

指導者については、職員による指導が40種目（62.5%）、職員及び部外協力者による指導が2種目（3.1%）、部外協力者による指導が22種目（34.4%）である。部

外協力者による指導は、隔週ないし月に2～3回以下の頻度に集中している。教科の学習（表11）と比較すると、部外協力者による指導の割合及び同指導の実施頻度が低い。教科の学習については、学習通知以降（ないしはそれ以前から）の実績があることから、実施態勢や部外協力者の活用が進んでいると考えられる。就労の準備についても更なる充実が期待される場所であるが、施設調査の内容からは、現時点でも、ハローワーク職員やキャリアカウンセラー、キャリアコンサルタントを始め、地域の会社社長や福祉施設長等、多様な部外協力者の協力を得ており、各指導者の職域・専門性等に応じた指導内容が工夫されている様子や、法務教官が熱心に指導に当たっている様子がうかがわれる。部外協力者の専門性と法務教官の指導力の相乗効果を得られるような指導が期待されている。

ウ 対象者

対象者については、被収容少年全員を対象とするものが27種目（42.2%）であった。

対象者を限定する種目については、義務教育対象者以外を対象とするものが6種目（9.4%）、就労予定者を対象とするものが2種目（3.1%）であり、就労の必要性の高い者にターゲットを絞った種目が多い。

対象者を女子少年に限定した種目が1種目（1.6%）、男子少年に限定した種目が2種目（3.1%）あるが、いずれも分隔や講師の性別との兼ね合いによるものである旨の記載があり、対象者の性別と指導内容の関連等については特段の指摘はない。

また、対象者を観護措置中の者に限定したものは15種目（23.4%）であり、育成的処遇全体における割合（478種目中79種目、16.5%）と比較すると、やや高い割合であった。

対象者についてのその他の記載内容としては、「就労に関心の高い者」、「就労の必要性の高い年長の希望者を優先」、「OHBYを受講した者」などがあつた。

エ 実施形態及び意図的行動観察場面としての設定について

- ① 集団による実施は27種目（42.2%）、単独による実施は34種目（53.1%）、両方の形態による実施は3種目（4.7%）であり、特定の実施形態に限られてはいない（処遇プログラム、収容数、対応可能職員数等により柔軟な対応を可能とするよう準備されているものと推測される。）。
- ② 主たるカリキュラムの内容は、講話、関連情報の提供、パソコンソフト（OHBY等）の活用、相談面接、ワークブック等の教材を活用した自主学習、視聴覚教材の視聴、これらを組み合わせたカリキュラム方式等である。
- ③ 意図的行動観察場面として設定されているものは30種目（46.9%）、設定のないものは34種目（53.1%）であった。

オ 特徴的な取組

就労の準備に係る支援について、特徴的な取組を数行取り上げる。

① 大阪少年鑑別所（名称：「OHBY」, 「就労支援面接」）

職員ないし部外協力者（キャリアカウンセラー）によりOHBY（1回約2時間）を用いた授業を実施，さらに当該授業で作成したキャリア相談表（職員作成）をもとに部外協力者により一人当たり30～60分の個別面接を実施する。

② 東京少年鑑別所（名称：「進路選択支援（就労準備に関する支援）」）

進路選択支援ワークブック（課題を通じて今までの生活を振り返るなどして，将来の生活設計を考える内容）を希望者に対して実施，これに関連付けてハローワーク職員による講話を実施している。

③ 松江少年鑑別所（名称：「就労支援」）

松江少年鑑別所とハローワークが共同制作したハローワーク紹介ビデオ「ハローワークへ行こう」及びNHKによる職業紹介ビデオを用い，さらにハローワーク職員及び嘱託理容師の講話からなるカリキュラムを実施している。

④ 金沢少年鑑別所（名称：「就労支援」）

①自作作成のワークシート「私の仕事探し」の実施，結果を課題作文の課題設定や面接に活用，②就労支援関係のビデオ視聴，③関係図書との貸与及びPCソフトを利用しての職業適性や職業情報の提供，④ロールプレイングの実施。

⑤ 盛岡少年鑑別所（名称：「進路を考えるためのワークブック」, 「職業紹介壁新聞」, 「進路を考えるためのグループワーク」）

①職業に対する意識や将来の生活設計に関する考え方や計画性等を把握するためにワークブックを実施，②職業に対する意識や職業生活を振り返るために職業に関する壁新聞を作成，③社会当時の職業意識を確認し，職業選択や職業意識の幅を広げるため，職業経験や職業生活をグループの中で発表・討議。

施設規模等に応じてかわりに濃淡はあろうが，いずれの指導においても単発の指導にとどめるのではなく，自主学習，視聴覚教材，講話，相談面接，グループワーク等，様々なアプローチを有機的に組み合わせることで効果を上げようとする試みが共通した工夫点として指摘できる。こうした取組は，就労の準備に係る支援に限らず，他の分類においても有効な方略であると考えられることから，少年鑑別所が有する様々な資源，アプローチを有機的に連携させるような工夫が今後とも一層進められることが期待される。

カ 実施上の工夫点について

実施上の工夫点については，次のとおりである。

受講意欲の向上を図るため，動機付けやオリエンテーションに力を注いでいる種目，被収容少年の興味やニーズに対応するべく，指導者に事前に対象者の特徴・希望等を伝えたり，事後にアンケート等を実施して指導内容の改善に努めたりしている種目が目立った。

実際の指導に際しては，分かりやすい指導にするための工夫（丁寧な指導，パ

ワーポイント等の活用により視覚に訴えるなど)が目立ち、視聴覚教材等の活用の際には、放送内容が重複したりマンネリになったりすることがないようにローテーションを組むといった工夫や、感想文を作成させることで考えを深めさせたり、整理させたりする工夫が多かった。

指導内容や図書を始めとした各種資料、ワークブック等については、社会情勢や地域情勢、資格取得の要件等最新の情報に対応するべく整備・更新・改訂を図る旨の回答が目立った。また、資料等については、生活のしおりに編てつする、手に取りやすい位置に配架するなど、被収容少年のアクセシビリティに対する配慮がなされていた。

対象者に関しては、その多様性(年齢・職歴・学歴・ニーズ等非常に幅が広い)に対応するための工夫が目立った。幅広い対象者が共通して興味を持てるような種目とすることを目指す工夫(例えば、放送において、機材の制約上男女同一の放送であるが、できるだけ女子にも参考となる職種を選定するなど)と、対象者の特徴に応じて内容にバリエーションを持たせるような工夫(例えば、講話において、年齢が低く、就労経験が乏しい対象者に対しては、人とのかかわり方や人と接するときの心構えなどについて話すなど)のおおむね2つに分けられた。

実施回数・受講機会の確保に関する工夫としては、他の日課や面接・調査・面会等との調整について記載があった。また、動機付けや相乗効果等をねらって、他の日課との関連付けについて工夫する種目もあった(上記オ)。

一方で、部外協力者の指導に際しての職員立会等、保安的な配慮も記載されており、特にパソコンを使用した指導においては、不正使用や個人情報漏えい等に対する配慮も万全が期されているようである。

キ 少年の反応・効果

少年の反応としては、「ためになった。」、「参考になった。」等、指導内容が理解できた旨の感想にとどまらず、「励まされた。」等、情緒や意欲の面でも前向きな反応が得られた旨の回答が目立った。

効果としても、仕事内容等に関する知識の付与にとどまらず、「職業の選び方」、「働くことの意義」、「求職の方法」、「仕事に対する心構え」等々、具体的な内容から、構えに至るまで様々な効果が上がっている旨の回答が多かった。また、就労・進路等について考える上で、これまでの生活を振り返ることが、内省につながり、審判へ向けた準備を整えたり、心情を安定させたりする効果もあるとの回答もあった。効果は指導場面にとどまらず、受講後、資格や就労に関する図書を借りる者が増えるなど、日常生活にも波及している様子が見られる。

指導場面の行動観察としても、熱心に取り組んでいた旨の回答がほとんどであったが、年少少年や就労経験の乏しい少年においては、「退屈と捉える者も少なくない」といった回答があるなど、十分な効果が上がっていないと感じているケースが

あるようである。

ク 今後の課題・更なる充実のための検討事項

今後の課題・更なる充実のための検討事項としては、次のような回答が得られた。

対象者に関しては、年少少年や女子少年、就労経験の乏しい少年などへの対応を課題として挙げる施設が多かった。上記カと比較すると、幅広い対象者が共通して興味を持てるように工夫するという方向性ではなく、対象者の特徴やニーズに特化した内容を目指す旨の意識の強さがうかがわれた。また、小規模施設においては、グループワークによる種目について、在所者が少なく、グループ編成が困難である旨の回答があり、懸案事項となっているようだが、対象者の特徴・ニーズ等に細やかに対応した処遇を進めた場合、ある程度規模の大きな施設においても同様の課題が生じる可能性がある。

図書・視聴覚教材・ワークブック等の整備・更新等に係る回答も多かった。基本的には教科の学習に係る支援における各種教材等の整備・更新と同様の内容であったが、次の2点は、就労の準備に係る支援に関する特徴的な意見であった。すなわち、被収容少年のニーズ（いわゆるガテン系の職業を希望する者が多い。）と各種図書・教材等で扱われている職業との不一致に関する意見と、教材等（特に視聴覚教材）が高額であり、予算的制約から更新や最新化が難しいとする意見である。後者に関しては、例えば、新潟少年鑑別所では、ハローワークから借用した視聴覚教材を活用しているなど、関係機関の所有する教材を有効活用するといった方法が取られている（図書・視聴覚教材の整備に係る工夫については、後述。）。

また、ハローワーク等の部外協力者の拡充・連携強化に係る記載も多く、それに伴って、具体的な求職活動の方法等、指導内容をより実践的なものにしたなどの意見が見られた。さらに、部外協力者との協働を通して、職員の指導技術の向上を図りたい旨の回答もあり、法務教官の専門性や処遇力を高め、処遇の質を向上させようとの姿勢がうかがわれた。

このほか、できるだけ多くの少年に受講機会を確保するため、オリエンテーションの充実や他の日課との調整を図る旨の回答があった。他の日課との関係では、調整のみならず、有機的な連携や多角化、体系化を進めたいとする意欲的な意見が多く、効果検証の在り方について検討したいとする回答もあった。

ケ 考察

① 少年鑑別所において健全育成の視点から「就労支援」と銘打った処遇が進められるようになったのは、平成17～18年頃のものである。平成18年度の各矯正管区主催の矯正実務に関する研究会では、金沢少年鑑別所を始め多くの庁が当該テーマで研究発表を行っている。

こうした時期については、矯正施設における就労支援策や少年鑑別所における健全育成を考慮した処遇が政策課題として取り上げられたことと軌を一にしてい

ることは言うまでもない。

- ② 育成的処遇としての「就労の準備」(就労支援)策は、少年鑑別所における他の処遇と同様に、理論上(概念上)は矯正教育とは別異とされるものであり、被収容少年のニーズに対応して便宜を供与できるよう準備されているものである。そして、あくまで希望する者に当該プログラムを提供することとされている。
- ③ 少年鑑別所における就労の準備策については、社会内処遇や施設内処遇との連続性をどのように保つかが話題になることがあるものの、少年鑑別所収容の特殊性(収容期間が限られている、矯正教育を行う施設ではない、審判決定前であるなど)を勘案すると時間を要する一定のプログラムを系統的に実施することが難しいこともしばしばである。

プログラムを準備するに当たっては、受刑者に対する就労支援指導の標準プログラム等が参考になるものの、その実施に当たって単発的(あるいは中途半端)となることもやむをえないと言えよう(少年が、機会を得て就労について考えることが出来た、といった反応をもって一つの成果と考えて良いと思われる。)

- ④ 実施の態様は、講演や講座、職業相談といった形のものから上記標準プログラムに準ずるものまで多様である。当然ながら自庁のソフト・ハード面の能力、社会資源、対象少年の特質等を考慮した上でのことではあるが、被収容少年の多くが社会に帰って行く現状からして、教科の支援にも増して体制を充実していく必要があるのではないかと考えられる。実際、施設調査の回答からは、各庁が他の指導にも増して、就労の準備に係る支援の充実に意を配している様子がうかがわれた。

⑤ 先行研究の知見

就労の準備や進路選択に係る支援について考えるとき、少年の将来展望等に関する研究が参考になる。

児童期から青年期にかけての時間的展望は、長ずるほど将来展望は広がる一方で、自分の将来が明るいか、はっきりしているといった感覚は低下し、遠い将来よりも現在や近い未来により重きを置くようになるという(白井, 2002)。また、都筑(2002)は、小学生と中学生の時間的展望を比較し、小学生や中学1年生と比べ、中学2・3年生は、将来目標を持ちたいと渴望するものの、将来への希望は弱く、同時に空虚感を強く感じていると指摘している。一方で、非行少年の時間的展望に関する先行研究では、過去志向の乏しさとせつなな現在志向、具体性を欠く楽観的未来志向が指摘されており、その原因として過去と現在や未来の不連続性が挙げられている(白井, 2002)。

こうした特徴を踏まえると、就労の準備や進路選択等に係る支援に際しても、少年鑑別所退所後の就労という未来方向に焦点付ける前に、過去を振り返らせ、その延長線上の現在、未来について考えさせたり、遠い未来について扱う以上に、

指導者については、職員による指導が273種目（70.2%）、職員及び部外協力者による指導が7種目（1.8%）、部外協力者による指導が109種目（28.0%）であり、教科の学習及び就労の準備の支援と比較すると、職員により指導されている種目の割合が非常に多い。

ウ 対象者

被收容少年全員を対象とする種目は189種目（48.6%）であった。

対象者を限定する種目については、義務教育対象者のみを対象とする種目は9種目（2.3%）であった。種目の内容については特に共通性は見られなかった。「主として義務教育対象者」等とした種目は5種目（1.3%）であり、その内容は、教科の学習に係る支援に近いが、一般教養の付与に主眼が置かれたものであった。就労予定者を対象とする種目1種目（0.3%）であり、内容は、就労の準備に係る支援のうち、一般教養の付与の要素も高い種目であった。対象者を女子少年に限定した種目は9種目（2.3%）であり、内容は、性感染症等の保健衛生に関する講話や、生け花・音楽等の情操のかん養に係る種目であった。対象者を男子少年に限定した種目は2種目（0.5%）であり、就労の準備に係る支援のうち、一般教養の付与の要素も高い種目で、男女分隔の都合上男子少年限定で行われているものであった。入所期間が長期化している者や低年齢少年を対象とする種目は4種目（1.0%）であり、園芸等の拘禁感の緩和やストレスの軽減などを図るものなどであった。性格特徴等に応じて対象者を限定した種目は5種目（1.3%）であり、内容は、能力の低い者、感情表現・自己表現の苦手な者に対する塗り絵等であった。その他の事由により対象者を選定する種目は3種目（0.8%）であり、内容は、誕生日を迎えた者に対する誕生会、資質鑑別に寄与することを目的とした園芸等であった。

入所事由により対象者を限定する種目は70種目（18.0%）であり、全て観護措置による入所者を対象とするものであった。

エ 実施形態及び意図的行動観察場面としての設定について

- ① 集団による実施は201種目（51.7%）、単独による実施は179種目（46.0%）、両方の形態による実施は9種目（2.3%）であり、教科の学習及び就労の準備の支援と比較すると、集団により実施されている種目の割合がやや多いが、特定の実施形態には限られていない（処遇プログラム、収容数、対応可能職員数等々により柔軟な対応を可能とするよう準備されているものと推測される。）。
- ② 意図的行動観察場面として設定されているものは209種目（53.7%）、設定のないものは180種目（46.3%）であり、教科の学習及び就労の準備の支援と比較すると、意図的行動観察場面として設定されている種目の割合がやや多い。

オ 「教養の付与等」及び「情操のかん養」についての考察

課長通知から類推される実施種目類型について、順に整理すると、

- ① 「教養の付与等」について

- ・ 図書
- ・ テレビ・ラジオ：①ニュース ②教養番組 ③その他
- ・ 講話：①一般的教養 ②社会常識 ③保健衛生（性感染防止等）④非行の防止（薬物乱用防止等）⑤その他
- ・ 視聴覚教材：①一般的教養 ②社会常識 ③保健衛生（性感染防止等）④非行の防止（薬物乱用防止等）⑤その他

伝達媒体がいずれであっても教養を身に付ける，あるいは高める，知識を豊かにするなどの上で有意味とされる内容を設定・準備することが求められている。

② 「情操のかん養」

- ・ 図書
- ・ テレビ・ラジオ：①ドラマ ②音楽 ③その他
- ・ 身上相談
- ・ 運動・レクリエーション（*エアロビクス：札幌・仙台・東京・名古屋管内25庁中10庁で実施されている。その他の管区では計上されていない。）
- ・ 行事：季節の行事等として，施設の有する能力や地域の社会資源を活用して，また，地域文化・伝承も織り込むなどして多くの庁で様々な形で実施されている。
- ・ 音楽鑑賞
- ・ 絵画・はり絵等制作
- ・ ロールプレイング

気持ちを穏やかにする，感動を味わう，新たな自分を発見するなど対象少年の心の琴線に触れることを可能にするような内容を設定準備することが求められている。

③ 実施の態様

こうしたプログラムの準備に当たり津少年鑑別所ではプログラムリーダー制を採用しており，育成的処遇の実施をめぐり被收容少年の主体的な参加を求めるとどまらず，職員の側の主体的・能動的な関与を促し，職員のモラルを高めるという効果も狙っている。

また，所在する地域の社会資源を活用して工夫を凝らしたプログラムを準備している施設が多い。

講義形式のもの，参加型のもの，映像視聴形式のものがあるが，いずれの場合であっても，この領域においては，被收容少年が興味・関心を持ちやすい，ということが大切なので，この点によく注意を払って準備しているようである。以下，特徴的，効果的と思われる工夫について，列記する。

④ 複数のメディアを活用した種目

就労の準備に係る支援においては様々な角度，方法からのアプローチを組み合

わせた種目について例示したが、「イ 教養の付与等」ないし「ウ 情操のかん養等」においても、服装、音楽、特別食、入浴までもが有機的に組み合わせられ、まさに五感全てを活用するような工夫の凝らされた種目が多数あった。

・教養講話（地域文化）（釧路少年鑑別所）

アイヌ文化振興推進アドバイザーを招へい、先住民族の歴史・文化、地域文化との関連性について講義、民族楽器（ムックリ）の演奏。

・端午の節句（盛岡少年鑑別所）

行事の由来について説明、折紙でかぶと、鯉のぼり作成（寮内廊下に掲示）、菖蒲湯実施。

・食育指導（山形少年鑑別所）

事前に食に関するDVDを視聴、食の観点から地域文化への関心や教養の向上を図るため、講話や実習、特別食給与等を行う。季節行事への拡張も検討。

・季節の行事（観桜会）（東京少年鑑別所）

事前に「桜」、「春」などからイメージする曲でリクエスト、行事中に放送、観桜会時の飾り付けとして使用する「桜のはり絵」を集団で作成（意図的行動観察場面として活用）、行事本体では講話、桜の写生、特別食給与。

・教養講話（氷室）（金沢少年鑑別所）

地元の伝統行事である氷室開きのビデオ視聴、「氷室の氷を触る」体験、行事の由来や意義をレジュメとして配布、昼食時「氷室まんじゅう」支給。

・キリコ鑑賞会（金沢少年鑑別所）

地元の伝統行事であるキリコの作成、講話。プレイルームを暗くし、キリコを灯す。少年たちは（湖南学院から借用した）ゆかたを着て、鑑賞会に参加。

・デイキャンプ（岐阜少年鑑別所）

事前にキャンプの内容を記したブックレットを配布するとともに職員が概要を説明し、少年の興味関心を高める。インディアカ等のレクリエーション、火起こし体験を実施。本年は「日食観察」も行う。

・鵜匠による教養講話（岐阜少年鑑別所）

講師は鵜匠の装束を身に付けて講話。実際の鵜飼で用いる鵜を使い、少年たちの目の前で鮎を飲み込ませる等の実演。

・季節感のある処遇（敬老の日）（松江少年鑑別所）

高齢者の擬似体験、読み聞かせ「姥捨て山」、絵手紙の作成、感想文記述。

⑤ 事前の働き掛け

事前課題に取り組みせたり、視聴覚教材や資料等を視聴させたりすることで、少年の動機付けを高めたり、指導や講話、行事等の本体部分への円滑に導入したりできるように配慮している種目も目立った。

・教養講話（タンチョウの生態）（釧路少年鑑別所）

講義の前に、講師の活動を取材したTVの特集番組のVTRを視聴させる。

- ・季節の行事（ひな祭り）（東京少年鑑別所）

折紙で「ひな」を作成、動機付けを図る（作業場面は行動観察場面としても活用）。体育館壁面にひな飾り、ひな祭りらしい雰囲気高め、「ひな祭り」、「女性を大切に作る姿勢」等に係る講話を実施。行事实施中に特別食を給与。

- ・体力チェック（横浜少年鑑別所）

各種目の実施内容を理解できるように事前に説明用のDVDを放映。

⑥ 複数の種目・日課の関連付け

上記④では、一つの種目内で、様々な角度、方法からのアプローチを有機的に連携させていたが、他の種目、日課との間で、関連付けを図っている種目・施設もあった。

例えば、松江少年鑑別所では、従前から読み聞かせに係る取組が熱心に行われてきたところ、各種の「季節感のある処遇」の実施と関連付けて、時季に応じた内容の読み聞かせを行っている。

また、福岡少年鑑別所では、社会生活上の基本知識や日本の伝統行事等をまとめた小冊子「知っとこ!!」を少年に配布し、同冊子と関連付けた季節行事を実施している。冊子によるきっかけ作りにとどまらず、各種の日課や視聴覚教材の視聴を通して、興味を持ったときに原作本や関連図書を参照できるよう教材や図書等を整備している点も参考になろう。

Ⅲ-2 結果と考察（施設調査：図書及び視聴覚教材等の整備について）

結果の整理に当たっては、育成的処遇の実施の実態や指導上の工夫等をデータに沿って忠実に整理するよう試みた。

1 図書整備上の工夫点について

各施設が重点的に整備を進めた領域、整備に際しての情報収集に係る工夫、限られた予算内で実際に整備する際の工夫についてまとめた。

(1) 重点的整備領域

各施設が重点的に整備している図書については、表14のとおりである。

① 学習用図書

学習用図書については、18庁（34.6%）が重点的に整備する旨を記載していた。教科の学習支援に係る種目が充実していることについては既述のとおりであるが、図書整備においても最も重視されている領域の一つであり、自主学習等における便宜供与がなされることで、個別ないし集団による指導が補完されるよう配慮されていることが分かる。具体的には、「資格や学校案内については最新のものを、参考

表14 重点的に整備している図書

学習用図書	18庁
就労準備用図書	12
低年齢少年用図書	9
外国語図書	3
被害者手記等	3
郷土に関する図書	2
非行に関する図書	2
その他	2
ベストセラー・話題本	16
幅広く・バランスよく	15

重複あり

書類については、なるべく新しいものを整備するようにしている。」「地域の高校の入試問題集を整備するなど、高校進学を希望する少年に配慮している。」「学習不足の少年が多いことから、小学校中学年程度の学習用図書から高校までの学習用図書を整備している。」等の配慮がなされている。

② 就労準備用図書

就労準備の支援に係る図書については、12庁（23.1%）が重点的に整備する旨を記載していた。「最新の内容・情報を提供できるように、毎年計画的に新しいものを備えるよう配慮している。」等の配慮がなされている。

③ 低年齢少年用図書

低年齢少年の増加は、育成的処遇の充実化に係る背景要因の一つとして課長通知前段でも触れられているところ、図書整備においても、学習用図書、就労準備用図書に次ぐ9庁（17.3%）が低年齢少年用図書の充実を重点事項として記載していた。具体的には、小学生用の学習参考書や、絵本等の整備が行われているようである。

④ 外国語図書

外国語図書については、3庁（5.8%）が重点的に整備する旨回答していた。一言で外国語と言っても、実際に整備する必要性の高い図書は地域によって違うようである。例えば、「ブラジル人少年たちのために、ポルトガル語によって書かれた図書（「ハリーポッター」シリーズ等）を約50冊整備した。」など。

⑤ 被害者手記等

非行に係る内省を深めさせるためとして、被害者手記等の整備に配慮している旨の回答が3庁（5.8%）から得られた。被害者手記等の整備に際しては、重大事犯者等が想定されがちであるが、育成的処遇の充実化に係る背景要因の一つとして、「退所する少年の多くが地域社会に戻り、処遇を受けていること」が挙げられていることを踏まえれば、比較的軽微な犯罪・非行等の被害者に関する図書を整備することも検討する必要がある。

⑥ 郷土に関する図書

郷土に関する図書については2庁（3.8%）が重点的に整備する旨回答していた。既述のとおり、多くの施設が、季節の行事や講話、視聴覚教材等の中に、郷土の文化や自然に関する理解を深めるような種目を準備しているところ、同種目との連携や補完等を行うためにも、重点的な整備が望まれる領域と言えよう。

⑦ 非行に関する図書（薬物・交通等）

2庁（3.8%）が非行に関する図書の整備を重点的に行っている旨記載していた。

⑧ ベストセラー・話題の図書等

特定の領域に関する図書というわけではないが、多くの施設がベストセラーや話題の図書等を重点的に整備し、被収容少年のニーズへの対応を図っている（16庁、30.8%）。

⑨ その他

その他としては、原作本（1庁、1.9%）や「水谷修や義家弘介の本」（1庁、1.9%）などについて配意して整備している旨の記載があった。ともに被収容少年のニーズ調査において希望の多かった内容であり（後述）、拡充が望まれる。

⑩ 幅広く・バランスよく

被収容少年のニーズに配慮しつつ、特定のジャンルに偏らないよう、幅広く、バランスよく整備するよう配意している旨を15庁（28.8%）が記載していた。重点的に整備する領域を挙げている施設においても、こうした配慮は当然のことながらなされていることと考えられる。

(2) 情報収集・購入等に係る工夫

図書整備に際しての情報収集や購入等に係る工夫は、表15のとおりである。

表15 情報収集・購入等に係る工夫

職員の意見	10庁
少年の意見	9
インターネット	6
その他の方法	5
地域資源の活用	3
中古本の購入	2
	重複あり

① 職員の意見

図書整備に当たって、職員の意見を参考とする旨の記載があった施設は10庁（19.2%）であった。

② 少年の意見

被収容少年から意見を聴取している旨の具体的記載があったのは9庁（17.3%）であった（うち1庁は貸与状況についても調査していると回答）。

その他の施設においても、「少年が興味を持てるような本を選択する。」といった回答は多数あり、できる限り被収容少年のニーズに応じた整備に努めている様子がうかがわれた（具体的なニーズの把握方法は不明である。）。退所時アンケートの中に、図書に係る希望についても盛り込む等の対応が現実的であろう。

③ インターネット

インターネットを活用して情報収集している旨、6庁（11.5%）が記載していた。

④ その他の方法

新聞広告をこまめにチェックする旨の回答が2庁（3.8%）あった。その他は、新聞掲載の課題図書を参考とする施設、市場調査を参考とする施設、専門業者に小学校高学年～中学生向け図書リストの作成を依頼する施設が各1庁（1.9%）であった。

⑤ 地域資源の活用（公立図書館等）

地域資源を活用している旨、3庁（5.8%）から回答があった。図書整備に係る予算的制約から、新しい図書を定期的に供給することが難しい旨を記載している施設が多いところ、新潟、静岡及び金沢少年鑑別所においては、公立図書館の団体貸出制度等を活用している。地域によって制度の有無、貸出可能な冊数や期間等に違いがあるようだが、図書の充実に係る有意義な取組であると考えられる。こうしたつながりをきっかけとして、図書整備に係る助言、読み聞かせや講話等への協力などを求めるなど、地域の社会資源との連携に努めることが育成的処遇の充実に際して有益と思われる。なお、静岡少年鑑別所は、就労支援機関のパンフレットを整備するなど、公立図書館以外の地域資源も活用しているようである。

⑥ 中古本

図書整備に係る予算的制約に対処するために中古本の購入を積極的に行っている施設は2庁（3.8%）であった。

(3) 図書配列上の工夫点について

整備した図書を書架・書棚等へ配列する上での工夫については、「被收容少年が選びやすいように」という配慮が、具体的な工夫の背景にある考え方として、多くの施設に通じるものであった。具体的な工夫については表16のとおりである。

① ジャンル別

ジャンル別に配列する旨の回答が最も多く、38庁（73.1%）であった。

② 著者別

著者別に配列する旨回答は3庁（5.8%）であり、全てジャンル別の配列と組み合わせで実施されている。

③ テーマ別・目的別

ジャンル分けにとどまらず、テーマ別・目的別で配列している施設は3庁（5.8%）

であった。例えば、「感動したいとき」、「人間関係について考えたいとき」等、少年の立場からそのニーズに応じて分類、配列することで、被收容少年の主体的な図書選択とニーズへの対応の両立が図られていると考えられる。

④ ラベル・シールの活用

ラベルやシールの活用している旨の回答が8庁（15.4%）から得られた。図書の分類を明確にし、整理や返却等に係る利便性を上げることを目的としている施設が多かったが、少年にその旨が分かりやすいように、学習用図書や推薦図書にシールを張るといった回答もあり、育成的処遇という観点からの活用もなされている様子がうかがわれる。

表16 図書配列上の工夫点

ジャンル別	38庁
著者別	3
テーマ別・目的別	3
ラベル・シールの活用	8
アクセシビリティ	15
表紙を見せる	3
学習用・就労準備用図書コーナー	18
お勧め図書冊子・コーナー	7
貸出冊数制限なし	9
その他の工夫	12
	重複あり

⑥ アクセシビリティ

「目に留まりやすい場所に」、「手に取りやすいところに」等の記載から、少年が図書にアクセスしやすいように配慮している様子がうかがわれる回答が15庁(28.8%)から得られた。工夫は同じであっても、対象としている図書は大きく2つに分かれた。職員側が読んでほしいと思う本、ためになる本等とする施設が10庁、少年に人気のある本、頻繁に借りられる本等、少年のニーズを優先する施設が7庁であった。3庁はその両方である旨の回答であった。方向性は異なるものの、いずれも少年の健全育成を考える上で重要な視点であるだけに、両者をバランスよく配置することが望まれる。

⑦ 表紙を見せる

上記⑥とも関連するが、職員が少年に読んでほしいと考える本、人気のある本などを表紙が見えるように図書を配列することで、少年が借りやすいよう配慮している旨の回答が3庁(5.8%)あった。

⑧ 学習用・就労準備要図書コーナー

学習用図書や就労準備・進路選択等の支援に係る図書については、特別のコーナーを設ける施設が多数あった18庁(34.6%)。少年の健全育成に資する図書として、両ジャンルが特に重要視されていることがうかがわれる。

⑨ お勧め図書紹介冊子・コーナー

少年の健全育成の視点から、職員が推薦する図書について、紹介冊子を作ったり、コーナーを別にしたりする工夫をしている施設は7庁(13.5%)であった。後述のとおり、少年のニーズ調査でも、読書習慣の乏しさから、何を読んでいいかわからず困るといった回答や、「お勧め図書を教えてほしい。」といったニーズの存在が認められただけに、更なる充実が期待される取組と言える。

⑩ 貸出冊数制限なし

9庁(17.3%)において、学習用図書等について貸出冊数の制限を行わない旨の回答があった。また、「就労支援・学習支援関係図書は貸出冊数制限なし」(金沢少年鑑別所)等の回答もあった。これは、課長通知記4(1)において、「教科の学習に係る支援」と「就労の準備に係る支援」が「ア 学習の支援等」として同様の分類にくくられている趣旨等を踏まえ、被収容少年の健全育成に資するために、学習通知記4の考え方を「教科の学習に係る支援」にとどまらず、「就労の準備に係る支援」にまで拡大させたものと考えられる(なお、本調査の回答にはその旨の記載はなかったが、東京矯正科学研究会第42大会の発表抄録によると、八王子少年鑑別所においても就労支援関係図書については冊数制限を行っていないとのことであり、他の施設においても、こうした取組がなされている可能性が示唆される。)。さらに、「マンガ及び雑誌以外の図書については冊数を制限していない」等の回答もあり、制限される図書の方が限定的と言える施設もあるようである。

⑪ その他の工夫

書架の大きさに限りがある中で、少しでも多くの図書をそろえるべく、図書の大きさごとに配列する施設、見出しやポップを作成する施設、男女のニーズの違いに応じて、男子用書架と女子用書架で配列する図書の内容を変える施設などがあつた。また、大規模施設では、複数箇所と同じ図書配列の図書棚を設けるなどして、公平性に配慮している様子がうかがわれた。

(4) 図書交換の頻度・1回当たりの貸出冊数について

図書交換の頻度については、週2回（17庁、32.7%）及び週5回（21庁、40.4%）に回答が集中した。1回当たりの貸出冊数については、5冊以下（32庁、61.5%）、6～10冊（15庁、28.8%）の順であつた。

表17 図書交換の頻度と1回の貸出冊数のクロス表

	冊数					合計
	5冊以下	6～10冊	11～15冊	16～20冊	21冊以上	
週1回	0 0.0%	3 5.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.8%
週2回	10 19.2%	6 11.5%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	17 32.7%
週3回	5 9.6%	3 5.8%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	9 17.3%
週4回	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
週5回	15 28.8%	3 5.8%	1 1.9%	0 0.0%	2 3.8%	21 40.4%
週6回以上	2 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.8%
合計	32 61.5%	15 28.8%	3 5.8%	0 0.0%	2 3.8%	52 100.0%

図書交換の頻度と1回当たりの貸出冊数の関係は表17のとおりである。セルの構成要素は多い順に「週5回、5冊以下」15庁（28.8%）、「週2回、5冊以下」10庁（19.2%）、「週2回、6～10冊」6庁（11.5%）であつた。

施設規模については、収容数で単純に分けられるものではないが、平成20年の入所者数で仮に小規模施設18庁、中規模施設17庁、大規模施設17庁と3等分した場合の施設規模ごとの図書交換の頻度、貸出冊数の関係は、表18のとおりである。規模が小さいほど、図書交換の頻度が高くなる傾向にあることが分かる。貸出冊数については、施設規模に関係なく1回当たりの貸出冊数は5冊以下が最多であるが、11冊以上の施設は、中規模施設にはなく、大規模施設では1庁のみのところ、小規模施設では4庁あつた。施設規模、蔵書量、職員配置等が影響しているものと思われる。

表18 施設規模と図書交換の頻度・1回の貸出冊数ごとの施設数

	頻度						冊数					合計
	週1回	週2回	週3回	週4回	週5回	週6回以上	5冊以下	6~10冊	11~15冊	16~20冊	21冊以上	
小規模施設	0 0.0%	2 3.8%	5 9.6%	0 0.0%	9 17.3%	2 3.8%	11 21.2%	3 5.8%	3 5.8%	0 0.0%	1 1.9%	18 34.6%
中規模施設	0 0.0%	5 9.6%	3 5.8%	0 0.0%	9 17.3%	0 0.0%	12 23.1%	5 9.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	17 32.7%
大規模施設	3 5.8%	10 19.2%	1 1.9%	0 0.0%	3 5.8%	0 0.0%	9 17.3%	7 13.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	17 32.7%
合計	3 5.8%	17 32.7%	9 17.3%	0 0.0%	21 40.4%	2 3.8%	32 61.5%	15 28.8%	3 5.8%	0 0.0%	2 3.8%	52 100.0%

(5) 図書整備に係る苦勞・課題について

図書整備に係る苦勞や課題については、表19のとおりである。

① ニーズへの対応

苦勞している点や課題点として、少年のニーズへの対応を挙げる施設が最も多かった(20庁、38.5%)。

具体的には、少年のニーズの把握自体に困難を感じている施設、ニーズを把握するべくアンケート等を実施計画している施設、職員が読んでほしい本(ためになる本、名作、古典等々)と少年の読みたい本との間のギャップに困難を感じている施設、少年のニーズに偏りがあり、人気のある本の傷みの速さやほこりをかぶっている蔵書の活用等を課題と考えている施設等があった。

② 被収容少年の多様さ

年齢や学歴等、被収容少年の多様さへの対応を課題として挙げる施設は5庁(9.6%)であった。

③ 動機付けの難しさ

活字離れ等を理由に挙げ、健全育成の観点から職員が読んでほしいと考える図書(「マンガ以外の図書」と記載する施設もあった。)を借り、読ませることが難しい旨の回答が5庁(9.6%)から得られた。

こうした課題に対応すべく、「ためになる」を前面に押し出すのではなく、まずは手に取りやすさや楽しさを優先する旨の回答もあった。

表19 図書整備上の苦勞・課題

ニーズへの対応	20庁
被収容少年の多様さ	5
動機付けの難しさ	5
低年齢少年への対応	2
外国人少年への対応	3
不適切の基準	2
学習用図書	6
就労の準備	8
内容の陳腐化	3
整備に係る金銭的負担	13
被収容少年向きの図書が少ない	3
手に入りにくい	4
傷みの速さ	7
保安・個人情報	5
場所の制約	6
図書台帳	3
その他	3
	重複あり

④ 低年齢少年への対応

低年齢少年への対応が課題であるとする施設が2庁（3.8%）あった。低年齢少年用の図書の整備を検討するも、彼らのニーズがどのようなものかをつかむこと自体が困難である様子がうかがわれた。

⑤ 外国人少年への対応

外国人少年への対応を課題として挙げる施設は3庁（5.8%）であった。学習用、就労準備用、低年齢少年用など、優先的に整備すべき図書が多く、入所機会の少ない外国人少年への対応はどうしても後回しになりやすいようである。活用される機会は乏しいかも知れないが、読書の機会を担保することは権利保障上非常に重要であるだけに、一定量の外国語図書の整備も欠かせない。

⑥ 不適切さの基準

推理小説やケータイ小説等は少年の強いニーズがあるが、犯罪描写や性描写等も含まれる場合が多いところ、どの程度までを許容範囲とするかに苦慮する旨を2庁（3.8%）が挙げていた。

⑦ 学習用図書

学習用図書の整備を課題として6庁（11.5%）が挙げていた。

⑧ 就労準備用図書

就労準備用図書の整備を課題として8庁（15.4%）が挙げていた。学習用及び就労準備用図書については、各庁とも、特に重点的に整備すべき内容とみなしているものの、被収容少年の幅広いニーズへの対応や最新の内容への更新など困難が多く、計画的に少しずつ整備を進めている施設が多いようである。

⑨ 内容の陳腐化

上記⑦及び⑧に関する図書のうち、とりわけ資格等に関する図書については、資格取得要件が毎年のように変わる場合があるなど、いったん整備しても内容がすぐに古いものとなりがちである旨、3庁（5.8%）が記載していた。

⑩ 整備に係る金銭的負担

予算的制約について13庁（25.0%）が記載していた。限られた予算内で、バランスよく、計画的に整備を進めることを各庁とも課題としている様子がうかがわれる。

⑪ 被収容少年向けの図書の少なさ

被収容少年に適した内容の図書が少ない旨を3庁（5.8%）が記載していた。特に、非行や薬物等に関する図書は、専門的な内容のものが多く、少年のニーズへの対応が難しいようである。例えば、薬物については、京都ダルクが少年にも読みやすい内容の啓発マンガ「だからボクはダルクにいる」を作成しているなど、関係機関から情報収集するなどの対応が有効と考えられる。

⑫ 手に入りにくさ

図書の入手に係る困難について4庁（7.7%）が記載していた。具体的には、中

古本の購入を計画するも、地方都市であり店舗、在庫等が少ない、少年のニーズを把握しても予算の関係上購入が遅れる等の内容であった。

⑬ 傷みの速さ

蔵書の傷みの速さへの対応について7庁(13.5%)が記載していた。人気がある図書は頻繁に借りられる分傷みが速い旨の記載や、入所期間が短いゆえに指導が行き届かず、粗雑な扱いをする者が多い等の記載、補修等に係る負担の大きさに関する記載が目立った。

⑭ 保安・個人情報

保安上の問題、個人情報への配慮について5庁(9.6%)が記載していた。落書きや不正連絡等を防ぐためのチェックに多大な労力を要する旨の回答が目立った。

⑮ 場所の制約

苦労・課題として、配架スペースの制約を6庁(11.5%)が挙げていた。例えば、名古屋少年鑑別所では、「レクリエーション室を居室として転用しており、書架を設置する場所がない」など、相当の制約があるようだが、独自の工夫(「図書を個別のバックにして貸与するとともに、移動式書架による巡回貸出も行っている。」)によって対処がなされている。

⑯ 図書台帳等

図書台帳の整備等、管理上の課題や困難について3庁(5.8%)が記載していた。

⑰ その他

その他としては、マンガ本の活用、見識ある担当職員の選定等に関する記載があった。

(6) 視聴覚教材整備上の工夫点について

視聴覚教材の整備に係る工夫点は表20のとおりである。

ア 整備内容

各施設の回答について、重点的に整備している内容という観点から整理した。「ア 学習の支援等」に関しては、学習用教材が3庁(5.8%)、就労支援・進路選択用教材が13庁(25.0%)であった。

「イ 教養の付与等」に関しては、一般教養が19庁(36.5%)、保健衛生が6庁(11.5%)、非行の防止が14庁(26.9%)であった。

「ウ 情操のかん養等」に関する教材である旨の記載は1庁(1.9%)にとどまった

表20 視聴覚教材の整備に係る工夫点

学習用	3庁
就労支援・進路選択	13
一般教養	19
保健衛生	6
非行の防止	14
情操のかん養	1
娯楽用	10
幅広く・バランス良く	9
ニーズ・興味を持ちやすいもの	10
最新の内容	9
分かりやすさへの配慮	3
年齢への配慮	3
最新の内容	9
関係機関・他施設との連携	5
ローテーション	2
その他	20

重複あり

が、「娯楽性の強い作品ばかりではなく、感動を与える作品を整備するようにしている。」等の回答もあり、娯楽用教材（10庁、19.2%）の相当数が「ウ 情操のかん養等」を意識して整備されているものと考えられる。

こうした重点的整備領域に関する記載とともに、幅広く・バランス良い整備についての配慮や（9庁、17.3%）、少年のニーズへの対応（10庁、19.2%）を重要視している記載も多く、視聴覚教材の整備が特定領域に偏ったり、少年のニーズが置き去りにされたりすることのないよう適切な配慮がなされていることが分かる。

また、最新の内容を整備する旨の工夫9庁（17.3%）、分かりやすい内容を選定する旨の配慮3庁（5.8%）、対象者の年齢への配慮（低年齢少年への対応にとどまらず、交通関係の視聴覚教材に自動車以外に自転車に関するものを整備するなど）3庁（5.8%）なども整備する教材の内容に関する工夫として挙げられていた。

イ 整備方法等

関係機関や他施設との連携について5庁（9.6%）が記載している。例えば、「運転免許試験センターや保健所等に相談して、適当な教材を借り受けたり、入手方法を教えていただいたりしている。」、「ハローワーク関係の窓口で、最新の教材を借用している。」などの工夫により、予算上の制約や最新の内容の入手といった視聴覚教材整備上の大きな困難に対処している。

放送に際しての工夫としてローテーションを上げる施設（2庁、3.8%）があった。

その他、少年が集中して視聴できるように、適当な長さに編集するなどの工夫がなされていた。

(7) 視聴覚教材整備上の苦労・課題について

視聴覚教材の整備に係る工夫については、表21のとおりである。

視聴覚教材が高額であり、限られた予算内で整備を行うことが困難である旨の記載が、27庁（51.9%）で見られた。

非行関係の内容の視聴覚教材が少ない旨の回答が8庁（15.4%）、専門家向きのものが多く、少年向き・少年鑑別所向きの内容のものが少ない旨の回答が6庁（11.5%）であった。

また、非行関係の教材、少年向けの教材があったとしても、古い内容のものが多かったり、最新のものを整備してもすぐに陳腐化してしまうことが多かったりする旨の回答も目立った（12庁、23.1%）。これに関連して、例えば携帯電話等、現代的な問題を取り扱った教材も少ないようである（3庁、5.8%）。

こうした事情から、少年のニーズへの対応（2庁、3.8%）や、幅広い対象者への

表21 視聴覚教材の整備に係る苦労・課題

整備に係る金銭的負担	27庁
非行関係のものが少ない	8
少年・少年鑑別所向きのものが少ない	6
陳腐化・古い	12
現代的な問題への対応	3
ニーズ対応	2
幅広い対象者への対応	4
情報収集の難しさ	6
その他	14
	重複あり

対応（4庁、7.7%）が困難な場合が多いようである。

そもそも、情報収集自体が難しい旨を6庁（11.5%）が記載しており、視聴覚教材の整備は、図書整備よりも一層困難性が高いと感じている施設が多く、あっせんを求める記載すらあった。

その他の困難としては、健全育成の観点から教材の有効性を判断することが困難である、編集作業等に係る負担が大きい等の回答があった。

また、放送機材の制約から全少年に同一の内容の放送を視聴させざるを得ず、全少年の興味関心に合った教材の選定に苦慮する旨の回答がある一方で、「教科教育に関する視聴覚教材については、対象者も限られていることから、視聴覚教材と、それを再生する機材とを被收容少年に貸与して、その充実化を図ることを検討している。」

（八王子少年鑑別所）等の回答もあり、予算上の制約がある中でも、個別に対応できるような工夫を進めようと模索する様子がうかがわれた。

III-3 結果と考察（被收容少年のニーズ調査について）

返送された828名分の回答のうち、白紙回答である8名分と調査期間外の14名分の計22名分を除いた806名分を有効回答とした。

集計に当たっては、一部の設問に未記入や無効回答が認められるものも分析の対象とし、未記入・無効回答の箇所のみを集計から除外しているため、設問によって有効回答数が異なっている。

自由記述部分の集計に当たっては、同義の反応を一つの語に置換する手続きを行った。例えば、高卒認定試験、高卒認定、高認、大検などは「高卒認定試験」に、リラックス、息抜き、気分転換などは「リラックス」に置換した。その上で、どのような回答者がどのようなニーズを持っているのかについて検討した。

1 基本属性

(1) 年齢

年齢の内訳は、表22のとおりである。17歳（21.1%）、16歳（18.5%）、19歳（16.8%）、18歳（17.5%）の順である。平均年齢は16.7歳（SD=1.68）である。

15歳以下を年少少年、16・17歳を年中少年、18・19歳を年長少年と3群に分けると、年少少年209名（26.0%）、年中少年319名（39.7%）、年長少年276名（34.3%）であった。

(2) 性別

性別の内訳は、男子が719名（89.2%）、女子87名（10.8%）であった。年齢による3群についてみると、女子の割合は、年少（12.9%）年中（13.2%）で比較的高いが、年長少年についてはそのほとんどが男子（93.8%）であることが分かる（表23）。

表22 年齢

	人数	%
11歳	1	0.1
12歳	4	0.5
13歳	12	1.5
14歳	83	10.3
15歳	109	13.6
16歳	149	18.5
17歳	170	21.1
18歳	135	16.8
19歳	141	17.5
合計	804	100.0

表23 年齢3群×性別

	男子	女子	合計
年少少年	182	27	209
	87.1%	12.9%	100.0%
年中少年	277	42	319
	86.8%	13.2%	100.0%
年長少年	259	17	276
	93.8%	6.2%	100.0%
合計	718	86	804
	89.3%	10.7%	100.0%

(3) 学年・学歴

学年・学歴の内訳は、表24のとおりである。

中学卒業260名(33.0%)、高校中退189名(24.0%)が多く、次いで中学校在学139名(17.6%)、高校在学133名(16.9%)であった。高校卒業以上の学歴を有する者は、59名(7.5%)であった。また、小学生は3名(0.4%)とごく少数であった。

(4) 職業

職業の内訳は、表25のとおりである。

学生・生徒が292名(37.8%)で最も多く、次いで無職220名(28.5%)、建設関係153名(19.8%)が多く、その他はいずれも5%未満の構成比であった。

表24 学年・学歴

	人数	%
小学校在学	3	0.4
中学校在学	139	17.6
中学卒業	260	33.0
高校在学	133	16.9
高校中退	189	24.0
高校卒業	41	5.2
大学・短大在学	16	2.0
大学・短大中退	2	0.3
その他	6	0.8
合計	789	100.0

表25 職業

	人数	%
無職	220	28.5
事務	14	1.8
販売	3	0.4
サービス職業(接客関係)	29	3.8
サービス職業(その他)	1	0.1
農林漁業	2	0.3
運輸・通信	1	0.1
製造関係	3	0.4
建設関係	153	19.8
労務関係	10	1.3
その他	1	0.1
その他の職業	7	0.9
アルバイト等	37	4.8
学生・生徒	292	37.8
合計	773	100.0

(5) 学年及び職業による群分け

上記(3)及び(4)から、入所者は、学生・生徒、有職者、無職者におおまかに分類できることが分かる。学生・生徒については、義務教育対象者か否かによって、処遇の内容が異なる場合が多いため、「中学生以下」、「高校生以上の学生」、「有職」、「無職」の4群を設定した。また、一部で特徴的な回答が見られたため、「高校生以上の学生」を「高校生」と「大学生等」に分けた5群も設定した。

内訳は次のとおりである。無職者が220名(28.5%)、小中学生143名(18.5%)、高校生以上149名(19.3%)、有職者261名(33.8%)である。高校生以上の内訳は、高校生129名(16.7%)、その他の学生20名(2.6%)である。

性別との間のクロス表(表26)からは、女子の割合が無職者で高く(14.5%)、有職者で低い(5.0%)ことが分かる。

表26 性別×5群

	無職者	小中学生	高校生	大学生等	有職者	合計
男子	188 85.5%	127 88.8%	113 87.6%	18 90.0%	248 95.0%	694 89.8%
女子	32 14.5%	16 11.2%	16 12.4%	2 10.0%	13 5.0%	79 10.2%
合計	220 100.0%	143 100.0%	129 100.0%	20 100.0%	261 100.0%	773 100.0%

(6) 入所回数

入所回数の内訳は、表27のとおりである。

初入581名(72.2%)、2入162名(20.1%)、3入43名(5.3%)の順に多い。初入者が7割以上と圧倒的に多いことから、2入以上を「再入者」としてくくり、初入群・再入群を設定した。

性別との間のクロス表(表28)からは、女子の割合が初入で比較的高く(13.1%)、再入で低い(4.9%)ことが分かる。

表27 入所回数

	人数	%
1回	581	72.2
2回	162	20.1
3回	43	5.3
4回	15	1.9
5回	2	0.2
7回	1	0.1
9回	1	0.1
合計	805	100.0

表28 初入・再入×性別

	性別		合計
	男子	女子	
初入	505 86.9%	76 13.1%	581 100.0%
再入	213 95.1%	11 4.9%	224 100.0%
合計	718 89.2%	87 10.8%	805 100.0%

2 満足度及び自由回答数

楽しかったか否かについては、「楽しくなかった」から「楽しかった」までの選択肢を順に1点から5点に換算した。ためになったか否かについても同様に、「ためにならなかった」から「ためになった」までの選択肢を順に1点から5点に換算した。少年鑑別所の日課に対する満足度は表29のとおりである。なお、各日課の度数は、当該日課に対する楽しかったか否か、ためになったか否かの問いに対し、回答した者の数である。例えば、行事・集団活動等、調査期間中に参加する機会があまりなかった日課については、度数が小さく、居室日課等ほとんどの者が参加する日課については度数が大きい。各日課によって度数にばらつきがある。

(1) 少年鑑別所の日課全体について

楽しかったか否かについては、「楽しくなかった」と回答した者が104名(12.9%)、「あまり楽しくなかった」と回答した者が103名(12.8%)、「どちらでもない」と回答した者が251名(31.1%)、「少し楽しかった」と回答した者が240名(29.8%)、「楽しかった」と回答した者が108名(13.4%)であった。平均は3.18(SD=1.20)であった。

ためになったか否かについては、「ためにならなかった」と回答した者が4名(0.5%)、「あまりためにならなかった」と回答した者が8名(1.0%)、「どちらでもない」と回答した者が25名(3.1%)名、「少しためになった」と回答した者が136名(16.9%)名、「ためになった」と回答した者が633名(78.5%)であった。平均は4.72(SD=0.62)であった。

総じて、少年鑑別所の日課全体について見ると、楽しかったか否かについては、「楽しくなかった」から「楽しかった」まで意見は散らばるが、ためになったか否かについては、ほとんどの者が「ためになった」と認識していることが分かる。

(2) 各日課の満足度

学習日課、進路選択・就労準備等に係る日課、居室日課、講話については、楽しかったか否かよりもためになったか否かの平均点が高く、図書や放送、運動・レクリエーション等の日課では、楽しかったか否かとためになったか否かの平均点はほぼ拮抗する結果であった(表29)。各日課が主として何を目的として実施されているかに

表29 少年鑑別所の日課全体に対する満足度

		度数	平均値	標準偏差
日課全体	楽	806	3.18	1.20
	ため	806	4.72	0.62
学習日課	楽	574	3.63	1.03
	ため	574	4.37	0.83
進路・仕事	楽	511	3.83	0.91
	ため	511	4.37	0.88
居室日課	楽	792	3.80	1.02
	ため	792	4.42	0.81
図書	楽	790	4.57	0.71
	ため	790	4.49	0.74
放送	楽	784	4.36	0.79
	ため	784	4.32	0.77
運動・レクリエーション	楽	650	4.40	0.94
	ため	650	4.25	0.87
行事・集団活動	楽	173	3.45	1.00
	ため	173	3.66	1.00
講話	楽	233	3.55	0.99
	ため	234	4.24	0.97

※ 「楽」は「楽しかったか否か」の略。「ため」は「ためになったか否か」の略。他表に同じ。

対応した結果と考えられる。

また、行事・集団活動及び講話については、有効回答数自体が少なく、他の日課と比較すると、これらの日課は日常的に実施されている類のものではないことが分かる。

なお、行事・集団活動については、満足度、特にためになったか否かに関する評価が、他の日課と比較してやや低い結果であった。しかし、行事・集団活動全体の満足度について回答しているものの、具体的な日課（七夕や音楽会など）に対する満足度の回答がない者が多かった。例えば、実際は行事・集団活動等に参加していない者が、参加しなかったのにできなかったといった不満の思いを込めて、厳しい評価を付けた可能性などが考えられるため、具体的な日課に対する満足度の回答の有無で2群に分け、行事・集団活動日課全体の満足度の平均値差についてt検定を実施した（表30）。

具体的日課に参加した経験の有る者の方が、楽しかったか否かについても、ためになったか否かについても、有意に得点が高いことが分かる。行事・集団活動の具体的日課に参加した者の数は極端に少ないことから、統計的な検定は行わないが、平均値を見る限り、行事・集団活動の具体的な日課に参加した者については、他の日課と同じ程度に満足したと考えることができるであろう。

表30 具体的日課の経験の有無によるt検定（行事・集団活動）

	日課の経験	N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
楽	有	36	4.31	0.951	6.377	171	.000
	無	137	3.23	0.891			
ため	有	36	4.36	0.931	5.047	171	.000
	無	137	3.47	0.940			

(3) 自由記述数について

自由記述式設問に対する日課ごとの回答数は表31、全体を通しての自由回答数の合計は表32のとおりである。

日課によって多寡はあるものの、自由記述式設問に対して回答した者の割合は、全般に低い。自由記述に一切回答しなかった者は、全回答者中の185名（23.0%）であった。

表31 日課ごとの自由回答数

		自由回答数					
		なし	1	2	3	4	5
学習日課	N	673	114	16	3		
	%	83.5	14.1	2.0	0.4		
進路・仕事	N	705	85	14	2		
	%	87.5	10.5	1.7	0.2		
居室日課	N	628	142	31	3	2	
	%	77.9	17.6	3.8	0.4	0.2	
図書	N	544	205	44	8	4	1
	%	67.5	25.4	5.5	1.0	0.5	0.1
放送	N	540	224	35	7		
	%	67.0	27.8	4.3	0.9		
運動・レクリ エーション	N	490	227	59	23	7	
	%	60.8	28.2	7.3	2.9	0.9	
行事・集団活動	N	714	74	16	1	1	
	%	88.6	9.2	2.0	0.1	0.1	
講話	N	740	63	1	1	1	
	%	91.8	7.8	0.1	0.1	0.1	
その他・楽しか った日課	N	512	159	78	57		
	%	63.5	19.7	9.7	7.1		
その他・ために なった日課	N	501	176	67	62		
	%	62.2	21.8	8.3	7.7		
その他・希望す る日課	N	627	136	28	15		
	%	77.8	16.9	3.5	1.9		

表32 全自由回答数

	N	%
なし	185	23.0
1	122	15.1
2	92	11.4
3	96	11.9
4	61	7.6
5	54	6.7
6	38	4.7
7	30	3.7
8	33	4.1
9	21	2.6
10	15	1.9
11	10	1.2
12	12	1.5
13	12	1.5
14	4	0.5
15	1	0.1
16	6	0.7
17	5	0.6
18	2	0.2
19	2	0.2
20	2	0.2
21	1	0.1
23	1	0.1
25	1	0.1
合計	806	100.0

自由記述の分析に先立って、自由記述に回答した者としなかった者との差異について検討するため、自由記述の有無で群分けし、両群の平均値差について t 検定を行った(表33)。

年齢、性別、入所回数等の外形的な項目及び少年鑑別所の生活全体に対する満足度については、特段の違いはなかったが、日課ごとの満足度については、日課全体、図書、行事・集団活動及び講話以外で、有意差ないし有意な傾向が見られ、自由記述がある群の方が、楽しかった、ためになった両方の得点が高いことが示された。

自由記述式の設問は、選択肢式の設問よりも回答するための労力を要する上、そもそも少年鑑別所に入所する少年たちは文章を書くことの苦手な者が少なからずいるといったことを踏まえてこの結果を解釈すると、自由記述式の設問に回答した者は、各日課に対する満足度とモチベーションの高い者であり、本調査の目的を知った上で、少年鑑別所での生活をより良くするため、つまり、処遇の充実を図るために回答したものと考えられる。

表33 自由記述回答数の有無による t 検定

	自由回答 の有無	N	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)																																																																																																																																																																																																								
楽・日課全体	有	621	3.20	1.189	1.064	804	.288																																																																																																																																																																																																								
	無	185	3.10	1.247				ため・日課全体	有	621	4.73	0.606	1.099	804	.272	無	185	4.68	0.662	楽・学習日課	有	449	3.68	1.006	2.158	572	.031	無	125	3.46	1.081	ため・学習日課	有	449	4.41	0.824	1.805	572	.072	無	125	4.26	0.851	楽・進路・仕事	有	409	3.87	0.896	2.239	509	.026	無	102	3.65	0.971	ため・進路・仕事	有	409	4.42	0.816	2.165	131.429	.032	無	102	4.18	1.075	楽・居室日課	有	613	3.87	1.007	3.785	790	.000	無	179	3.55	1.029	ため・居室日課	有	613	4.46	0.776	2.694	790	.007	無	179	4.28	0.893	楽・図書	有	612	4.58	0.716	0.128	788	.898	無	178	4.57	0.679	ため・図書	有	612	4.50	0.736	0.963	788	.336	無	178	4.44	0.774	楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027	無	177	4.23	0.920	ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483
ため・日課全体	有	621	4.73	0.606	1.099	804	.272																																																																																																																																																																																																								
	無	185	4.68	0.662				楽・学習日課	有	449	3.68	1.006	2.158	572	.031	無	125	3.46	1.081	ため・学習日課	有	449	4.41	0.824	1.805	572	.072	無	125	4.26	0.851	楽・進路・仕事	有	409	3.87	0.896	2.239	509	.026	無	102	3.65	0.971	ため・進路・仕事	有	409	4.42	0.816	2.165	131.429	.032	無	102	4.18	1.075	楽・居室日課	有	613	3.87	1.007	3.785	790	.000	無	179	3.55	1.029	ため・居室日課	有	613	4.46	0.776	2.694	790	.007	無	179	4.28	0.893	楽・図書	有	612	4.58	0.716	0.128	788	.898	無	178	4.57	0.679	ため・図書	有	612	4.50	0.736	0.963	788	.336	無	178	4.44	0.774	楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027	無	177	4.23	0.920	ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151								
楽・学習日課	有	449	3.68	1.006	2.158	572	.031																																																																																																																																																																																																								
	無	125	3.46	1.081				ため・学習日課	有	449	4.41	0.824	1.805	572	.072	無	125	4.26	0.851	楽・進路・仕事	有	409	3.87	0.896	2.239	509	.026	無	102	3.65	0.971	ため・進路・仕事	有	409	4.42	0.816	2.165	131.429	.032	無	102	4.18	1.075	楽・居室日課	有	613	3.87	1.007	3.785	790	.000	無	179	3.55	1.029	ため・居室日課	有	613	4.46	0.776	2.694	790	.007	無	179	4.28	0.893	楽・図書	有	612	4.58	0.716	0.128	788	.898	無	178	4.57	0.679	ため・図書	有	612	4.50	0.736	0.963	788	.336	無	178	4.44	0.774	楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027	無	177	4.23	0.920	ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																				
ため・学習日課	有	449	4.41	0.824	1.805	572	.072																																																																																																																																																																																																								
	無	125	4.26	0.851				楽・進路・仕事	有	409	3.87	0.896	2.239	509	.026	無	102	3.65	0.971	ため・進路・仕事	有	409	4.42	0.816	2.165	131.429	.032	無	102	4.18	1.075	楽・居室日課	有	613	3.87	1.007	3.785	790	.000	無	179	3.55	1.029	ため・居室日課	有	613	4.46	0.776	2.694	790	.007	無	179	4.28	0.893	楽・図書	有	612	4.58	0.716	0.128	788	.898	無	178	4.57	0.679	ため・図書	有	612	4.50	0.736	0.963	788	.336	無	178	4.44	0.774	楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027	無	177	4.23	0.920	ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																
楽・進路・仕事	有	409	3.87	0.896	2.239	509	.026																																																																																																																																																																																																								
	無	102	3.65	0.971				ため・進路・仕事	有	409	4.42	0.816	2.165	131.429	.032	無	102	4.18	1.075	楽・居室日課	有	613	3.87	1.007	3.785	790	.000	無	179	3.55	1.029	ため・居室日課	有	613	4.46	0.776	2.694	790	.007	無	179	4.28	0.893	楽・図書	有	612	4.58	0.716	0.128	788	.898	無	178	4.57	0.679	ため・図書	有	612	4.50	0.736	0.963	788	.336	無	178	4.44	0.774	楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027	無	177	4.23	0.920	ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																												
ため・進路・仕事	有	409	4.42	0.816	2.165	131.429	.032																																																																																																																																																																																																								
	無	102	4.18	1.075				楽・居室日課	有	613	3.87	1.007	3.785	790	.000	無	179	3.55	1.029	ため・居室日課	有	613	4.46	0.776	2.694	790	.007	無	179	4.28	0.893	楽・図書	有	612	4.58	0.716	0.128	788	.898	無	178	4.57	0.679	ため・図書	有	612	4.50	0.736	0.963	788	.336	無	178	4.44	0.774	楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027	無	177	4.23	0.920	ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																								
楽・居室日課	有	613	3.87	1.007	3.785	790	.000																																																																																																																																																																																																								
	無	179	3.55	1.029				ため・居室日課	有	613	4.46	0.776	2.694	790	.007	無	179	4.28	0.893	楽・図書	有	612	4.58	0.716	0.128	788	.898	無	178	4.57	0.679	ため・図書	有	612	4.50	0.736	0.963	788	.336	無	178	4.44	0.774	楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027	無	177	4.23	0.920	ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																				
ため・居室日課	有	613	4.46	0.776	2.694	790	.007																																																																																																																																																																																																								
	無	179	4.28	0.893				楽・図書	有	612	4.58	0.716	0.128	788	.898	無	178	4.57	0.679	ため・図書	有	612	4.50	0.736	0.963	788	.336	無	178	4.44	0.774	楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027	無	177	4.23	0.920	ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																																
楽・図書	有	612	4.58	0.716	0.128	788	.898																																																																																																																																																																																																								
	無	178	4.57	0.679				ため・図書	有	612	4.50	0.736	0.963	788	.336	無	178	4.44	0.774	楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027	無	177	4.23	0.920	ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																																												
ため・図書	有	612	4.50	0.736	0.963	788	.336																																																																																																																																																																																																								
	無	178	4.44	0.774				楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027	無	177	4.23	0.920	ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																																																								
楽・放送	有	607	4.39	0.748	2.221	247.684	.027																																																																																																																																																																																																								
	無	177	4.23	0.920				ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003	無	177	4.17	0.849	楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																																																																				
ため・放送	有	607	4.36	0.734	2.992	782	.003																																																																																																																																																																																																								
	無	177	4.17	0.849				楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030	無	131	4.24	0.962	ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																																																																																
楽・運動・レクリ エーション	有	519	4.45	0.936	2.181	648	.030																																																																																																																																																																																																								
	無	131	4.24	0.962				ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033	無	131	4.11	0.897	楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																																																																																												
ため・運動・レク リエーション	有	519	4.29	0.866	2.135	648	.033																																																																																																																																																																																																								
	無	131	4.11	0.897				楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270	無	30	3.27	0.980	ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																																																																																																								
楽・行事・集団活 動	有	143	3.49	1.006	1.108	171	.270																																																																																																																																																																																																								
	無	30	3.27	0.980				ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878	無	30	3.63	1.066	楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																																																																																																																				
ため・行事・集団 活動	有	143	3.66	0.993	0.154	171	.878																																																																																																																																																																																																								
	無	30	3.63	1.066				楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489	無	38	3.45	1.108	ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																																																																																																																																
楽・講話	有	195	3.57	0.968	0.693	231	.489																																																																																																																																																																																																								
	無	38	3.45	1.108				ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483	無	39	4.13	1.151																																																																																																																																																																																												
ため・講話	有	195	4.27	0.925	0.707	48.299	.483																																																																																																																																																																																																								
	無	39	4.13	1.151																																																																																																																																																																																																											

(4) 各群について

ア 年齢

年齢と日課の相関は表34のとおりである。日課全体及び学習日課におけるためになったか否かの評価、居室日課における楽しかったか否かの評価では、年齢の高い者ほど評価が低く、行事・集団活動におけるためになったか否かの評価では、年齢の高い者ほど評価が高いという関係が分かる。

表34 主要な相関係数

	年齢	入所回数	楽・全	ため・全
年齢	1	.204 (**)	-.028	-.080 (*)
入所回数	.204 (**)	1	-.069	-.093 (**)
楽・学習日課	-.069	.048	.442 (**)	.296 (**)
ため・学習日課	-.107 (*)	-.057	.314 (**)	.458 (**)
楽・進路・仕事	.026	-.045	.328 (**)	.345 (**)
ため・進路・仕事	.008	-.101 (*)	.227 (**)	.455 (**)
楽・居室日課	-.082 (*)	-.034	.511 (**)	.287 (**)
ため・居室日課	-.017	-.049	.283 (**)	.510 (**)
楽・図書	-.030	-.034	.290 (**)	.188 (**)
ため・図書	.001	.002	.235 (**)	.275 (**)
楽・放送	-.049	-.015	.308 (**)	.180 (**)
ため・放送	-.015	-.066	.234 (**)	.274 (**)
楽・運動・レクリエーション	-.011	.020	.284 (**)	.155 (**)
ため・運動・レクリエーション	.002	-.049	.241 (**)	.245 (**)
楽・行事・集団活動	.143	-.061	.408 (**)	.245 (**)
ため・行事・集団活動	.177 (*)	-.058	.342 (**)	.225 (**)
楽・講話	-.047	.021	.222 (**)	.168 (*)
ため・講話	-.0187	-.004	.211 (**)	.284 (**)

**：相関係数は 1% 水準で有意（両側）。*：相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

年少・年中・年長の 3 群で、日課の満足度について一元配置分散分析を行った（表35、紙幅の関係上有意差ないし有意傾向を示したのもののみ掲載した。Tukey の多重比較により、5% 水準で有意差が生じた群については「<」ないし「>」で表示した。以下の表も同様とする。）。

表35 年齢3群と日課満足度の一元配置分散分析

		度数	平均値	標準偏差	F 値	有意確率
楽・日課全体	年少少年	209	3.32	1.146	F (2, 801) =2.557	.078
	年中少年	319	3.08	1.231		
	年長少年	276	3.19	1.203		
ため・日課全体	年少少年	209	4.80	0.535	F (2, 801) =3.197 年少>年長	.041
	年中少年	319	4.72	0.572		
	年長少年	276	4.66	0.719		
楽・学習日課	年少少年	176	3.79	1.034	F (2, 570) =3.044	.048
	年中少年	230	3.57	1.037		
	年長少年	167	3.55	0.992		
ため・学習日課	年少少年	176	4.55	0.666	F (2, 570) =6.346 年少>年中・年長	.002
	年中少年	230	4.33	0.855		
	年長少年	167	4.25	0.928		
楽・居室日課	年少少年	204	3.92	1.057	F (2, 787) =3.043 年少>年長	.048
	年中少年	315	3.81	1.002		
	年長少年	271	3.69	1.004		
ため・行事・ 集団活動	年少少年	31	3.42	1.385	F (2, 170) =2.659	.073
	年中少年	82	3.59	0.874		
	年長少年	60	3.88	0.904		

基本的に相関係数と同様の関係が示された。すなわち、日課全体及び学習日課における両評価、居室日課に対するためになったか否かの評価について年少少年の方が年長少年よりも評価が高かった（日課全体に対する楽しかったか否かについては有意傾向）。また、行事・集団活動に対するためになったか否かの評価については、有意傾向にとどまるが、年長少年の方が、年少少年よりも評価が高い傾向がうかがわれた。

施設調査からは、各庁が義務教育対象者に対する学習の支援に関して特に配慮して種目、教材等を整備していることが分かった。学習日課に係る年少少年の評価が高いことは、各庁が準備している学習の支援が一定の成果を挙げている証左と言えよう。興味深い点は、楽しかったか否かについても彼らの評価が高い点である。多くの施設の回答に散見された、「動機付けを高めるため、まずは楽しめる内容を心掛ける」等の工夫が有効に作用している結果ないしは被收容少年に対する調査で得られた「できるようになると勉強が楽しくなってきた。」等の声の反映と考えられる。

居室日課における楽しかったか否かでも年少少年の評価が高いことについては、施設調査において、学習の支援の副次的効果として挙げられていた「生活に落ち着きが出た。」、「心情安定につながった。」等の影響があるのかも知れない。

評価の低い群の満足度を引き上げるという方向からは、学習日課については、年中少年や年長少年向けの種目を、特にためになるという観点から充実させること、居室日課については、年長少年が楽しいと感じられるような種目を、行事や集団活動については、年少少年や年中少年がためになったと感じられるような種目を、それぞれ充実させるといった改善の方向性がうかがわれる。評価の高い群の満足度を更に伸ばすという方向からは、学習日課及び居室日課については年少少年向けの、行事・集団活動については年長少年向けの種目を更に充実させることが望まれよう。

イ 性別

女子少年について、日課ごとの「あればよかったと思う日課」に関する自由記述式回答を個別に見ると、「茶道。心を落ち着かせる時間がほしい。」、「歌いたい。歌うことが好きだから。」、といった回答のほか、ダンス、料理、縫い物、絵画、性感感染症や妊娠・出産・育児に関する内容の学習や図書、福祉・医療系の進路に関する学習や図書など、女子少年特有のニーズがあることがうかがわれた。また、「性病や妊娠の本。性教育を受けてすぐためになったから、自分でももう少し勉強したい。」、「茶道を教えてほしい。華道や書道があって、どちらもすごく勉強になったし、心が落ち着いたから。」等の回答や、楽しかった・ためになった日課として日記等を挙げ、その理由として職員のコメントについて記載している者が多数いることなどからは、女子少年の処遇に対する反応性の良さやコミュニケーションを求めるニーズの強さが推察できる。一方で、「やることがない。」、「暇。」、「課題がほ

しい。」等の回答も少なくない（裁縫や絵画等の居室日課を希望する理由にもこうした趣旨の記載があった。）。

施設調査では、男女分層やニーズの違い、女子職員の配置等のため、育成的処遇の内容が多数派である男子少年向きになりがちで、機会自体も女子は限定的になりやすいといった意見が散見された。上記のとおり、女子少年は、働き掛けへのニーズや処遇に対する反応性が高いと考えられるだけに、更なる創意工夫により、女子少年向けの育成的処遇の充実が望まれる。その際、女子少年については、大規模庁といえども対象者が比較的少ない場合が多いと予想されることから、現在小規模庁で行われている育成的処遇の内容・方法等が参考になるものと推察される。

ウ 学年・学歴

学年・学歴と日課の満足度について一元配置分散分析を行った（表36）。

- ① 学習関係の日課において中学生の評価が高く、Tukeyの多重比較の結果、楽しかったか否かでは高校生との間に、ためになったか否かでは中卒者との間に、5%水準で有意差があった。上記アで、学習日課に係る年少少年の評価の高さについて指摘したが、同傾向は、中学生の学習日課に係る評価の影響と考えられる。
- ② 小学生について

低年齢少年のうち、小学生は特に配慮を要する対象であろう。調査対象者中には小学生は3名のみであった。

「あればよかったと思う日課」に関する自由記述においては、図書について「マンガ本があったらいいと思います。小説は自分には難しくてあまり読めないから。」、放送について「アニメ。洋画より、ワンピースやジブリの方が好きだから。」といった回答があった。健全育成に資する低年齢少年向けの図書や視聴覚教材の充実については、施設調査で多くの庁が重点課題として挙げていたが、ニーズ調査からも同様の傾向が認められた。

エ 4群（中学生以下、高校生以上の学生、有職者、無職者）

就労状況及び義務教育対象者か否かによる4群と日課の満足度について一元配置分散分析を行った（表37）。

日課全体、学習日課、居室日課に対する楽しかったか否かの評価で5%水準の有意差が見られた。Tukeyの多重比較によると、学習日課、居室日課に対する楽しかったか否かの評価は、中学生以下の学生が高校生以上の学生よりも有意に高く、学習日課がためになったか否かの評価は、中学生以下の学生が、無職者よりも有意に高かった。それぞれについての解釈は年齢、学年・学歴等で述べたとおりである。

表36 学年・学歴と日課満足度の一元配置分散分析

		度数	平均値	標準偏差	F 値	有意確率
楽・日課全体	小学校在学	3	2.67	0.577	F (8, 780) =1.755	.083
	中学校在学	139	3.35	1.076		
	中学卒業	260	3.19	1.273		
	高校在学	133	2.93	1.207		
	高校中退	189	3.20	1.237		
	高校卒業	41	3.34	1.132		
	大学・短大在学	16	3.13	1.147		
	大学・短大中退	2	3.00	0.000		
	その他	6	2.17	0.983		
楽・学習日課	小学校在学	3	2.67	2.082	F (8, 555) =2.401 中学生>高校生	.015
	中学校在学	130	3.88	0.981		
	中学卒業	173	3.55	1.086		
	高校在学	100	3.39	1.063		
	高校中退	120	3.71	0.911		
	高校卒業	22	3.68	1.041		
	大学・短大在学	8	3.88	0.835		
	大学・短大中退	2	3.00	0.000		
	その他	6	3.33	1.033		
ため・学習日課	小学校在学	3	3.67	1.528	F (8, 555) =1.917 中学生>中学卒業	.055
	中学校在学	130	4.58	0.621		
	中学卒業	173	4.26	0.962		
	高校在学	100	4.31	0.918		
	高校中退	120	4.38	0.769		
	高校卒業	22	4.45	0.671		
	大学・短大在学	8	4.50	0.535		
	大学・短大中退	2	5.00	0.000		
	その他	6	4.33	0.816		
ため・進路・仕事	小学校在学	1	1.00		F (8, 492) =2.678	.007
	中学校在学	80	4.43	0.742		
	中学卒業	172	4.28	0.952		
	高校在学	77	4.39	0.746		
	高校中退	124	4.39	0.908		
	高校卒業	29	4.66	0.670		
	大学・短大在学	11	4.36	1.286		
	大学・短大中退	2	4.50	0.707		
	その他	5	4.80	0.447		
楽・放送	小学校在学	3	3.00	1.732	F (8, 759) =1.912 中学生>小学生	.055
	中学校在学	135	4.46	0.699		
	中学卒業	251	4.35	0.822		
	高校在学	132	4.34	0.790		
	高校中退	183	4.37	0.759		
	高校卒業	40	4.18	0.844		
	大学・短大在学	16	4.50	0.816		
	大学・短大中退	2	4.50	0.707		
	その他	6	4.00	1.095		
ため・放送	小学校在学	3	2.67	1.528	F (8, 759) =2.485 中学生, 中卒, 高校生, 高校中退, 高卒, 大学・ 短大生>小学生	.012
	中学校在学	135	4.37	0.688		
	中学卒業	251	4.34	0.796		
	高校在学	132	4.31	0.743		
	高校中退	183	4.31	0.738		
	高校卒業	40	4.33	0.797		
	大学・短大在学	16	4.25	0.775		
	大学・短大中退	2	3.50	0.707		
	その他	6	3.83	1.169		

表37 4群と日課満足度の一元配置分散分析

	度数	平均値	標準偏差	F 値	有意確率	
楽・日課全体	無職者	220	3.14	1.232	F (3, 769) =2.817	.038
	中学生以下	143	3.34	1.068		
	高校生以上	149	2.95	1.204		
	有職者	261	3.23	1.222		
楽・学習日課	無職者	147	3.64	1.027	F (3, 551) =3.392 中学生以下>高校生以上	.018
	中学生以下	134	3.84	1.018		
	高校生以上	110	3.44	1.036		
	有職者	164	3.57	1.034		
ため・学習日課	無職者	147	4.31	0.913	F (3, 551) =2.484 中学生以下>無職者	.060
	中学生以下	134	4.55	0.655		
	高校生以上	110	4.31	0.896		
	有職者	164	4.38	0.832		
楽・居室日課	無職者	217	3.81	1.004	F (3, 756) =2.889 中学生以下>高校生以上	.035
	中学生以下	139	3.97	1.070		
	高校生以上	149	3.62	0.983		
	有職者	255	3.83	1.003		

オ 入所回数

入所回数と日課の満足度との相関関係は表34のとおりである。日課全体及び進路・仕事関係の日課に対するためになったか否かの評価と入所回数との間に有意な負の相関が示された。

初入少年と再入少年の日課満足度について t 検定を行った (表38)。

有意差ないし有意傾向が示されたもの全てにおいて、初入少年よりも再入少年の評価が低かった。

表38 初入・再入 t 検定

	初入・再入	度数	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
楽・日課全体	初入	581	3.23	1.184	1.772	803	.077
	再入	224	3.06	1.246			
ため・日課全体	初入	581	4.77	0.580	3.437	348.547	.001
	再入	224	4.59	0.697			
楽・進路・仕事	初入	366	3.87	0.880	1.723	509	.086
	再入	145	3.72	0.991			
ため・進路・仕事	初入	366	4.43	0.797	2.119	213.416	.035
	再入	145	4.23	1.046			
楽・居室日課	初入	570	3.84	1.016	2.047	789	.041
	再入	221	3.68	1.023			
ため・居室日課	初入	570	4.46	0.770	2.035	354.817	.043
	再入	221	4.32	0.890			
ため・放送	初入	564	4.36	0.742	2.287	781	.022
	再入	219	4.22	0.817			
ため・運動・レクリエーション	初入	472	4.29	0.887	1.761	647	.079
	再入	177	4.15	0.836			

再入少年に注目すると、ためになったか否かに関する評価が低く、日課全体、進路・仕事関係の日課、放送日課の低さが顕著である。居室日課については、楽しかったか否か、ためになったか否かの両方の評価が低い。

(5) 全体の満足度と各日課の満足度等との関係について

全体の満足度と各日課の満足度の相関は表34のとおりである。

全体の満足度と各日課の満足度との間には、そのほとんどにおいて1%水準で有意な相関が示されている。

学習領域の研究ではあるが、見館ら(2008)は先行研究の結果を踏まえて、「大学生活の満足度」が「将来のキャリア」に影響を与えるというモデルを示している。少年鑑別所の日課全体に対する満足度が、再非行等に影響を与えるか否か等については、本研究で扱うところではないが、続く処遇(社会内であっても施設内であっても)に良い形でつなげる上で、少年鑑別所の日課全体に対する満足度が高い方が望ましいであろうことは常識的な推論として許容されよう。

少年鑑別所の日課全体に対する満足度を向上させることを考えたとき、日課のどの領域に、また、どのような対象者にアプローチすることが効果的・効率的であるかを検討するため、年齢等の特性や各日課の満足度を説明変数、日課全体の満足度それぞれを従属変数として、ステップワイズ法による回帰分析を行った(表39, 40, 投入基準: $p < .05$, 除去基準: $p < .10$)。

日課全体の楽しかったか否かについては、居室日課、学習日課、運動・レクリエーションにおける楽しかったか否かの評価と入所回数が、日課全体のためになったか否かについては、居室日課、進路・仕事関係の日課、学習日課におけるためになったか否かの評価と入所回数が投入された。

表39 従属変数：楽しかったか否か(全体)

	標準化係数 β	t 値	有意確率
楽・居室全	.317	6.146	.000
楽・学習全	.249	4.963	.000
楽・運動・レクリエーション全	.167	3.603	.000
入所回数	-.121	-2.698	.007
	R	.558	
	R ²	.311	
	Adj.R ²	.303	

表40 従属変数：ためになったか否か(全体)

	標準化係数 β	t 値	有意確率
ため・居室全	.350	6.827	.000
ため・進路・仕事全	.196	3.480	.001
入所回数	-.135	-3.119	.002
ため・学習全	.140	2.565	.011
	R	.600	
	R ²	.360	
	Adj.R ²	.352	

各日課の評価については、それぞれの従属変数に対して正の影響を、入所回数については、負の影響を与えていることが分かる。

日課全体についての楽しかった、ためになったいずれの評価に対しても、居室日課の評価の影響が強いだけに、居室日課に特に重点的に充実を図ることが、全体の満足度を高める上で有効と考えられる。例えば、少年のニーズ調査においては、居室日課において、課題を出してほしい、暇である、リラックスしたい等のニーズが多かったが、そうしたニーズへの対応を視野に入れて種目や教材等を整備する等の対応が考えられる。学習日課についても、楽しかった、ためになったの両方の評価に影響があるだけに、学習の支援であっても、ためになるという視点一辺倒になるのではなく、楽しさについても配慮して種目、教材等を充実することなどを検討したい。

3 学習

(1) 取組状況及び満足度

ア 学習日課の取組状況（表41）

表41 学習日課取組状況

	国語	算数・ 数学	英語	理科	社会	その他	各種目取 組総数	学習日課取組 総数574名中 の割合(%)
自主学習	274	156	92	45	59	25	359	62.5
(%)	76.3	43.5	25.6	12.5	16.4	7.0	100.0	
学習用図書	106	91	69	35	58	16	205	35.7
(%)	51.7	44.4	33.7	17.1	28.3	7.8	100.0	
学習用P C	17	14	8	9	10	3	31	5.4
(%)	54.8	45.2	25.8	29.0	32.3	9.7	100.0	
職員指導	14	19	5	3	8	8	38	6.6
(%)	36.8	50.0	13.2	7.9	21.1	21.1	100.0	
外部講師指導	53	75	40	6	13	21	144	25.1
(%)	36.8	52.1	27.8	4.2	9.0	14.6	100.0	

複数科目に取り組んだ者がいるため、教科ごとの人数の合算と各種目取組総数とは一致しない。

何らかの学習日課に取り組んだ旨の回答があったものは574名であり、その内訳は自主学習（359名、62.5%）、学習用図書（205名、35.7%）、外部講師指導（144名、25.1%）の順であり、その他はごく少数であった。科目については、主要3科目の占める割合が高い。その他の科目としては、保健体育や家庭科、パソコン、資格関係の内容等であった。

また、表41以外の取組としては、14の回答が得られた。内容は、施設が用意した学習用教材や学校の宿題等、主として自主学習に関するものであった。

イ 学習日課の満足度（表42）

評価の平均点は、全種目で楽しかったか否かよりもためになったか否かの得点が高かった。外部講師による指導についての評価が非常に高いことが分かる。

各種目の満足度と他の要因との相関では、年齢と自主学習に係るためになったか

否か、学習用PCに係る楽しかったか否かの評価の間に有意な負の相関が示された。

表42 学習日課満足度及び相関係数

	N	平均	標準偏差	年齢	入所回数	楽・学習全	ため・学習全
自主学習	楽	359	3.87	1.06			
	ため	352	4.55	0.76	-.045	.081	.712 (**)
学習用図書	楽	205	4.07	1.00			
	ため	204	4.62	0.63	-.197 (**)	.033	.464 (**)
学習用PC	楽	31	4.00	1.13			
	ため	30	4.50	0.86	.000	.109	.570 (**)
職員指導	楽	38	3.92	1.05	.056	.033	.207 (**)
	ため	38	4.34	0.91	-.396 (*)	-.056	.457 (**)
外部講師指導	楽	144	4.47	0.77			
	ため	142	4.63	0.79	-.022	.077	.317
学習日課全体	楽	574	3.63	1.03	.056	.298	.657 (**)
	ため	574	4.37	0.83	.120	.212	.491 (**)
外部講師指導	楽	144	4.47	0.77	.027	.025	.406 (**)
	ため	142	4.63	0.79	-.055	.013	.155
学習日課全体	楽	574	3.63	1.03	-.069	.048	1
	ため	574	4.37	0.83	-.107 (*)	-.057	.514 (**)

**：相関係数は1%水準で有意(両側)。*：相関係数は5%水準で有意(両側)。

各種目と学習日課全体の満足度との関係は、一部を除き、1%ないし5%水準で有意な相関が見られた。特に、自主学習及び職員による指導に係る満足度との相関はかなり高いものである。また、各種目における楽しかったか否かの評価と、学習日課全体におけるためになったか否かの評価の間に、各種目におけるためになったか否かの評価と学習日課全体における楽しかったか否かの評価の間にも、多くで有意な相関が示された。楽しんで取り組むことがためになることにもつながり、ためになることが楽しさにもつながるといった関係性が示されていると考えられ、“楽しい”と“ためになる”のバランスに配慮した種目の充実が期待される。

ウ 学習日課全体の満足度と各種目の満足度の関係

各種目が学習日課全体の満足度にどのように影響しているか検討するため、各種目の満足度を説明変数、学習日課全体の満足度それぞれを従属変数として、ステップワイズ法による回帰分析を行った(表43, 投入基準: $p < .05$, 除去基準: $p < .10$)。

楽しかったか否かについては、表43 従属変数: 楽しかったか否か(学習全体)

自主学習が楽しかったか否かの評価のみが選択された。学習日課全体の楽しかったか否かに係る評価の向上について考える際には、自主学習について、より楽しめるものとするような充実が有効と考えられる。

	標準化係数 β	t 値	有意確率
楽・学習(自主学習)	.712	2.485	.045
	R	.712	
	R ²	.507	
	Adj.R ²	.424	

ためになったか否かについては、共線性の問題が許容度を越えたため、いずれの説明変数も投入されなかった。自主学習及び職員指導による種目についてのために

なったか否かの評価との相関が強いだけに（表48）、学習日課全体のためになったか否かの評価を高める上では、この2種目に配慮することが効果的と考えられる。

(2) 自由記述に係る分析

学習日課に係る自由記述の内容は、表I（巻末資料参照）のとおりである。

ア カテゴリの特徴

回答者数は133名、合計回答数は143であった。

「あったらよかったと思う日課」に係る回答のうち、内容欄の記述は24のカテゴリに、理由欄の記述は17のカテゴリに分類された。

あったらよかったと思う日課の内容としては、「指導受講希望（全体）」が60名（42.0%）で最多であり、次いで、「自主学習の希望」及び「職員によるサポート」26名（18.2%）、「個別指導受講希望」23名（16.1%）、「自習教材」及び「漢字」18名（12.6%）の順で多かった。

理由としては、「自力困難・分からない・難しい」が23名（16.1%）で最多であり、次いで、「高校・大学受験のため」21名（14.7%）、「実用志向」20名（14.0%）、「高卒資格取得のため」19名（13.3%）、「学力向上」15名（10.5%）、「高校の学習がしたい」14名（9.8%）の順で多かった。

なお、各回答欄ごとにカテゴリ化しているため、内容と理由において類似のカテゴリが見られる場合がある。各カテゴリの内容については、その名称からおおむね把握されるところであろうが、若干のカテゴリについて補足説明をする。

「指導受講希望（全体）」には、「個別指導を受けたい。」「教えてほしい」等、希望が明確であっても、漠然とした記載であっても、指導に対する希望に係る内容が全て含まれている。そのため、続く「個別指導受講希望」ないし「集団指導受講希望」とダブルチェックされる回答もある。

「個別化・任意性」については、「難しいので自分のレベルに合わせてほしい」、「高校生以上の人向けの学習」、「途中でやめるとかできたらいい」等、対象者の個別性に対する配慮や内容の選択・辞退等の希望の尊重等に係る回答が含まれている。

イ コレスポネンダ分析

各カテゴリと回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンダ分析を実施し、付置図を作成した（巻末資料、付置図1-1～1-7参照）。

回答者の特徴としては、年齢、性別、学年・学歴、義務教育対象及び職の有無による4ないし5群、初入・再入の別以外に、当該日課及び少年鑑別所の日課全体に対する楽しかったか否か、ためになったか否かの評価を用いた。

コレスポネンダ分析は、多くの情報を2ないし3次元に圧縮し、視覚的に類似性を把握しやすくする手法であるため、性別、初入・再入等2群しかないデータは扱えないため、性別及び初入・再入については、義務教育対象及び職の有無による4群と合わせて分析した。また、満足度については、それぞれの得点について比較

した場合、ためになったか否かについて天井効果が生じて分析に耐えないと考えられたため、両満足度を合わせて考えた。各評価について3点以下と4点以上で切り分け、「楽しくなく、ためにもならなかった」、「楽しくなかったが、ためにはなった」、「楽しかったが、ためにはならなかった」、「楽しくかつためになった」の4群を設定した。コレスポネンス分析に係る手続は、記4以降も同じであるため、以後は触れない。

また、各付置図について一つずつ検討するだけの紙幅がないため、本文においては、上記2において示された注目すべき内容及び特徴的な回答を取り上げて検討する。ただし、本文で直接扱わない付置図についても巻末に資料として全て添付する。特定の対象者のニーズを確認したい場合、特定のニーズを持っている対象者を把握したい場合など、必要に応じて適宜参照されたい。なお、付置図の解釈に際しては、次の点に留意することが望まれる。すなわち、付置図においては、距離的に近接しているもの同士が似た特徴を持つこと、原点付近には特徴のない項目（平均的に人気のある項目や、どの群からも人気のない項目など）が付置されることである。また、付置図が煩瑣となることを避けるために、カテゴリについては番号のみ表示しているため、対応する表I～XIを適宜参照されたい。

学習日課の満足度については、上記2(4)ア、イ及びエの結果から、年齢、性別、4群について検討する。

① 年齢による3群（付置図1-1）

年少少年に特徴的なニーズは、内容としては、「集団指導受講希望」、「高校受験」、「中学校（含小学校）の学習」、「個別化・任意性」、「内容・種類増」、「英語」、「理科」、理由としては、「個別化・任意性等の希望」、「自力困難・分からない・難しい」、「頭が悪いから・恥ずかしいから等」、「時間・量・種類の充実」、「高校・大学 受験のため」、「遅れ挽回のため」であった。

年少少年、年長少年に共通するニーズは、「時間・頻度・量増」、「社会」であった。

年中少年に特徴的なニーズは、内容としては、「学習用図書」、「高校の学習」、「資格関係の学習」、「数学」、「理科」、理由としては、「学力向上」、「高校の学習がしたい」、「学習自体への志向」、「職員による指導・サポート希望」、「楽しいから・好きだから」、「高卒資格取得のため」であった。

年中少年、年長少年に共通するニーズは、「個別指導受講希望」、「学習用教材への希望」、「暇解消・所内生活の充実のため」であった。

年長少年に特徴的なニーズは、内容としては、「職員によるサポート」、「パソコン学習」、「高卒認定試験等」、「その他の科目・教科全体」、理由としては、「実用志向」、「資格・免許のため」、「その他」であった。

年齢層を問わないニーズは、「指導受講希望（全体）」、「自主学習の希望」、「テ

スト」,「自習教材」,「国語」,「漢字」であった。

満足度が高い年少少年においては、高校受験のために受験勉強をしたいというニーズと遅れを挽回するために小中学校の補習を行いたいというニーズがあることが分かる。内容としては英語、理科、社会等を始め、内容や種類、時間や量等の充実を望んでいるようである。方法としては集団指導を志向しつつも、個別性や任意性への配慮を望んでおり、劣等感の強さもうかがわれるため、対象者のレベルやニーズを的確に把握して、内容、方法等を決定することが期待される。

年少少年よりも満足度の低い、年中・年長少年については、職員によるサポートや個別指導を期待している。暇を解消し、所内生活を充実させるために、自習用・学習用教材やパソコンの活用を望んでいる。内容としては、年中少年において高校の学習が独自であるほかは、高卒資格取得のための学習や、資格・免許等に係る学習に対するニーズが強い。個別指導に対するニーズが強いことが、年少少年と比較して対照的であり、個別的な対応が期待される。自主学習に対するニーズを前向きに活用したいところだが、学習用教材等に関するニーズは裏を返せば現在のそれに不満があると考えられるだけに、年齢層に応じて、高校や高卒認定等に係る内容や就労につながるような資格等を徐々に整備していくことが望まれる。

なお、「学習用教材への希望」の中には、「VTRを使った学習。読んだり、聞いたりするより、映像を見た方が分かりやすい。」との回答もあった。視覚による情報入力の有効性については、多くの研究で指摘されているだけに、視覚に訴える資料作成を心掛けている施設も少なくないようだが、同事項が少年のニーズとしても把握できたことから、今後は視覚に訴える方法について更なる工夫が求められよう。

② 性別及び4群（付置図1-4）

性別ごとの4群、計8群に関するコレスポネンス分析の結果について検討する。

なお、学習日課については小学生による自由記述が得られなかったため、4群の内訳は、中学生、高校生以上の学生、有職者、無職者である。

中学生については、男女のニーズに大差はなく、隣接して付置された。男女の中学生に特徴的なニーズは、内容については、「高校受験」,「中学校（含小学校）の学習」,「個別化・任意性」,「時間・頻度・量増」,「内容・種類増」,「英語」,「社会」である。理由については、「個別化・任意性等の希望」,「自力困難・分からない・難しい」,「頭が悪いから・恥ずかしいから等」,「高校・大学受験のため」,「遅れ挽回のため」等であった。「内容・種類増」,「遅れ挽回のため」等については女子のニーズが、「頭が悪いから・恥ずかしいから等」,「高校・大学受験のため」等については男子のニーズが強いようである。

高校生以上の学生については、男女でニーズに開きが見られる。女子高校生以上群については、男子無職者や女子無職者に近接して付置されていることが特徴的である。つまり、女子高校生以上群については、学習日課においては、学生であることに注目するよりも未就労者であることに注目して種目等を準備することが期待される。女子高校生及び男女無職者の特徴的なニーズは、内容については、「個別指導受講希望」、「集団指導受講希望」、「テスト」、「職員によるサポート」、「パソコン学習」、「高卒認定試験等」、「国語」、「漢字」、「数学」、「その他の科目・教科全体」である。理由については「学力向上」、「資格・免許のため」、「職員による指導・サポート希望」、「暇解消・所内生活の充実のため」等である。

男子高校生以上に特徴的なニーズは、「学習用図書」、「高校の学習」、「高校の学習がしたい」、「学習用教材の希望」等である。高校生であることが直接的に反映されたニーズと言えよう。

女子有職者に特徴的なニーズは、「自習教材」、「理科」、「学習自体への志向」、「その他」等である。

男子有職者は、原点近くに付置されており、学習日課については平均的なニーズを有していると考えられる。男子有職者を中心に、各群で共有されているニーズは「指導受講希望（全体）」、「自主学習の希望」、「資格関係の学習」、「実用志向」、「楽しいから・好きだから」である。

ウ その他

① 義務教育対象者以外の者のニーズ

年中・年長少年の回答には、「年齢関係なく勉強したい。」、「中学生向けのものばかりで、高校生向けがないのはおかしい。」等の不満が多く、学習に対するニーズの強さがうかがわれた。義務教育対象者以外の者に対する教科の学習の支援についても、可能な範囲で、機会を用意しておくことが期待される。

また、「高卒認定の説明ばかりで、復学希望の人への説明がない。」等の記載もあった。高校中退者の割合が189名（24.0%）と多く、高校在学者についても本件非行等を理由に高校中退する場合が少なくないことを考えると、ニーズの面からも、客観的な必要性の面からも、準備しておく必要性の高い内容と考えられる。

② 満足度の低い者（楽しくない、ためにならないとした者）のニーズ

学習日課に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは、「自主学習」、「時間・頻度・量増」、「内容・種類増」、「実用志向」、「高校の学習」、「遅れ挽回」、「学力向上」、「集団指導受講希望」、「個別化・任意性の希望」等である。

少年鑑別所の日課全体に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは、「頭が悪いから・恥ずかしいから」、「個別化・任意性」等である。

③ 「楽しさ」について

「分かるようになったから楽しかった。」、「勉強する楽しさを知った。」等の回

答も多かった。特別更新等が増加しているとは言え、大多数の入所者については入所期間が1か月に満たないことや、学力以前に、学習に係る意欲や構え等が十分ではない者が多いことなどを考えると、学力向上とまではいかずとも、退所後の学習へ向けた動機付けや構えを養う、ないし、そのきっかけを作るといった指導であっても、少年鑑別所段階の少年に対する働き掛けとしては、非常に意義深いものと言えよう。施設調査では「学習することの楽しさに気付かせ、学習する習慣を身に付ける端緒とすることに重点を置いている。」等の回答が見られたが、上記の回答からは、施設側の目的がある程度達成されている様子がうかがわれた。

4 進路選択・就労準備等の支援

(1) 取組状況及び満足度

ア 進路選択・就労準備等の支援に係る日課の取組状況（表44）

何らかの種目に取り組んだ旨の回答があったものは511名であり、その内訳は視聴覚教材（276名、54.0%）、図書（260名、50.9%）、職員面接（127名、24.9%）である。内容について、種目ごとにばらつきがあるが、仕事に関するものの割合が高い。その他については、SST訓練、内省等であった。

また、表44以外では13の回答があった。内容は、OHB Yを始めとしたパソコンによる学習、録音教材等であった。

表44 進路選択・就労準備の支援に係る日課取組状況

	進路選択	仕事	資格	その他	各種目取組 総数	日課取組総 数511名中 の割合(%)
図書	80	154	142	2	260	50.9
(%)	30.8	59.2	54.6	0.8	100.0	
視聴覚教材	60	246	90	2	276	54.0
(%)	21.7	89.1	32.6	0.7	100.0	
職員講話	13	29	8	5	51	10.0
(%)	25.5	56.9	15.7	9.8	100.0	
外部講師講話	25	26	13	3	48	9.4
(%)	52.1	54.2	27.1	6.3	100.0	
職員面接	71	68	14	6	127	24.9
(%)	55.9	53.5	11.0	4.7	100.0	
外部講師面接	18	14	5	4	37	7.2
(%)	48.6	37.8	13.5	10.8	100.0	

複数科目に取り組んだ者がいるため、科目ごとの人数の合算と各種目取組総数とは一致しない。

イ 進路選択・就労準備等の支援に係る日課の満足度（表45）

ためになったか否かに係る評価は総じて高い。楽しかったか否かに係る評価は外部講師講話で高く、職員面接及び外部講師面接で低い。

各種目の満足度と他の要因との相関では、入所回数と視聴覚教材に係るためになったか否かの間に有意な負の相関が示された。

表45 進路選択・就労準備の支援に係る日課満足度及び相関係数

		N	平均	標準 偏差	年齢	入所回数	楽・進路仕 事全	ため・進路 仕事全
図書	楽	260	4.16	0.85	-.070	.007	.511 (**)	.290 (**)
	ため	257	4.65	0.72	-.065	-.039	.314 (**)	.525 (**)
視聴覚教材	楽	276	4.14	0.88	.005	-.051	.674 (**)	.522 (**)
	ため	274	4.60	0.78	-.069	-.155 (*)	.519 (**)	.753 (**)
職員講話	楽	51	4.10	0.90	.111	-.028	.614 (**)	.419 (**)
	ため	50	4.70	0.76	.033	-.046	.402 (**)	.586 (**)
外部講師講話	楽	48	4.40	0.82	-.175	.067	.641 (**)	.482 (**)
	ため	47	4.70	0.75	-.173	.078	.510 (**)	.599 (**)
職員面接	楽	127	3.88	0.98	-.032	.027	.635 (**)	.366 (**)
	ため	124	4.65	0.72	.002	.029	.270 (**)	.543 (**)
外部講師面接	楽	37	3.89	1.15	-.073	.323	.630 (**)	.514 (**)
	ため	37	4.73	0.80	-.020	.141	.431 (**)	.755 (**)
日課全体	楽	511	3.83	0.91	.026	-.045	1	.663 (**)
	ため	511	4.37	0.88	.008	-.101 (*)	.663 (**)	1

**：相関係数は 1% 水準で有意（両側）。 *：相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

各種目と日課全体の満足度との関係は、全て 1% 水準で有意な相関が見られた。特に、視聴覚教材及び外部講師面接に係る満足度との相関はかなり高いものである。

また、各種目における楽しかったか否かの評価と、日課全体におけるためになったか否かの評価の間に、各種目におけるためになったか否かの評価と日課全体における楽しかったか否かの評価の間にも、全て有意な相関が示された。楽しんで取り組むことがためになることにもつながり、ためになることが楽しさにもつながるといふ関係性が示されていると考えられ、“楽しい”と“ためになる”のバランスに配慮した種目の充実が期待される。

ウ 日課全体の満足度と各種目の満足度の関係

各種目が進路選択・就労準備等の支援に係る日課全体の満足度にどのように影響しているか検討するため、各種目の満足度を説明変数、進路選択・就労準備等の支援に係る日課全体の満足度それぞれを従属変数として、ステップワイズ法による回帰分析を行った（表46, 47, 投入基準： $p < .05$, 除去基準： $p < .10$ ）。

楽しかったか否かについては、視聴覚教材が楽しかったか否かの評価のみが選択された。進路選択・就労準備等の支援に係る日課全体の楽しかったか否かに係る満足度の向上について考える際には、視聴覚教材について、より楽しめるものとするような充実が有効と考えられる。

表46 楽しかったか否か(進路・仕事全体)

	標準化係数 β	t 値	有意確率
楽・進路・仕事 (VTR)	.674	3.029	.011
	R	.674	
	R ²	.455	
	Adj.R ²	.405	

表47 ためになったか否か(進路・仕事全体)

	標準化係数 β	t 値	有意確率
ため・進路・仕事 (部外協力者 個別面接)	.755	3.825	.003
	R	.755	
	R ²	.571	
	Adj.R ²	.532	

ためになったか否かについては、部外協力者による個別面接がためになったか否かの評価が選択された。就労の準備に係る支援としては、キャリアカウンセラー等による個別相談等を実施している施設があったが、こうした働き掛けが一定の効果を上げている様子が見られる。その他の種目についても、強い影響力を持っているようだが、種目間の満足度の相関が高く、回帰分析に際しては共線性の問題が生じる。

(2) 自由記述に係る分析

日課に係る自由記述の内容は、表Ⅱ（巻末資料参照）のとおりである。

ア カテゴリの特徴

回答者数は101名、合計回答数は120であった。

「あったらよかったと思う日課」に係る回答のうち、内容欄の記述は23のカテゴリに、理由欄の記述は13のカテゴリに分類された。

あったらよかったと思う日課の内容としては、「資格・専門学校」（資格や専門学校の情報を知りたい、勉強をしたい等）が46名（38.3%）、「仕事」（仕事の種類、収入等を知りたい、仕事の技術を学びたい等）が45名（37.5%）で最多であり、次いで、「自主学习」26名（21.7%）、「頻度・量・種類増」25名（20.8%）の順で多かった。

理由としては、「実用志向」が45名（37.5%）で最多であり、次いで、「個性・任意性」24名（20.0%）、「自力困難・自信がない」20名（16.7%）、「資格を取りたいから」15名（12.5%）、「進路選択のため」14名（11.7%）の順で多かった。

イ コレスポネンス分析

各カテゴリと回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンス分析を実施し、付置図を作成した（巻末資料、付置図2-1～2-7参照）。

進路選択・就労準備等の支援に係る日課については、上記2(4)より、入所回数について検討することとした。付置図2-5を用いる。

初入高校生、再入高校生は近い距離に付置されており、入所回数にかかわらず高校生に特徴的なニーズがあるようである。例えば、「充実志向」、「より詳しく」等であり、「外部講師による講話」については、再入中学生と共通のニーズと言える。

高校生については、具体的な就労情報や就職活動等の実用的支援よりも、就労に係る心構えや就労を通しての自己実現に係る内容等について、講師から詳しく話を聞きたいと考えているようである。

中学生については初入、再入でニーズに開きがあるがわかる。すなわち、初入中学生は、特徴的なニーズが、「高校受験・高卒認定」、「進路相談担当職員」、「職員による支援」であり、他群と共通したニーズは、「個別性」、「詳しく・具体的に」（再入有職者と共通）及び「個別の相談・指導」（初入有職者・再入無職者と共通）である。一方、再入中学生のニーズは、「職員講話」、「その他」、「外部講師による講話」（初入・再入高校生と共通）である。初入中学生が、高校進学を目標として、個別的・具体的な進路相談等を希望しているのに対して、再入中学生は講話に係る希望のみであり、進路に関する希望は漠然としていることがわかる。初入中学生については、教科の学習に係る支援に上記の要素を織り交ぜる等することが検討されよう。再入中学生については、他者の意見を聞きたいというニーズを踏まえつつ、進路等を考えられるような種目を準備することが期待される。

初入無職者に特徴的なニーズは、「ハローワーク職員」、「調べる・探す」、「ハローワーク」等であり、彼らが、ハローワークを活用して仕事を探したい、それに係る支援をしてほしいという希望を有していることが端的に把握できる。一方、再入無職者は、初入有職者ととも原点付近に位置しており、独自のニーズは把握できない。どの群にも共通するニーズではあるものの、「自主学习」、「資格が取りたい」等、前向きな意欲もうかがわれるものの、「自力困難・自信がない」、「具体的な指導や職業紹介の希望」等の回答からは、具体的な求職等については、人任せになりがち様子もうかがわれる。

再入有職者については、「職業人としての手本になるから」、「相談したい・話を聞きたい」等のニーズが特徴的であり、参考となるようなモデルを求める様子もうかがわれる。

高校生を除くと、初入者と比較して再入者は、進路等が漠然としており、支援やモデルを求める気持ちが強いことが分かる。図書、視聴覚教材、講話等において、彼らのモデルになるような、目標とできるような内容を充実させ、進路の明確化や意欲の向上等を支援することが期待される。

ウ その他

① 満足度の低い者（楽しくない、ためにならないとした者）のニーズ

進路選択・就労準備に係る日課に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは、「具体的な指導や職業紹介の希望」、「自力困難・自信がない」、「職業実習」、「体験したい」等である。少年鑑別所の日課全体に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは、「職業実習」、「調べる・探す」、「資料・パンフレット等」、「自力困難・自信がない」、「体験したい」等である。

② 指導に対するニーズ

個別性を大切にしてほしいというニーズがある一方で、「希望者だけでなく、全体的に授業をやれば良いと思う。」「何もしないとか、うまくできない人にとっては、助け舟になる。」といった回答も見られた。便宜供与的処遇や任意性の担保が前提となる観護処遇においては、こうした意見をそのまま反映することは難しいが、潜在的なニーズを掘り起こしたり、萎えそうになる気持ちをサポートしたりしてほしいというニーズを対象者自身も有しているということは、児童の権利に関する条約や青少年育成施策大綱の指摘にも通じる考え方であるだけに、常に念頭に置いて処遇に当たるべき事項と思われる。

5 居室日課

(1) 取組状況及び満足度

ア 居室日課の取組状況及び満足度 (表48)

何らかの種目に取り組んだ旨の回答があった者は792名であり、その内訳は、日記 (789名, 99.6%), 課題作文 (740名, 93.4%), 絵画 (633名, 79.9%) の順である。

年齢との関係では、課題作文、日記及び居室日課全体に対する楽しかったか否かの評価、絵画については両方の満足度が、年齢と有意な負の相関関係が示された。

その他としては、168の回答が得られた。内容は、漢字練習等自主学習に関するものが34、粘土細工や紙芝居等美術系のものが25、ロールレタリング様のものが22、非行に関するマンガが19、内省や思索等の内省的な課題が19、読書感想文が17等であった。なお、少数意見ではあるが、点呼、掃除、洗濯等の生活場면을挙げている者もあり、全員がためになった旨の回答をしていた。

表48 居室日課満足度及び相関係数

		N	平均	標準 偏差	年齢	入所回数	楽・居室 日課全	ため・居室 日課全
課題作文	楽	740	3.35	0.98	-0.077 (*)	.004	.614 (**)	.368 (**)
	ため	727	4.45	0.75	-.040	.034	.401 (**)	.658 (**)
日記	楽	789	3.59	1.01	-.080 (*)	-.02	.634 (**)	.402 (**)
	ため	776	4.42	0.81	-.013	.040	.422 (**)	.666 (**)
はり絵	楽	583	3.99	1.11	-.070	-.001	.490 (**)	.374 (**)
	ため	571	3.89	1.05	-.004	.011	.381 (**)	.483 (**)
絵画 (家族画など)	楽	633	3.58	1.20	-.146 (**)	-.049	.543 (**)	.428 (**)
	ため	621	3.66	1.10	-.156 (**)	-.023	.442 (**)	.523 (**)
居室日課全体	楽	792	3.80	1.02	-.082 (*)	-.034	1	.525 (**)
	ため	792	4.42	0.81	-.017	-.049	.525 (**)	1

**：相関係数は1%水準で有意(両側)。 *：相関係数は5%水準で有意(両側)。

イ 居室日課全体の満足度と各種目の満足度との関係

各種目が居室日課全体の満足度にどのように影響しているか検討するため、各種目の満足度を説明変数、居室日課全体の満足度それぞれを従属変数として、ステップワイズ法による回帰分析を行った（表49, 50, 投入基準： $p < .05$, 除去基準： $p < .10$ ）。

表49 楽しかったか否か（居室日課全体）

	標準化係数 β	t 値	有意確率
楽・居室（日記）	.321	7.443	.000
楽・居室（はり絵）	.245	7.204	.000
楽・居室（課題作文）	.206	4.574	.000
ため・居室（課題作文）	.129	3.837	.000
楽・居室（絵画）	.105	2.632	.009
	R	.747	
	R ²	.559	
	Adj.R ²	.554	

表50 ためになったか否か（居室日課全体）

	標準化係数 β	t 値	有意確率
ため・居室（日記）	.348	9.056	.000
ため・居室（課題作文）	.331	8.598	.000
ため・居室（はり絵）	.198	5.977	.000
楽・居室（絵画）	.113	3.427	.001
	R	.771	
	R ²	.594	
	Adj.R ²	.590	

居室日課全体が楽しかったか否かについては、日記、はり絵、課題作文、絵画の楽しかったか否かの評価、課題作文のためになったか否かの評価が正の影響を示している。日記及びはり絵の影響が大きいだけに、これらの日課についての充実を図ることが効率的と考えられる。

ためになったか否かについては、日記、課題作文、はり絵のためになったか否かの評価、絵画の楽しかったか否かの評価が正の影響を示している。

なお、課題作文のためになったか否かの評価が、居室日課全体が楽しかったか否かの評価に、絵画の楽しかったか否かの評価が、居室日課全体のためになったか否かの評価にそれぞれ影響を与えていることから、楽しかった、ためになった両方の視点でバランスよく日課の充実を図る意義の大きさがうかがわれる。

(2) 自由記述に係る分析

居室日課に係る自由記述の内容は表Ⅲ（巻末資料参照）のとおりである。

ア カテゴリの特徴

回答者数は178名、合計回答数は221であった。

「あったらよかったと思う居室日課」に係る回答のうち、内容欄の記述は21のカテゴリに、理由欄の記述は16のカテゴリに分類された。

内容としては、「将棋・チェス・囲碁」が35名（15.8%）で最も多く、以下、「オ

セロ」25名(11.3%)、「トランプ」19名(8.6%)、「課題(内省・被害者等)を出してほしい」17名(7.7%)、「備品(時計・鏡・エアコン等)」14名(6.3%)の順で多かった。

理由としては、「息抜き・リラックス・ストレス解消」が70名(31.7%)で最も多く、以下、「頭の体操」51名(23.1%)、「ためになるから」38名(17.2%)、「面白い・気持ち良い・満足」31名(14.0%)、「暇だから・暇つぶし」25名(11.3%)の順で多かった。

イ コレスポネンス分析

各カテゴリの回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンス分析を実施し、付置図を作成した(巻末資料、付置図3-1~3-7参照)。

居室日課については、上記2(4)ア、エ、オより、年齢、入所回数及び4群について検討することとした。

① 年齢による3群(付置図3-1)

年少少年に特徴的なニーズは、「音楽放送の希望」、「備品(時計・鏡・エアコン等)」、「自己表現」、「面白い・気持ちよい・満足」、「計画的・計画性」などである。

年少少年と年中少年に共通するニーズは、「ダンベル等」、「ゲーム」、「数独・クロスワード」、「編み物、模型等」等である。

年少少年と年長少年に共通するニーズは、「絵画」、「画材」、「健康・快適のため」等である。

年中少年に特徴的なニーズは、「オセロ」、「学習・資格用図書・教材」、「テレビ・ビデオ」、「体を動かしたい」、「集団・コミュニケーションしたい」等である。

年中少年と年長少年に共通するニーズは、「運動時間・回数増」、「パソコン」等である。

年長少年に特徴的なニーズは、「パズル」、「課題(内省・被害者等)を出してほしい」、「集団・コミュニケーション」、「集中できる・一生懸命・集中力がつく」、「外に出たい」、「調べたい・知りたい」等である。

「将棋・チェス・囲碁」、「トランプ」、「図書の充実」、「ためになるから」、「暇だから・暇つぶし」等は年齢層にかかわらず共通のニーズであった。

好みに多少の違いはあるようだが、娯楽に関するニーズが、全年齢層で見られている。一方、比較的満足度の低い年長者の群で、課題や教材に関する希望や、集団活動やコミュニケーションに関する希望等、年少少年には見られない内容のニーズが出ている。年中少年、年長少年の居室日課に係る満足度を高める上で、これらのニーズは大いに参考になるものと思われる。

年少少年の高い居室日課満足度をさらに上げることを考えた場合、彼らが、自己表現や音楽、快感情に係るニーズなどを持っていることから、情操のかん養に

係る領域での種目の充実を図ることが期待される。

なお、共通のニーズとして、「暇だから・暇つぶし」が挙げられていることに十分配慮して日課等の充実を図ることが望まれる。

② 初入・再入及び4群（付置図3-5）

付置図を見ると、次元1の原点を軸に、初入者と再入者が対照的に付置されていることが分かる。

再入者に特徴的なニーズは、「集団・コミュニケーションしたい」（高校生）、「パソコン」（中学生以下）、「運動時間・回数増」、「課題（内省・被害者等）を出してほしい」、「更生・反省のため」（有職者）、「トランプ」、「ゲーム」、「頭の体操」（無職者）等である。

初入者については、中学生以下と高校生以上が近接して付置されており、義務教育対象者か否かにかかわらず、初入・学生のニーズには共通性があると考えられる。すなわち、「音楽放送の希望」、「編み物・模型作成」、「備品（時計・鏡・エアコン等）」、「暇だから・暇つぶし」、「面白い・気持ちよい・満足」等である。

初入無職者については、「絵画」、「集中できる・一生懸命・集中力がつく」、「調べたい・知りたい」、「計画的・計画性」などのニーズが見られる。

初入有職者については、原点付近に付置されており、平均的なニーズを有している群と考えられる。「将棋・チェス・囲碁」、「筋トレ」、「パズル」、「ためになるから」、「息抜き・リラックス・ストレス解消」等を希望している。

満足度が低い再入者において、課題や内省等に係るニーズが出ているだけに、彼らのニーズに沿った日課や教材等の整備が望まれる。

ウ その他

① 女子少年のニーズ

女子少年に特徴的なニーズとして、「編み物」（中学生）、「画材」、「自己表現」（有職及び無職）、「音楽放送の希望」（無職）などが見られた。

② 満足度の低い者のニーズ

居室日課に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは、楽しくなく、ためにもならなかったとする者については、「ゲーム」、「音楽放送の希望」、「面白い・気持ちよい・満足」、「自由・選択」等であり、楽しかったがためにはならなかったとする者については、「ダンベル等」、「学習・資格用図書・教材」、「編み物・模型作成等」、「自己表現」、「外に出たい」等である。

少年鑑別所の日課全体に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは、楽しくなく、ためにもならなかったとする者については、「パズル」等であり、楽しかったがためにはならなかったとする者については、「図書の充実」等である。

③ 個別的対応についてのニーズ

「課題や放送で言ってることが難しくよく分からないので困る」等の回答が

あった。施設調査の結果からは各庁が、少年のレベルに合わせて、分かりやすい説明や、視覚化、個別の対応などに配慮している様子がうかがわれるが、さらにこうした視点からの工夫を進めることが期待される。

6 図書関係

(1) 取組状況及び満足度

ア 図書に関する日課の取組状況及び満足度（表51）

表51 図書満足度及び相関係数

		N	平均	標準 偏差	年齢	入所回数	楽・図書全	ため・図書 全
小説	楽	750	4.71	0.59	-.045	-.049	.576 (**)	.324 (**)
	ため	734	4.44	0.83	-.009	-.039	.278 (**)	.646 (**)
マンガ	楽	500	4.77	0.55	-.043	-.114 (*)	.358 (**)	.136 (**)
	ため	485	3.59	1.10	.027	-.050	.154 (**)	.346 (**)
学習・参考書	楽	286	3.99	0.98	.070	.018	.342 (**)	.289 (**)
	ため	280	4.68	0.68	-.037	.045	.278 (**)	.447 (**)
進路選択	楽	95	4.26	0.90	.091	.047	.453 (**)	.338 (**)
	ため	93	4.67	0.63	-.124	-.091	.499 (**)	.462 (**)
仕事	楽	190	4.35	0.82	.121	.022	.268 (**)	.235 (**)
	ため	186	4.77	0.55	.031	-.029	.247 (**)	.382 (**)
資格	楽	187	4.25	0.92	.018	.083	.146 (*)	.192 (**)
	ため	184	4.79	0.56	.084	.087	.091	.215 (**)
非行関係	楽	191	4.11	1.03	.056	.019	.391 (**)	.217 (**)
	ため	189	4.75	0.62	-.077	-.030	.262 (**)	.454 (**)
タレント本	楽	100	4.62	0.68	.056	.033	.492 (**)	.463 (**)
	ため	98	4.11	1.02	.131	.054	.289 (**)	.464 (**)
図書全体	楽	790	4.57	0.71	-.030	-.034	1	.432 (**)
	ため	790	4.49	0.74	.000	.002	.432 (**)	1

**：相関係数は 1% 水準で有意（両側）。 *：相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

何らかの図書を読んだ旨の回答があった者は790名であり、その内訳は、小説（750名、94.9%）、マンガ（500名、63.3%）、学習・参考書（286名、36.2%）の順である。

入所回数との関係では、マンガに対する楽しかったか否かの評価において有意な負の相関が示された。

各図書の満足度については、資格図書に対するためになったか否かの評価と図書全体に対する楽しかったか否かの評価を除く全ての間で正の相関が示された。

その他としては、50の回答が得られた。内容は、運転免許関係6、図鑑4、雑誌4、性や妊娠に関する図書3など、非常に幅広いものであった。

イ 図書全体の満足度と内容ごとの満足度との関係

各図書に対する満足度が図書に関する全体的な満足度にどのように影響している

か検討するため、各図書館の満足度を説明変数、全体の満足度それぞれを従属変数として、ステップワイズ法による回帰分析を行った（表52, 53, 投入基準： $p < .05$, 除去基準： $p < .10$ ）。

図書に関する日課全体の満足度については、小説に対するそれぞれの評価が正の影響を示している。読まれている割合の高さも、満足度の高さなども考え合わせると、小説における良書を準備することの重要性が示唆される。

表52 楽しかったか否か（図書全体）

	標準化係数 β	t 値	有意確率
楽・小説	.576	2.634	.020
	R	.576	
	R ²	.331	
	Adj.R ²	.284	

表53 ためになったか否か（図書全体）

	標準化係数 β	t 値	有意確率
ため・小説	.646	3.168	.007
	R	.646	
	R ²	.418	
	Adj.R ²	.376	

(2) 自由記述に係る分析

図書に係る自由記述の内容は表Ⅳ（巻末資料参照）のとおりである。

ア カテゴリの特徴

回答者数は262名、合計回答数は337であった。

「あったらよかったと思う図書」に係る回答のうち、内容欄の記述は43のカテゴリに、理由欄の記述は33のカテゴリに分類された。

内容としては、「種類・冊数・頻度増」が61名（18.1%）で最も多く、以下、「マンガ」44名（13.1%）、「仕事関係の本」26名（7.7%）、「非行関係の本」20名（5.9%）、「性・妊娠関係の本」18名（5.3%）、「図書交換・配架等の希望」18名（5.3%）の順で多かった。「図書交換・配架等の希望」には、「自由に図書交換できるようにしてほしい。」「休日前より、平日の貸出数を増やしてほしい。」等の回答が含まれる。

理由としては、「ためになる」が102名（30.3%）で最も多く、以下、「面白いから・好きだから」53名（15.7%）、「蔵書への批判」40名（11.9%）、「学びたい・知りたい」39名（11.6%）、「少ない（不満）」37名（11.0%）の順で多かった。「蔵書への批判」については、「本のレパトリーがない。」「古い本ばかりでつまらない。」等の回答が含まれる。

イ コレスポネンス分析

各カテゴリの回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンス分析を実施し、付置図を作成した。なお、図書については、回答数が最も多く、全カテゴリを一度に分析すると付置図が煩雑になりすぎるため、内容に関する回答と理由に関する回答を別に分析・図示した（巻末資料、付置図4-1～4-14参照）。

ここでは、上記2(4)オより入所回数について検討することとした。また、回答数

が最多であり、少年のニーズがより多く反映されている領域と考えられるため、基礎的な検討として年齢層ごとのニーズについても検討した。

① 年齢による3群（付置図4-1, 4-2）

内容については、付置図4-1のとおりである。

年少少年に特徴的なニーズは、「ハリーポッター」、「水谷修・義家弘介の本」、「全巻そろえてほしい（シリーズもの）」、「医療・保健関係の本」、「郷土本」、「ファッション誌」、「楽しい本」、「詳しい本」等である。

「高校・大学の学校案内・受験図書」、「性・妊娠関係の本」は年少少年と年長少年に共通するニーズであることが分かる。また、「スポーツ関係の本」は年少少年と年中少年で人気が高い。

年中少年に特徴的なニーズは、「図書交換・配架等の希望」、「人気本・ベストセラー」、「非行等から立ち直った人に関する本」、「子育て関係の本」、「ケータイ小説」、「詩集」、「図鑑」、「マンガ」、「映画・マンガの原作本」等である。

「被害者の手記」、「人間関係・心理の本」、「資格図書」、「自伝」、「審判・法律について学べる本」、「恋愛小説」、「戦争に関する図書」等は年中少年と年長少年に共通するニーズであることが分かる。

年長少年に特徴的なニーズは、「読書感想文」、「新しい本・若者向けの本」、「車・バイク等の本」、「非行関係の本」、「学習用図書」、「仕事関係の本」、「将来設計・生き方の本」、「感動する本」、「謎解き絵本」等である。

年齢層を問わないニーズは、「種類・冊数・頻度増」、「小説」、「推理小説」、「歴史本」、「雑誌」等である。

理由については、付置図4-2のとおりである。

年少少年の特徴的ニーズは、「励みになる・意欲向上・頑張るきっかけ」、「不安だから」、「少ない（不満）」、「流行に遅れない・社会の情報を知りたい」等である。

「モデル・手本」、「進路・将来について考えたい」等は年少少年と年中少年に共通するニーズと言える。

年中少年に特徴的なニーズは、「読書習慣がない」、「集中・熱中できる」、「学びたい・知りたい」、「息抜き・リラックスしたい」、「暇だから・暇つぶし」、「苦手だから・よく知らないから」、「少年鑑別所の処遇を通して興味を持ったから」（例えば、「DVD視聴をとおして原作本に興味を持った」、「保健講話に参加して性に関する図書を読みたくなった」など）、「人間関係の改善」、「家族・恋人の大切さ」等である。

「命の大切さ」、「ガテン系志向」、「課題を出してほしい」等のニーズは年中少年と年長少年に共通のニーズと言える。

年長少年に特徴的なニーズは、「内省・反省・再非行防止のため」、「もっと詳

しく]、「古い(不満)」、「図書交換(不満)」、「思いやり・他者理解」等である。

「他の少年にも勧めたい・教えてあげたい」は年少少年と年長少年に共通するニーズである。

「面白いから・好きだから」、「ためになるから」、「蔵書への批判」、「分かりやすく・読みやすく」、「保健・衛生への興味」、「個別性」等は、年齢層を問わないニーズと言える。

まとめると、年少少年については、不安等を背景に、それを紛らわせるような内容を求めるニーズと、受験等へ向けて学習に励みたいとする意欲が特徴的である。場合によっては、後者が前者を紛らわせる方法の一つになろうし、逆に後者が前者のきっかけになっているとも考えられる。

年中少年においては、「暇だから・暇つぶし」、「集中・熱中できる」等のニーズが印象的であり、これを満たす内容の図書を求めている。一方で、非行や人間関係、進路等について考えたいという思いもあり、モデルを求める気持ちが強いようである。

年長少年については、非行の反省、仕事関係など、ニーズがより具体化しており、今後の生活設計への関心もうかがわれるが、図書の古さや図書交換の方法・頻度等について、不満が強いことも分かる。

② 入所及び4群(付置図4-9, 4-10)

内容については、付置図4-9とおおりである。

中学生及び有職者については、初入者と再入者で付置にばらつきが見られる。

初入中学生と初入有職者は近接して付置されており、共通するニーズが多い。すなわち、「図書交換・配架等の希望」、「人気本・ベストセラー」、「推理小説」、「小説」、「楽しい本」、「郷土本」、「分かりやすい」等である。初入中学生に特徴的なニーズは、「自伝」、「感動する本」等である。初入有職者に特徴的なニーズは、「スポーツ関係の本」等である。

再入中学生及び再入有職者も近接しており、「非行関係の本」、「水谷修・義家弘介の本」、「戦争の本」、「歴史本」などが共通のニーズと考えられる。

「読書感想文」、「将来設計・生き方の本」、「謎解き絵本」等は再入有職者に特徴的なニーズである。

無職者については、初入者では「車・バイク等」、「非行等から立ち直った人に関する本」、「詩集」、「全巻そろえてほしい(シリーズもの)」、「ファッション誌」、「映画・マンガの原作本」等が特徴的なニーズである。「被害者手記」、「審判・法律について学べる本」、「図鑑」等は初入の高校生以上と無職者に共通するニーズと考えられる。

再入無職者については、「子育て関係の本」、「ケータイ小説」、「ハリーポッター」、「医療・保健関係の本」などが特徴的なニーズとして把握できる。

高校生以上の者については、初入者、再入者が比較的近くに付置されており、入所回数別の異なるニーズの違いは小さいと考えられる。高校生以上の者に共通のニーズは、恋愛小説、資格図書等である。初入高校生以上に特徴的なニーズは「人間関係・心理の本」等などである。

初入高校生と初入中学生に共通のニーズは「高校・大学の学校案内・受験図書」等である。

再入高校生以上は原点に近く、以下のニーズとおおむね合致する。

「種類・冊数・頻度増」、「新しい本・若者向けの本」、「人気本・ベストセラー」、「学習用図書」、「資格図書」、「仕事関係の本」、「マンガ」などは、群を問わない共通のニーズと考えられる。

理由については、付置図4-10のとおりである。

ここでも、初入中学生と有職者については、近接して付置されており、両者のニーズは似通っていると考えられる。「面白いから・好きだから」、「不安だから」、「少ない（不満）」、「分かりやすく・読みやすく」、「保健・衛生への興味」等が共通するニーズである。

再入中学生に特徴的なニーズは「他の少年にも勧めたい・教えてあげたい」、「進路・将来について考えたい」等である。

再入有職者に特徴的なニーズは、「暇だから、暇つぶし」、「古い（不満）」、「図書交換（不満）」、「苦手だから・よく知らないから」、「ガテン系志向」、「課題を出してほしい」等である。

初入無職者に特徴的なニーズは、「励みになる・意欲向上・頑張るきっかけ」、「流行に遅れない・社会の情報を知りたい」等である。

再入無職者に特徴的なニーズは、「読書習慣がない」、「集中・熱中できる」、「モデル・手本」、「もっと詳しく」、「感動できる・感性が豊かになるから」等である。

再入高校生以上に特徴的なニーズは、「人間関係の改善」、「家族・恋人の大切さ」、「思いやり・他者理解」等である。

初入高校生に特徴的なニーズは、「学びたい・知りたい」、「内省・反省・再犯防止のため」等である。比較的原点に近い位置に付置されていることから、これらのニーズの他は、以下と共通したニーズがあると言える。

「ためになる」、「蔵書への批判」、「少年鑑別所の処遇を通して興味を持ったから」等は、群にかかわらない、共通したニーズと考えられる。

ウ その他

① 女子少年に特徴的なニーズについて

付置図4-7、4-8から、女子少年に特徴的なニーズは、内容としては、「映画・マンガの原作本」、「性・妊娠関係の本」、「楽しい本」、「謎解き絵本」、「恋愛小

説],「ケータイ小説」,「詩集」等,理由としては,「不安だから」,「少年鑑別所の処遇を通して興味を持ったから」,「保健・衛生への興味」等であることが分かる。

② 満足度の低い者(楽しくない,ためにならないとした者)のニーズ

図書に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは,「新しい本・若者向けの本」,「読書習慣がない」,「息抜き・リラックスしたい」,「古い(不満)」,「苦手だから・よく知らないから」,「人間関係の改善」,「感動できる・感性が豊かになるから」等である。少年鑑別所の日課全体に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは,「人気本・ベストセラー」,「資格図書」,「恋愛小説」,「もっと詳しく」,「図書交換(不満)」,「家族・恋人の大切さ」等である。

③ 「非行等から立ち直った人に関する本」,「モデル・手本」等のニーズについて

年少少年,年中少年等を中心に,「非行等から立ち直った人に関する本」,「モデル・手本」等の回答が得られた。非行等から立ち直った人の語りを聞きたい,モデルとしたいといった希望は,図書だけでなく,講話に関する問いにおいても挙がっているが,その一部は,「回復者」というよりも「成功者」というニュアンスが強調されていた。

④ 「他の少年にも勧めたい・教えてあげたい」というニーズについて

年少少年,年長少年等に見られた「他の少年にも勧めたい・教えてあげたい」というニーズは,後述する集団活動やコミュニケーションに係るニーズの強さ等も考慮すると,育成的処遇を充実させる方向性の一つとして活用できる可能性がある。例えば,施設調査では,「自分の好きな本を誰かに紹介するつもりで」絵にするとといった取組の報告があり,発表会などへの発展も検討されているようである。同趣旨の取組は,上記少年のニーズに合致するものであり,自己表現,周囲とのコミュニケーション,考えを伝える練習,他者の意見を取り入れる機会等,育成的処遇としても有意義であろうし,貴重な意図的行動観察場面にもなると考えられる。

⑤ 原作本に関するニーズについて

年中少年を中心に,「少年鑑別所の処遇を通して興味を持ったから」等の理由で,原作本を求める声が見られた。施設調査においても,原作本等の整備に重点を置いている旨回答している施設が見られたが,こうした取組が少年のニーズに合致したものであることが示されただけに,今後は,より一層,他の日課との関連付けや発展的学習への対応を意識して図書・資料等の整備を進めることが望まれる。

7 放送

(1) 取組状況及び満足度

ア 放送取組状況及び満足度 (表54)

何らかの放送日課を経験した旨回答があった者は784名であり、その内訳は、映像放送（教養）（710名、90.6%）、映像放送（娯楽）（704名、89.8%）、ラジオ放送（631名、80.5%）の順である。

表54 放送日課満足度及び相関係数

	N	平均	標準 偏差	年齢	入所回数	楽・放送全	ため・放送 全
映像放送 楽	704	4.50	0.89				
(娯楽) ため	683	4.02	0.91	-0.024	-0.022	.562 (**)	.256 (**)
映像放送 楽	710	3.78	1.10				
(教養) ため	693	4.62	0.65	-0.032	-0.032	.291 (**)	.480 (**)
ラジオ放送 楽	631	4.03	1.02				
ため	612	3.77	0.98	-0.095 (*)	-0.098 (**)	.479 (**)	.275 (**)
録音教材放送 楽	456	3.34	1.05				
ため	443	4.35	0.89	-0.092 (*)	-0.061	.370 (**)	.536 (**)
音楽放送 楽	492	4.34	0.88				
ため	475	3.60	0.99	.012	.064	.492 (**)	.289 (**)
放送全体 楽	784	4.36	0.79				
ため	784	4.32	0.77	.002	.015	.247 (**)	.430 (**)
				-0.065	-0.060	.350 (**)	.263 (**)
				-1.09 (*)	-0.023	.309 (**)	.501 (**)
				-0.054	.007	.463 (**)	.310 (**)
				-0.003	.031	.261 (**)	.351 (**)
				-0.049	-0.015	1	.471 (**)
				-0.015	-0.066	.471 (**)	1

**：相関係数は 1% 水準で有意（両側）。 *：相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

年齢との関係では、映像放送（教養）に対する楽しかったか否か、ためになったか否かの満足度両方で、録音教材放送に対するためになったか否かの満足度で、年齢と有意な負の相関関係が示された。また、入所回数との関係においても、映像放送（教養）に対する楽しかったか否かの評価で有意な負の相関が見られた。

その他としては、15の回答が得られた。内容は、薬物や交通等の問題性に関するものや性など保健に関するものが3ないし2で多かった。

イ 放送全体の満足度と各内容の満足度との関係

各放送が放送全体の満足度にどのように影響しているか検討するため、各放送の満足度を説明変数、放送全体の満足度それぞれを従属変数として、ステップワイズ法による回帰分析を行った（表55, 56, 投入基準： $p < .05$, 除去基準： $p < .10$ ）。

放送全体が楽しかったか否かについては、映像放送（娯楽）、ラジオ放送、音楽放送の楽しかったか否かの満足度、映像放送（教養）の両方の満足度が正の影響を示している。

放送全体がためになったか否かについては、映像放送（教養、娯楽）、録音放送、ラジオ放送のためになったか否かの満足度、音楽放送の楽しかったか否かの満足度が正の影響を示している。

なお、映像放送（教養）がためになったか否かが、放送全体が楽しかったか否かに、音楽放送が楽しかったか否か、放送全体がためになったか否かにそれぞれ影響

表55 楽しかったか否か (放送全体)

	標準化係数 β	t 値	有意確率
楽・映像放送 (娯楽)	.343	7.750	.000
楽・ラジオ放送	.219	4.872	.000
楽・音楽放送	.214	4.854	.000
楽・映像放送 (教養)	.170	3.804	.000
ため・映像放送 (教養)	.117	2.799	.005
	R	.724	
	R ²	.525	
	Adj.R ²	.517	

表56 ためになったか否か (放送全体)

	標準化係数 β	t 値	有意確率
ため・映像放送 (教養)	.293	5.789	.000
ため・映像放送 (娯楽)	.245	5.383	.000
ため・録音教材 放送	.206	3.485	.001
ため・ラジオ放 送	.129	3.245	.001
楽・音楽放送	.105	2.216	.027
	R	.684	
	R ²	.467	
	Adj.R ²	.459	

を与えているだけに、楽しかった、ためになった両方の視点でバランスよく放送内容の充実を図る必要性が示唆される。

(2) 自由記述に係る分析

放送に係る自由記述の内容は表V (巻末資料参照) のとおりである。

ア カテゴリの特徴

回答者数は266名、合計回答数は315であった。

「あったらよかったと思う放送」に係る回答のうち、内容欄の記述は12のカテゴリに、理由欄の記述は20のカテゴリに分類された。

内容としては、「音楽が聞きたい」が191名 (60.6%) で最も多く、以下、「寝る前に音楽」69名 (21.9%)、「リラックスできる音楽」34名 (10.8%)、「ラジオ」26名 (8.3%)、「最近・最新の内容」20名 (6.3%) の順で多かった。

理由としては、「リラックス、落ち着く、ストレス・不安感解消」が98名 (31.1%) で最も多く、以下、「眠れないから」69名 (21.9%)、「日課や生活のつらさ」43名 (13.7%)、「励まされる・元気が出る」40名 (12.7%)、「楽しいから・好きだから」37名 (11.7%) の順で多かった。

イ コレスポネンダ分析

各カテゴリの回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンダ分析を実施し、付置図を作成した (巻末資料、付置図5-1~5-7参照)。

放送については、上記2(4)ウ及びオより、学年・学歴及び入所回数に注目する必要があるが、小学生の自由記述数が単独の群として扱うには少なすぎることから、年齢、入所回数及び4群について検討することとした。

① 年齢による3群について (付置図5-1)

年少少年に特徴的なニーズは、「自由・選択・リクエスト」、「ビデオ」、「子ども

も向けの映画・アニメを増やす」等である。「リラックス, 落ち着く, ストレス・不安解消」及び「好きなものを自由に選びたいから, 視聴したくないとき(内容)もあるから」については, 年少少年に特徴的ではあるものの, 原点にも近く, 他の年齢層においても一定以上の割合で存在するニーズと考えられる。

年少少年と年中少年に共通するニーズは「流行の音楽」等である。また, 年少少年と年長少年に共通するニーズは「寝る前に音楽」, 「リラックスできる音楽」, 「流行に遅れる」, 「日課や生活のつらさ」等である。

年中少年に特徴的なニーズは, 「時間増」, 「朝に音楽」, 「楽しいから・好きだから」, 「進路・将来について考える」, 「仕事への興味」等である。

「社会の情報を知りたい」旨のニーズは, 年中少年と年長少年に共通している。

年長少年に特徴的なニーズは, 「ニュース」, 「最近・最新の内容」, 「若い人向けの曲が聞きたい」, 「内省・反省が進む」, 「ためになる」, 「古い・なじみがない(不満)」, 「その他の不満」等である。

原点付近に付置されている「音楽が聞きたい」, 「励まされる・元気が出る」, 「眠れないから」等については, 年齢層を問わない共通のニーズと言える。

② 初入・再入及び4群について(付置図5-5)

初入・再入にかかわらず, 有職者は近接した付置であり, 有職者に特徴的なニーズがあると考えられる。すなわち, 「ラジオ」, 「テレビ」, 「寝る前に音楽」, 「仕事への興味」, 「眠れないから」, 「古い・なじみがない(不満)」等である。

初入中学生と再入無職者は近接しており, 「ビデオ」, 「流行の音楽」, 「子供向けの映画・アニメを増やす」, 「内省・反省が進む」, 「自由・選択・リクエスト」, 「好きなものを自由に選びたいから, 視聴したくないとき(内容)もあるから」等のニーズを有している。

初入無職者及び初入高校生以上については, ともに原点近くに付置しており, 「音楽が聞きたい」, 「最近・最新の内容」, 「励まされる・元気が出る」, 「リラックス, 落ち着く, ストレス・不安解消」等の共通のニーズを有している。

再入中学生については, 当該対象者の回答の少なさから枠外に付置された。ニーズとしては, 「内省・反省が進む」, 「流行の音楽」, 「子ども向けの映画・アニメを増やす」等が該当する。

ウ その他

① 満足度の低い者のニーズ

放送に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは, 楽しくないためにもならないとした者では, 「社会の情報を知りたい」, 「好きなものを自由に選びたいから, 視聴したくないとき(内容)もあるから」, 「量・種類・方法への不満」等であり, 楽しかったがためにはならなかったとした者では, 「時間増」, 「進路・将来について考える」, 「仕事への興味」等である。

少年鑑別所の日課全体に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは、「好きなものを自由に選びたいから、視聴したくないとき（内容）もあるから」、「内省・反省が進む」等である。

② 「古いなじみがない（不満）」、「その他の不満」等の不満

「古いなじみがない（不満）」、「その他の不満」等のカテゴリには、「古い音楽ばかり流されるのは意味が分からない。」「大抵がスローテンポで眠くなる。」等の回答が含まれる。

ここで、彼らが不満の対象としている内容は、クラシック等と思われる。クラシックが聞きたい旨回答している少年もいるものの、経験的に考えても、被収容少年には、クラシック等は、クラシック等の素養や基礎知識が乏しい者が多いと考えられるだけに、オリエンテーションや動機付け等を十分に行うことが期待される（「意味が分からないから聞きたくない」という言葉は、裏を返せば「意味が分かれば聞く」ということになろう。）。

例えば、作曲家の人物・人生等についてオリエンテーションした上で放送したり、視覚障害を持ちながらもヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝した辻井伸行氏のドキュメンタリー視聴等に合わせて放送したりするなどの工夫が考えられる。もっと親しみやすく、娯楽放送等で、クラシック等を題材とした映画・アニメ等を視聴させたり、図書等を整備したりすることも、音楽放送への導入ないし発展として有効であろう。

③ 歌を流してほしい旨の希望

「曲だけでなく、歌を流してほしい」という趣旨の回答も多かった。インストルメンタル（音なし）の放送に対する不満である可能性が考えられる。被収容少年のニーズとしては歌付きの音楽を流してほしいという意見が圧倒的であった。

④ 就寝前の音楽放送に対する希望

不安や緊張等から眠れないとして、就寝前にリラックスできる音楽を流してほしい旨を記載する回答が非常に多かった。少年鑑別所処遇規則第2条に「少年を明るく静かな環境に置いて少年が安心して審判を受けられるようにし」とあるところ、選曲、ボリューム、放送時間、希望しない少年への対応等に配慮した上で、支障がない場合には、実施について検討する余地があるように思われる。

⑤ 教養と娯楽のバランスについて

ためになる内容に対するニーズがある一方で、「ためになる放送もいいけど、そんなのばかりではストレスがたまるから。楽しいテレビを見たら、ストレス解消になるし、明日も頑張ろうと思えるから。」等の回答も多かった。図書及び視聴覚教材の整備に係る施設調査において、各施設が工夫を凝らしつつも困難・課題として挙げていた娯楽教材と教養教材のバランスを取ることや、娯楽的要素を含んだ良質な教養教材を選定すること等の難しさと重要さが、被収容少年のニ

ズからも確認された。

8 運動・レクリエーション

(1) 取組状況及び満足度 (表57, 58)

運動・レクリエーションの参加種目については、被收容收容少年の自由記述による回答をカテゴリ化したものであるため、他の種目とは異なる集計方法を取った。各カテゴリと楽しかったか否か、ためになったか否かの評定によるクロス表を作成し、 χ^2 検定を行った。

楽しかったか否かについては、1%水準で有意差が見られた ($\chi^2(60) = 373.858$, $p = .000$)。ためになったか否かについては、有意傾向にとどまった ($\chi^2(60) = 77.639$, $p = .062$)。調整済み標準化残差を見ると、楽しかったか否かについては、楽しかった、少し楽しかったに回答が集中している種目が多く、満足度の高さがうかがわれる。野球・キャッチボール等、サッカー、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、卓球、レクリエーション等で特に顕著である。室内・屋内運動、エアロビクス等、ランニング等では、楽しくなかった、あまり楽しくなかった等と回答した者が比較的多い。

ためになったか否かについては、ためになった、少しためになったを選択している者の割合が多く、全体的な満足度は高いと考えられる。楽しかったな否かにおいては、やや評価の低かった筋力トレーニング及びランニング系の種目において満足度が高いことが特徴的である。

(2) 自由記述に係る分析

運動に係る自由記述の内容は表VI (巻末資料参照) のとおりである。

ア カテゴリの特徴

内容としては、「試合・大会」が91名 (20.6%) で最も多く、以下、「サッカー」77名 (17.4%)、「野球」68名 (15.4%)、「バスケットボール」53名 (12.0%)、「屋外運動」33名 (7.5%) の順で多かった。

理由としては、「楽しいから・好きだから」が163名 (36.9%) で最も多く、以下、「運動量が多いから」86名 (19.5%)、「運動内容・方法への不満」57名 (12.9%)、「試合・競争」53名 (12.0%)、「コミュニケーション・チームワーク」49名 (11.1%) の順で多かった。「運動内容・方法への不満」には、「テレビの体操じゃ運動にならない。外で体を動かしたい。」、「アップに時間が掛かって、球技自体は5分しかできなかったから。」、「同じ運動ばかりやから。」等が含まれる。

イ コレスポネンス分析

各カテゴリの回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンス分析を実施し、付置図を作成した (巻末資料、付置図6-1~6-7参照)。

表57 運動・レクリエーション：
楽しかったか否か

	楽しく なかった	あまり 楽しく なかった	どちら でもな い	少し楽 しかった	楽しか った	合計
野球・ キャッチ ボール等	0 0.0% -1.9	4 1.8% -0.5	1 0.4% -4.4	33 14.6% -2.7	188 83.2% 5.4	226 100.0%
サッカー	0 0.0% -1.4	2 1.5% -0.6	6 4.4% -1.4	21 15.4% -1.8	107 78.7% 2.9	136 100.0%
バスケット ボール	0 0.0% -1.0	0 0.0% -1.3	1 1.5% -1.9	12 17.9% -0.7	54 80.6% 2.3	67 100.0%
バドミント ン	0 0.0% -1.1	0 0.0% -1.4	2 2.5% -1.8	9 11.1% -2.3	70 86.4% 3.7	81 100.0%
バレーボー ル	0 0.0% -0.9	0 0.0% -1.2	1 1.7% -1.7	7 11.9% -1.8	51 86.4% 3.2	59 100.0%
テニス	0 0.0% -0.6	0 0.0% -0.8	1 4.0% -0.7	7 28.0% 0.8	17 68.0% 0.0	25 100.0%
卓球	0 0.0% -1.7	0 0.0% -2.2	7 3.9% -1.9	38 21.1% -0.1	135 75.0% 2.3	180 100.0%
フリスビー 系	0 0.0% -0.8	0 0.0% -1.0	0 0.0% -1.9	11 26.2% 0.8	31 73.8% 0.9	42 100.0%
縄跳び	0 0.0% -0.6	0 0.0% -0.8	0 0.0% -1.5	11 42.3% 2.6	15 57.7% -1.1	26 100.0%
屋外運動	0 0.0% -0.7	0 0.0% -0.9	0 0.0% -1.7	8 23.5% 0.3	26 76.5% 1.1	34 100.0%
室内・屋内 運動	10 5.6% 5.3	14 7.8% 5.4	49 27.4% 10.8	61 34.1% 4.4	45 25.1% -12.9	179 100.0%
エアロビク ス等	6 4.2% 3.1	8 5.6% 2.8	21 14.6% 3.4	30 20.8% -0.2	79 54.9% -3.4	144 100.0%
筋力トレー ニング等	2 1.5% 0.2	6 4.5% 1.8	13 9.7% 1.0	44 32.8% 3.4	69 51.5% -4.2	134 100.0%
ランニング 系	2 5.3% 2.2	0 0.0% -0.9	3 7.9% 0.1	11 28.9% 1.1	22 57.9% -1.3	38 100.0%
レクリエー ション	0 0.0% -0.9	0 0.0% -1.1	2 3.8% -1.0	7 13.2% -1.5	44 83.0% 2.4	53 100.0%
その他	0 0.0% -1.1	0 0.0% -1.5	6 6.7% -0.3	14 15.6% -1.4	70 77.8% 2.1	90 100.0%
合計	20 1.3%	34 2.2%	113 7.5%	324 21.4%	1023 67.6%	1514 100.0%

※上段：度数，中段：行%，下段：調整済み標準化残差

表58 運動・レクリエーション：
ためになったか否か

	ため になら なかった	あまり ため になら なかった	どちら でもな い	少した めにな った	ため にな った	合計
野球・ キャッチ ボール等	1 0.5% 0.0	1 0.5% -1.2	37 16.7% 1.0	63 28.5% -0.8	119 53.8% 0.3	221 100.0%
サッカー	0 0.0% -0.8	1 0.8% -0.6	26 19.5% 1.7	40 30.1% -0.2	66 49.6% -0.8	133 100.0%
バスケット ボール	0 0.0% -0.6	1 1.5% 0.2	10 15.2% 0.1	17 25.8% -0.9	38 57.6% 0.8	66 100.0%
バドミント ン	0 0.0% -0.6	1 1.3% 0.0	14 18.2% 0.9	25 32.5% 0.3	37 48.1% -0.9	77 100.0%
バレーボー ル	0 0.0% -0.5	1 1.7% 0.3	10 16.9% 0.5	17 28.8% -0.3	31 52.5% -0.1	59 100.0%
テニス	0 0.0% -0.3	0 0.0% -0.6	3 12.0% -0.4	11 44.0% 1.5	11 44.0% -0.9	25 100.0%
卓球	0 0.0% -1.0	3 1.7% 0.6	29 16.8% 0.8	54 31.2% 0.2	87 50.3% -0.7	173 100.0%
フリスビー 系	0 0.0% -0.4	0 0.0% -0.7	10 24.4% 1.8	11 26.8% -0.5	20 48.8% -0.5	41 100.0%
縄跳び	0 0.0% -0.3	0 0.0% -0.6	5 20.0% 0.8	9 36.0% 0.6	11 44.0% -0.9	25 100.0%
屋外運動	0 0.0% -0.4	0 0.0% -0.7	3 8.8% -1.0	11 32.4% 0.2	20 58.8% 0.7	34 100.0%
室内・屋内 運動	5 2.8% 4.8	4 2.2% 1.2	20 11.2% -1.4	68 38.0% 2.3	82 45.8% -2.0	179 100.0%
エアロビク ス等	1 0.7% 0.4	2 1.4% 0.1	20 14.0% -0.2	50 35.0% 1.2	70 49.0% -1.0	143 100.0%
筋力トレー ニング等	0 0.0% -0.8	2 1.5% 0.3	5 3.8% -3.7	35 26.5% -1.1	90 68.2% 3.7	132 100.0%
ランニング 系	0 0.0% -0.4	0 0.0% -0.7	2 5.3% -1.7	8 21.1% -1.3	28 73.7% 2.6	38 100.0%
レクリエー ション	0 0.0% -0.5	1 1.9% 0.4	8 15.1% 0.1	14 26.4% -0.7	30 56.6% 0.5	53 100.0%
その他	0 0.0% -0.7	2 2.2% 0.8	16 17.8% 0.9	24 26.7% -0.9	48 53.3% 0.1	90 100.0%
合計	7 0.5%	19 1.3%	218 14.6%	457 30.7%	788 52.9%	1489 100.0%

※上段：度数，中段：行%，下段：調整済み標準化残差

運動・レクリエーションについては、上記2(4)イ及びオより、性別及び入所回数について検討することとした。

① 性別及び4群について (付置図6-4)

男子中学生以下に特徴的なニーズは、「水泳」、「集団運動」、「自由行動」、「経験があるから・得意だから」、「本格的にやりたい」等である。

男子の中学生以下と高校生以上に共通するニーズは、「自由・選択」である。

男子高校生以上に特徴的なニーズは、「ラグビー」、「筋力トレーニング」、「回数・頻度増」である。

男子無職者に特徴的なニーズは、「マラソン」、「バドミントン」、「柔道等」、「やる気がでる・達成感がある」、「設備の活用」である。「設備の活用」には「ゴールがあるのだから、もっと使った方がいい。」、「体育館があるから。」等の回答が含まれる。

男子有職者に特徴的なニーズは、「実施方法の工夫」、「試合・大会」、「レクリエーション」、「ドッジボール」、「種類の少なさへの不満」、「夏だから・暑いから」等である。「実施方法の工夫」には、「何の運動をするのかを教えてください。やりたくない運動までやらなくてもすむから。」等の回答が含まれる。

「レクリエーション」、「種類増」、「運動内容・方法への不満」等は、男子無職者・有職者、女子無職者・中学生に共通するニーズである。「運動内容・方法への不満」には、「日によって楽しいときとつまらないときの差が大きかった。」、「何も話せないからつまらない。運動のときくらい息抜きが必要でしょう。」等の回答が含まれる。

女子高校生以上は、「ダンス」、「運動が苦手な人のために」、「誰でもできる」等の希望が強く、女子有職者は、「室内運動」、「楽しいから・好きだから」、「健康維持のため」等の希望が強いことが分かる。女子無職及び女子中学生以下は原点に程近い位置に付置されたため、各群に共通するニーズの充足が彼女らのニーズへの対応となろう。

すなわち、「屋外運動」、「リレー・陸上」、「野球」、「バスケットボール」、「本格的な運動（硬式球使用、正式ルール等）」、「新奇性への興味」、「試合・競争」、「ストレス解消・リラックス」等が、群を問わない共通のニーズと言える。

総じて、特に男子少年において、集団活動や競い合うような内容、運動量の多い内容等に対する希望が強い。女子少年においては、ダンス等の特徴的内容のほか、運動が苦手な者でも楽しみやすい内容を期待する様子がうかがわれる。男女や学生、有職無職等にかかわらず、ストレス解消やリラックス、そのためにも屋外での活動したい旨を希望する声強い。

② 初入・再入及び4群について (付置図6-5)

初入の中学生以下及び無職者は原点付近に位置しており、他の群と共通した

ニーズを持っていると考えられる。「屋外運動」,「バスケットボール」,「卓球」,「水泳」,「試合・競争」,「ストレス解消・リラックス」等である。初入中学生以下に特徴的なニーズは「サッカー」,「運動内容・方法への不満」等である。初入無職者に特徴的なニーズは,「回数の少なさに対する不満」,「設備の活用」等である。

初入高校生以上に特徴的なニーズは,「バドミントン」,「ラグビー」,「ダンス」,「誰でもできる」,「運動が苦手な人のために」,「運動器具の整備等」等である。

初入有職者に特徴的なニーズは,「実施方法の工夫」,「試合・大会」,「種類増」,「経験があるから・得意だから」,「種類の少なさへの不満」等である。

再入中学生以下に特徴的なニーズは,「バレーボール」,「野球」,「他の少年にも勧めたい」,「本格的にやりたい」等である。

再入高校生以上に特徴的なニーズは,「筋力トレーニング」,「運動量が多いから」等である。

再入者のうち,無職者に特徴的なニーズは「運動時間延長」,「新奇性への興味」,「時間の短さへの不満」,有職者に特徴的なニーズは「健康維持のため」である。

「レクリエーション」,「屋外・居室外に出たい」,「知的・精神的鍛錬」等は,再入無職者及び有職者に共通するニーズである。

ウ その他

① 満足度の低い者のニーズ

運動・レクリエーションに対する満足度の低い者に特徴的なニーズは,ためにならないとした者では,「コミュニケーション・チームワーク」,「運動量が多いから」等であり,楽しくないとした者では,「屋外運動」,「屋外,居室外に出たい」,「自由・選択」等である。少年鑑別所の日課全体に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは,「自由行動」等である。

② 屋外運動等のニーズ

屋外運動の希望や,運動でなくとも屋外に出たいという希望が非常に多かった。職員配置や雨天,本人の特性等,通常の時期にも生じる制約以外に,新型インフルエンザの感染等を見極めるための単独処遇期間や,夏場ゆえの熱中症対策等もあり,本調査期間においては,屋外運動の機会が乏しかった可能性がある。しかし,少年健康管理規程では,例外について定めつつも,原則一日一時間程度屋外運動を行わせることとなっているだけに,それを育成的処遇として行うか否かはともかくとして,少年のニーズも汲むとともに,同規定の趣旨に沿った対応が求められよう。

9 行事・集団活動

(1) 取組状況及び満足度 (表59)

行事・集団活動全体の満足度については173名が回答した。しかし、具体的な種目に取り組んだ旨の回答は非常に少なかった。

取組種目の内訳は、七夕が最多であり24名、集団討議が13名、園芸が3名である。行事・集団活動全体の満足度がやや低いことと比較すると、具体的な種目に対する満足度は、楽しかった、ためになったいずれについても高い。

その他としては、55の回答が得られた。

内容は、書道ないし華道が11、集団テストが9、終戦記念日関係が6、避難ないし防災訓練が6などであった。少数意見ではあったが、金沢少年鑑別所のキリコ鑑賞等、季節や地域性をうまく取り入れた行事・集団活動が挙げられており、肯定的な評価を受けていた。

なお、行事・集団活動においては、各種目への取組数が限られているため、満足度の平均値を示すにとどめた。

(2) 自由記述に係る分析

行事・集団活動に係る自由記述の内容は表Ⅶ（巻末資料参照）のとおりである。

ア カテゴリの特徴

回答者数は92名、合計回答数は113であった。

「あったらよかったと思う行事・集団活動」に係る回答のうち、内容欄の記述は14のカテゴリに、理由欄の記述は14のカテゴリに分類された。

内容としては、「花火大会」が34名（30.1%）で最も多く、以下、「夏祭り」29名（25.7%）、「運動会」8名（7.1%）、「行事・集団活動の機会を増やす」7名（6.2%）、「食関係（食事会等）」7名（6.2%）、「集会・話し合い」6名（5.3%）の順であった。

理由としては、「季節感・暑いから」が62名（54.9%）で最も多く、以下、「今年はできなかったから」（少年鑑別所に入所していたため、イベント等に参加できなかったとするもの）40名（35.4%）、「楽しいから・楽しそうだから」16名（14.2%）、「周囲とのコミュニケーション・競争」14名（12.4%）、「息抜き・ストレス発散」12名（10.6%）の順が多かった。

調査期間が夏季であったため、回答がこれにかなり引きずられた可能性がある。別の時季に調査を実施すれば、別の結果が得られることも考えられるが、希望する

表59 行事・集団活動の満足度

	N	平均	標準偏差
こどもの日	楽	1	5.00
	ため	1	5.00
七夕	楽	24	4.33
	ため	24	4.29
園芸	楽	3	4.33
	ため	3	4.33
音楽会	楽	1	5.00
	ため	1	4.00
集団討議	楽	13	4.15
	ため	13	4.85
行事・集団活動全体	楽	173	3.45
	ため	173	3.66

具体的な内容は違えどその背景にあるニーズについてはある程度共通性があると推測される。

イ コレスポネンス分析

各カテゴリの回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンス分析を実施し、付置図を作成した（巻末資料、付置図7-1～7-7参照）。

行事・集団活動については、上記2(4)ア及びオより入所回数について検討することとした。

① 年齢による3群について（付置図7-1）

年少少年に特徴的なニーズは、「ボランティア」、「運動会」、「夏祭り」、「今年はできなかったから」等である。

年少少年と年中少年に共通するニーズは「体を動かしたい」等である。また、年少少年と年長少年に共通するニーズは「食関係（食事会等）」等である。

年中少年に特徴的なニーズは、「集会・話し合い」、「歌・音楽」、「七夕」、「ためになる」、「周囲とのコミュニケーション・競争」、「職員とのコミュニケーション」、「外に出たい」等である。「機会がない（不満）」は年中少年に特徴的ではあるが、原点に近く、他の年齢層の少年にも共通するニーズと言える。

「花火大会」、「励まされる・元気が出る」等は、年中少年と年長少年に共通するニーズである。

年長少年に特徴的なニーズは、「誕生会」、「プール」、「その他の季節の行事」、「つまらない・暇・寂しい」、「食事に変化を」等である。

原点付近に付置されている「行事・集団活動の機会を増やす」、「楽しいから・楽しそうだから」、「息抜き・ストレス発散」、「季節感・暑いから」、「その他の理由」等は、年齢層を問わない共通のニーズと言える。「その他の理由」には、「（茶道を希望）華道・書道があるから。」、「（大掃除を希望）みんなで使った鑑別所をみんなで掃除するのも学習になると思いました。」、「（ボランティアを希望）地域の人や社会のために役に立ちたいから。」等が含まれる。

② 初入・再入及び4群について（付置図7-5）

初入中学生以下に特徴的なニーズは、「レクリエーションの大会」、「楽しいから・楽しそうだから」、「体を動かしたい」等である。「夏祭り」等は初入中学生以下に特徴的ではあるが、原点付近に位置しているため、他の群と共通したニーズと考えられる。

「機会が少ない（不満）」は初入及び再入の中学生に共通のニーズである。再入中学生以下に特徴的なニーズは、「行事・集団活動の機会を増やす」、「プール」、「その他の季節の行事」、「職員とのコミュニケーション」である。

初入者については、高校生以上と有職者が近接して付置しており、両者のニーズは共通している。すなわち、「花火大会」、「周囲とのコミュニケーション・競

争」等である。「集会・話し合い」、「励まされる・元気が出る」等のニーズは、初入者のうち、高校生以上、有職者、無職者に共通するものである。

初入無職者に特徴的なニーズは、「ボランティア」等である。「ためになる」は初入無職者及び再入有職者に共通のニーズである。

再入無職者に特徴的なニーズは、「歌・音楽」、「七夕」、「息抜き・ストレス発散」、「食事に変化を」等である。再入者のうち、無職者及び高校生以上に共通するニーズは、「つまらない・暇・寂しい」、「外に出たい」等である。再入高校生以上に特徴的なニーズは、「食関係（食事会等）」等である。

再入有職者は原点付近に位置しており、各群と共通するニーズを持つと考えられる。すなわち、「季節感・暑いから」、「今年はできなかったから」等である。

ウ その他

① 女子少年に特徴的なニーズ

女子少年に特徴的なニーズは、「歌・音楽」、「ボランティア」、「誕生会」、「つまらない・暇・寂しい」、「職員とのコミュニケーション」、「機会が少ない（不満）」、「食事に変化を」等である。

② 満足度の低い者のニーズ

行事・集団活動に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは、「歌・音楽」、「つまらない・暇・寂しい」、「体を動かしたい」、「外に出たい」、「食事に変化を」等である。少年鑑別所の日課全体に対する満足度の低い者に特徴的なニーズは、「つまらない・暇・寂しい」、「食事に変化を」等である。

③ 「季節感・暑いから」等のニーズ

花火や水泳、夏祭り等に対する希望が多数あった。理由からは、「夏らしいことをしたい」、「暑さをしのぎたい」というニーズが把握できた。例えば、園芸の一環、教養の付与等として打ち水をしたり、地域の産業や伝統工芸として風鈴やうちわ等がある施設であれば、これらの作成等を種目に取り入れたりすることは、情操のかん養、地域文化の理解に資するであろうし、意図的行動観察としても活用できると考えられる。少年たちの望む活動そのものを実現することは種々の制約がある上、少年の健全育成の観点から適当ではない場合も多いが、彼らがある活動をしたいと望む背景にあるニーズを汲み取り、それを少年鑑別所における育成的処遇として適当かつ実施可能な種目への置き換えを図ることは、育成的処遇の充実化に際して意味のある視点と思われる。

④ 食事に関するニーズ

施設調査からは、季節の行事や食育等の取組に特別食の給与を絡める施設が多かったが、こうした取組が被收容少年のニーズにも合致したものであることがうかがわれた。さらに言えば、少年のニーズとしては、周囲とコミュニケーションを取れるような状態での食事を望むものも多かった。

10 講話

(1) 取組状況及び満足度

ア 講話への参加状況及び満足度 (表60)

表60 講話の満足度及び相関係数

	N	平均	標準 偏差	年齢	入所回数	楽・講話全	ため・講話 全	
マナー関係	楽	77	3.83	0.86	-100	.017	.724 (**)	.161
	ため	77	4.90	0.35	-015	-.022	.024	.266 (*)
保健・健康 関係	楽	70	3.71	0.85	-186	.083	.803 (**)	.261 (*)
	ため	70	4.77	0.42	.012	.012	.237	.471 (**)
地域の話 題	楽	26	3.96	0.77	-244	-.146	.520 (**)	.357
	ため	25	4.60	0.58	-.156	-.199	.058	.495 (*)
人間関係に ついて	楽	59	3.97	0.91	.174	.213	.735 (**)	.257
	ため	58	4.83	0.38	.045	-.030	.265	.511 (**)
命の大切さ について	楽	65	3.83	0.98	.134	.080	.832 (**)	.030
	ため	64	4.92	0.27	.046	-.087	.033	.312 (*)
薬物関係	楽	93	3.58	1.08	.014	.054	.812 (**)	.149
	ため	95	4.84	0.47	-.020	.047	.161	.533 (**)
交通関係	楽	59	3.71	1.10	.087	.137	.784 (**)	.082
	ため	59	4.80	0.52	.145	.138	.010	.502 (**)
就職関係	楽	89	4.03	0.95	-.180	.039	.735 (**)	.275 (**)
	ため	88	4.77	0.50	-.077	.116	.272 (*)	.545 (**)
講話全体	楽	233	3.55	0.99	-.047	.021	1	.537 (**)
	ため	234	4.24	0.97	-.019	-.004	.537 (**)	1

** : 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)。 * : 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)。

何らかの講話に参加した旨回答があった者は234名であり、その内訳は、薬物関係 (95名, 40.6%), 就職関係 (89名, 38.0%), マナー関係 (77名, 32.9%) の順である。

各講話の満足度、特にためになったか否かに関する満足度が高い。

各講話の満足度と講話全体の満足度の間では、時に楽しかったか否かに関して高い相関が見られる。

その他としては、7の回答が得られた。内容は、終戦記念日等の戦争に関するものが2、職員のメッセージ、人生について等の回答が一つずつあった。

イ 講話の満足度と各内容の満足度との関係

各講話が講話全体の満足度にどのように影響しているか検討するため、各講話の満足度を説明変数、講話全体の満足度それぞれを従属変数として、ステップワイズ法による回帰分析を行った (表61, 62, 投入基準: $p < .05$, 除去基準: $p < .10$)。

講話全体が楽しかったか否かについては、命の大切さについての講話に関する楽しかったか否かの満足度が、就職関係の講話に関するためになったか否かの満足度が正の影響を示している。講話全体がためになったか否かについては、就職関係の講話に関するためになったか否かが正の影響を示している。

講話全体が楽しかったか、ためになったかのいずれの満足度についても、就職関係の講話がためになったか否かの満足度が影響を与えていることは意義深い。各施設が、就労の準備に係る支援として、彼らのためになるような講話の準備を進めているが、こうした取組が講話に対する全体的な満足度をも高めることが期待できる。

表61 楽しかったか否か（講話全体）

	標準化係数 β	t 値	有意確率
楽・命の大切さ	.848	6.154	.000
ため・就職関係	.316	2.294	.042

R .890
R² .792
Adj.R² .754

表62 ためになったか否か（講話全体）

	標準化係数 β	t 値	有意確率
ため・就職関係	.545	2.252	.044

R .545
R² .297
Adj.R² .238

(2) 自由記述に係る分析

講話に係る自由記述の内容は表Ⅷ（巻末資料参照）のとおりである。

ア カテゴリの特徴

回答者数は66名、合計回答数は72であった。

「あったらよかったと思う講話」に係る回答のうち、内容欄の記述は17のカテゴリに、理由欄の記述は9のカテゴリに分類された。

内容としては、「少年院について」が28名（38.9%）で最も多く、以下、「保護司さんに保護観察について話してもらいたい」10名（13.9%）、「審判の流れや処分」8名（11.1%）、「より詳しく」8名（11.1%）、「仕事・進路について」7名（9.7%）、「非行等から立ち直った人の講話」7名（9.7%）の順で多かった。

理由としては、「将来・進路の準備」が34名（47.2%）で最も多く、以下、「自力困難」19名（26.4%）、「不安だから」17名（23.6%）、「ためになる」13名（18.1%）、「励まされる・勇気付けられる」6名（8.3%）の順で多かった。

イ コレスポネンス分析

各カテゴリの回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンス分析を実施し、付置図を作成した（巻末資料、付置図8-1～8-7参照）。

記2(4)においては、講話に係る満足度と、年齢等の被収容少年の諸特性との間には、特段の関係を見出せなかった。よって、ここでは各付置図から、特徴的に指摘できる事項を列記し、講話に係る被収容者のニーズを示す。

① 年少少年

「夜回り先生（水谷修）」、「励まされる・勇気付けられる」、「自力困難」

② 年中少年

「人付き合い」、「集団討議」

- ③ 年長少年
「回復者（成功者）の講話」, 「人生・仕事の手本にしたい・手本がほしいから」, 「被害者」, 「仕事・進路について」, 「薬物・酒・タバコ・性」
- ④ 高校生
「不安だから」, 「講話がない・少ない」
- ⑤ 高校中退者及び中卒者
「仕事・進路について」, 「人生・社会」
- ⑥ 無職者
「人生・仕事の手本にしたい・手本がほしいから」, 「仕事・進路について」, 「人生・社会」
- ⑦ 講話日課・楽しくなかった, ためにならなかった群
「薬物, 酒, タバコ, 性」, 「職員講話」, 「より詳しく」, 「ためになる」
- ⑧ 日課全体・楽しくなかった, ためにならなかった群
「薬物, 酒, タバコ, 性」, 「人生・仕事の手本にしたい・手本がほしいから」, 「人生・社会」

11 その他の日課について

設問は、「これまで答えてもらったほかに、あなたが参加した日課の中で、楽しかったと思うもの・・・」「これまで答えてもらったほかに、あなたが参加した日課の中で、ためになったと思うもの・・・」「これまで答えてもらったほかに、こんなものがあつたらよかったと思うもの・・・」という問い立てであったが、多くの回答が、上記3から10の日課と重複するものであり、十分に設問の意図を理解しないまま回答した者が多かったと考えられる。逆に、設問の意図を正しく理解した者については、上記3から10までの日課について特筆すべき楽しさやためになった感を抱いていたとしても、本設問ではそれを記載しなかったと考えられる。本設問における少年のニーズについての分析は、こうした留保設定の上でのものである。

(1) 楽しかった日課について

その他の楽しかった日課に係る自由記述の内容は表Ⅸ（巻末資料参照）のとおりである。

ア カテゴリの特徴

回答者数は294名、合計回答数は486であった。

「楽しかった日課」に係る回答のうち、内容欄の記述は16のカテゴリに、理由欄の記述は21のカテゴリに分類された。

内容としては、「運動」が142名（29.2%）で最も多く、以下、「娯楽DVD・VTR」84名（17.3%）, 「テレビ視聴」58名（11.9%）, 「読書」49名（10.1%）, 「はり絵」34名（7.0%）, 「日記・作文」25名（5.1%）の順で多かった。

理由としては、「好きだから・楽しいから等」が213名（43.8%）で最も多く、以下、「リラックス・落ち着く・すっきり等」112名（23.0%）,「体を動かせたから・汗をかけたから」59名（12.1%）,「ためになった・習慣が身に付いた」43名（8.8%）,「夢中で取り組めたから・頑張れたから・嫌なことを忘れられたから」28名（5.8%）,「自分を見つめる」26名（5.3%）の順で多かった。

イ コレスポネンセス分析

各カテゴリの回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンセス分析を実施し、付置図を作成した（巻末資料、付置図9-1~9-6参照）。

以下、年齢層ごとのニーズについて確認し、その他の付置図から、特徴的なニーズの把握を試みる。

① 年齢による3群（付置図9-1）

年少少年に特徴的なニーズは、「教養DVD・VTR」,「学習」,「面会・通信」,「余暇時間」,「素直な自己表現」,「ためになった・習慣が身に付いた」,「家族とのつながり」等である。

「好きだから・楽しいから等」,「感動・共感できたから」,「暇つぶし」等は、年少少年と年中少年に共通するニーズである。

年中少年に特徴的なニーズは「レクリエーション」,「日記・作文」,「はり絵」,「種類が豊富だったから」,「機会が少ないから」,「屋外に出られたから」,「自由・選択」等である。

「普段しない・したことがないことができたから」,「その他の理由」等は年中少年と年長少年に共通するニーズである。

年長少年に特徴的なニーズは、「職員とのコミュニケーション・指導・励まし」,「自分を見つめる」,「絵画・書道・創作系」,「達成感」,「集団だから」等である。

「運動」,「娯楽DVD・VTR」,「リラックス・落ち着く・すっきり等」は年齢層にかかわらず共通のニーズである。

② 学年及び学歴（付置図9-2, 9-3）

小学生は本設問には回答していない。中卒者及び高校中退者は、原点近くに位置しており、「好きだから・楽しいから等」,「リラックス・落ち着く・すっきり等」,「運動」,「はり絵」等、他の群と共通したニーズを有している。

大学生・短大生等に特徴的なニーズは「教養DVD・VTR」,「暇つぶし」等である。大学・短大中退者、その他の学生に特徴的なニーズは、「日記・作文」,「体力がつく（ついた）から」等である。

③ 性別及び入所回数（付置図9-4, 9-5）

付置図9-4によると、女子少年に特徴的なニーズは「音楽・ラジオ放送」,「絵画・書道・創作系」,「日記・作文」,「感動・共感できたから」,「素直な自己表現」等である。

以下付置図9-5も合わせて見ると、男子中学生に特徴的なニーズは、初入者については「学習」等、再入者については「面会・通信」、「家族とのつながり」等と言える。

男子高校生以上については、原点付近に位置し、「運動」、「リラックス・落ち着く・すっきり等」、「好きだから・楽しいから等」等の他群と共通のニーズがあるが、再入者に特徴的なニーズが「娯楽DVD・VTR」、「テレビ視聴」等であるのに対し、初入者に特徴的なニーズは「日記・作文」、「職員面接・講話」、「屋外に出られたから」等であるなどニーズに微妙な違いがうかがわれる。

男子有職者については「夢中で取り組めたから・頑張れたから・嫌なことを忘れられたから」等の課題取組に係るニーズが共通しているが、初入者では「体力がつく（ついた）から」、「ためになった・習慣が身についたから」、「教養DVD・VTR」、再入者では「職員とのコミュニケーション・指導・励まし」、「集団だから」、「達成感」、「自分を見つめる」等、ニーズの方向性は微妙に異なることが分かる。

男子無職者については、入所回数による違いは少なく、「娯楽DVD・VTR」、「テレビ視聴」、「入浴・食事」、「暇つぶし」、「好きだから・楽しいから等」、「リラックス・落ち着く・すっきり等」等のニーズを持つことが分かる。

④ 日課全体の満足度（付置図9-6）

日課全体に対して、楽しくなかった、ためにならなかったと否定的回答をしている群に特徴的なニーズは「運動」のみであった。裏を返すとその他の日課については楽しいとは受け止められていないようである。

(2) ためになった日課について

その他のためになった日課に係る自由記述の内容は表X（巻末資料参照）のとおりである。

ア カテゴリの特徴

回答者数は305名、合計回答数は496であった。

「ためになった日課」に係る回答のうち、内容欄の記述は20のカテゴリに、理由欄の記述は35のカテゴリに分類された。

内容としては、「教養・課題VTR」が96名（19.4%）で最も多く、以下、「作文・課題作文・読書感想文」69名（13.9%）、「日記」69名（13.9%）、「読書」44名（8.9%）、「内省」32名（6.5%）、「運動」25名（5.0%）、「職員等の面接」22名（4.4%）の順で多かった。

理由としては、「内省・考えの整理・非行の反省」が179名（36.1%）で最も多く、以下、「知った・学んだ」155名（31.3%）、「バリエーションの豊富さ」48名（9.7%）、「新しい・普段やっていないことができた」46名（9.3%）、「進路・将来」45名（9.1%）、「職員の指導・助言のおかげ」37名（7.5%）の順で多かった。

イ コレスポネンズ分析

各カテゴリの回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンズ分析を実施し、付置図を作成した（巻末資料、付置図10-1～10-6参照）。

以下、年齢層ごとのニーズについて確認し、その他の付置図から、特徴的なニーズの把握を試みる。

① 年齢による3群（付置図10-1）

年少少年に特徴的なニーズは、「録音教材」、「面会・通信」、「苦手克服・遅れ挽回」、「暇だから・暇つぶしできたから」、「目標・意欲向上」、「外部講師の助言・指導のおかげ」、「進学・復学」、「自分に境遇等が似ているから」、「自己表現ができた」等である。「自分に境遇等が似ているから」については、集団活動や、同年代、元非行少年等を題材とした各種教材がためになったことに対する感想である。

年少少年と年中少年に共通するニーズは、「楽しいから・好きだから」、「分かりやすい・詳しい」等であり、年少少年と年長少年に共通するニーズは、「リラックス・息抜き・不安解消」である。

年中少年に特徴的なニーズは、「自主学习・学習用教材」、「漢字練習」、「体を動かせた・運動不足解消」、「周囲とのコミュニケーション」、「勉強ができた」、「保健・衛生」、「交通関係」等である。

年中少年と年長少年に共通するニーズは、「被害者感情」、「掃除・洗濯・点呼」、新しい・普段やっていないことができた」等である。

年長少年に特徴的なニーズは、「職員講話」、「部外協力者による講話」、「就労準備の支援」、「進路・将来」、「体力向上」、「命の大切さを知りたいから（知ることができたから）」、「家族のありがたさ・感謝の気持ち」、「バリエーションの豊富さ」等である。

「運動」、「職員等の面接」、「教養・課題VTR」、「読書」、「はり絵」、「日記」、「職員の助言・指導のおかげ」、「習慣がついた」、「社会で活用したい（できる）」等は年齢層にかかわらず共通のニーズである。

② 初入・再入及び4群（付置図10-5）

中学生及び有職者については、初入者と再入者の付置のばらつきが大きく、初入、再入の別によるニーズの違いが大きいことが分かる。

中学生については、初入者に特徴的なニーズが「部外協力者による学習支援」、「面会・通信」、「楽しいから・好きだから」、「苦手克服・遅れ挽回」、「目標・意欲向上」、「外部講師の助言・指導のおかげ」、「進学・復学」、「分かりやすい・詳しい」等であるのに対し、再入者に特徴的なニーズは「暇だから・暇つぶしができたから」等である。初入者と再入者の間でモチベーションの違いの大きさがうかがわれる。再入者が興味を持てるような日課・種目の準備が期待される。

有職者については、初入者に特徴的なニーズが「自主学習・学習用教材」,「録音教材」,「内省」,「掃除・洗濯・点呼」,「体力向上」,「周囲とのコミュニケーション」,「新しい・普段やっていたことができた」,「習慣がついた」,「保健・衛生」,「他者理解・共感」,「自分の境遇に似ているから」,「バリエーションの豊富さ」等であるのに対し、再入者に特徴的なニーズは「部外協力者による講話等」,「就労準備の支援」,「職員等の面接」,「読書」,「仕事・資格」,「被害者感情」,「命の大切さを知りたいから（知ることができたから）」等である。初入者が、自主学習、内省、身辺整理等、自助努力によるものや、周囲とのコミュニケーションによるものを求める一方、再入者は、職員からの個別的働き掛けを期待していることが特徴的と言えよう。

なお、「少年鑑別所の生活全て」は、初入の中学生及び有職者に共通するニーズであり、彼らにおける満足度の高さや少年鑑別所の処遇の有効性がうかがわれる。

③ 日課全体に対する満足度（付置図10-6）

日課全体に対して、楽しくなかった、ためにならなかつたと否定的回答をしている群に特徴的なニーズは「就労準備の支援」,「仕事・資格」,「分かりやすい・詳しい」等であった。これらのニーズを尊重することは、日課全体の満足度の向上に資すると考えられる。

ウ その他

① 生活全般に関するニーズ

ためになった日課として、「掃除・洗濯・点呼」,「少年鑑別所の生活全て」等を挙げる少年が少なくなかった。また、「新しい・普段やっていたことができた」,「習慣がついた」といった記載は、こうした内容の反映と考えられる。

これらは、櫻井（2007）が言うところの一般的・必要的処遇と言えよう。育成的処遇が、「（一般的・必要的処遇を）適正に実施できる体制を確保した上で、健全育成の観点から、更にその処遇の質的向上を図る性質のものである。」（課長通知記5(1)）とされている背景には、被収容少年の権利保障等に対する配慮があることは当然であるが、一般的・必要的処遇に上記のような効果があることも踏まえてのことと思われる。

② 内省に関するニーズ

ためになった日課の内容に占める「内省」の割合は多くはないが、当該日課がためになったと思う理由としては、「内省・考えの整理・非行の反省」が最も多く挙げられており、被収容少年が、「自分自身を見つめなおしたい。」という強いニーズを持っていることが分かる。

育成的処遇の枠組みには、「自分自身を見つめなおすための処遇」という趣旨の内容がなく、それだけに、本研究においても「内省日課」について回答した施

設はなかった。しかし、広く一般の青少年においても、自分自身を見つめなおすことが彼らの健全育成につながると考えられるようなテーマを設定するとともに、任意性をしっかりと担保するなどして、問題点の改善や非行事実の存在を前提とした処遇にならぬよう留意したならば、「自分自身を見つめなおすための処遇」も、育成的処遇の枠組みに含めることが可能であるように思われる。もっとも、育成的処遇の中に、「自分自身を見つめなおすための処遇」という分類がなかったとしても、同種の処遇は、「イ 教養の付与等」及び「ウ 情操のかん養等」の中に、おおむね収めることが可能と考えられる。多数の被収容少年が、「内省・考えの整理・非行の反省」ができた旨の記載をしていることが、この証左となろう。

(3) あればよかったと思う日課について

その他のあればよかったと思う日課に係る自由記述の内容は表X I（巻末資料参照）のとおりである。

ア カテゴリの特徴

回答者数は179名、合計回答数は246であった。

「あったらよかったと思う日課」に係る回答のうち、内容欄の記述は28のカテゴリに、理由欄の記述は22のカテゴリに分類された。

「運動」が66名（26.8%）で最も多く、以下、「集団活動」61名（24.8%）、「時間・回数・頻度増」40名（16.3%）、「屋外（居室外）日課」25名（10.2%）、「学習日課」21名（8.5%）の順で多かった。

理由としては、「運動したい・鍛えたい」が45名（18.3%）で最も多く、以下、「ためになる」40名（16.3%）、「集団活動・周囲とのコミュニケーション」37名（15.0%）、「落ち着く・リラックス・気分転換等」31名（12.6%）、「好き・楽しい・気持ちいい」24名（9.8%）、「屋外に出たい」24名（9.8%）の順で多かった。

イ コレスポネンダ分析

各カテゴリの回答者の特徴について視覚的に把握するために、コレスポネンダ分析を実施し、付置図を作成した（巻末資料、付置図11-1～11-6参照）。

以下、年齢層ごとのニーズについて確認し、その他の付置図から、特徴的なニーズの把握を試みる。

① 年齢による3群（付置図11-1）

年少少年に特徴的なニーズは、「教養DVD・VTR」、「自由時間・休憩」、「生活に関すること」、「学習意欲」、「知りたいから」、「自力困難」、「集団活動・周囲とのコミュニケーション」、「屋外に出たい」等であった。

「運動」、「時間・回数・頻度増」、「希望・選択」、「落ち着く・リラックス・気分転換等」等は、年少少年と年中少年に共通の、「意見交換」、「自分を見つめる・再犯抑止」等は、年少少年と年長少年に共通のニーズと言える。

年中少年に特徴的なニーズは、「職員面接」、「個別指導」、「学習日課」、「テスト」、「図書」、「レクリエーション」、「絵・工作等」、「日課・課題を増やす」、「不安・孤独・悩み」、「元気・やる気が出る」、「好き・楽しい・気持ちいい」、「暇・つまらない」、「身の回りのことを自分でできるようになるため」等である。

「仕事・資格」、「行事・園芸・季節感」、「ためになる」等は、年中少年と年長少年に共通するニーズである。

年長少年に特徴的なニーズは、「職員による指導」、「PC」、「屋外（居室外）日課」、「内省・非行関係」、「就労意欲」、「頑張ることができるから、集中できるから、所内生活が充実するから」、「運動したい・鍛えたい」、「自分で決めたい・個別性」等である。

「筋力トレーニング」、「屋外（居室外）日課」、「音楽」、「ストレス解消・気晴らし」、「音楽・TV」等のニーズは、年齢層を問わず高いことが分かる。

② 性別（付置図11-4）

女子少年に特徴的なニーズは、「職員による指導」、「音楽」、「行事・園芸・季節感」、「日課・課題を増やす」、「落ち着く・リラックス・気分転換等」、「ストレス解消・気晴らし」、「元気・やる気が出る」、「好き・楽しい・気持ちいい」、「集団・周囲とのコミュニケーション」、「運動したい・鍛えたい」等である。

③ 日課全体に対する満足度（付置図11-6）

日課全体に対して、楽しくなかった、ためにならなかったと回答している群に特徴的なニーズは「職員面接」、「行事・園芸・季節感」、「絵・工作等」、「不安・孤独・悩み」、「元気・やる気が出る」、「身の回りのことを自分でできるようになるため」、「自分で決めたい・個別性」等である。

また、日課全体に対して、楽しかったが、ためにはならなかったと回答している群に特徴的なニーズは、「不眠解消」、「知りたいから」、「日課・課題を増やす」、「内省・非行関係」等である。

これらのニーズを再検討することは、日課全体の満足度の向上に資すると考えられる。

IV 考察

1 施設調査について

「ア 学習の支援等」については、教科の学習の支援として、学習用図書や自習用教材の整備にとどまらず、教員免許所持者等の部外協力者を活用するなどして、高頻度で個別ないし集団による指導が実施されている。各施設とも、対象者の年齢、学力等の個別事情や、動機付けを高めるための工夫等に意を配している。対象者としては義務教育課程にある者が中心である。

就労の準備に係る支援については、実施施設数は教科の学習に及ばないものの、多くの施設が重点的にプログラムの整備を進めており、ハローワーク職員やキャリアカウンセラー等の部外協力者の専門性を活用しつつ、職員が主体的に指導に当たっている。講話、ワークブックによる自主学習、視聴覚教材やパソコンソフトの活用、これらの組合せ等、様々な方法が試みられている。現在は男子少年、特に就労予定者等が主とした対象となっているようだが、年少少年や女子少年へも対象の拡大を検討している施設が多い。

「イ 教養の付与等」及び「ウ 情操のかん養等」については、図書、テレビ及びラジオの番組選定から、心情相談、講話、視聴覚教材の活用、レクリエーション、創作活動、ロールプレイング、行事、参加・体験型のプログラムなど、方法、内容は多岐にわたる。地域の社会資源を積極的に活用するとともに、法務教官としての専門性や個性を活かして、熱心に指導に当たっている様子がうかがわれる。

図書、視聴覚教材等についても、被収容少年のニーズに配慮しつつ、少年の健全育成の視点から様々な工夫がなされている。学習用、就労準備用、低年齢少年用等の図書、視聴覚教材の整備については、各施設が特に意を用いている様子がうかがわれる。一方で、被収容少年の年齢、学力、ニーズ等の幅広さへの対応や、特に視聴覚教材の整備に係る予算的制約等については、多くの施設に共通する懸案事項であることも分かった。

総じて、施設調査の結果からは、各施設が工夫を凝らした魅力的な育成的処遇を準備していることが分かった。

一方で、①準備している種目の数、内容、方法などについて、施設ごとのばらつきの大きさが目立った。逆に、同じような内容、方法の種目が、②育成的処遇中の異なる分類に振り分けられたり、または、③育成的処遇とされたり、意図的行動観察とされたりするなど、概念整理が十分ではない様子もうかがわれた。

①については、課長通知が発出されてから日が浅く、育成的処遇については未だ整備段階にある施設が少なくないと推測される上、施設の収容や職員配置、地域の社会資源の状況等の影響もあると考えられる。また、努力規定に関する内容については、施設や実施担当者の重視する領域によって、整備に際しての優先度や濃淡等に違いが生じることが予想される。ただし、義務規定とされている内容については、各施設ある程度共通した内容の種目を用意しておく必要がある。

②については、次のように考えられる。育成的処遇の分類は、当該処遇のねらいとするところによって、課長通知記4(2)の3類型のいずれに振り分けられるかが決まってくる。このことはもとより便宜的なものでしかなく、見方を変えれば、一つの種目を特定の類型に収めようとしても複数の目的の達成を結果することは、当然のこととして想定しうるものである。「処遇」であるからには、名称よりも中味の問題が重視されるべきであることは言うまでもない。

なお、②と③は次元の異なる問題と考えられる。③については、下記5で触れる。

2 被收容少年のニーズ及び施設調査結果との対応

(1) 全体について

少年鑑別所の日課全体の満足度については、楽しかったか否かについては、意見に散らばりがあるが、ためになったか否かについては、ほとんどの者が「ためになった」と認識していることが分かる。個別の日課に対する満足度も、ほとんどの日課がためになったと感じており、図書、放送、運動・レクリエーション等については、ためになり、かつ楽しかったと感じている。少年の満足度という観点から見て、少年鑑別所が提供している日課等が、十分な成果を挙げていると考えることができる。

(2) 年齢について

年齢層別に見ると、年中・年長少年と比較して、年少少年の満足度が高い。特に学習日課においてその傾向が目立つ。教科の学習に係る支援については、義務教育対象者に対するそれが、権利保障の観点から義務的に規定されているだけに、施設調査においても、各施設が義務教育対象者向けの種目、教材、図書等を優先的に準備していることが、被收容少年の満足度にも反映されたと考えられる。

その他の日課でも年少少年の満足度が高い背景には、各施設が、低年齢少年の入所を視野に各種目や図書、教材等を整備していることが影響している可能性がある。

年長少年は、年少・年中少年と比べて、ニーズについては具体的な内容が多い一方、満足度については全体的に低い傾向が見られた。年長少年は、年少者と比較して、少年鑑別所退所後に学校という受皿がない場合が多いといった事情があること等を踏まえると、就労準備に係る支援の更なる充実を始め、彼らのニーズに対応した育成的処遇の準備を進めることが期待される。

(3) 性別について

各日課における自由記述に対するコレスポネンス分析の結果からは、居室日課、図書、放送、運動・レクリエーション等で特徴的なニーズを有することや、処遇に対する反応性の高さが把握できる一方、時間を活用しきれていない可能性もうかがわれた。施設調査においては、分隔等の関係上、女子少年に対する種目の準備等が手薄になりがちである旨の回答があり、ニーズ調査と対応するものであった。女子少年向けの種目、教材等の整備を進めることを検討している旨、各施設が回答していたところ、本調査で把握された女子少年のニーズの活用が期待される。

(4) 入所回数について

初入者に比べ、再入者は全体的に満足度が低かった。特に、ためになった否かの評価でそれが顕著であった（少年鑑別所の日課全体、進路選択・就労に係る支援、放送等）。居室日課に関しては、楽しかったか否か、ためになったか否かの両方の満足度が低かった。また、自由記述については、例えば、進路選択・就労準備の支援等に係る回答では、初入者が進学・就職等、比較的具体的なニーズを持っているのに対して、再入者の展望はかなり漠然としており、受身的であった。また、居室日課等では、

「暇だから・暇つぶし」等のニーズが強く、時間を活用しきれていない様子がうかがわれた。一方で、非行の反省等に係る課題等を求めるニーズも目立っていた。

施設調査では、再入を理由として対象から除外する種目等はなかったが、再入者を特に意識して準備されている種目は1種目のみであった。一方で、視聴覚教材等を始めとして、再入者に対してマンネリが生じかねない旨の記載は複数の施設で見られた。再入者の満足度の低さには、こうした状況が反映されている面があると考えられる。

再入者については、少年院送致等の決定を受ける可能性が高い等の不安が大きく、それが漠然とした将来展望や受身的な態度、満足度の低さ等につながっていると考えられることもできるであろう。しかし、であればこそ、彼らのニーズに応じた種目や図書、自習用教材等を準備し、彼らの動機付けを高めて、次の処遇につなげることが期待される。

(5) 個々のニーズについて

個々のニーズについて見ると、不安感の解消やリラックスへのニーズが、居室日課、放送、運動・レクリエーションを始め、多くの領域で確認された。児童期後半から思春期以降青年期（少年鑑別所入所者が属する発達段階）の情緒の特徴として、「不安の強さや不安定さ、刺激に対する情緒的過敏性の増大」等は、常識的に認識される場所である。なおかつ、少年鑑別所入所者については、拘禁及び審判等に対する不安も当然高まると考えられるだけに、こちらが想像している以上に不安や緊張が高まっていると予測される。少年の言語化能力の乏しさや見えを張りがちな傾向等を踏まえると、不安や緊張が高まっても、その旨きちんと表現できない、しない者が多いと考えられるにもかかわらず、本調査で多数の回答があったことがその証左と言えよう。

その解消法として彼らが挙げている内容は様々であり、中には少年鑑別所における処遇としては不適當、不可能なものも多数あるが、彼らが直接的に希望する「〇〇をしたい。」という言葉の裏にあるこうした不安感や緊張感を解消したいというニーズを的確に把握した上で（こうした「見極め」は、まさに法務教官の専門性であろう。）、それ応える観護処遇を展開することは、少年の健全育成の理念にかなうものと言えよう。

また、少年の発達段階等に関しては、新奇性への希望に関するニーズも少年の回答から把握できた。例えば、居室内日課に満足した旨の回答として、「普段しないことだから」、「初めてやったから」等があった。新奇刺激への反応性の高さは、学童期から思春期・青年期前期に特徴的な心性と言える。また、慣れや飽きの生じやすいといった傾向のある者が非行少年には少なくないだけに、慣れや飽きを生じさせないような工夫も必要であろう。こうした点を踏まえて、各庁が日課等を整備しているゆえの上記回答と思われる。一方で、いわゆる自閉症スペクトラムを始め、新奇性に対して脆弱な面を持っている少年に対しては、ケースに応じて、日課予定表等を配布した

り、新奇の日課についてはオリエンテーションを入念に行ったりするなどの個別対応が求められる。

「暇である」、「課題がほしい」旨のニーズも目立った。理想的には、被収容少年が主体的に課題に取り組んだり、自分と向き合ったりすることが望まれるが、少年の発達段階や動機付け等を考慮すると、彼らの自主的な取組に全てを委ねることは難しいと考えられる。よって、少年鑑別所としては、できるだけ多くの課題や選択肢を準備し、適切な動機付けを図っていくことが望まれる。少年鑑別所の生活全体の満足度に対して、居室日課の満足度の影響が最も強かったことを考えると、居室内で被収容少年が自主的・主体的に取り組めるようなワークブック、ガイドブック等の有効性が指摘できる。施設調査からは、多くの施設がこうした教材の整備を進めつつある様子が見られるが、これに際して、本研究で示された少年のニーズが活用されることを期待する。

この他、「個別化」、「任意性」、「自力困難」、「コミュニケーション」（対職員・对被収容少年）、「手本にしたい・手本がほしいから」等は、様々な領域に関するニーズとして多数が回答していた。特に、「個別化」及び「任意性」については、課長通知記1及び記2(2)に示される「少年の・・・年齢、心身の発達状況等を踏まえた上で」、「理解と自発的な意志」に基づいて実施されるという育成的処遇の性質に合致するものである。よって、課長通知の趣旨を現実の処遇に適切に反映させるよう努めることが、少年のニーズに応じた育成的処遇の実現にもつながるものと考えられる。

3 課長通知記2「実施方針について」

課長通知記2には、育成的処遇の実施に係る4つの方針が示されている。同方針はいずれも、育成的処遇に限らず、観護処遇全般に係る原則的事項と言える内容であるが、課長通知記5(1)に示されるとおり、育成的処遇が、法令や各種規定等に基づいた基本的な観護処遇を「適正に実施できる体制を確保した上で、健全育成の観点から、更に処遇の質的向上を図る」性質のものであるだけに、通常の観護処遇を実施する際よりも、一層留意すべき事項と考えられる。

(1) 少年の入所事由等への配慮

施設調査の回答では、対象者を観護措置による入所者のみに限定する種目が79種目(16.5%)あった。

「観護措置以外の入所事由により収容中の少年の場合には、その収容目的を踏まえ、適当であると認める範囲において実施するものとする。」とされているところ、例えば、勾留状による入所少年の場合であれば、勾留目的を阻害することなく、かつ、本人が希望し、集団編成等の関係で問題がなければ、実施も可とされよう。

収容数、職員配置等の関係もあり、観護措置の少年を対象とすることすら難しい場合もあるが、少年の健全育成を目的とした処遇であるという前提を踏まえると、可

能な範囲で様々な入所事由の少年を対象とする方策も検討に値すると考えられる。

(2) 説明及び任意性の担保

育成的処遇は、「少年に対し、趣旨、処遇内容等を説明し、少年の理解と自発的な意志を確認した上で、実施するものとする。」されている。

オリエンテーションについては、各施設とも少年が分かりやすいようにと工夫して実施している様子がうかがわれた。しかし、少年のニーズ調査では、「進路や仕事の日課について、全く説明がないから、もっとアナウンスをきちんとやった方がいい。何をやっているかも分からないから、参加しようがない。」等の不満もあった。また、特に運動においては、参加するか否かを判断するためにも、事前に運動内容を教えてほしい旨の希望を複数名が記載していた。オリエンテーションは、参加の任意性を担保する上でも、動機付けを図る上でも、非常に重要な要素であるため、更なる充実が期待される。

任意性の担保については、その趣旨を考えると、実施に際してだけではなく、「途中離脱」に関しても、少年の意志の取扱いに配慮した運用が求められると考えられる。

少年のニーズ調査では、例えば、教科の学習に関して、「途中でやめるとかできたらいい。自分が馬鹿なのが悪いけど、全然分からないのに続けるのはちょっと嫌だった。」、放送に関して、「わけのわからない民族的な音楽をずっと流されていると、不気味だし、イライラしてくる。聞きたくないときは聞かなくてもよいようにしてほしい。」等の回答が得られた。少数意見ではあるものの、このように感じた少年もいるということなので、実施に際しての参加の意志確認にとどまらず、途中離脱についても可能とするような、より柔軟な枠組み、方法の検討も必要となろう。

一方で、例えば放送に関して、「もう1回見たいと思うものもあったから、リクエスト放送があったらいいと思う。」、「チャンネルを選べるようにしてほしい。でないと、見るか、見ないかの二択になってしまう。」等の回答が、学習に関して「自分でやりたい教科を選ばせてくれたから、頑張れました。」等の回答があった。こうした意見は、ニーズへの対応と任意性の担保の両方を求めるものと考えられる。課長通知において任意性の担保等が強調されているのは、単に対象者の法的地位等に配慮しただけではなく、任意性の担保が、彼らの健全育成に際して必要かつ有効な要素ゆえのことと言えよう。

少年の「理解と自発的な意志」の尊重、任意性の担保については、育成的処遇の要となる事項と考えられるだけに、オリエンテーションや参加及び途中離脱等に係る意志確認などについて充実を図ることが重要と思われる。

(3) 少年の心身の状況等を勘案した実施

「少年が安んじて審判を受けられるように」（少年鑑別所処遇規則第2条）心情安定や健康状態等に配慮することは、少年鑑別所における処遇の原則であるところ、育成的処遇においても当然その原則に則って行う必要がある（課長通知記2(3)）。

施設調査からは、本実施方針に係る消極的対応としては、体調不良者や精神的に不安定な者を実施対象者から除く旨の回答が得られた。積極的対応としては、心情不安定な者や収容が長期に及ぶ者、低年齢の者等を対象に、心情安定、拘禁感の緩和等を図るような育成的処遇を実施している旨の記載があった。

一方で、被収容少年に対するアンケート結果からは、不安感を払拭したい、リラックスしたいといったニーズを持っている少年たちが多数いることが分かっただけに、こうした少年のニーズ、心情を見極め、心情安定や不安感の緩和等に資する育成的処遇につなぐことも、法務教官の専門性を活かし、少年の心身の状況等を勘案した処遇を実現するために望まれるところである。

(4) 非行事実の存在を前提とした処遇・問題点の改善を図るような処遇の禁止

本実施方針は、少年鑑別所における被収容少年のほとんどは審判前の身分であるということを考えれば、処遇の大前提と言える事項であろう。

しかし、被収容少年のニーズや個別の事情に応じて、処遇の充実・個別化を進める場合、判断に迷う事例が生じることもあるようである。

施設調査では、本実施方針に触れるような事態が想定しにくい、教科の学習に係る支援について、「学習への関心を高めることをねらいとし、非行に言及するような指導とならないよう留意している。」、読み聞かせについて、「少年の非行事実があることを前提とし、少年の問題点の改善を図る」内容の図書は読まないように留意している。」等の記載が見られるなど、本実施方針について、非常に慎重な態度で向き合っている施設もあることが分かる。本実施方針については、厳密に考えれば考えるほど、現場施設として判断に迷う場合があることがうかがわれる。

こうした問題について考える際には、予防医学の一次予防、二次予防、三次予防の概念^(注)が参考になると思われる。謙抑的な見方からすれば、少年鑑別所における処遇は一次予防の範ちゅうにとどまるべきとされようが、例えば青少年育成施策大綱では、「早期発見、早期対応」といった記載があり、青少年の健全育成を図るためには、積極的に二次予防に踏み出す必要があるとの考えがうかがわれる。なお、三次予防については、疾病や障害について言えば、治療やリハビリテーションの領域であり、少年司法の枠組みにおいては、少年院や保護観察所等の機関が担当するものと考えられる。

実施・計画している処遇が、一次予防の範ちゅうにあるのか、二次予防に踏み込んでいるのかについて、慎重に検討しつつ、対象少年の「理解と自発的な意志」が尊重

^(注) 一次予防：疾病の発生を未然に防ぐ行為。健康増進，疾病予防。生活習慣の改善，生活環境の改善
健康教育による健康増進，予防接種による疾病の発生予防など。

二次予防：重症化すると治療が困難な疾患等を早期に発見・処置する行為。健康診断，人間ドック，
早期治療など。

三次予防：重症化した疾患から社会復帰するための行為。機能低下防止，治療，リハビリテーション。
各種治療，理学療法，作業療法，機能回復訓練，介護予防，職業訓練など。

されるような運用を行うことが望まれる。そのためには、便宜供与及び機会付与という観護処遇の原則に基づき、少年の健全育成に資するように、また、少年の求めに対応できるように、様々な選択肢を用意する一方で、上記(2)でも述べたとおり、オリエンテーションや、処遇への参加・途中離脱に係る意志確認等を充実させることが求められる。

4 意図的行動観察について

上記1で③「同じような内容、方法の種目が、育成的処遇とされたり、意図的行動観察とされたりする。」という状況に触れた。

また、施設調査の結果を見ると、育成的処遇の実施場面を意図的行動観察場面に充てる種目は244種目(51.0%)であった。また、全種目を意図的行動観察場面としている施設が16庁(30.8%)ある一方、全てを意図的行動観察場面としていない施設も10庁(19.2%)あった。同様の方法・内容の種目であっても、当該種目を意図的行動観察場面に充てるか否かの判断は、施設によって様々であった。

これらは、育成的処遇と意図的行動観察の関係性、位置付けに関する概念の共有あるいは周知が未だ熟していないことの反映と考えられる。

課長通知記3(3)には、「育成的処遇の場面における少年の行動については(中略)通常の生活場面における行動観察として記載するものとする。」とあり、櫻井(2007)も、「つまり、一般的・必要的な観護処遇を発展・充実させたものであるところの健全育成を考慮した観護処遇とは、意図的行動観察場面として活用できる場合や活用すべき場合があるとしても、基本的には、意図的行動観察とは独立した処遇である」ため、「『通常の行動観察』の重要な観察場面として記録されるべきである。」としている。

ところで、意図的行動観察は、収容鑑別の基準に「意図的に一定の条件が設定されている観察場面における行動・・・」と記されているように、「structured behavior observation(構造化された行動観察)」とでも英訳されるべき性質のものである。さらに、施設調査の結果を見ると、育成的処遇の多くは、「通常の行動観察」が対象とする一般的な生活場面と比較すると、多分に構造化された処遇であることが指摘できる。こうした理論的背景や実情を踏まえた上で、課長通知記5(2)「観護措置中の少年に対して行う育成的処遇のうち、収容鑑別における意図的行動観察に適するものについては、所要の手続きを設けた上で、意図的行動観察として実施するように努める。」に立ち帰ると、育成的処遇(の多く)については、貴重な意図的行動観察場面としてより積極的に活用していくことができるのではないかと考えられる。

施設調査結果を反映しつつ、育成的処遇と意図的行動観察の関係性や位置付けについて整理を試みたが、こうした作業は、育成的処遇の充実化、ひいては観護処遇の質の向上につながる検討、改善等を進める作業を円滑に行うことに資すると考えられる。引き続き、施設調査の実例を踏まえつつ、育成的処遇の枠組みや位置付けについて考察する。

5 育成的処遇の枠組み・位置付けについて

育成的処遇の枠組み・位置付けについて、櫻井（2007）は、一般的・必要的な処遇（オリエンテーション、相談・助言等の観護処遇の基盤をなす取組）との対比において整理している。

例えば、運動については、少年鑑別所処遇規則や少年健康管理規程の定めに従って実施している限りにおいては、一般的・必要的処遇と考えることが適当であろう。しかし、例えば施設調査の回答では、育成的処遇として運動に係る内容が多数計上されており、その多くで、運動に係るリラクゼーション効果について記載されていた。被収容少年のニーズ調査でも、リラクゼーションや、緊張感・不安感の緩和に係るニーズを有している少年が多数いることが確認できる場所、リラクゼーション効果を狙って実施される運動は、少年のニーズに合致し、心情安定等に資する処遇と言えよう。少年健康管理規程に基づいた「健康を保持するため」に行う運動による副次効果としての「心情の安定」とどまらず、「心情の安定」を主たる目的の一つとして運動を捉え直すと、育成的処遇として位置付けることも十分可能と考えられる。さらに、「体力測定」等の種目（釧路少年鑑別所、甲府少年鑑別所等）では、食事や将来の健康管理につなげることが目標とされているなど、少年健康管理規程に基づく運動の枠に収まらない取組が現に実施されている様子がうかがわれる。一方で、当然ながら少年健康管理規程に基づいた一般的・必要的処遇としての運動も同時に実施されている

このように、名称、実施形態等が同様の日課・種目であっても、一般的・必要的処遇として実施される場合もあれば、育成的処遇として実施される場合もあると考えられる。一般的・必要的処遇のくりにある内容を育成的処遇（の一環）として実施する場合には、課長通知記5(1)に示される育成的処遇の性格を踏まえて、一般的・必要的処遇の準備、担保を欠かさぬよう十分留意する必要がある。例えば、季節の行事（端午の節句）等と絡めるなどして育成的処遇として菖蒲湯を用意する場合、入浴自体は一般的・必要的処遇であるため、例えばアレルギー（単なる好き嫌いであっても構わない）等の理由で菖蒲湯に入ることは望まないが、入浴はしたいという少年がいた場合には、当然その希望を優先し、通常の入浴機会が担保されねばならない。施設調査では、「少年の選択意志やアレルギー体質なども考慮して、二種類の風呂を用意した。」（福岡少年鑑別所）等の回答があり、十分こうした点について配慮がなされている様子がうかがわれる。ここでは菖蒲湯を例に挙げたが、その他の処遇内容についても、一般的・必要的処遇と重なる内容については、育成的処遇としての当該処遇には参加を希望しないが、そうではない当該処遇には参加したいという少年に対して、一般的・必要的処遇としての当該処遇の準備を欠かさぬよう配慮することが望まれる。

本研究の結果や上述したような具体例を踏まえると、法的要請に基づく処遇（少年鑑別所処遇規則や少年健康管理規程等に規定された処遇）と、こうした規定のない裁量的処遇との対比で観護処遇を大分し、それぞれの中での育成的処遇の位置付けや、処遇場

面の構造化等に応じた行動観察の別等を勘案して観護処遇を整理することが可能であるように思われる。仮に表にまとめれば表69のようになろう。

育成的処遇、ひいては観護処遇全体の充実化を進めるに当たっては、概念と実務、法的規定等の関係性に対する整理が必要であるように思われる。なお、整理の仕方は様々であり、表63については、本研究結果に基づいた一案に過ぎない。

表63 観護処遇整理表

	法的要請	該当処遇の例示	育成的処遇としての特徴	行動観察の種類
一般的・必要 的処遇	実施しなければならない。 少年鑑別所処遇規則や少年健康管理規程などに規定されている。	図書・新聞・TV・ラジオ等の視聴等 教科の学習の支援（義務教育対象者に対する義務教育課程相当の学習） 身上相談の求めに応じた助言	育成的処遇・義務的規定	通常の 行動観察
		オリエンテーション 運動・入浴・理髪 健康診断 適当娯楽 等	一般的・必要の処遇としての同処遇が優先。場合によっては育成的処遇ないしその一部として位置付けることができる。努力規定。	
裁量的 処遇	実施するよう努める。	日記 レクリエーション行事 教科の学習の支援（上記以外） 就労の準備に係る支援 講話 ロールプレイング 疑似体験 等	育成的処遇として位置付けることができる。努力規定。	意図的 行動観察

6 その他の論点について

以下、論点となるべき事項について考察を行う。

(1) 講話の実施について

施設調査の結果からは、特に小規模施設を中心に、地域の社会資源等を活用した非常に魅力的な講話が多数実施されていることが分かる。また、少年のニーズ調査においても、講話を聞きたい旨の希望が多かった。一方で、収容人数の少なさ、男女の分隔、職員配置、部外協力者の都合等により、講話（特に部外協力者によるそれ）に関しては、他の育成的処遇にも増して、参加機会に恵まれない少年が多いようである。これについては、施設調査においても懸案事項として挙げられている。

講話形式を取ることの効果（対象者に合わせた柔軟な対応の可能性や質疑応答、臨

場感の違い、また、そもそも部外協力者等がわざわざ自分たちのために足を運んでくれているという実感は何物にも変えがたいものがあると思われる。)は、非常に大きいものと考えられる。しかし、講話の内容自体を知る機会が得られないということは、講話という形式による効果を得られないとしても大きな損失と考えられる。

講師及び参加者の同意を得た上で、講話の内容を録画・録音し、適宜の機会に放送等することで、講話に出席させられない者、タイミングの合わなかった者等に対しても、貴重な講話を聞く機会を付与することが可能と考えられる。講師の意向や個人情報保護等が担保されるならば、題材・内容によっては、施設間で共有することなども検討に値するようと思われる。

(2) 動機付けの問題

便宜供与的な処遇を前提とする少年鑑別所の処遇、とりわけ育成的処遇においては、少年の自由意志の尊重が大前提であり、本人の希望に基づいて処遇が実施される(「やりたい。」という希望だけではなく、「やりたくない。」「やめたい。」といった希望についても、さらに丁寧に扱っていくことが望まれることは既述のとおりである。)

しかし、本人の自主的で明確な意志表明を待つだけでは、潜在的なニーズを逃してしまう可能性も考えられる。少年の健全育成という観点で、いかにためになる処遇の選択肢を準備したとしても、少年たちが「面白そうだ。」「やってみよう。」とならなければ、せっかくの処遇内容が宝の持ち腐れになってしまう。

少年の意志に基づかない処遇や、いわゆる矯正教育の範ちゅうに踏み込むような処遇を行うことは許されないが、「動機付け」という形での働き掛けは、便宜供与的処遇のという前提に立つとき、むしろ適切な範囲において実施が期待されていると考えられる。

学習に係る動機付け関係の先行研究によると、桜井(1984)は、自己評価的動機付けモデルを提唱し、学習行動に係る内発的動機付けの下に、「自己決定感」と「有能感」を想定しており、それらを高めることが内発的動機付けを高めることにつながるとしている。また、市川(2001)は、「学習動機の2要因モデル」を提唱し、「外発・内発」という従来の軸を「学習内容の重要性」と「学習の功利性」という新たな2軸に分けている。同モデルは、学習目的と学習内容の関連性が高い「内容関与的動機(充実・訓練・実用)」と、その関係性が低い「内容分離的動機(関係・自尊・報酬)」を想定しており、動機付けの低い段階にある学生に対しては、内容分離的動機を刺激することが重要であるとする。例えば、「周りも頑張っているから自分もやってみよう」、「あの先生は面白いから、授業を受けてみよう」というような、集団や指導者との関係性に基づく関係志向動機により、学習のスタートラインにつかせ、徐々に内発的動機付けを高めて、自発学習へと導いていく方法を提案している。見館ら(2008)は、先行研究に基づき、「教員とのコミュニケーション」が「学習意欲」に

影響し、「学習意欲」や「友人とのコミュニケーション」が「大学生活の満足度」に影響し、「大学生活の満足度」が「将来のキャリア」に影響を与えるというモデルを作っている。このモデルはあくまで大学生及び大学生活等に関するものであるが、考え方の枠組み自体は他の状況にも広く応用の余地があると思料されるところ、育成的処遇においても、これらの要素をターゲットとした働き掛けは有効に機能する可能性がある。

また、自己効力感と学習達成に関する先行研究では、適切な目標設定やフィードバック、モデリングが、動機付けや自己効力感を高め、課題達成へ向けた行動を促進したり、困難な事態に粘り強く取り組む構えにつながったりするといった指摘がなされている（坂野・前田，2002）。

こうした先行研究を踏まえると、本調査において、被収容少年自身のニーズとしても「目標設定」、「フィードバック」、「人生・仕事の手本」を求める回答が得られたことは、非常に意義深いことと言えるであろう。

各設問における少年たちの「自力困難」というニーズの中には、本人なりに目標はあるものの、そこに至るための道筋が分からないという内容のもの（「資格を取りたいが、どんな勉強をしたらいいのか、どこから手を付けたらいいのか分からない。」など）が多数あった。大目標の設定に対する支援は、進路選択に関する事項として既述のとおりであるが、大目標を中小目標に細分化し、努力すれば何とか達成できる程度の手近で少しだけ難しい具体的な目標を少年自身が設定できるように助けることは、こうした少年のニーズに応えるとともに、自己効力感や動機付けを高めることにつながると思われる。なお、自己効力感に関する研究でも、内発的動機付けに関する研究でも、「自己決定」の重要性が指摘されており、少年の自己決定による目標設定を支援することが、働き掛けの望ましい在り方と言えよう（これは、便宜供与に止まることを前提とし、問題点の改善等まで踏み込むことを禁じている少年鑑別所の処遇にもよく馴染むものである）。

また、職員とのコミュニケーションに対するニーズのほとんどが、フィードバックに関するニーズに該当する内容であった（「自分の考えが間違っていないかどうか教えてほしい。」など）。また、日記等については、「先生のコメントがためになったし、楽しみでした。」等、職員からのフィードバックを求めるだけでなく、自分自身の記載を振り返って考えの深まりを確認するといった内容の回答もあり、自己フィードバックとして活用している者もいた。彼らのフィードバックに係るニーズの多さは、職員が彼らに適切なフィードバックを行っているからこそという面があるであろう。先行研究では、初期の努力及びそれによる小さな成功に際しての即時的フィードバックの有効性が指摘されているところ、少年鑑別所入所期間は、こうした「変化の端緒」が否応なく豊富にあり、それを見極める専門性に長けた法務教官が処遇に当たっているだけに、動機付けや自己効力感を高めることにつながるフィードバックを行い、

今後の少年の健全育成につなげるのに適した環境にあると考えられる。なお、フィードバック（特に自己イメージが悪かったり、能力が低かったりする者に対する）に際しては、できないところに焦点付けるよりも、できるところに焦点付ける方が効果的であるとの指摘もある。

「人生・仕事の手本」に関するニーズについては、「元不良少年で更生した人の話を聞きたい。」「同じ立場にいる人の考えを聞いて、参考にしたい。」といった回答が多数あった。モデリングに際しては、マスタリーモデル（成功者・優等生）よりもコーピングモデル（苦勞してなんとか問題を解決するモデル）が自己効力感や動機付けを高める上で望ましいとされているところ、少年たちのニーズもそれにフィットするものであった。なお、モデリングについては、必ずしも集団活動でなければならないというわけではなく、適当なモデルが苦勞しつつ課題に取り組んでいく姿を描いた視聴覚教材等を視聴することでも十分学習の効果が上がると考えられるため、集団編成等に困難のある者に対しても活用可能な考え方である。例えば、津富（2009）は、少年院出院者の当事者グループである「セカンドチャンス！」の活動を紹介しているが、彼らの立ち直りに際しての苦勞や工夫（現在進行系のものも含む）などを語ってもらうのは、少年たちのニーズにも、先行研究の知見にも合致した興味深い試みであるように思われる。矯正現場では、再犯した者とは顔を合わせても、立ち直った者と相見える機会はないだけに、立ち直りつつある彼らの姿は、職員のモチベーションを高める効果が期待できる。また、「先行く者」として、援助者役割を取ることは、彼らにとっても被援助者から援助者への役割モデルの転換や自己イメージ・自尊感情を高める等の少なからぬメリットがあるであろう。

ここで、再度施設調査に目を転じると、例えば、金沢少年鑑別所の国語・美術指導に係る回答には、「初回では、ほとんどの少年が、国語は苦手であるとのことで、参加意欲は低いが、講師と会話をしながら作文を考えたり、漢字プリントの回答をしてほめられることにより意欲的になり、「おもしろかった。」「国語が好きになった。」という少年が多い。」「少年の自発性を引き出しながら、実施している。また、終了時には、作成した作品について、良い部分を必ず褒めている。」といった記載がある。また、他の施設においても、「学習科目については一人ひとりの少年に選択させる」、「少年がリラックスした状態で受けられるよう、講師が対話をしながら実施している。」「受講対象少年の関心のあることから学習意欲を引き出すなどの工夫をしている。」「ゲーム的な要素も盛り込み、参加者が楽しんで受講できるよう工夫している。」等の工夫がなされている旨の回答が得られている。

こうした回答からは、少年鑑別所における育成的処遇が、上記のような動機付け等の理論を的確に押さえるとともに、少年のニーズをも敏感に汲み取りつつ実施されている様子がうかがわれる。

(3) まとめ

少年のニーズや任意性の担保と動機付けのための働き掛けを実効あらしめるのは、法務教官の専門性に依拠するところである。

便宜供与の範囲に止めつつ、丁寧なオリエンテーションや動機付け、フォローアップを行うとともに、それぞれの働き掛けに対する少年の反応や、意欲の持続等を的確に観察し、少年一人ひとりの微妙なニーズの違いを汲み取ることは、資質鑑別の質的向上に資するにとどまらず、その後の処遇につなぐ上で「処遇の糸口となる情報を得る」（冒頭に引用した局長指示）ことでもあると言えよう。

また、職員側からの働き掛けの内容についても、適切に記録しておくことは、行き過ぎた働き掛けが生じたり、行うべきオリエンテーションや意見聴取が十分に行われなかったりするという事態を回避する上で有効であろう。

現在、矯正局において鋭意開発が進められている法務省式リスクアセスメントツールに代表されるように、再犯リスク・処遇ニーズに基づいて個別的処遇計画を立てることは、処遇の個別化を実現させる上で必要不可欠な視点であろう。そうして、そうしたツールだけではなく、育成的処遇の実施や行動観察を通して把握した少年自身のニーズ（まさに“希望”であるが、それが顕在化しているか、潜在的なものであるかも重要であろう。）等を踏まえた上で同計画の策定に当たることは、処遇の個別化のより一層の充実に資するものと考えられる。

なお、青少年育成施策大綱や子ども・若者育成支援推進法の公布等を受け、少年鑑別所長会同、鑑別・観護処遇問題協議会等でも、少年鑑別所が有する専門性を地域に還元するべく積極的な取組を図るべく実践報告・協議等がなされている。本調査の結果を見ると、被収容少年に対して各施設が創意工夫を凝らして実施・計画している育成的処遇として、非常に充実した内容の取組が多数あることが改めて明らかになったが、少年の健全育成に対して効果的であると思われる分、少年鑑別所の中だけで実施するのは「もったいない」との念も禁じえなかった。少年の健全育成に資することを目的とした処遇であること、「非行事実があることを前提とした働き掛けや、問題性の改善を目的とした働き掛けをしない」という大前提のもとで実施されていること等を踏まえると、地域の一般の少年（取組によっては少年に限らず、年齢枠を広げることも、保護者や支援者等を対象とすることも可能であろう）に対して、育成的処遇として行われているような取組について情報を発信することも、少年鑑別所の社会貢献として考えてよいのではないだろうか。現時点では、一般少年鑑別とは異なり、根拠となる規定がないため、鈴木（2009）も指摘しているように、少年院法改正に際しては、こうした働き掛けについても社会に発信できるような仕組みを作ることも必要となろう。こうした場に現れる人々は、少年鑑別所に収容されている少年たちとは異なり、当該処遇への参加は全くの自由意志である。彼らに、楽しんで取り組んでもらったり、ためになると感じてもらえたりするように、さらに創意工夫をすることは、法

務教官の専門性を一層高め、ひいては、被收容少年に対する観護処遇の質の向上にも資するものと考えられる。

V 展望

本研究において、全国の少年鑑別所で現在実施されている育成的処遇の実情や、実施に際しての工夫や困難等が明らかになり、被收容少年のニーズについても明らかにすることができた。本研究の結果を基に、各庁が相互に情報を交換・共有し、更に工夫を重ねることで、育成的処遇のより一層の充実が図られることが望まれる。また、例えば、視聴覚教材の整備などのように、多くの施設が共通して抱えている苦労や課題に対しては、上級官庁が情報提供や教材作成等の形で更なるリーダーシップを発揮することへの期待が大きいと考えられる。

それぞれの処遇が、少年のニーズに対応し、それを満たすものとなっているか、また、少年鑑別所が被收容少年に対して実施する処遇として適当なものとなっているか等についての検証や、それに基づいた育成的処遇の充実化への工夫は、当面は、各庁の自助努力によらざるを得ないものと思われるが、本来こうした取組は、俯瞰的、客観的な比較、評価を行うことができる立ち位置から、必要に応じて外部の目（例えば、家庭裁判所等の関係機関）も取り入れ、総合的に行うことが効率的かつ効果的と考えられる。その前提として、特に義務規定的な処遇については、各処遇の一定程度の標準化が望まれる。また、努力規定的な処遇についても、各施設の実情等に応じて実施することとなっているものの、施設規模、職員配置等に応じたガイドライン等を作成することが、更なる処遇の充実を図る上で有効ではないかと思料される。

こうして見てくると、被收容少年のニーズや「健全育成」についての考え方は、時代や社会状況等の要因の影響を受ける部分があるため、処遇内容や被收容少年のニーズについては、絶え間なくそして計画的に検証を繰り返していくことが必要と考えられる。

付 記

本研究の実施に当たり、調査研究に御協力を賜った法務省矯正局を始め、矯正施設の各位に対し、心からの謝意を表します。

参考文献

- 鈴木秀樹 2009 少年院法の運用の現状と法改正に望むこと—少年鑑別所の現場から—
刑政 120(12) 31-40.
櫻井秀雄 2007 健全育成を考慮した観護処遇に関する一考察 刑政 118(10) 28-35.
見館好隆・永井正洋・北澤武・上野淳 2008 大学生の学習意欲、大学生活の満足度を規

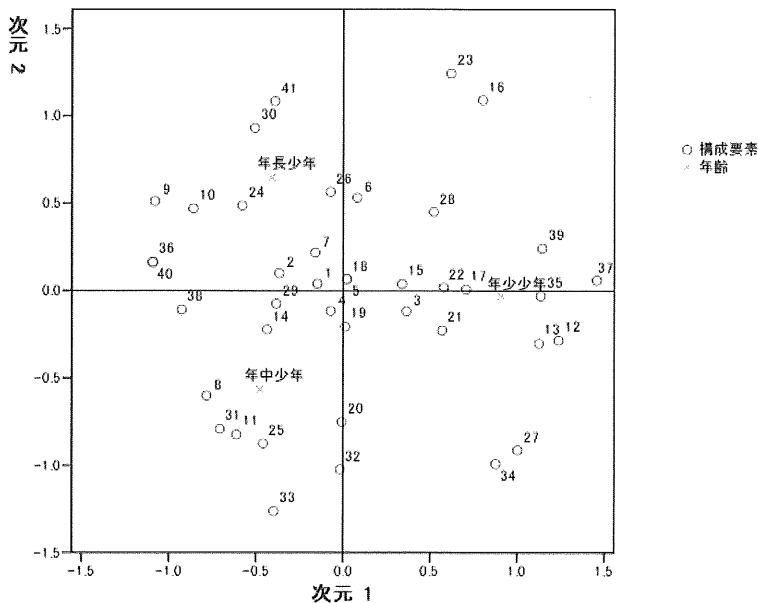
- 定する要因について 日本教育工学会論文誌 32(2) 189-196.
- 都筑学 2002 小中学生の時間的展望の縦断的分析 —1年間における変化の検討— 日本心理学会第66回大会発表論文集 1056.
- 桜井茂男 1984 内発的動機付けに及ぼす言語的報酬と物質的報酬の影響の比較 教育心理学研究 32(4) 40-48.
- 白井利明 2002 時間的展望の生涯発達心理学 勁草書房
- 坂野雄二・前田基成 2002 セルフ・エフィカシーの心理学 北大路書房
- 市川伸一 2001 学ぶ意欲の心理学 PHP新書

表 I 学習・あったらよかったと思う日課 回答者数 133

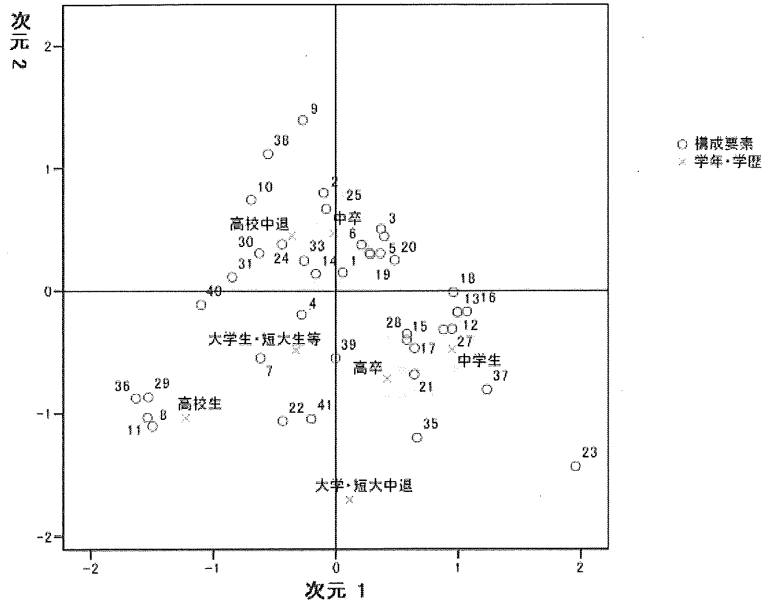
番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%
1	指導受講希望(全体)	60	42.0	25	学力向上	15	10.5
2	個別指導受講希望	23	16.1	26	実用志向	20	14.0
3	集団指導受講希望	16	11.2	27	個別化・任意性等の希望	11	7.7
4	自主学習の希望	26	18.2	28	自力困難・分からない・難しい	23	16.1
5	テスト	3	2.1	29	高校の学習がしたい	14	9.8
6	職員によるサポート	26	18.2	30	資格・免許のため	12	8.4
7	自習教材	18	12.6	31	学習自体への志向	8	5.6
8	学習用図書	10	7.0	32	職員による指導・サポート希望	9	6.3
9	パソコン学習	7	4.9	33	楽しいから・好きだから	9	6.3
10	高卒認定試験等	15	10.5	34	頭が悪いから・恥ずかしいから等	5	3.5
11	高校の学習	13	9.1	35	時間・量・種類の充実	6	4.2
12	高校受験	10	7.0	36	学習用教材への希望	4	2.8
13	中学校(含小学校)の学習	9	6.3	37	高校・大学受験のため	21	14.7
14	資格関係の学習	15	10.5	38	高卒資格取得のため	19	13.3
15	個別化・任意性	14	9.8	39	遅れ挽回のため	9	6.3
16	時間・頻度・量増	9	6.3	40	暇解消・所内生活の充実のため	6	4.2
17	内容・種類増	13	9.1	41	その他	5	3.5
18	国語	3	2.1				
19	漢字	18	12.6				
20	数学	6	4.2				
21	英語	10	7.0				
22	理科	4	2.8				
23	社会	2	1.4				
24	その他の科目・教科全体	20	14.0				
合計回答数						143	100.0

1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合があるため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

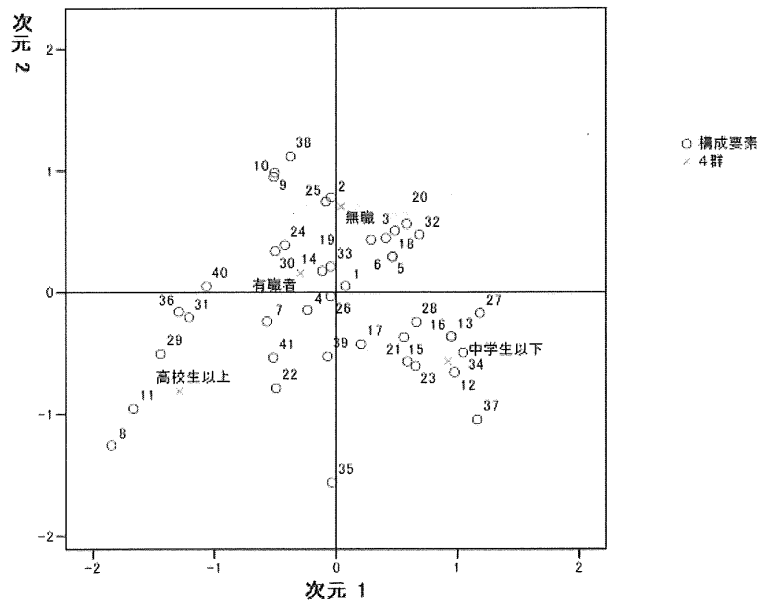
付置図1-1 学習・あったらよかったと思う日課×年齢 対称的正規化



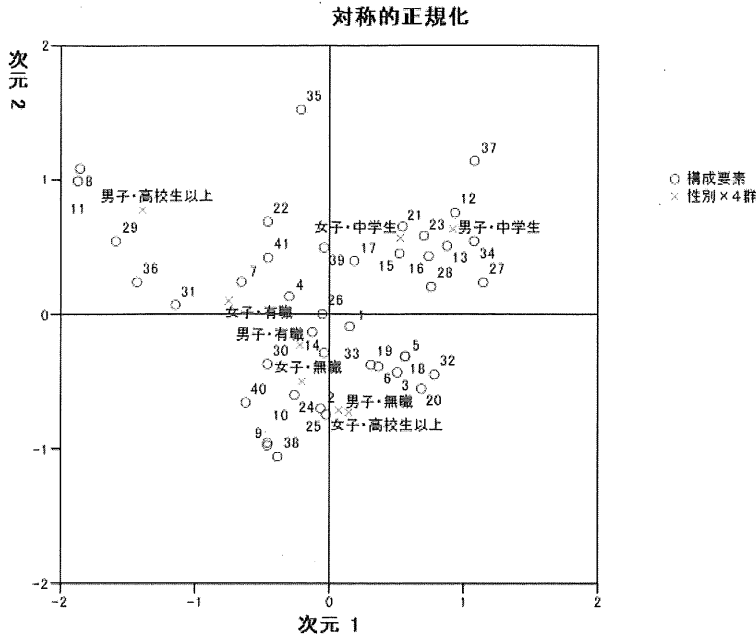
付置図 1-2 学習・あつたらよかったと思う日課 × 学年・学歴
対称的正規化



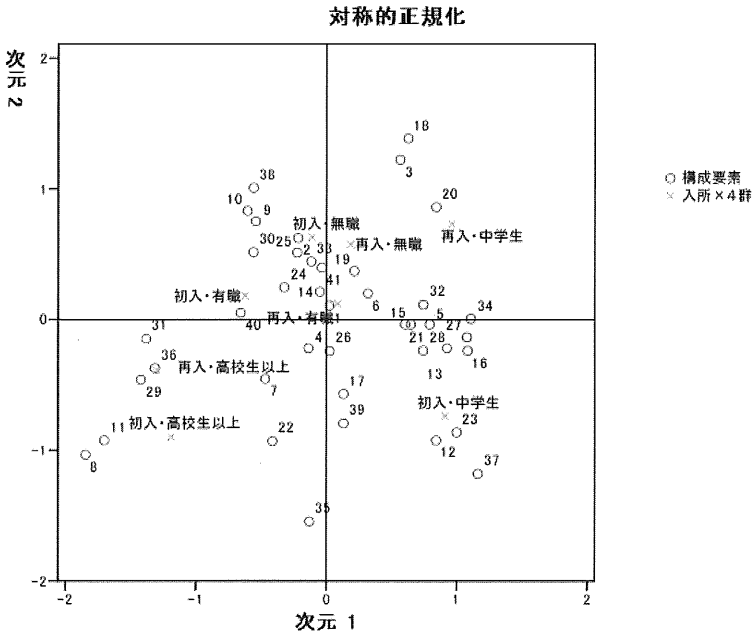
付置図 1-3 学習・あつたらよかったと思う日課 × 4 群
対称的正規化



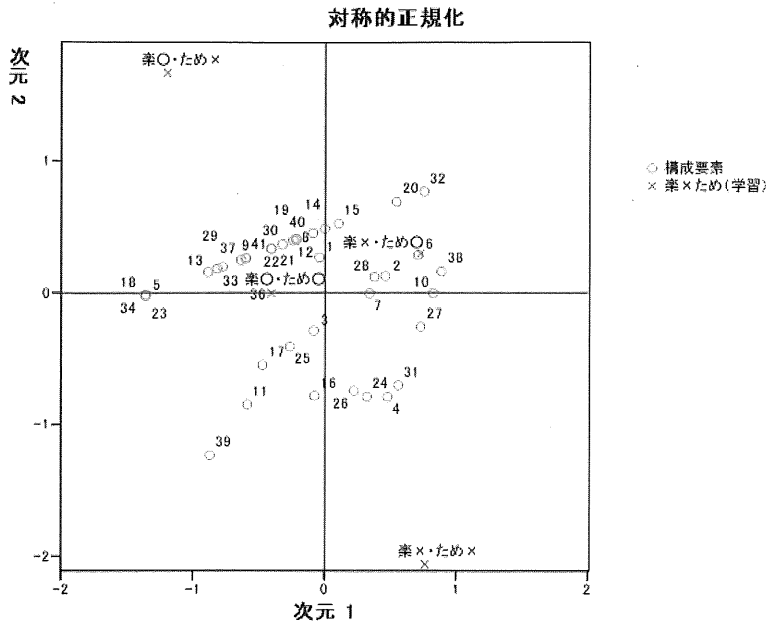
付置図1-4 学習・あればよかったと思う日課×性別・4群



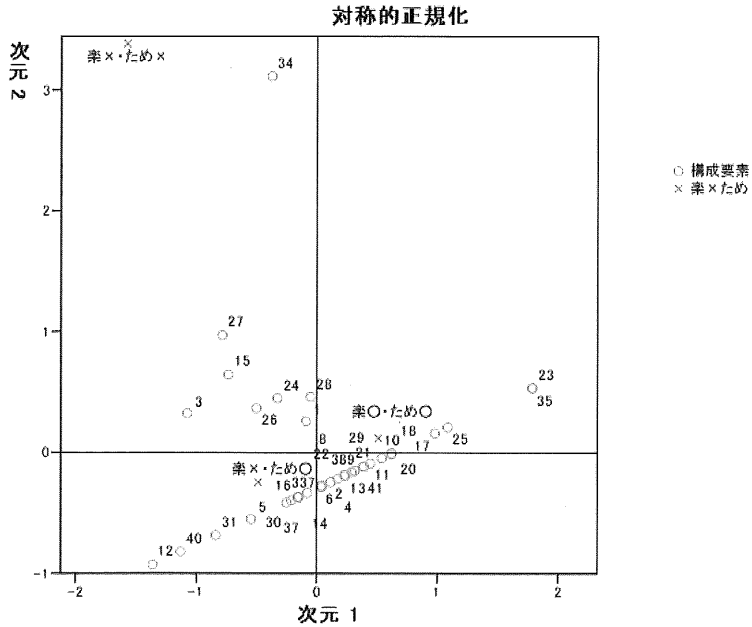
付置図1-5 学習・あったらよかったと思う日課×入所・4群



付置図1-6 学習・あったらよかったと思う日課×満足度(学習日課全体)



付置図1-7 学習・あったらよかったと思う日課×満足度(全体)

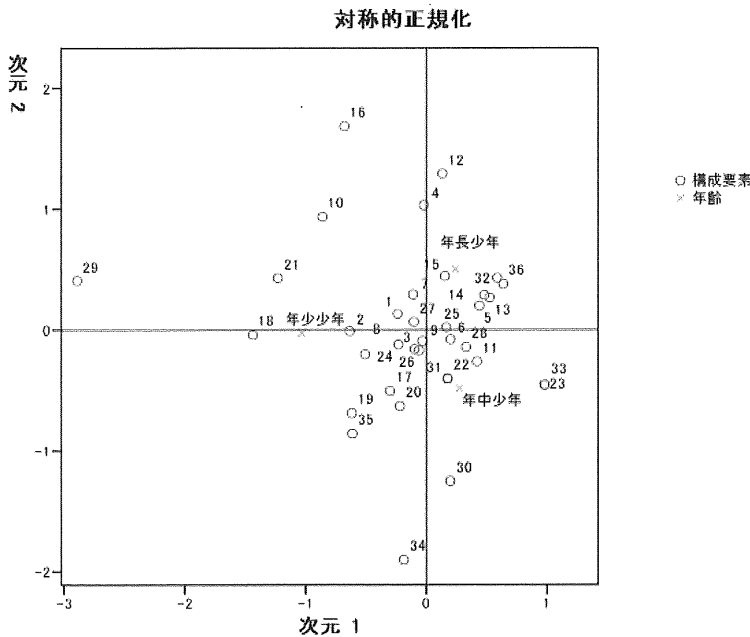


表Ⅱ 進路・仕事・あったらよかったと思う日課 回答者数 101

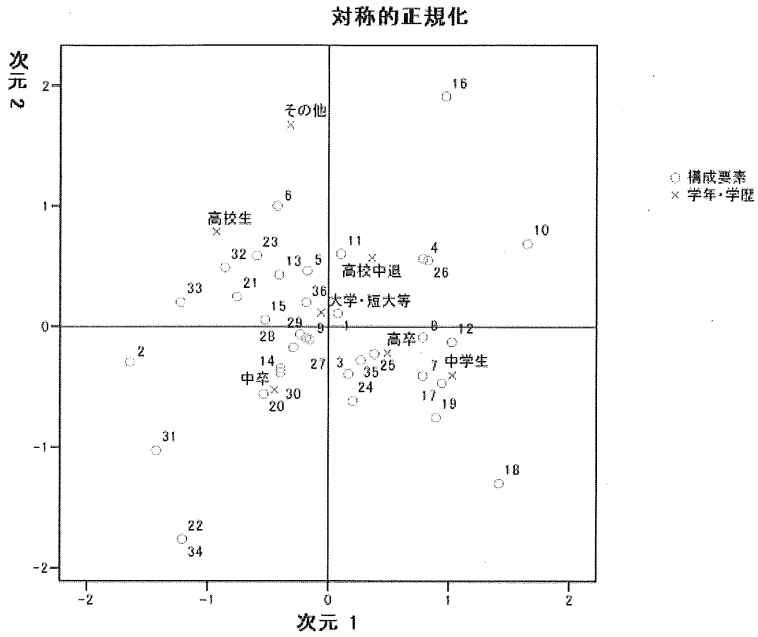
番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%	
1	具体的指導や職業紹介の希望	20	16.7	24	自力困難・自信がない	20	16.7	
2	職業実習	6	5.0	25	個性・任意性	24	20.0	
3	仕事	45	37.5	26	進路選択のため	14	11.7	
4	進路選択	10	8.3	27	実用志向	45	37.5	
5	資格・専門学校	46	38.3	28	資格を取りたいから	15	12.5	
6	頻度・量・種類増	25	20.8	29	職業人としての手本になるから	5	4.2	
7	調べる・探す	9	7.5	30	充実志向	6	5.0	
8	個性	13	10.8	31	体験したい	6	5.0	
9	教えてほしい(一般的内容)	24	20.0	32	幅広く(建築系・技能士系)	13	10.8	
10	高校受験・高卒認定	8	6.7	33	詳しく	5	4.2	
11	自主学習	26	21.7	34	ハローワーク	4	3.3	
12	詳しく・具体的に	6	5.0	35	相談したい・話を聞きたい	6	5.0	
13	図書	22	18.3	36	その他の理由	15	12.5	
14	現在の求人情報・タウンワーク等	10	8.3					
15	資料・パンフレット等	6	5.0					
16	VTR視聴	3	2.5					
17	個別の相談・指導	15	12.5					
18	進路相談担当職員	4	3.3					
19	職員による支援	15	12.5					
20	職員講話	4	3.3					
21	外部講師による講話	11	9.2					
22	ハローワーク職員	6	5.0					
23	その他	5	4.2					
						合計回答数	120	100.0

1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合があるため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

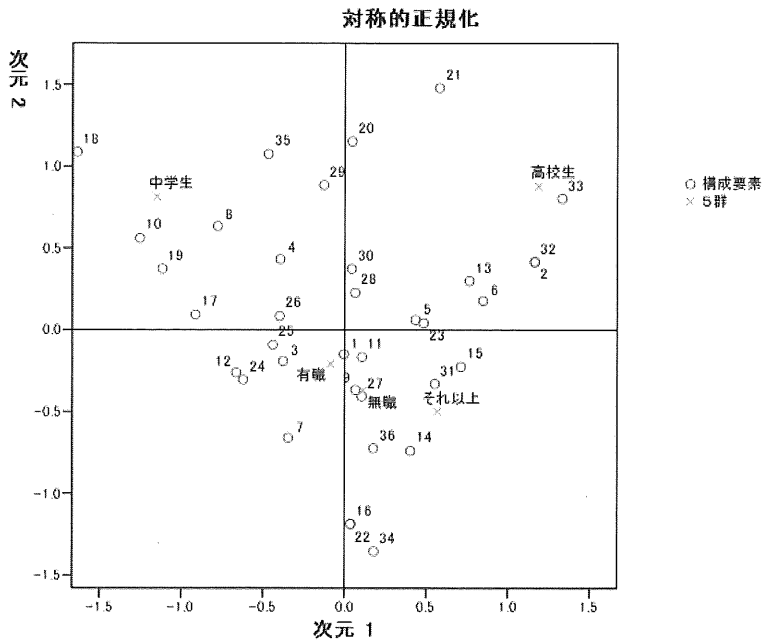
付置図2-1 進路・仕事・あったらよかったと思う日課×年齢



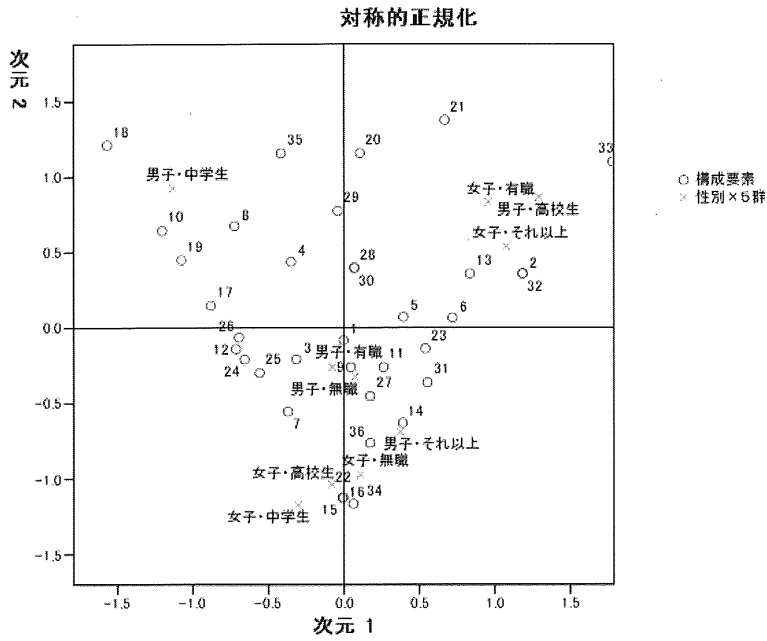
付置図2-2 進路・仕事・あつたらよかつたと思う日課×学年・学歴



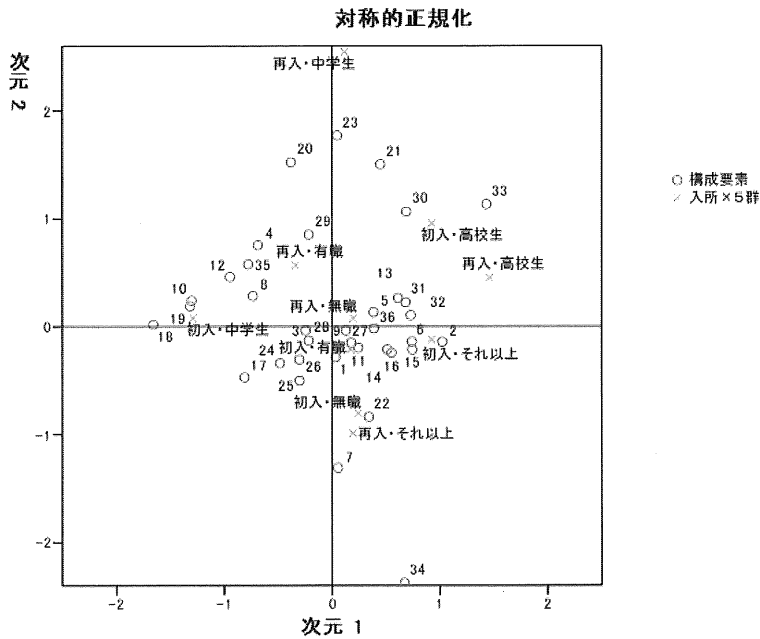
付置図2-3 進路・仕事・あつたらよかつたと思う日課×5群



付置図2-4 進路・仕事・あったらよかったと思う日課×性別・5群



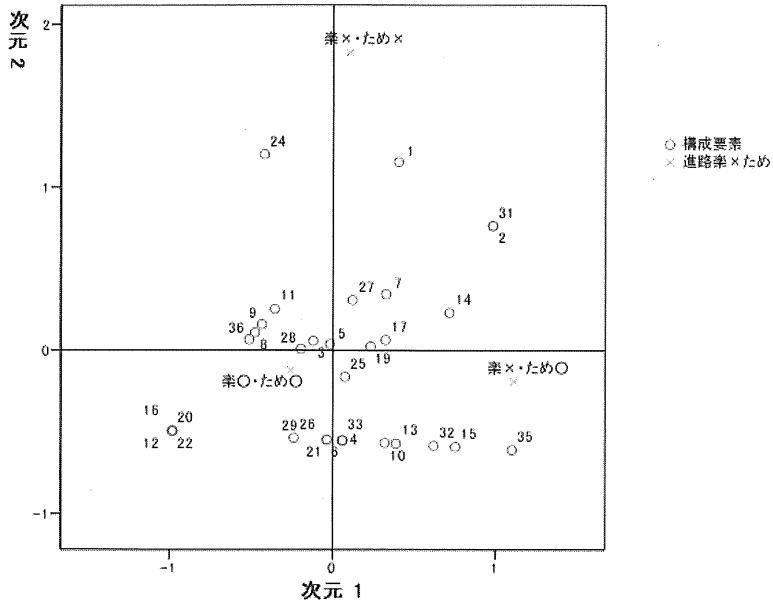
付置図2-5 進路・仕事・あったらよかったと思う日課×入所・5群



付置図2-6

進路・仕事・あったらよかったと思う日課×満足度(進路・仕事全体)

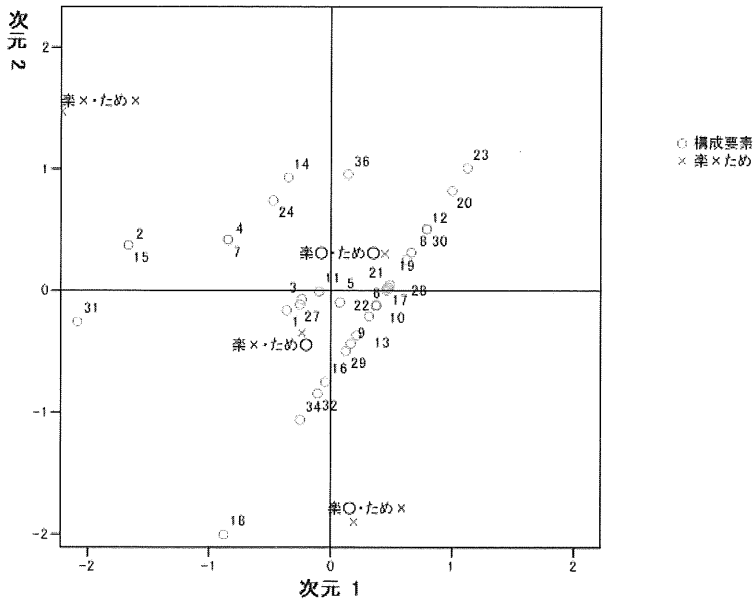
対称的正規化



付置図2-7

進路・仕事・あったらよかったと思う日課×満足度(全体)

対称的正規化



表Ⅲ 居室・あったらよかったと思う日課

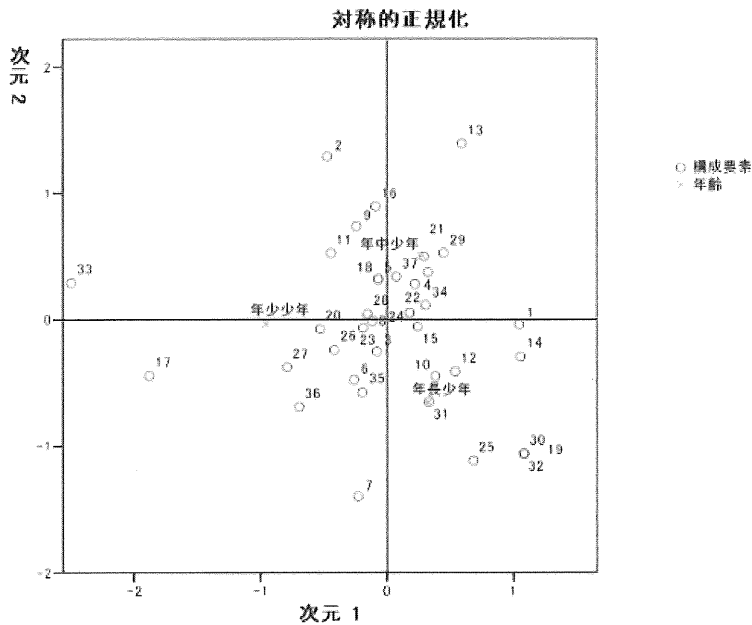
回答者数 178

番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%
1	運動時間・回数増	9	4.1	22	ためになるから	38	17.2
2	ダンベル等	9	4.1	23	暇だから・暇つぶし	25	11.3
3	将棋・チェス・囲碁	35	15.8	24	頭の体操	51	23.1
4	オセロ	25	11.3	25	集中できる・一生懸命・集中力がつく	11	5.0
5	筋トレ	8	3.6	26	自己表現	9	4.1
6	絵画	10	4.5	27	面白い・気持ちよい・満足	31	14.0
7	画材	10	4.5	28	息抜き・リラックス・ストレス解消	70	31.7
8	トランプ	19	8.6	29	体を動かしたい	23	10.4
9	ゲーム	7	3.2	30	外に出たい	3	1.4
10	パズル	13	5.9	31	調べたい・知りたい	6	2.7
11	数独・クロスワード等	12	5.4	32	更生・反省のため	9	4.1
12	課題(内省・被害者等)を出してほしい	17	7.7	33	自由・選択	5	2.3
13	学習・資格用図書・教材	11	5.0	34	集団・コミュニケーションしたい	6	2.7
14	パソコン	6	2.7	35	健康・快適のため	7	3.2
15	図書の充実	11	5.0	36	計画的・計画性	5	2.3
16	テレビ・ビデオ	8	3.6	37	その他の理由	23	10.4
17	音楽放送の希望	9	4.1				
18	編み物・模型作成等	4	1.8				
19	集団・コミュニケーション	3	1.4				
20	備品(時計・鏡・エアコン等)	14	6.3				
21	その他	12	5.4				
合計回答数						221	100.0

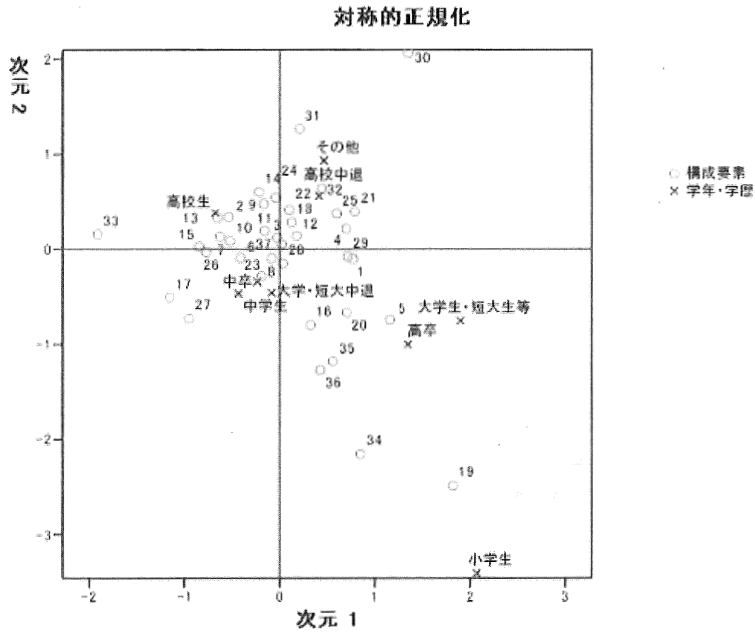
1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合があるため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

付置図3-1

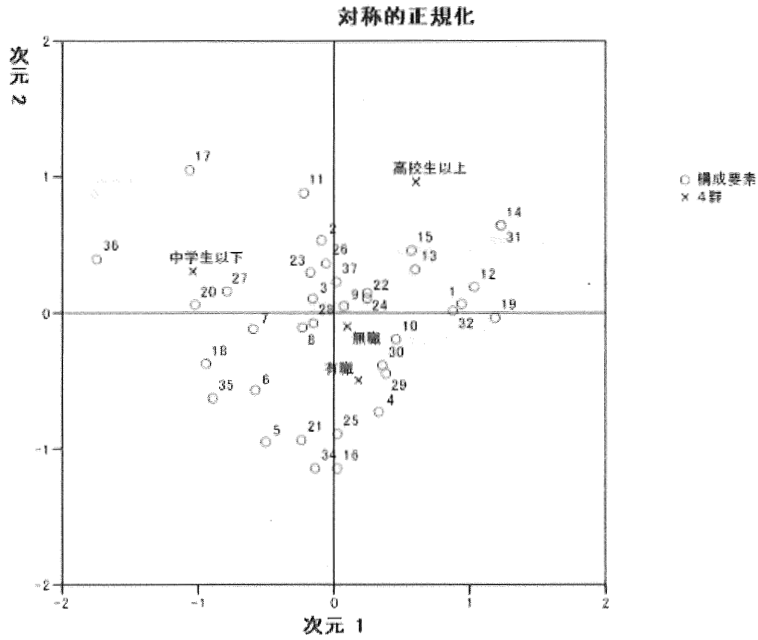
居室・あったらよかったと思う日課×年齢



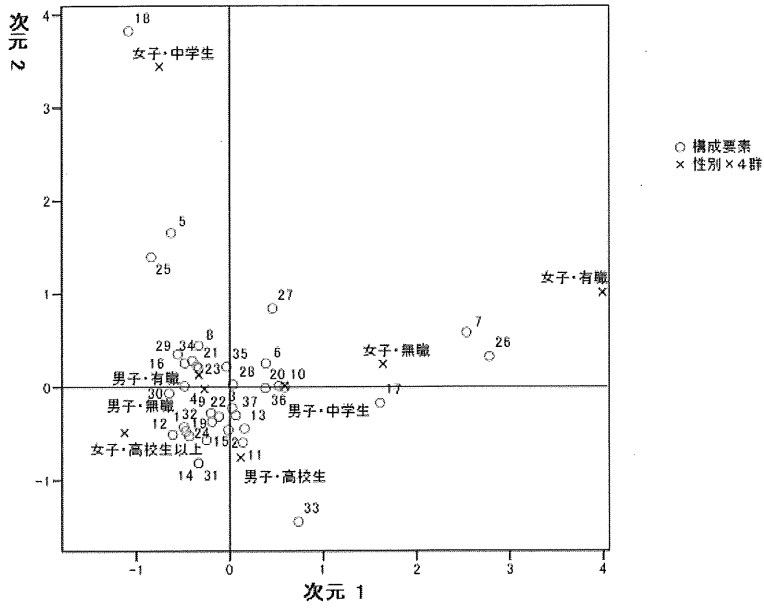
付置図3-2 居室・あつたらよかつたと思う日課×学年・学歴



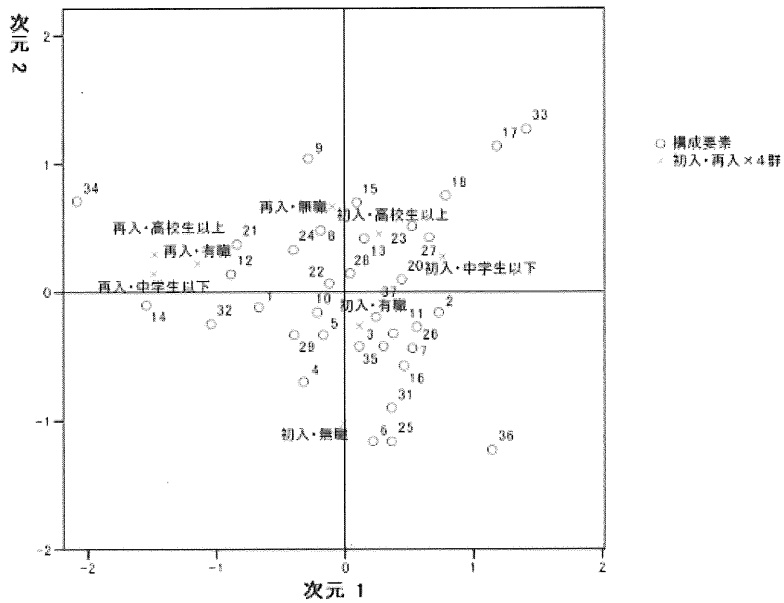
付置図3-3 居室・あつたらよかつたと思う日課×4群



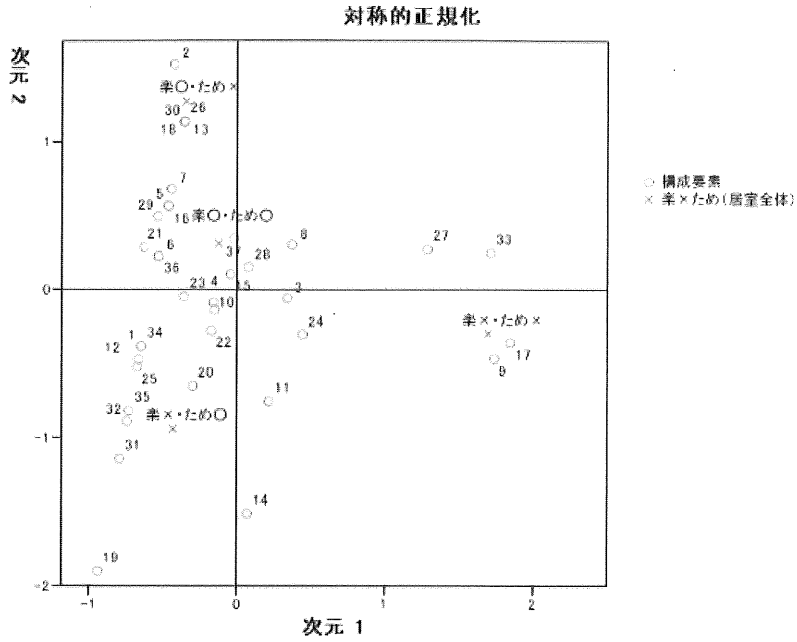
付置図3-4 居室・あつたらよかつたと思う日課×性別・4群
対称的正规化



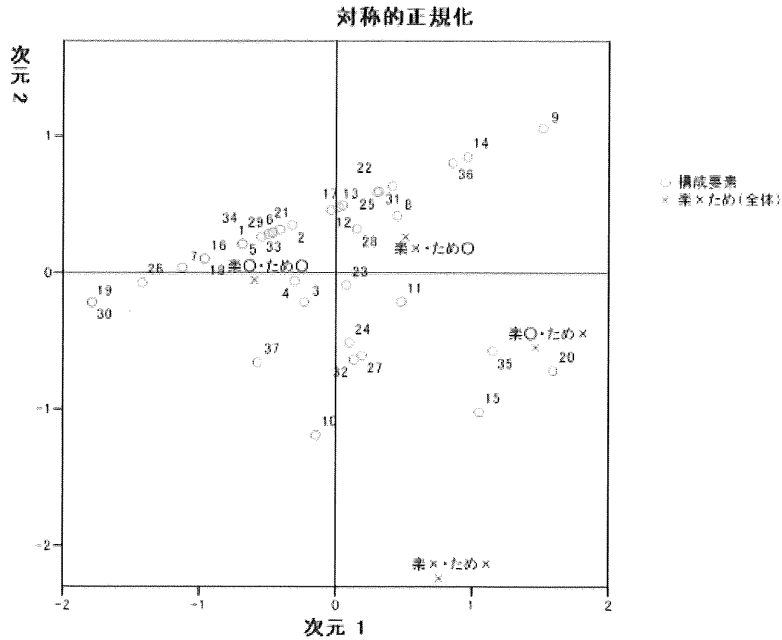
付置図3-5 居室・あつたらよかつたと思う日課×入所・4群
対称的正规化



付置図3-6 居室・あったらよかったと思う日課×満足度(居室日課)



付置図3-7 居室・あったらよかったと思う日課×満足度(全体)



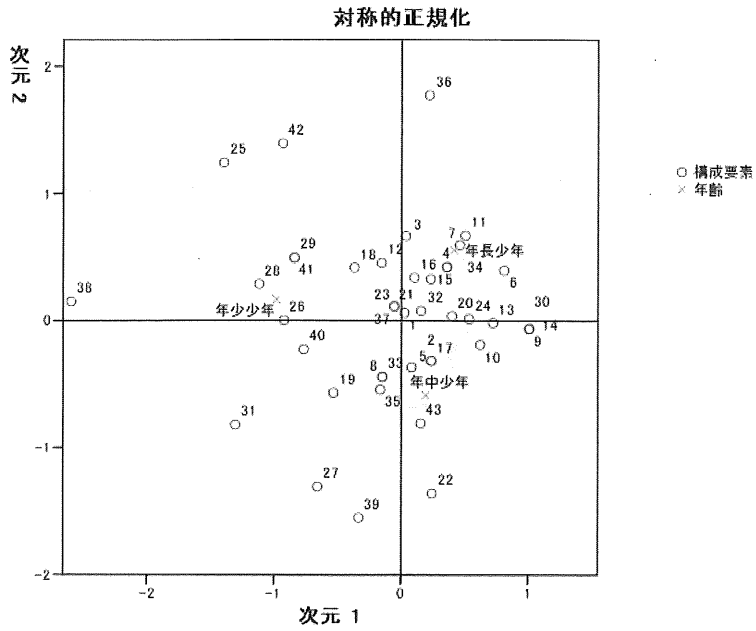
表IV 図書・あったらよかったと思う図書

回答者数 262

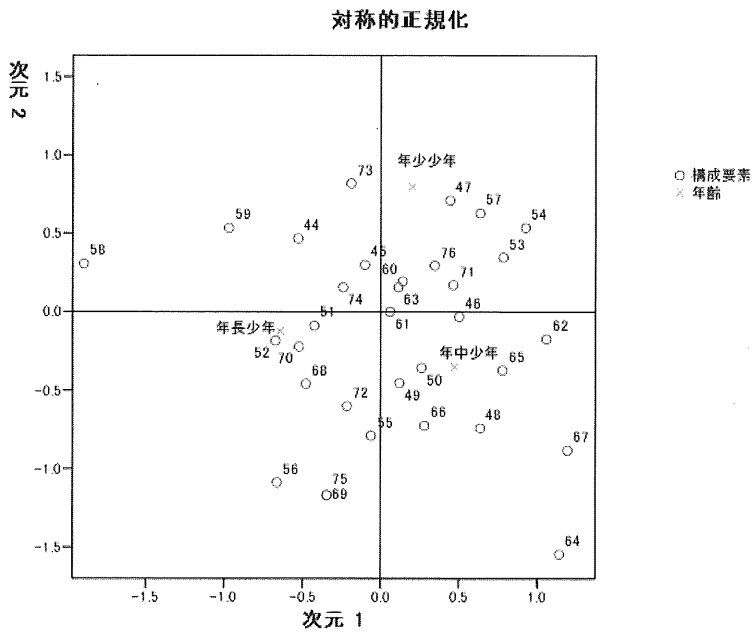
番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%
1	種類・冊数・頻度増	61	18.1	44	他の少年にも勧め・教えてあげたい	34	10.1
2	図書交換・配架等の希望	18	5.3	45	面白いから・好きだから	53	15.7
3	読書感想文	4	1.2	46	読書習慣がない	4	1.2
4	新しい本・若者向けの本	6	1.8	47	励みになる・意欲向上・頑張るきっかけ	13	3.9
5	人気本・ベストセラー	10	3.0	48	集中・熱中できる	8	2.4
6	車・バイク等の本	16	4.7	49	学びたい・知りたい	39	11.6
7	非行関係の本	20	5.9	50	息抜き・リラックスしたい	28	8.3
8	非行等から立ち直った人に関する本	8	2.4	51	ためになる	102	30.3
9	被害者の手記	2	0.6	52	内省・反省・再犯防止のため	30	8.9
10	人間関係・心理の本	12	3.6	53	モデル・手本	6	1.8
11	学習用図書	7	2.1	54	不安だから	8	2.4
12	高校・大学の学校案内・受験図書	7	2.1	55	暇だから・暇つぶし	12	3.6
13	資格図書	15	4.5	56	もっと詳しく	7	2.1
14	自伝	6	1.8	57	少ない(不満)	37	11.0
15	仕事関係の本	26	7.7	58	古い(不満)	5	1.5
16	将来設計・生き方の本	9	2.7	59	図書交換(不満)	7	2.1
17	子育て関係の本	6	1.8	60	蔵書への批判	40	11.9
18	性・妊娠関係の本	18	5.3	61	分かりやすく・読みやすく	17	5.0
19	スポーツ関係の本	12	3.6	62	苦手だから・よく知らないから	8	2.4
20	審判・法律について学べる本	7	2.1	63	保健・衛生への興味	15	4.5
21	小説	16	4.7	64	少年鑑別所の処遇を通して興味を持ったから	6	1.8
22	ケータイ小説	8	2.4	65	人間関係の改善	5	1.5
23	推理小説	8	2.4	66	家族・恋人の大切さ	9	2.7
24	恋愛小説	9	2.7	67	感動できる, 感性が豊かになるから	8	2.4
25	ハリーポッター	5	1.5	68	思いやり, 他者理解	8	2.4
26	水谷修・義家弘介の本	9	2.7	69	命の大切さ	4	1.2
27	詩集	3	0.9	70	子供がいる・生まれるから	6	1.8
28	全巻そろえてほしい(シリーズもの)	4	1.2	71	進路・将来について考えたい	28	8.3
29	医療・保健関係の本	9	2.7	72	ガテン系志向	9	2.7
30	戦争の本	2	0.6	73	流行に遅れない・社会の情報を知りたい	8	2.4
31	郷土本	2	0.6	74	個別性	12	3.6
32	歴史本	5	1.5	75	課題を出してほしい	2	0.6
33	図鑑	4	1.2	76	その他の理由	33	9.8
34	感動する本	6	1.8				
35	マンガ	44	13.1				
36	謎解き絵本	4	1.2				
37	雑誌	16	4.7				
38	ファッション誌	6	1.8				
39	映画・マンガの原作本	4	1.2				
40	楽しい本	5	1.5				
41	詳しい本	9	2.7				
42	分かりやすい	2	0.6				
43	その他	18	5.3				
						合計回答数	337 100.0

1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合があるため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

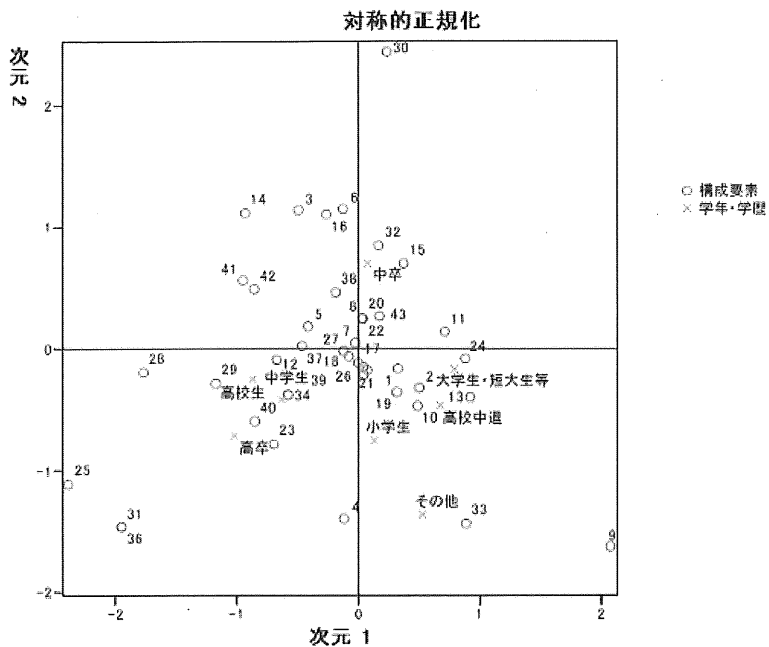
付置図4-1 図書・あったらよかったと思う図書×年齢(内容)



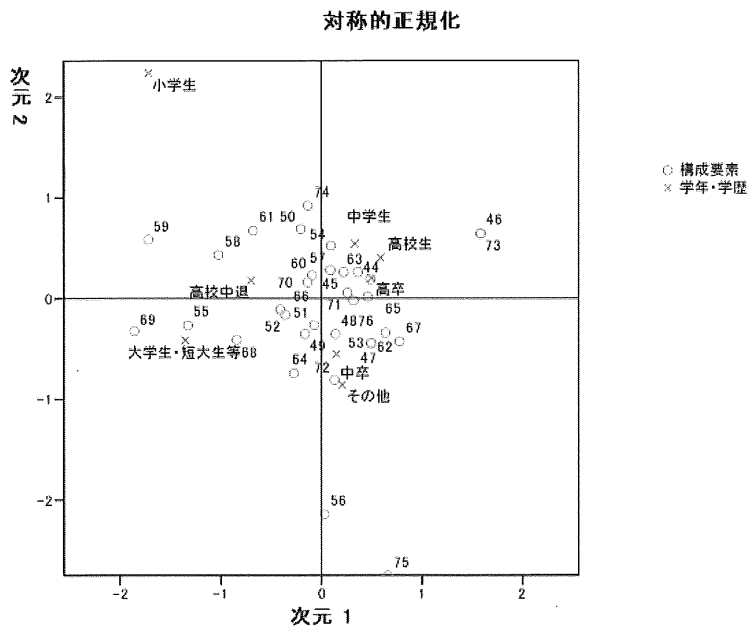
付置図4-2 図書・あったらよかったと思う図書×年齢(理由)



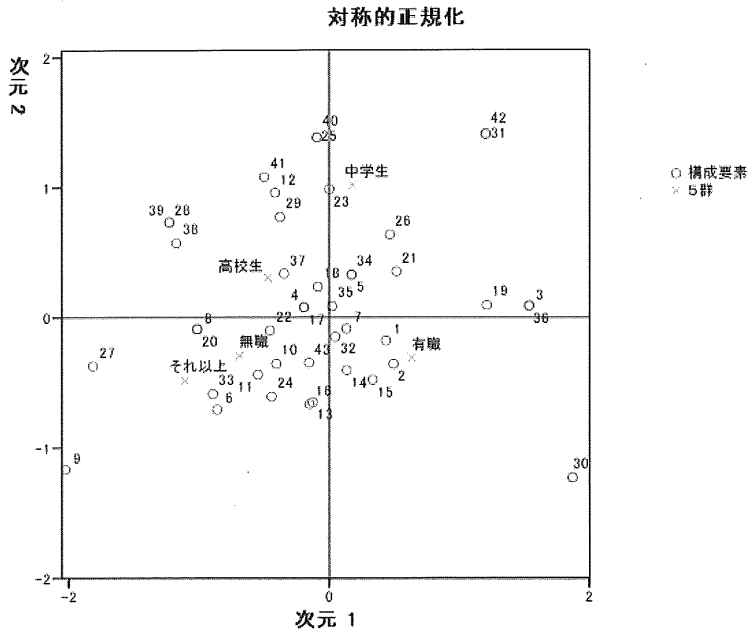
付置図4-3 図書・あつたらよかつたと思う日課×学年・学歴(内容)



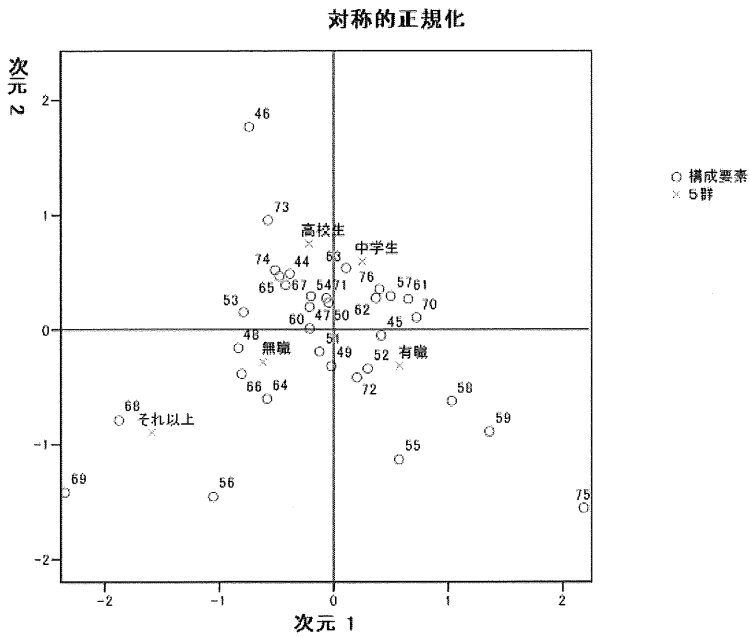
付置図4-4 図書・あつたらよかつたと思う図書×学年・学歴(理由)



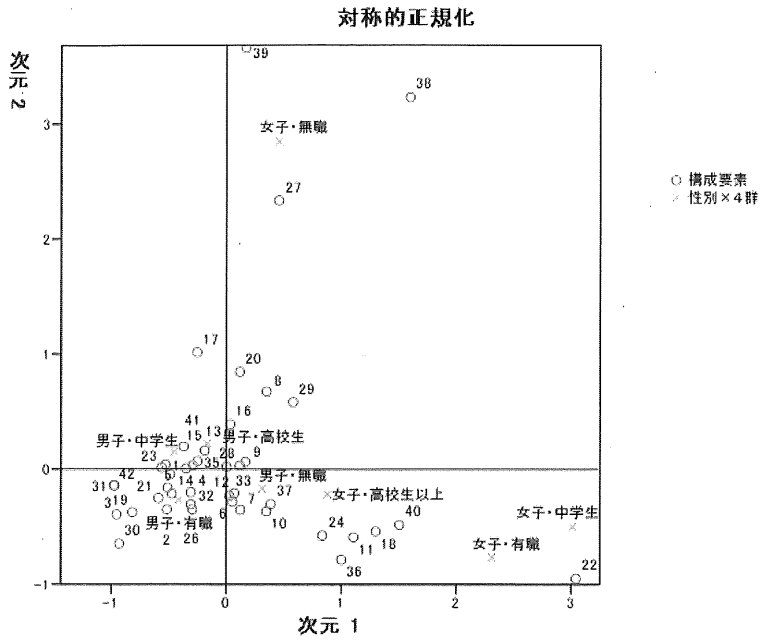
付置図4-5 図書・あったらよかったと思う図書×5群(内容)



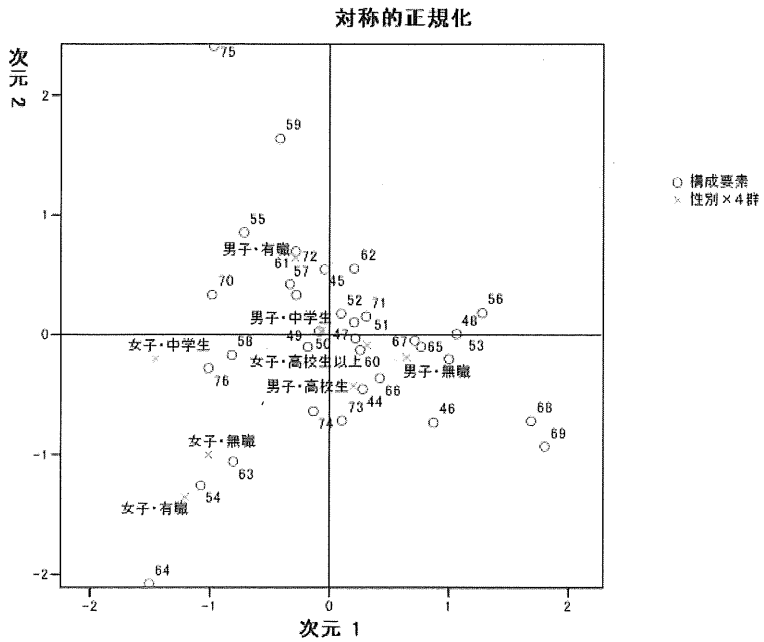
付置図4-6 図書・あったらよかったと思う図書×5群(理由)



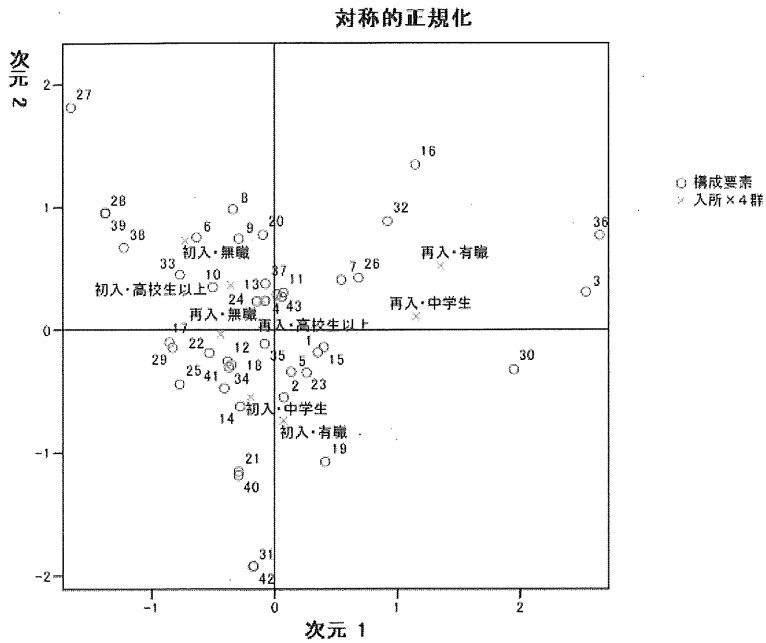
付置図4-7 図書・あつたらよかったと思う図書×性別・4群(内容)



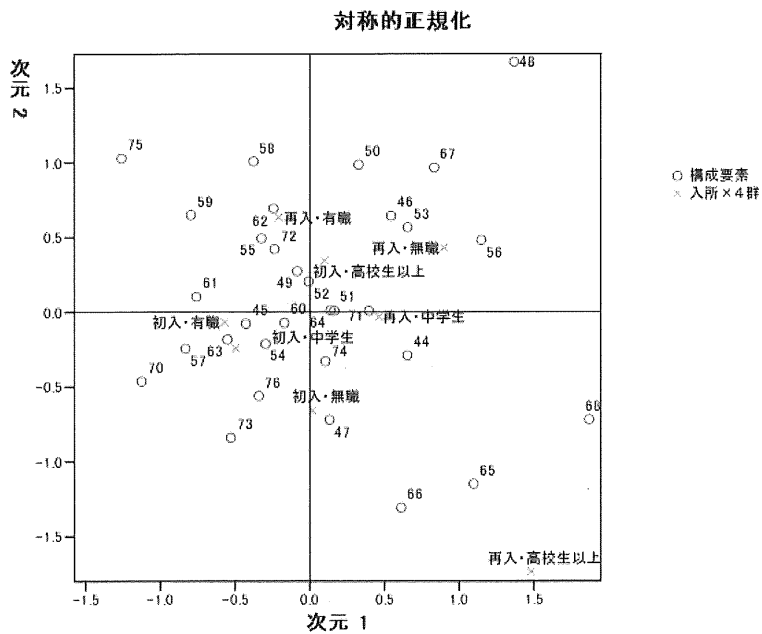
付置図4-8 図書・あつたらよかったと思う図書×性別・4群(理由)



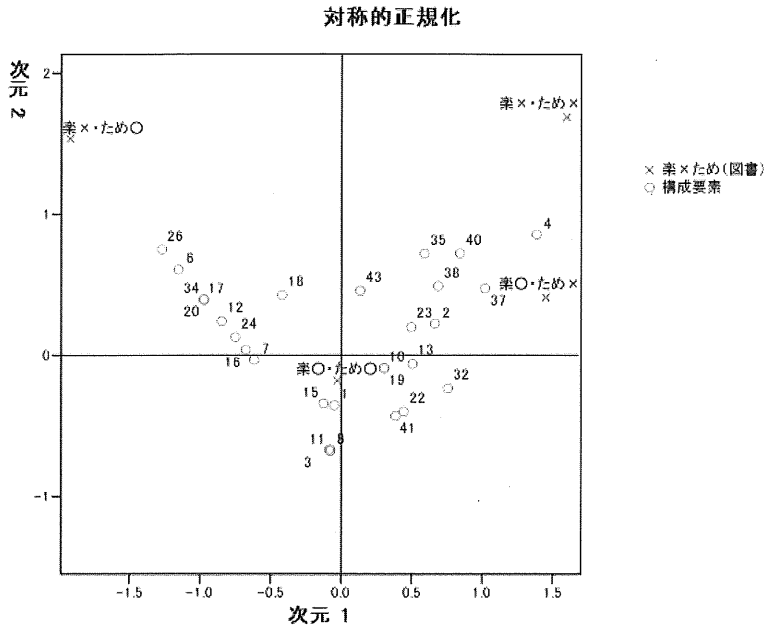
付置図4-9 図書・あったらよかったと思う図書×入所・4群(内容)



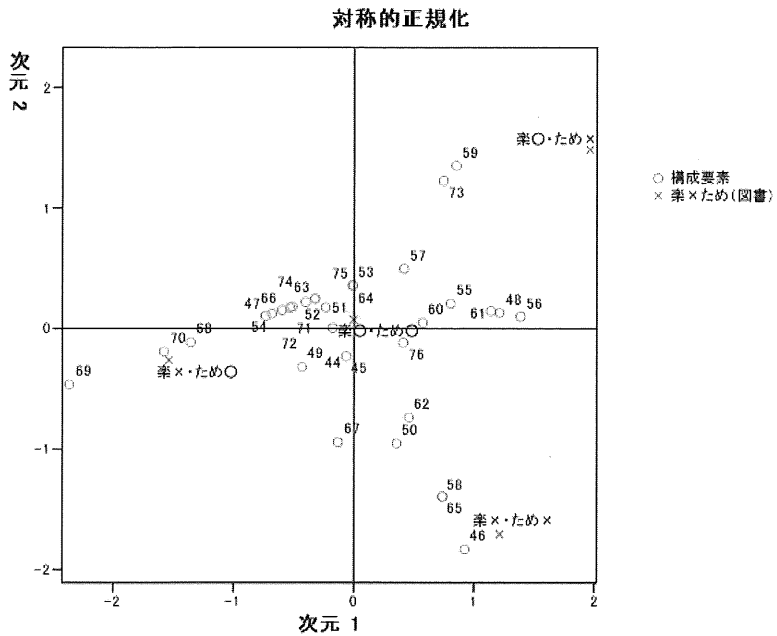
付置図4-10 図書・あったらよかったと思う図書×入所・4群(理由)



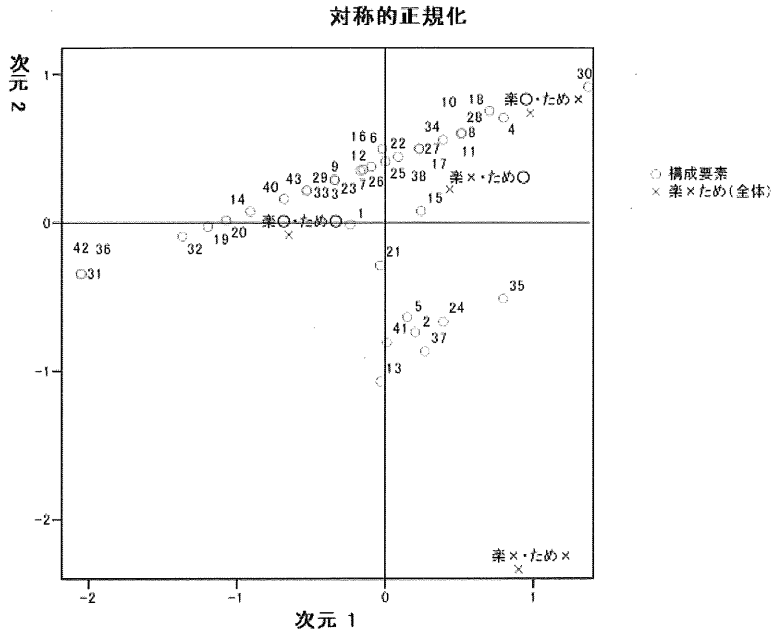
付置図4-11 図書・あつたらよかったと思う図書×満足度(図書)(内容)



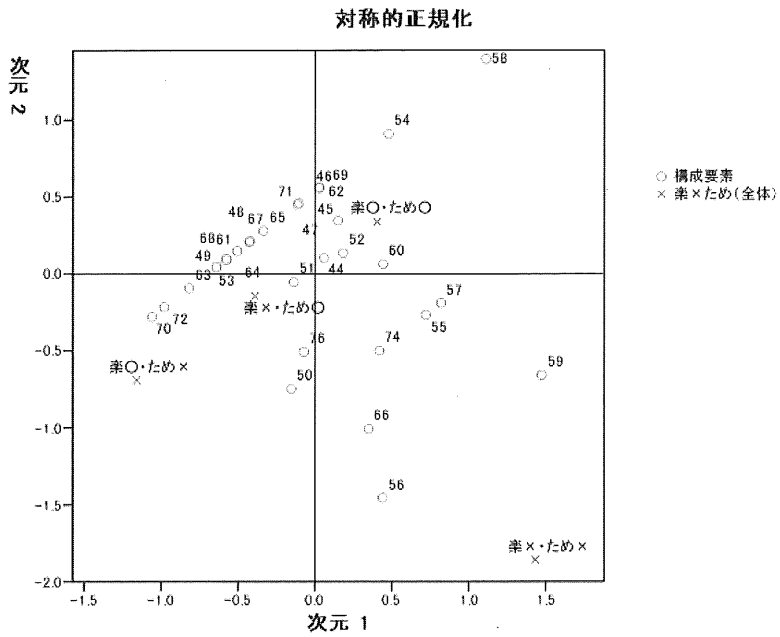
付置図4-12 図書・あつたらよかったと思う図書×満足度(図書)(理由)



付置図4-13 図書・あったらよかったと思う図書×満足度(全体)(内容)



付置図4-14 図書・あったらよかったと思う図書×満足度(全体)(理由)



表V 放送・あったらよかったと思う放送

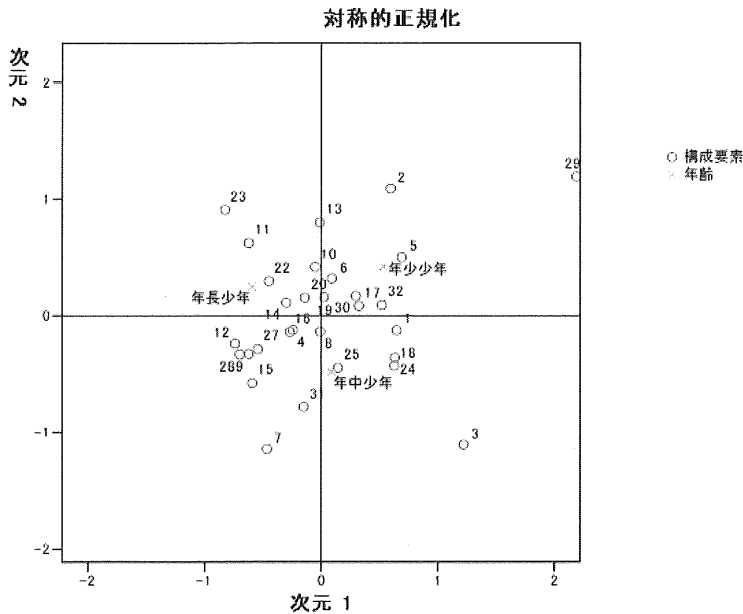
回答者数 266

番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%
1	流行の音楽	11	3.5	13	流行に遅れる	8	2.5
2	自由・選択・リクエスト	14	4.4	14	若い人向けの曲が聞きたい	16	5.1
3	時間増	12	3.8	15	社会の情報を知りたい	16	5.1
4	ラジオ	26	8.3	16	励まされる・元気が出る	40	12.7
5	ビデオ	9	2.9	17	リラックス, 落ち着く, ストレス・不安感解消	98	31.1
6	寝る前に音楽	69	21.9	18	楽しいから・好きだから	37	11.7
7	朝に音楽	14	4.4	19	眠れないから	69	21.9
8	音楽が聞きたい	191	60.6	20	日課や生活のつらさ	43	13.7
9	テレビ	20	6.3	21	面白い・楽しい	1	0.3
10	リラックスできる音楽	34	10.8	22	内省・反省が進む	12	3.8
11	最近・最新の内容	20	6.3	23	ためになる	15	4.8
12	ニュース	7	2.2	24	進路・将来について考える	6	1.9
				25	仕事への興味	4	1.3
				26	内容の分かりやすさ	2	0.6
				27	古い・なじみがない (不満)	18	5.7
				28	その他の不満	29	9.2
				29	子ども向けの映画・アニメを増やす	4	1.3
				30	好きなものを自由に選びたいから, 視聴したくないとき(内容)もあるから	26	8.3
				31	量・種類・方法への不満	18	5.7
				32	その他の理由	28	8.9
				合計回答数 315 100.0			

1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合があるため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

付置図5-1

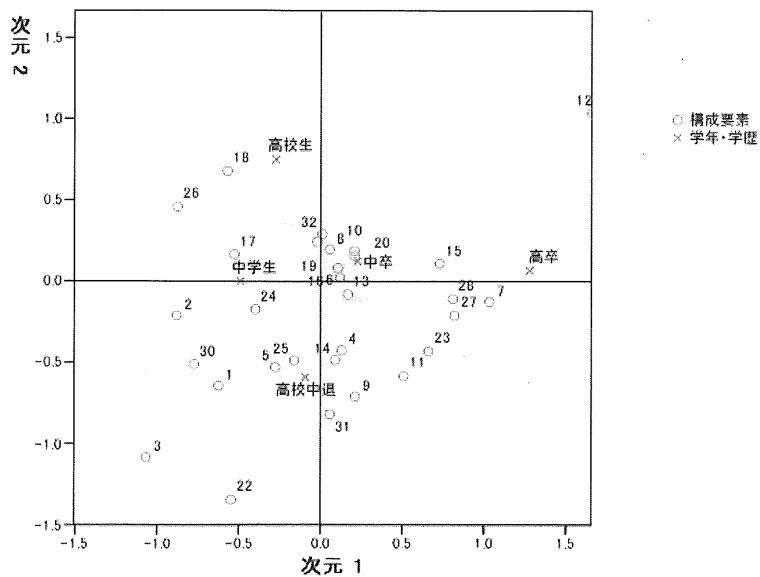
放送・あったらよかったと思う放送×年齢



付置図5-2

放送・あったらよかったと思う放送×学年・学歴

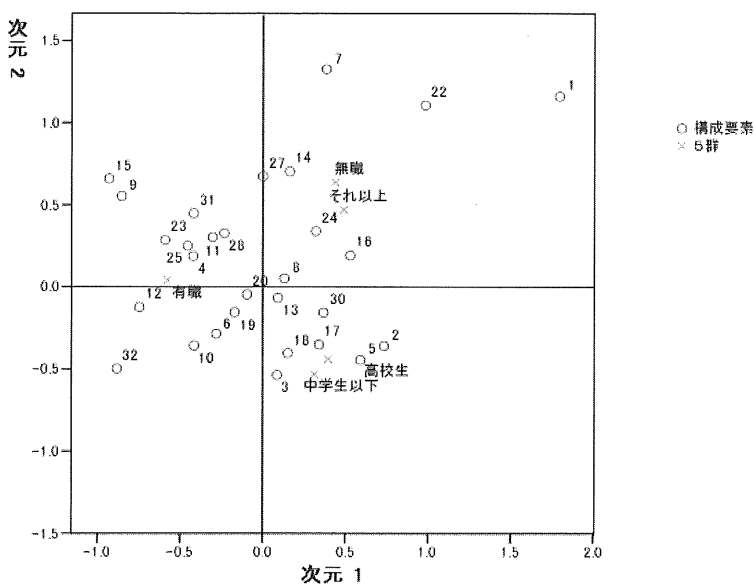
対称的正規化



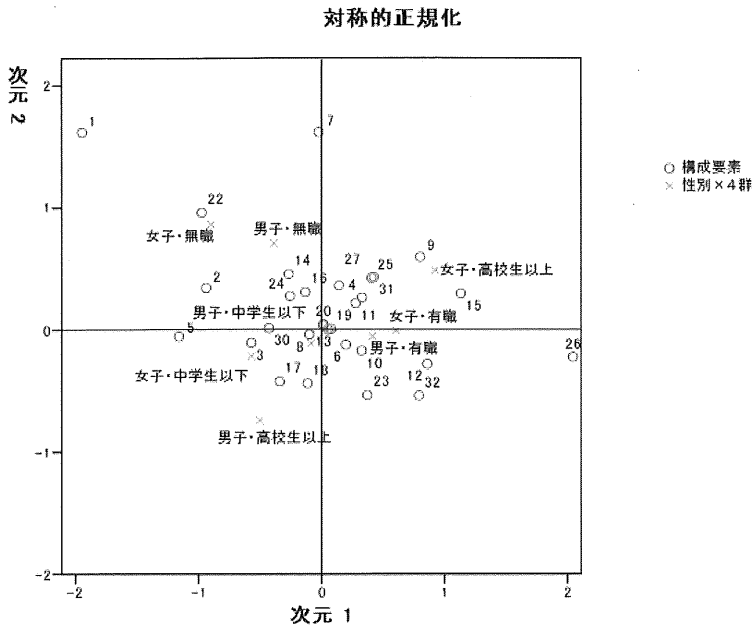
付置図5-3

放送・あったらよかったと思う放送×5群

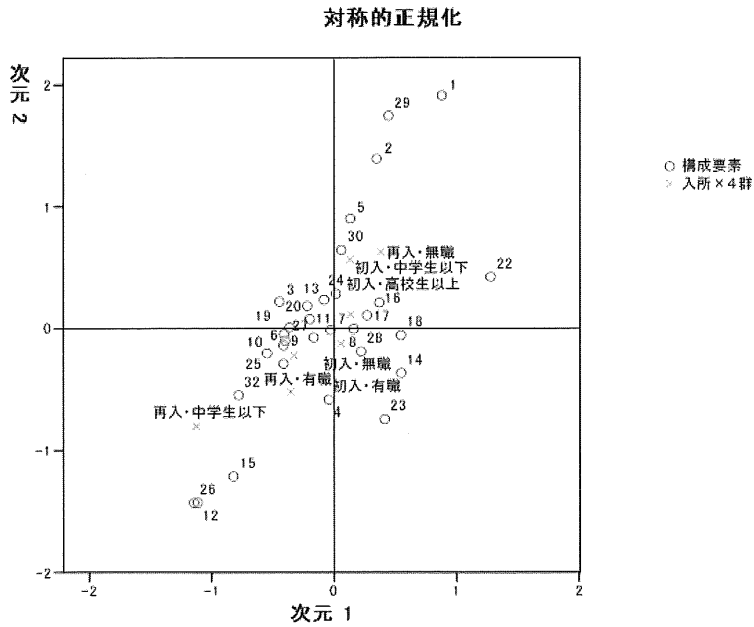
対称的正規化



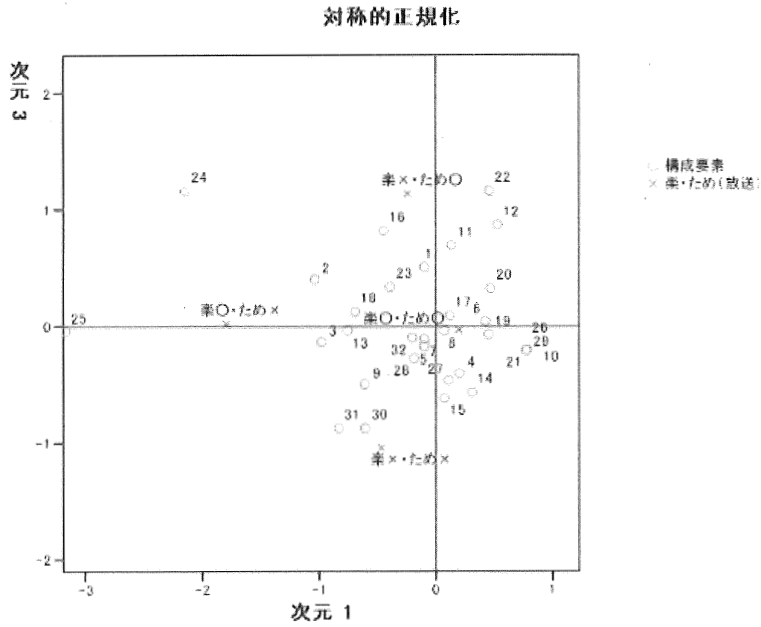
付置図5-4 放送・あつたらよかつたと思う放送×性別・4群



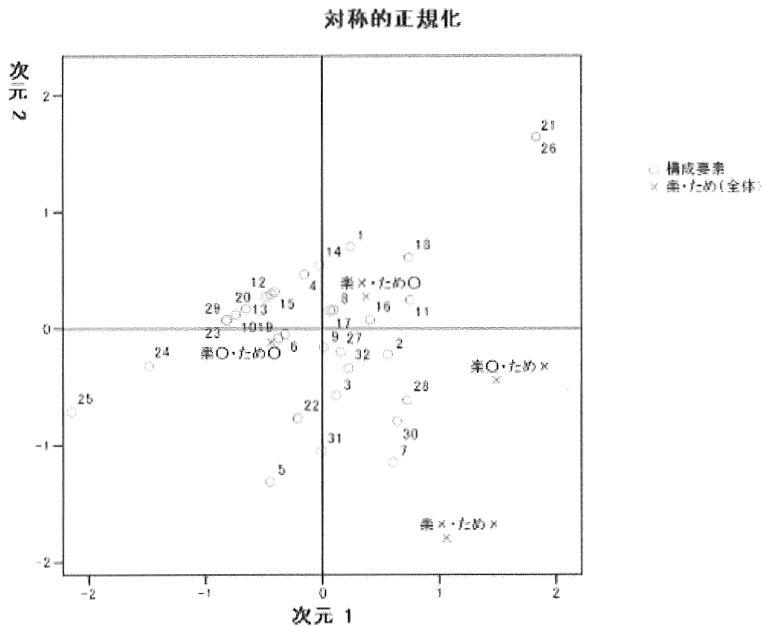
付置図5-5 放送・あつたらよかつたと思う放送×入所・4群



付置図5-6 放送・あったらよかったと思う放送×満足度(放送全体)



付置図5-7 放送・あったらよかったと思う放送×満足度(全体)

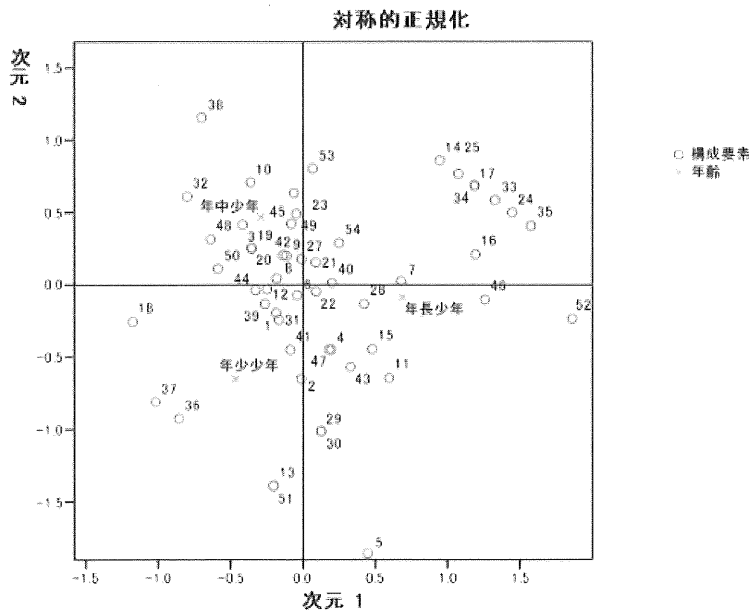


表VI 運動・レクリエーション・あったらよかったと思う日課 回答者数 316

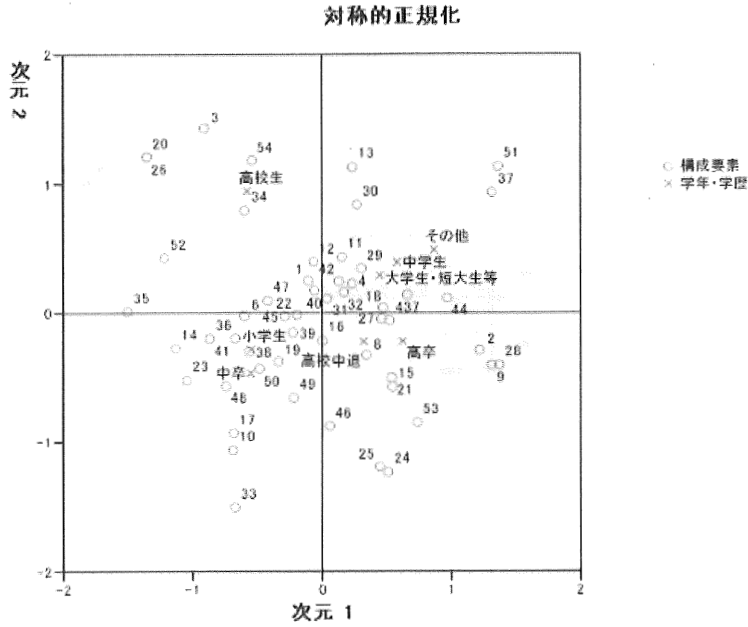
番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%
1	屋外運動	33	7.5	31	楽しいから・好きだから	163	36.9
2	リレー・陸上	14	3.2	32	ストレス解消・リラックス	37	8.4
3	バレーボール	13	2.9	33	やる気ができる・達成感がある	11	2.5
4	バスケットボール	53	12.0	34	運動が苦手な人のため	5	1.1
5	運動器具の整備等	4	0.9	35	誰でもできる	10	2.3
6	その他	15	3.4	36	新奇性への興味	6	1.4
7	実施方法の工夫	6	1.4		(やったことがないから・普段やらないから)		
8	試合・大会	91	20.6	37	経験があるから・得意だから	8	1.8
9	レクリエーション	13	2.9	38	他の少年にも勧めたい	7	1.6
10	マラソン	17	3.8	39	試合・競争	53	12.0
11	筋力トレーニング	14	3.2	40	コミュニケーション・チームワーク	49	11.1
12	野球	68	15.4	41	本格的にやりたい(硬式球使用等)	6	1.4
13	回数・頻度増	18	4.1	42	運動量が多いから	86	19.5
14	バドミントン	13	2.9	43	健康維持のため	23	5.2
15	ドッジボール	15	3.4	44	体力向上のため	34	7.7
16	テニス	13	2.9	45	屋外, 居室外に出たい	42	9.5
17	卓球	10	2.3	46	種類の少なさへの不満	25	5.7
18	水泳	14	3.2	47	回数の少なさに対する不満	10	2.3
19	球技	8	1.8	48	時間の短さへの不満	11	2.5
20	ラグビー	4	0.9	49	運動内容・方法への不満	57	12.9
21	柔道等(武道)	14	3.2	50	夏だから・暑いから	10	2.3
22	サッカー	77	17.4	51	自由・選択	6	1.4
23	運動時間延長	13	2.9	52	設備の活用	14	3.2
24	楽しいもの	3	0.7	53	知的・精神的鍛錬	9	2.0
25	種類増	7	1.6	54	その他の理由	23	5.2
26	ダンス	4	0.9				
27	室内運動	9	2.0				
28	本格的な運動(硬式球使用, 正式ルール等)	9	2.0				
29	集団運動	5	1.1				
30	自由行動	5	1.1				
						合計回答数	442 100.0

1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合があるため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

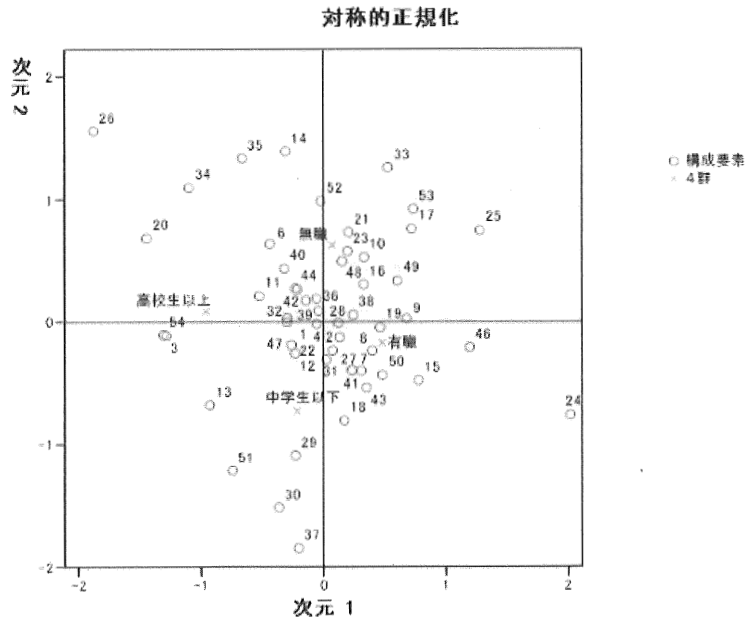
付置図6-1 運動・レクリエーション・あったらよかったと思う日課×年齢



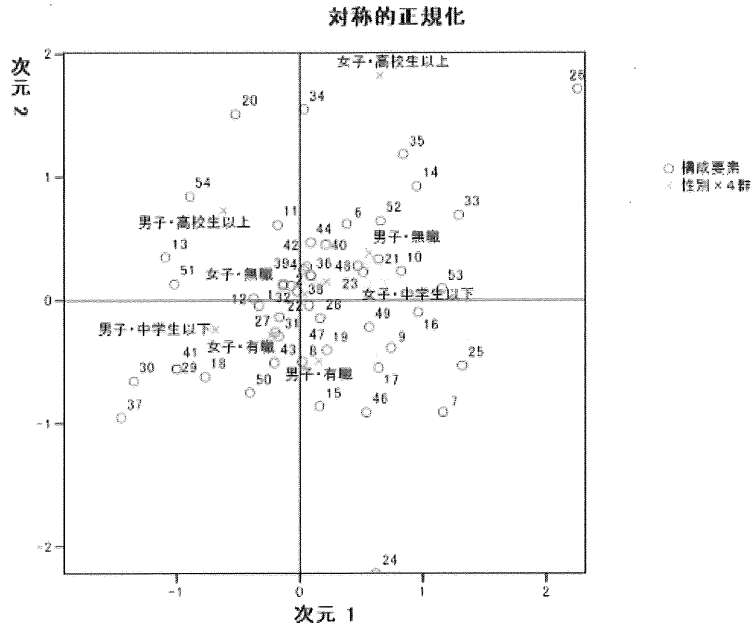
付置図6-2 運動・レクリエーション・あったらよかったと思う日課 × 学年・学歴



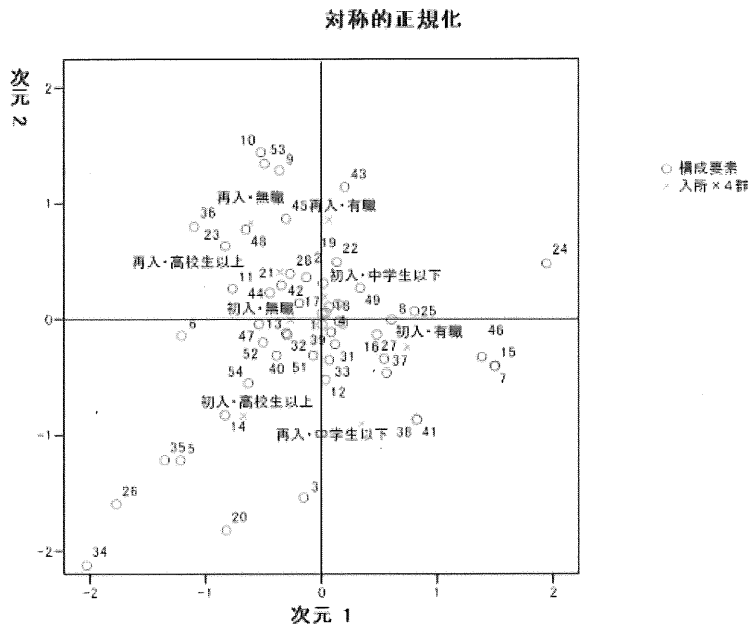
付置図6-3 運動・レクリエーション・あったらよかったと思う日課 × 4群



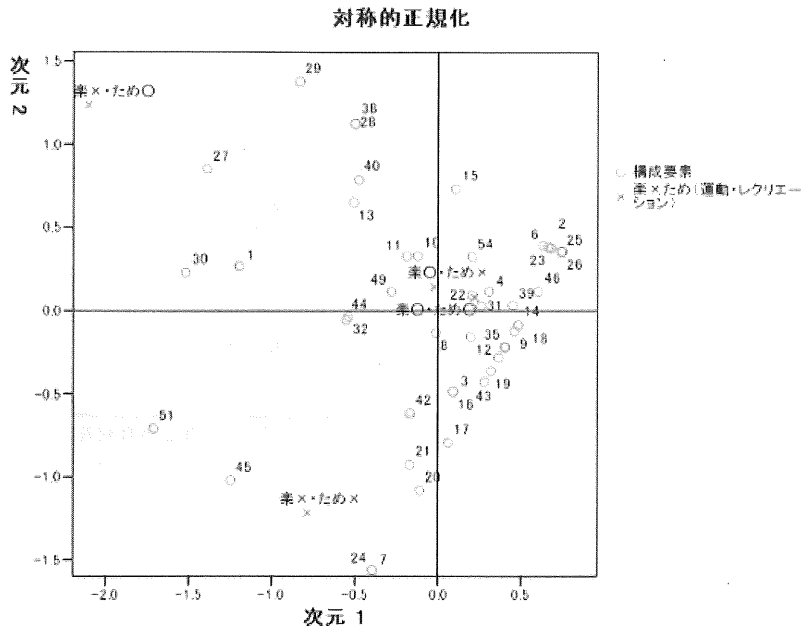
付置図6-4 運動・レクリエーション・あつたらよかったと思う日課×性別・4群



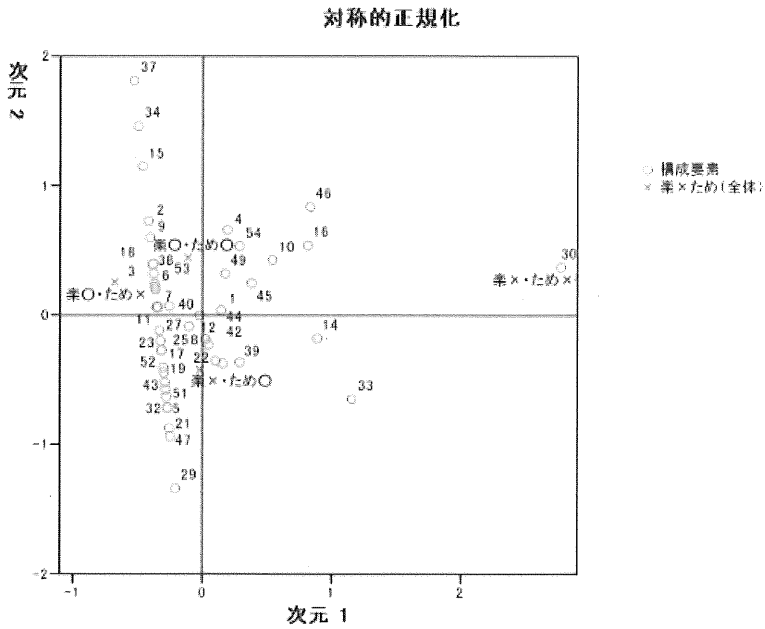
付置図6-5 運動・レクリエーション・あつたらよかったと思う日課×入所・4群



付置図6-6 運動・レクリエーション・あつたらよかったと思う日課×満足度(運動・レク)



付置図6-7 運動・レクリエーション・あつたらよかったと思う日課×満足度(全体)



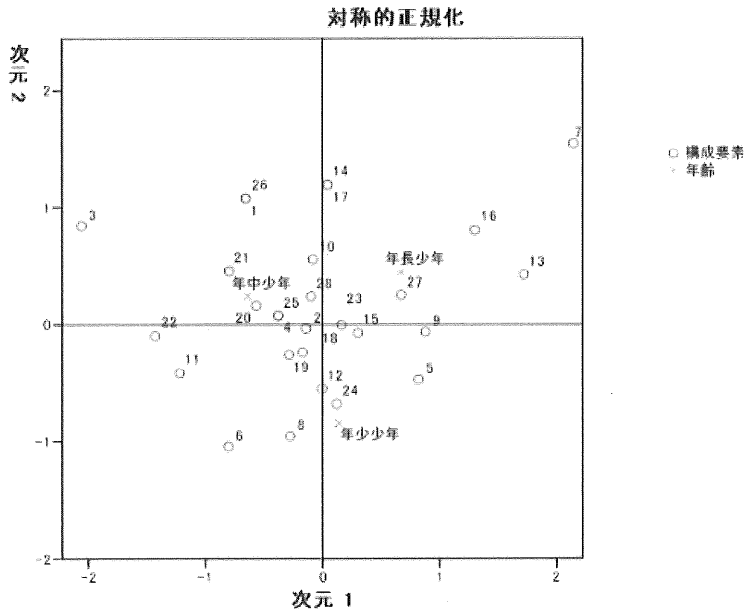
表Ⅶ 行事・集団活動・あったらよかったと思う日課 回答者数 92

番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%
1	集会・話し合い	6	5.3	15	楽しいから・楽しそうだから	16	14.2
2	行事・集団活動の機会を増やす	7	6.2	16	つまらない・暇・寂しい	7	6.2
3	歌・音楽	3	2.7	17	励まされる・元気が出る	4	3.5
4	レクリエーションの大会	4	3.5	18	息抜き・ストレス発散	12	10.6
5	食関係（食事会等）	7	6.2	19	体を動かしたい	9	8.0
6	ボランティア	2	1.8	20	ためになる	9	8.0
7	誕生日会	3	2.7	21	周囲とのコミュニケーション・競争	14	12.4
8	運動会	8	7.1	22	職員とのコミュニケーション	4	3.5
9	プール	6	5.3	23	季節感・暑いから	62	54.9
10	花火大会	34	30.1	24	今年ではできなかったから	40	35.4
11	七夕	3	2.7	25	機会が少ない（不満）	4	3.5
12	夏祭り	29	25.7	26	外に出たい	6	5.3
13	その他の季節の行事	4	3.5	27	食事に変化を	4	3.5
14	その他	2	1.8	28	その他の理由	9	8.0
合計回答数						113	100.0

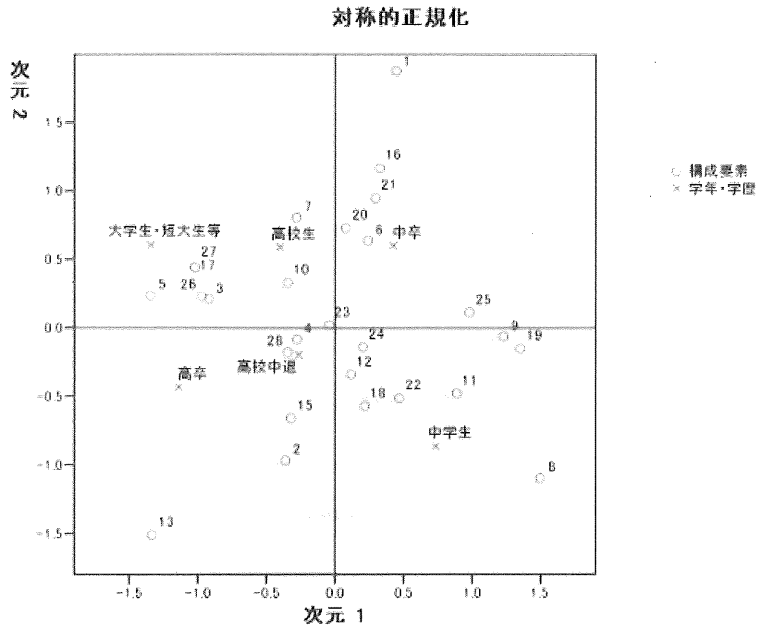
1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合がありますため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

付置図7-1

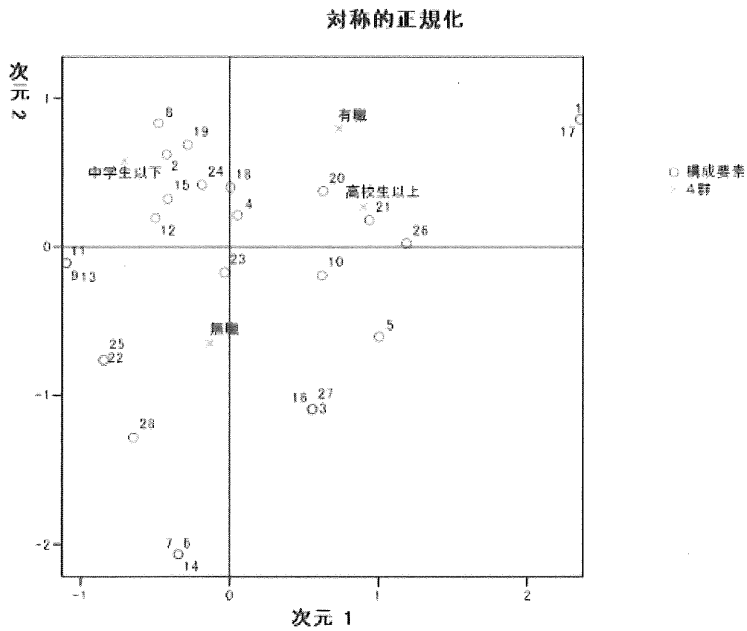
行事・集団活動・あったらよかったと思う日課 × 年齢



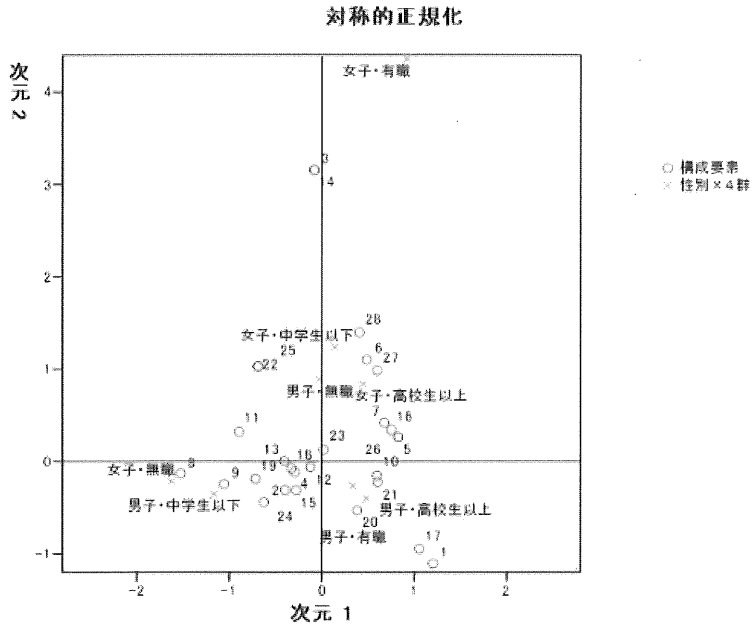
付置図7-2 行事・集団活動・あったらよかったと思う日課×学年・学歴



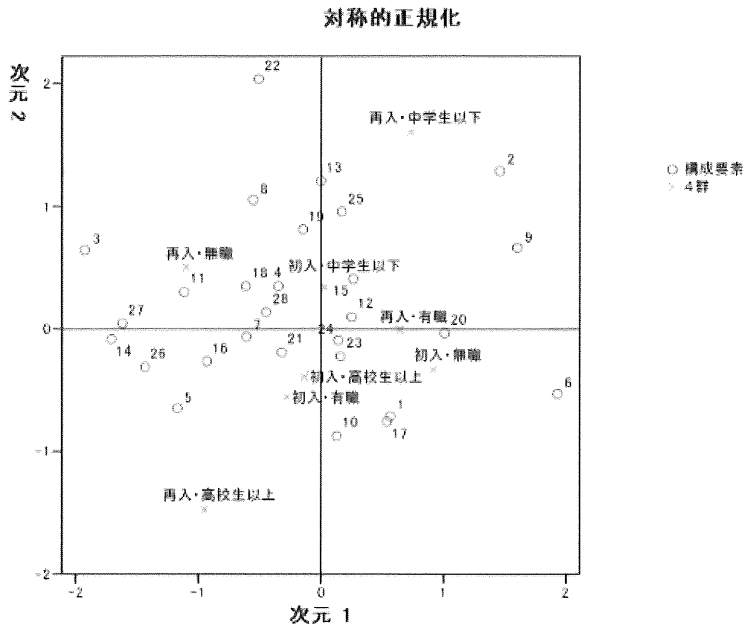
付置図7-3 行事・集団活動・あったらよかったと思う日課×4群



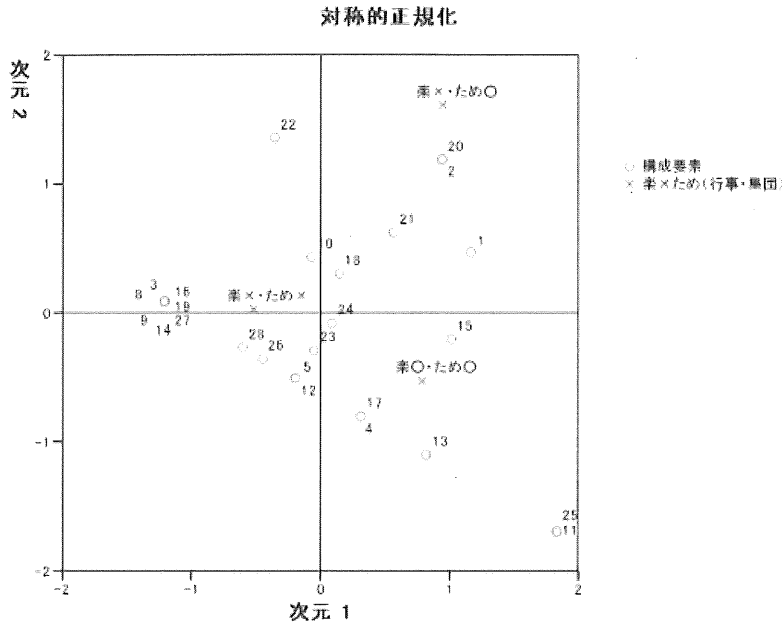
付置図 7-4 行事・集団活動・あつたらよかつたと思う日課 × 性別・4群



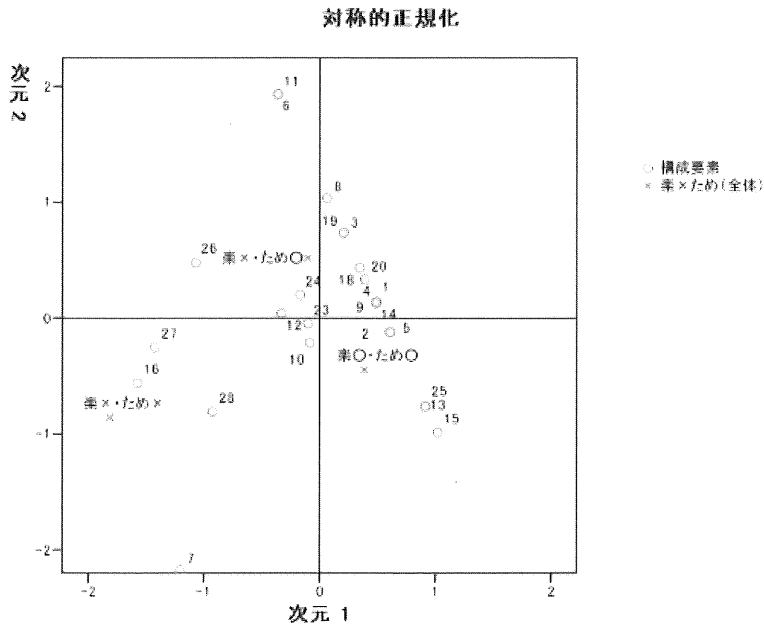
付置図 7-5 行事・集団活動・あつたらよかつたと思う日課 × 入所・4群



付置図7-6 行事・集団活動・あったらよかったと思う日課×満足度(行事・集団)



付置図7-7 行事・集団活動・あったらよかったと思う日課×満足度(全体)



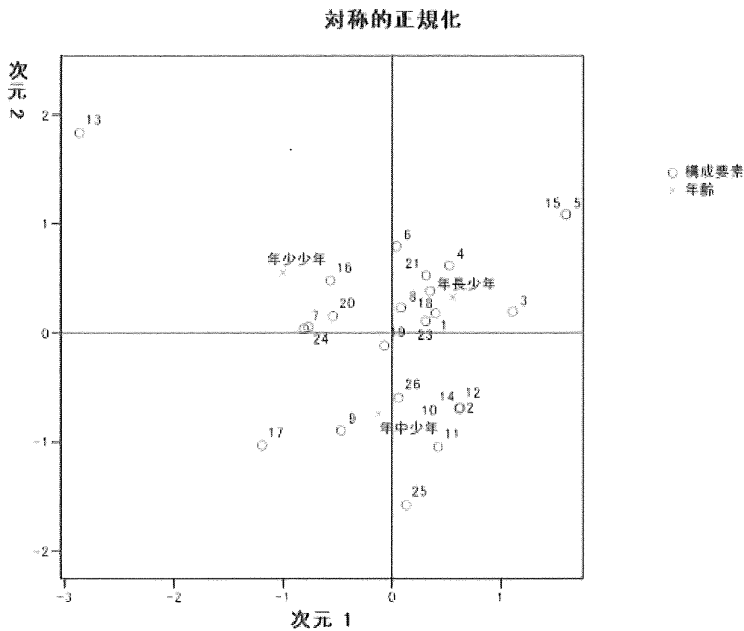
表Ⅷ 講話・あったらよかったと思う講話

回答者数 66

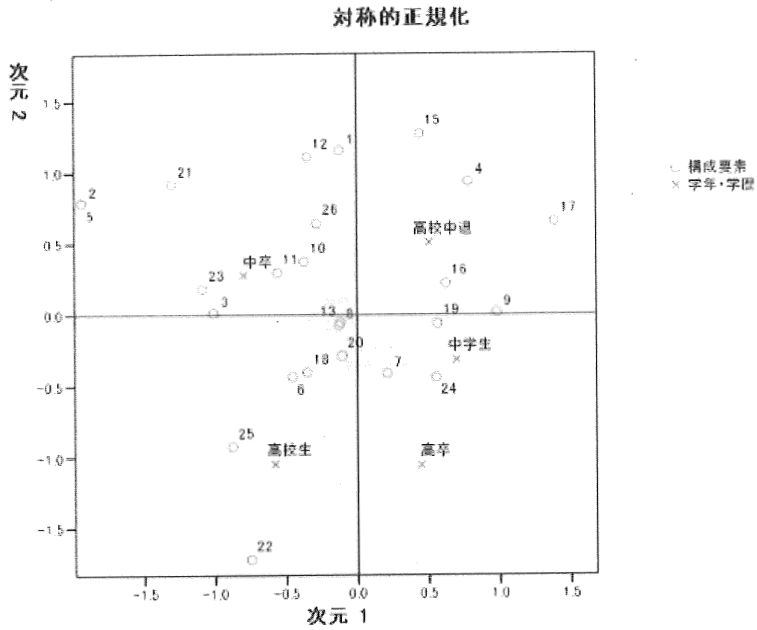
番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%
1	仕事・進路について	7	9.7	18	不安だから	17	23.6
2	人付き合い	2	2.8	19	将来・進路の準備	34	47.2
3	薬物・酒・タバコ・性	4	5.6	20	励まされる・勇気付けられる	6	8.3
4	部外協力者の講話	6	8.3	21	人生・仕事の手本にしたい・手本がほしいから	5	6.9
5	被害者	1	1.4	22	人間関係の改善	4	5.6
6	非行等から立ち直った人の講話	7	9.7	23	ためになる	13	18.1
7	審判の流れや処分	8	11.1	24	自力困難	19	26.4
8	少年院について	28	38.9	25	講話がない・少ない	4	5.6
9	保護司さんに保護観察について話してもらいたい	10	13.9	26	その他の理由	8	11.1
10	少年院の職員による講話	6	8.3				
11	職員講話（テーマ不定）	5	6.9				
12	人生・社会	2	2.8				
13	夜回り先生（水谷修）	2	2.8				
14	集団討議等	2	2.8				
15	いろんな・より幅広く	4	5.6				
16	より詳しく	8	11.1				
17	その他	3	4.2				
合計回答数						72	100.0

1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合があるため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

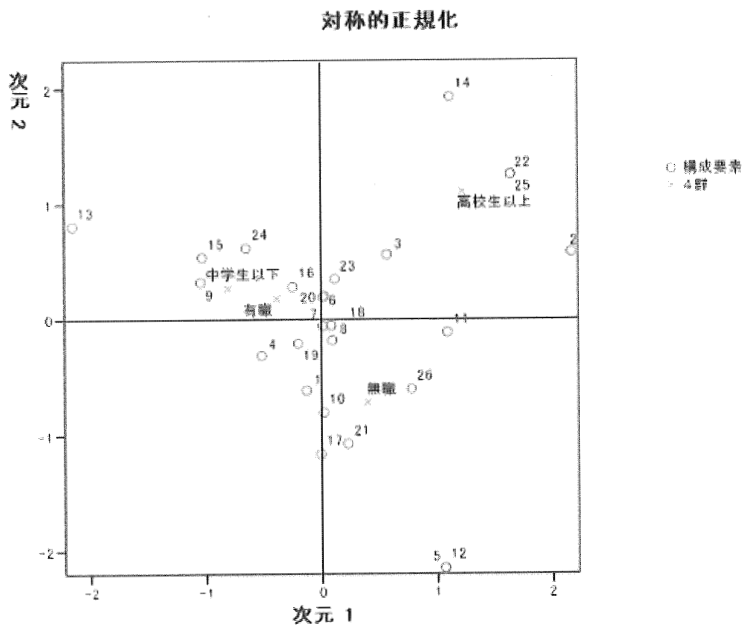
付図8-1 講話・あったらよかったと思う講話 × 年齢



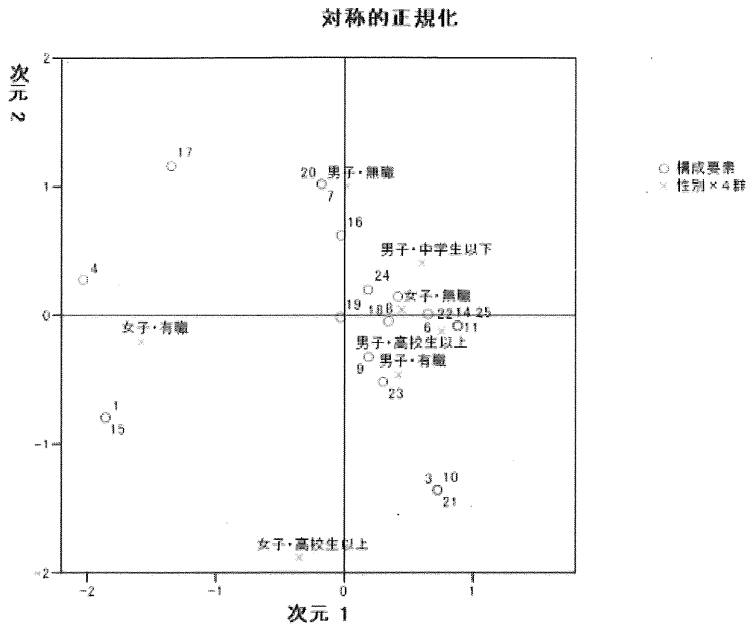
付置図8-2 講話・あったらよかったと思う講話 × 学年・学歴



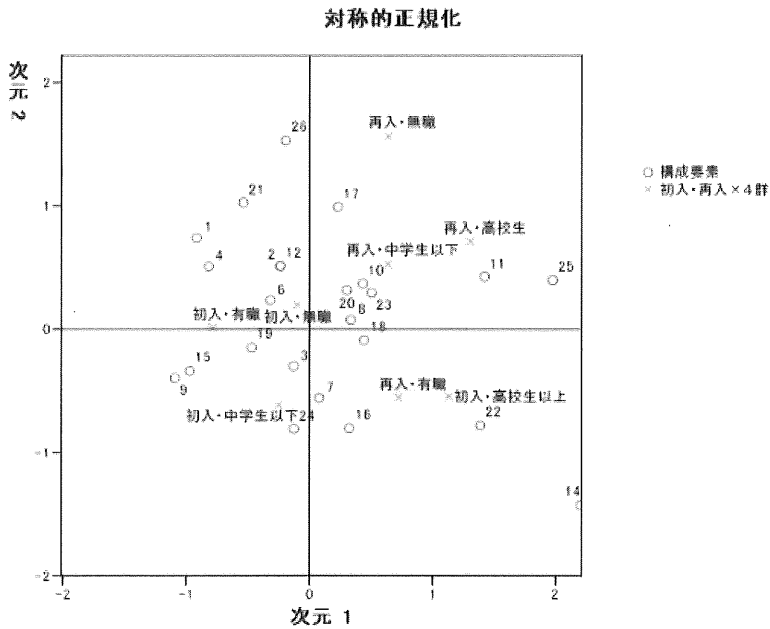
付置図8-3 講話・あったらよかったと思う講話 × 4群



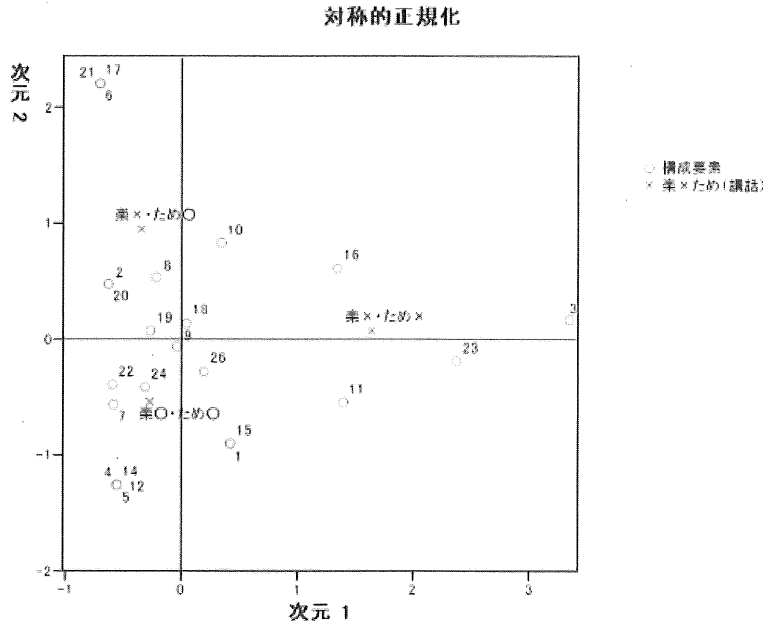
付置図8-4 講話・あつたらよかつたと思う講話×性別・4群



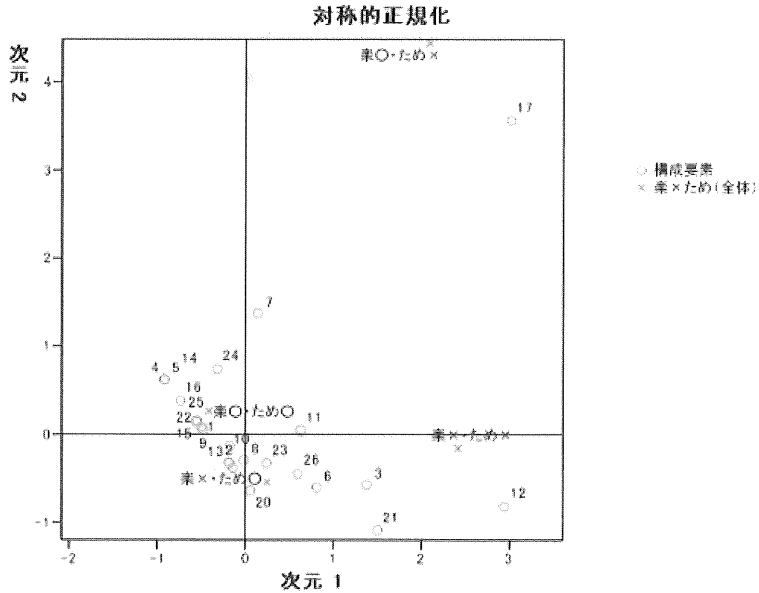
付置図8-5 講話・あつたらよかつたと思う講話×入所・4群



付置図8-6 講話・あったらよかったと思う講話×満足度(講話)



付置図8-7 講話・あったらよかったと思う講話×満足度(全体)



表IX その他・楽しかった日課

回答者数 294

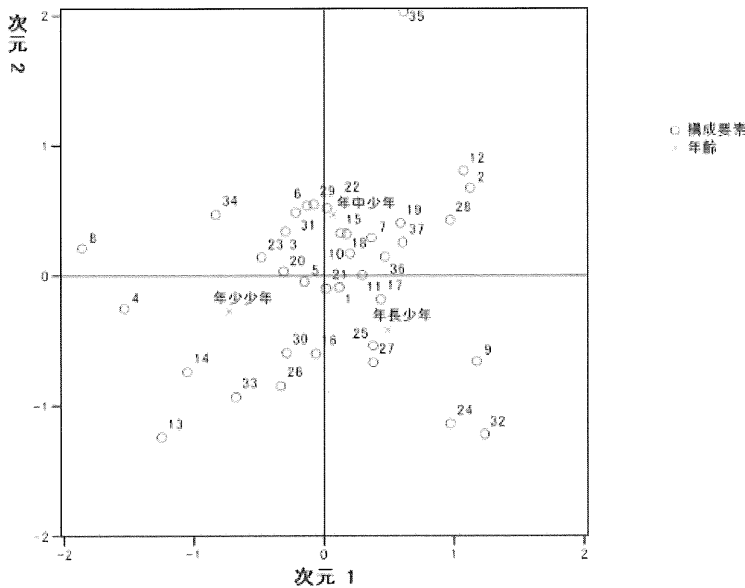
番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%
1	運動	142	29.2	17	体を動かせたから・汗をかけたから	59	12.1
2	レクリエーション	10	2.1	18	体力がつく(ついた)から	10	2.1
3	読書	49	10.1	19	屋外に出られたから	17	3.5
4	教養DVD・VTR	9	1.9	20	好きだから・楽しいから等	213	43.8
5	娯楽DVD・VTR	84	17.3	21	リラックス・落ち着く・すっきり等	112	23.0
6	テレビ視聴	58	11.9	22	夢中で取り組めたから・頑張れたから・嫌なことを忘れられたから	28	5.8
7	音楽・ラジオ放送	6	1.2	23	感動・共感できたから	9	1.9
8	学習	12	2.5	24	達成感	13	2.7
9	絵画・書道・創作系	12	2.5	25	職員とのコミュニケーション・指導・励まし	18	3.7
10	はり絵	34	7.0	26	素直な自己表現	8	1.6
11	日記・作文	25	5.1	27	自分を見つめる	26	5.3
12	職員面接・講話	8	1.6	28	普段しない・したことがないことができたから	22	4.5
13	面会・通信	7	1.4	29	機会が少ないから	13	2.7
14	余暇時間	4	0.8	30	ためになった・習慣が身についた	43	8.8
15	入浴・食事	24	4.9	31	種類が豊富だったから	23	4.7
16	その他	13	2.7	32	集団だから	9	1.9
				33	家族とのつながり	9	1.9
				34	暇つぶし	8	1.6
				35	自由・選択	7	1.4
				36	その他の理由	19	3.9
				37	理由なし	8	1.6
合計回答数						486	100.0

1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合があるため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

付置図9-1

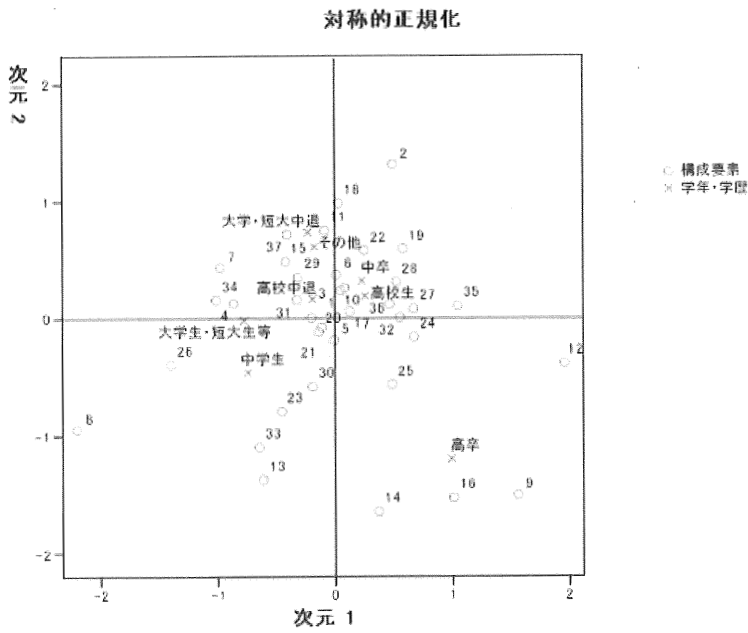
その他・楽しかった日課×年齢

対称的正規化



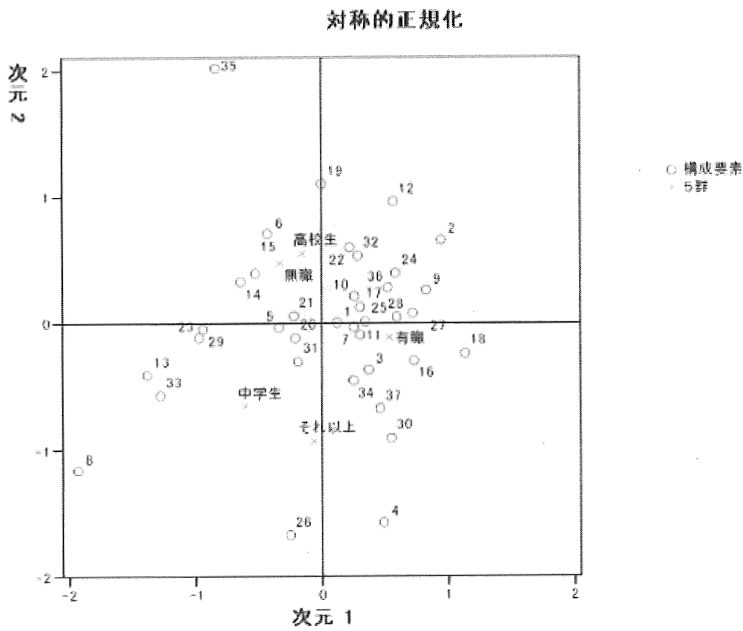
付置図9-2

その他・楽しかった日課×学年・学歴

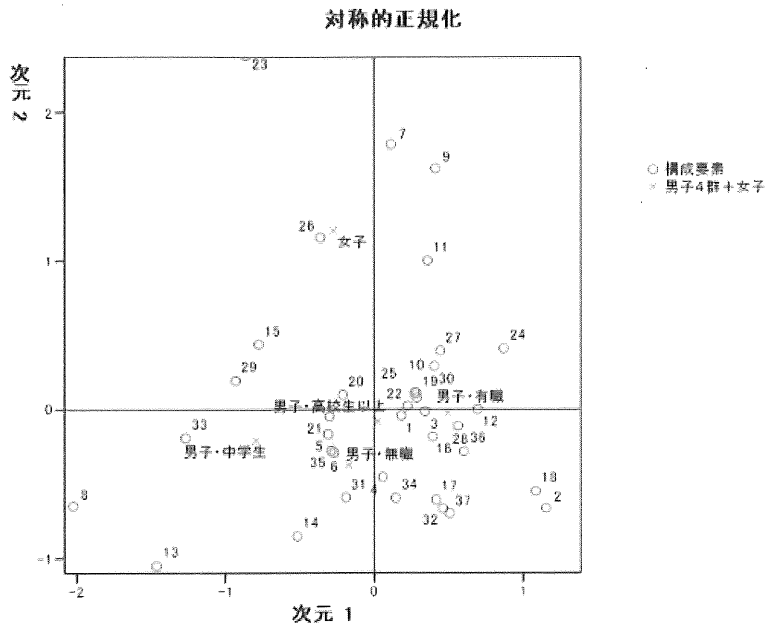


付置図9-3

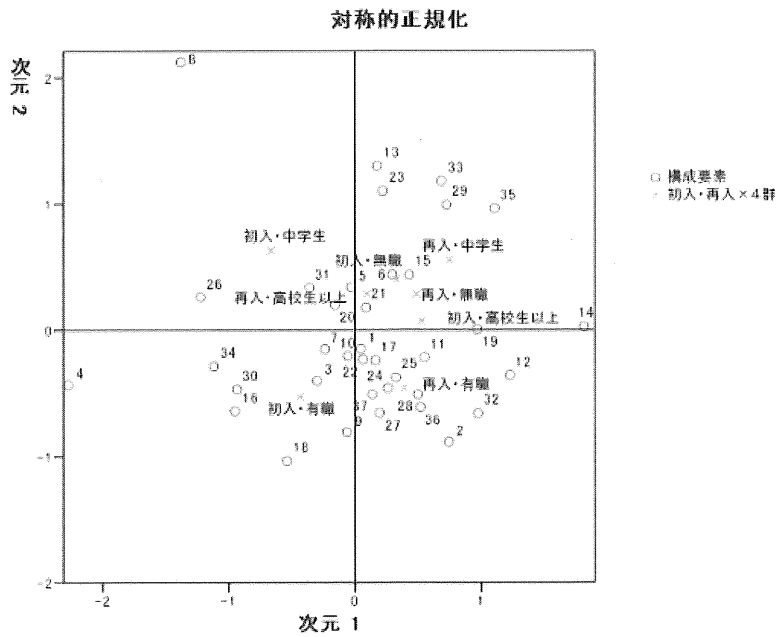
その他・楽しかった日課×5群



付置図9-4 その他・楽しかった日課×男子4群・女子



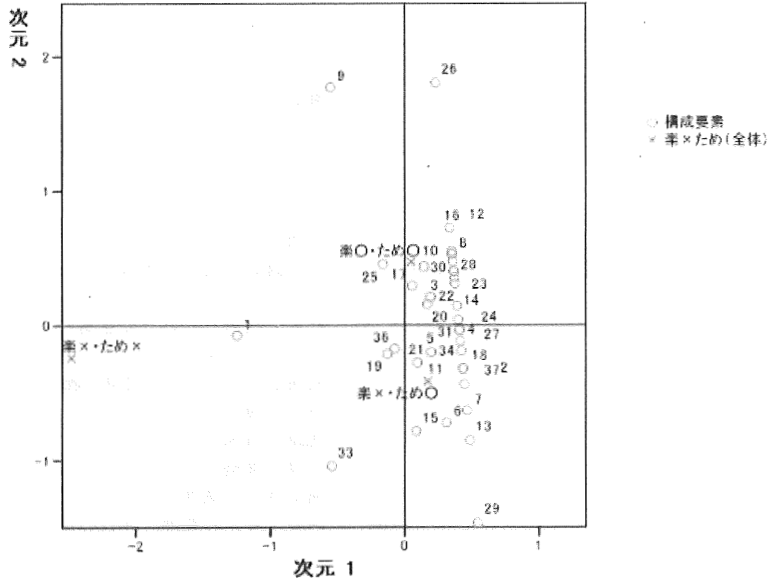
付置図9-5 その他・楽しかった日課×入所・4群



付置図9-6

その他・楽しかった日課×満足度(全体)

対称的正規化



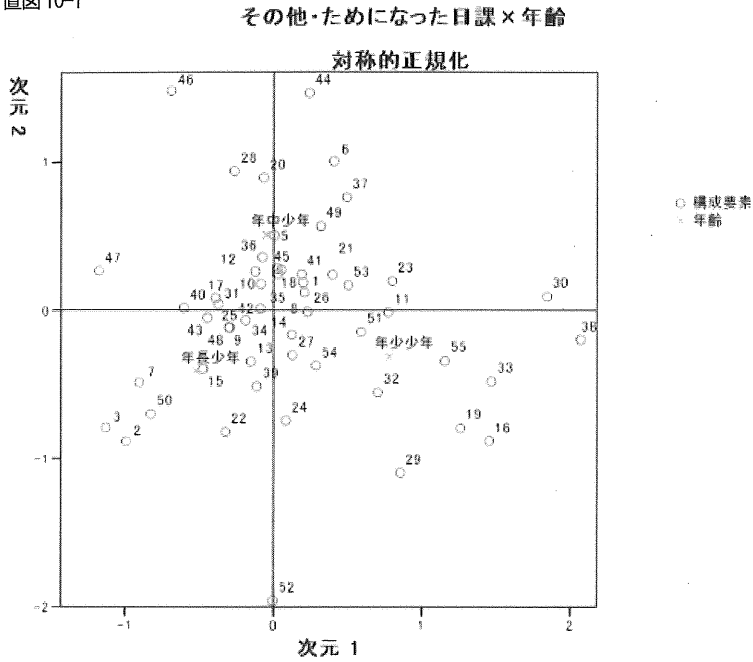
表X その他・ためになった日課

回答者数 305

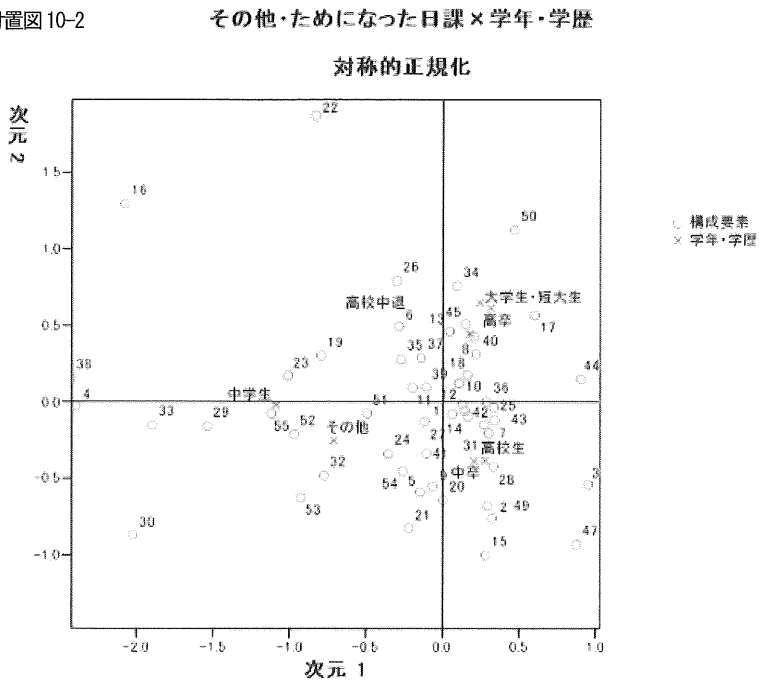
番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%
1	運動	25	5.0	21	体を動かさせた・運動不足解消	13	2.6
2	職員講話(含朝礼)	16	3.2	22	体力向上	4	0.8
3	部外協力者による講話等	11	2.2	23	楽しい(楽しかった)から・好きだから	18	3.6
4	部外協力者による学習支援	15	3.0	24	リラックス・息抜き・不安解消	31	6.3
5	自主学習・学習用教材	19	3.8	25	一生懸命・粘り強く・達成感	35	7.1
6	漢字練習	8	1.6	26	励まされた・勇気付けられた	17	3.4
7	就労準備の支援	9	1.8	27	職員の助言・指導のおかげ	37	7.5
8	職員等の面接	22	4.4	28	周囲とのコミュニケーション	8	1.6
9	テレビ・娯楽VTR視聴	5	1.0	29	苦手克服・遅れ挽回	6	1.2
10	教養・課題VTR	96	19.4	30	暇だから・暇つぶしできたから	5	1.0
11	録音教材	10	2.0	31	新しい・普段やってないことができた	46	9.3
12	読書	44	8.9	32	目標・意欲向上	7	1.4
13	作文・課題作文・読書感想文等	69	13.9	33	外部講師の助言・指導のおかげ	7	1.4
14	はり絵	21	4.2	34	習慣がついた	26	5.2
15	内省	32	6.5	35	社会で活用したい(できる)	17	3.4
16	面会・通信	5	1.0	36	知った・学んだ	155	31.3
17	掃除・洗濯・点呼等	18	3.6	37	勉強ができた(字・文章の練習)	28	5.6
18	日記	69	13.9	38	進学・復学	6	1.2
19	少年鑑別所の生活すべて	9	1.8	39	進路・将来	45	9.1
20	その他	18	3.6	40	仕事・資格	23	4.6
				41	個別性・任意性	15	3.0
				42	内省・考えの整理・非行の反省	179	36.1
				43	バリエーションの豊富さ	48	9.7
				44	保健・衛生	11	2.2
				45	薬物・酒・タバコ	21	4.2
				46	交通関係	4	0.8
				47	被害者感情	4	0.8
				48	命の大切さを知りたいから (知ることができたから)	5	1.0
				49	他者理解・共感性	15	3.0
				50	家族のありがたさ・感謝の気持ち	14	2.8
				51	自分に境遇等が似ているから	8	1.6
				52	気持ちの整理	10	2.0
				53	分かりやすい・詳しい	9	1.8
				54	自己表現ができた	27	5.4
				55	その他の理由	28	5.6
合計回答数						496	100.0

1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合があるため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

付置図10-1

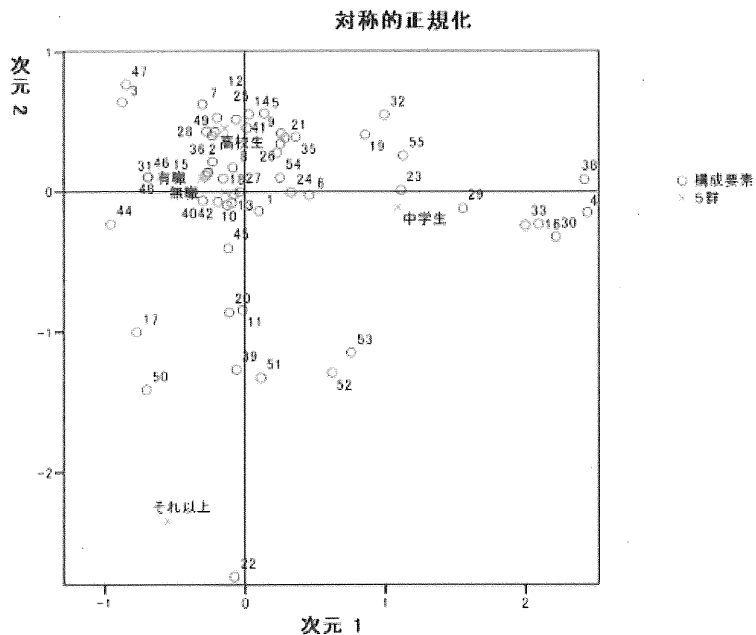


付置図10-2



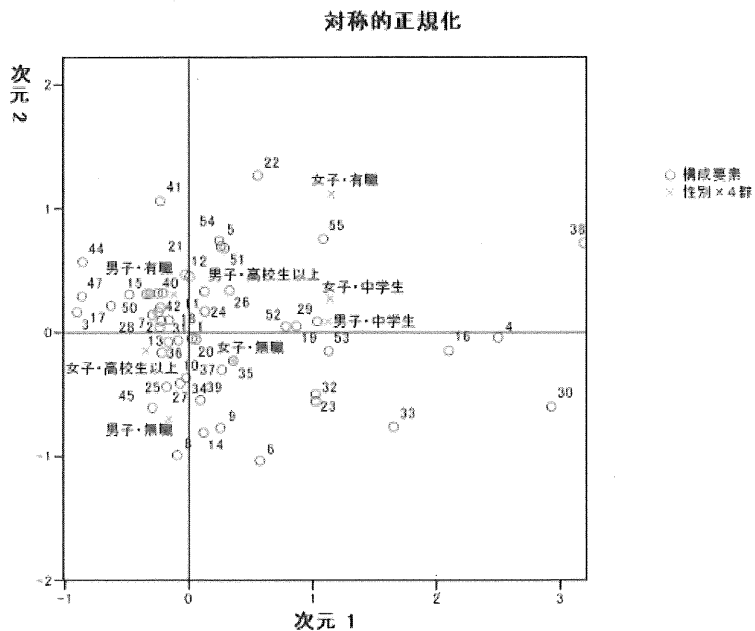
付置図10-3

その他・ためになった日課×5群

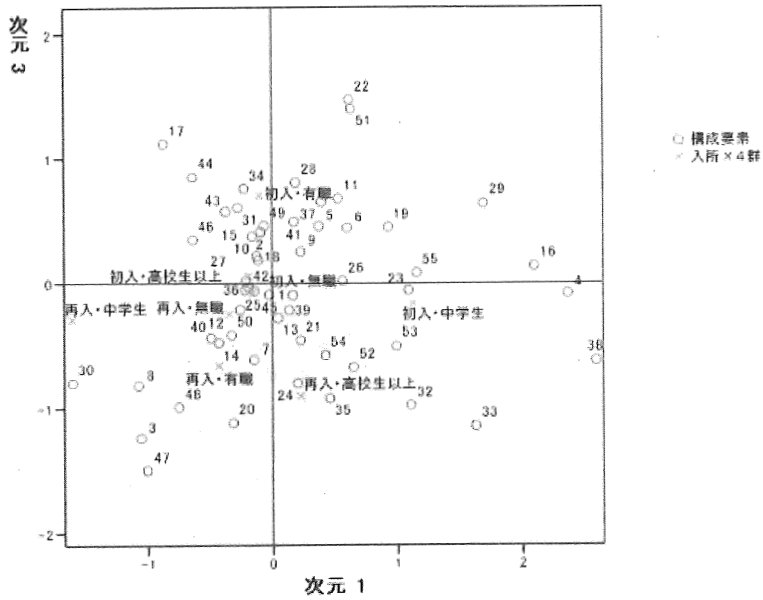


付置図10-4

その他・ためになった日課×性別・4群



付置図10-5 その他・ためになった日課×入所・4群
対称的正規化



付置図10-6 その他・ためになった日課×満足度(全体)
対称的正規化

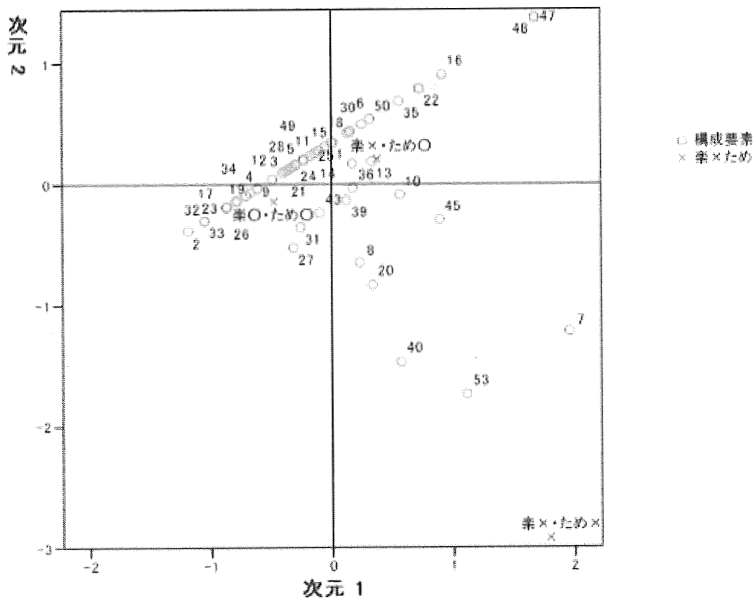
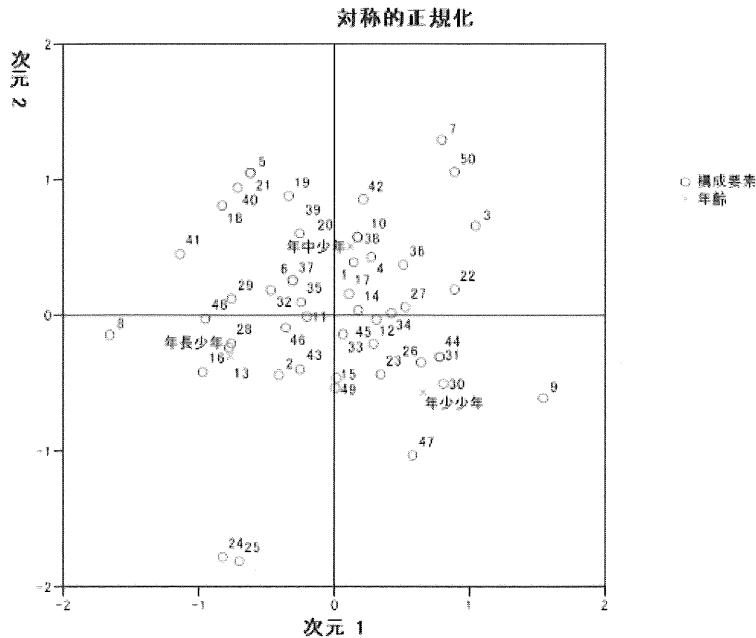


表 XI その他・あったらよかったと思う日課 回答者数 179

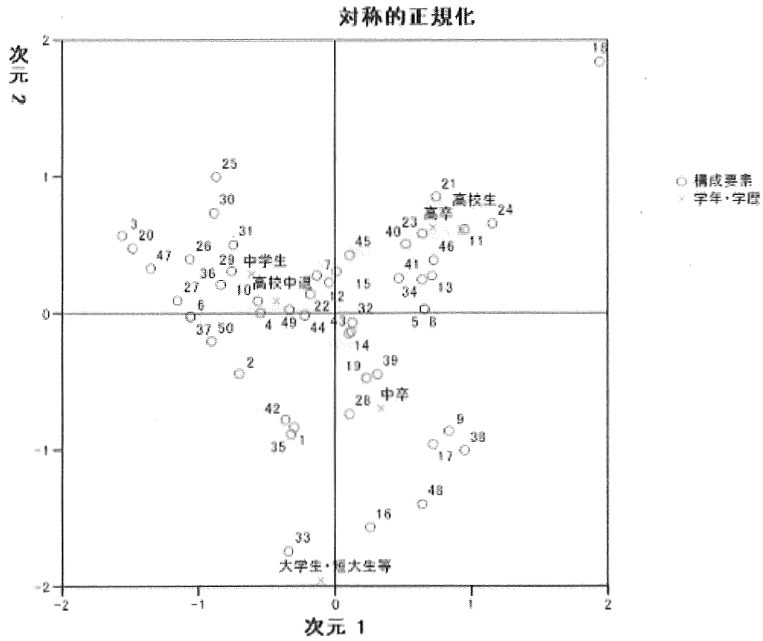
番号	内容	人数	%	番号	理由	人数	%
1	職員面接	9	3.7	29	就労意欲	9	3.7
2	職員による指導	12	4.9	30	学習意欲	13	5.3
3	個別指導	3	1.2	31	知りたいから	7	2.8
4	学習日課	21	8.5	32	ためになる	40	16.3
5	テスト	3	1.2	33	自力困難	7	2.8
6	仕事・資格	6	2.4	34	落ち着く・リラックス・気分転換等	31	12.6
7	図書	5	2.0	35	ストレス解消・気晴らし	15	6.1
8	PC	3	1.2	36	不安・孤独・悩み	14	5.7
9	教養DVD・VTR	5	2.0	37	不眠解消	6	2.4
10	テレビ・娯楽DVD・VTR	10	4.1	38	元気・やる気が出る	5	2.0
11	筋力トレーニング	9	3.7	39	好き・楽しい・気持ちいい	24	9.8
12	運動	66	26.8	40	暇・つまらない	11	4.5
13	屋外(居室外)日課	25	10.2	41	頑張ることができるから、集中できるから、所内生活が充実するから	14	5.7
14	集団活動	61	24.8	42	身の回りのことを自分でできるようになるため	3	1.2
15	意見交換	21	8.5	43	職員・相談指導	12	4.9
16	内省・非行関係	13	5.3	44	集団活動・周囲とのコミュニケーション	37	15.0
17	音楽	12	4.9	45	音楽・TV	7	2.8
18	行事・園芸・季節感	5	2.0	46	運動したい・鍛えたい	45	18.3
19	レクリエーション	14	5.7	47	屋外に出たい	24	9.8
20	絵・工作等	5	2.0	48	自分で決めたい・個別性	8	3.3
21	日課・課題を増やす(種類)	9	3.7	49	自分を見つめる・再犯抑止	10	4.1
22	時間・回数・頻度増	40	16.3	50	その他の理由	37	15.0
23	自由時間・休憩	8	3.3				
24	環境整備・掃除	8	3.3				
25	面会・通信等	5	2.0				
26	生活に関すること	17	6.9				
27	希望・選択	6	2.4				
28	その他の内容	19	7.7				
合計回答数						246	100.0

1つの回答が複数のカテゴリに該当する場合があるため、各カテゴリの人数と合計回答数は一致しない。

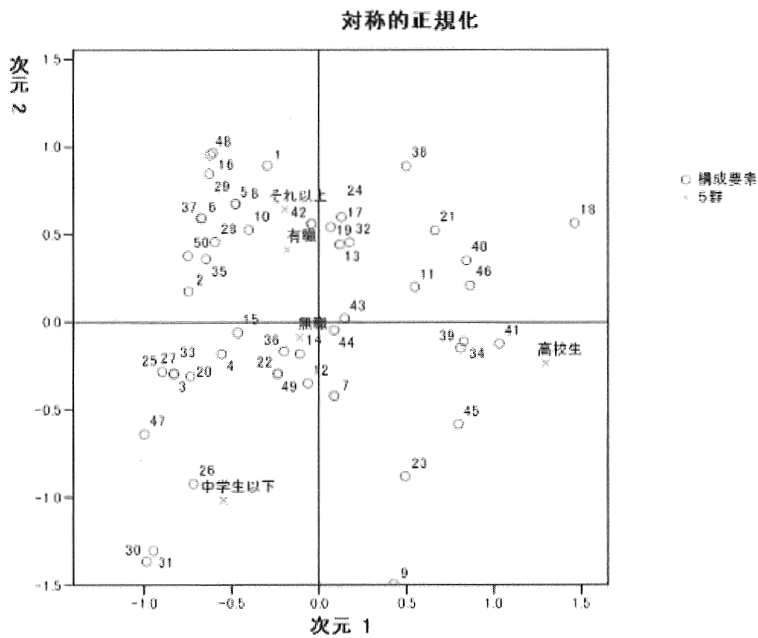
付置図 11-1 その他・あったらよかったと思う日課×年齢



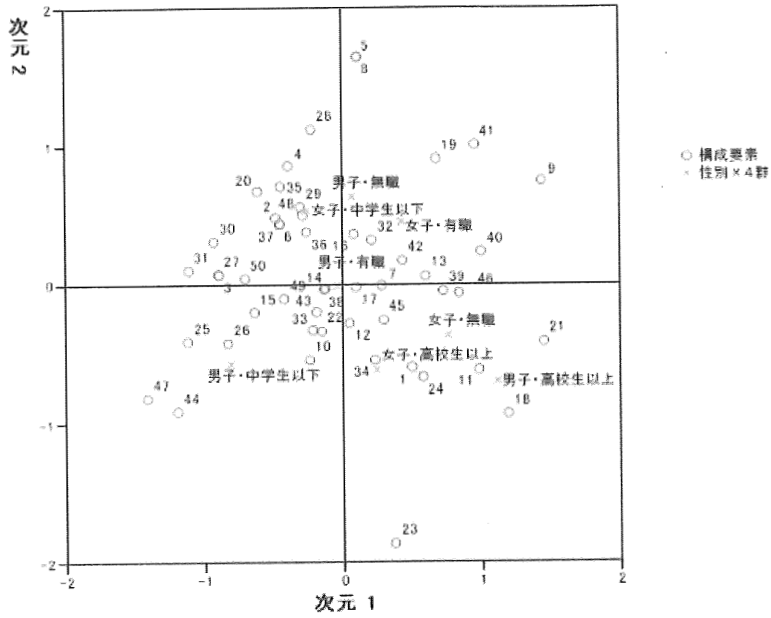
付置図11-2 その他・あったらよかったと思う日課×学年・学歴



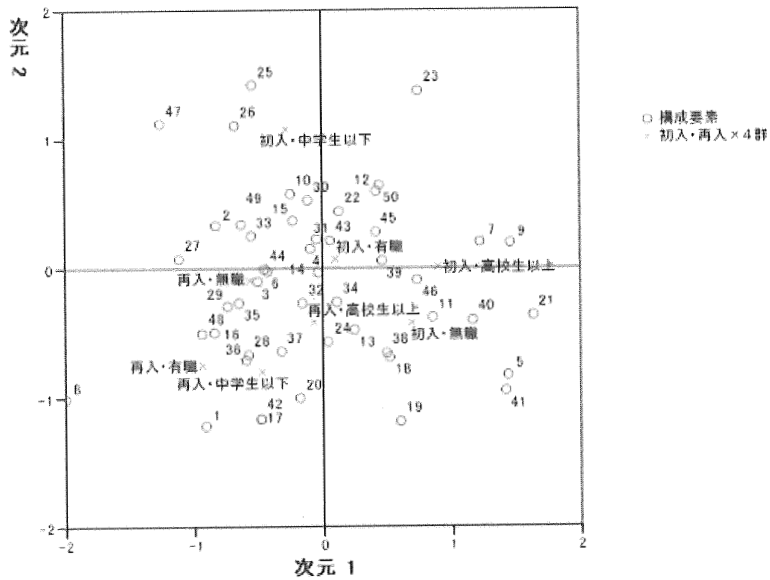
付置図11-3 その他・あったらよかったと思う日課×5群



付置図11-4 その他・あつたらよかつたと思う日課×性別・4群
対称的正規化



付置図11-5 その他・あつたらよかつたと思う日課×入所・4群
対称的正規化



付置図11-6 その他・あつたらよかったと思う日課×満足度(全体)

